

甲府城下町遺跡V

— 甲府紅梅地区市街地再開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2009

甲府紅梅地区市街地再開発組合
甲府市教育委員会

序

本書は、甲府紅梅地区市街地再開発の区画整理事業に伴って発掘調査された甲府市丸の内1丁目地内に所在する甲府城下町遺跡の発掘調査報告書であります。

甲府城下町遺跡は、武田氏滅亡後に甲斐における統治の拠点として一条小山に築城された甲府城に伴って周囲に整備された都市遺跡です。甲府城を中心として、内堀と二の堀、三の堀で囲まれた範囲でありますが、甲府藩が置かれた江戸中期には三の堀の外側となる郭外にも城下町は拡大しております。その構造は、城主が居住する内堀内と家臣の武家屋敷が所在する二の堀内、商工業者の町人が居住する三の堀内と同心円状に配されており、近世に確立した身分制がそのまま都市構造に反映されているのが確認できます。

今回発掘調査しました地点は、甲府城追手御門の南東側に位置し、二の堀に囲まれた郭内の武家屋敷地にあたります。甲府藩時代は、家老の柳沢隼人の屋敷地であり、19世紀には勤番士の子弟の教育機関である徹典館もおかれています。甲府城の追手門に近く内堀に近接していることから、江戸時代前半は上級武士の屋敷地として、後半はこれに公的施設や勤番士の屋敷地として利用されていた地域です。

発掘調査の結果、古墳時代前期、中世後期から近世初頭、近世後期、近代と4時期の遺構や遺物が確認されました。甲府城下町時代の近世後期には、遺構や遺物の集中が見られ、甲府上水に関する石積溝や木樋、竹樋、上水桶が検出されたほか、井戸、土坑、埋桶、杭排列と建物跡が発見されています。徹典館に直接結びつくものは確認されておりませんので、甲府城下における勤番士の一般的な生活の痕跡を示しているものと考えられます。この地域の土地に刻まれた歴史の変遷が、発掘調査によって得られた遺構や遺物の検証によって、順次明らかにされてくるものと期待しております。

最後になりましたが、発掘調査の準備段階から本報告書の刊行に致るまで、地権者である甲府市紅梅地区市街地再開発組合の皆様や事務局をはじめ多くの関係者の方々のご理解とご協力を賜りました。ここに、深甚なる感謝と御礼を申し上げる次第であります。

平成22年3月31日

甲府市教育委員会

教育長 奥 田 理

例　　言

1. 本書は、山梨県甲府市丸の内1丁目344番地外における、甲府城下町遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。
2. 発掘調査は、甲府紅梅地区市街地再開発事業に伴う本調査であり、甲府市教育委員会が、原因者である甲府紅梅地区市街地再開発組合との協議に基づき、委託契約を締結して実施した。
3. 本書に収録した調査は文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。本調査及び報告書作成に至る経費負担については、開発主体者である甲府紅梅地区市街地再開発組合が負担した。
4. 調査期間及び面積は以下のとおりであり、整理作業は平成20年度に実施した。

A区 平成19年12月27日～平成20年3月28日

　　調査対象面積 1144.79m²　　調査掘削面積 1,566m²

B区 平成20年2月13日～平成20年2月20日

　　調査対象面積 185.37m²　　調査掘削面積 16m²

C区 調査対象面積 57.19m²　　調査掘削面積 0m²

整理作業 平成20年6月2日から平成21年3月31日

5. 試掘調査・本調査及び本書の執筆・編集は、志村憲一（文化振興課文化財主事）が担当した。
6. 発掘調査及び整理作業に関して、一部の業務を以下の機関に協力を依頼した。

基準点の測量及び基準杭設置	昭和測量株式会社
遺構測量及び造構図作成	株式会社テクノプランニング
木製品保存処理	第一合成株式会社
金属製品保存処理	財団法人山梨文化財研究所
自然科学分析	株式会社パレオ・ラボ
陶磁器等の実測業務	有限会社松風
出土遺物の写真撮影	有限会社フォトグラフモモセ
石材鑑定	河西 学（財団法人山梨文化財研究所）
7. 本書の挿図・図版は、上島光子・大塚敦子・内藤真千子・中川美千子・西久保民子・佐野香織が作成した。
8. 本書に関わる出土遺物及び記録図面・計測データ・写真等は、甲府市教育委員会で保管している。
9. 発掘調査・整理作業及び報告書作成に際して、次の関係機関及び諸氏から、ご教示・ご高配を賜った。ここに記して厚く感謝を申し上げたい。（順不同・敬称略）

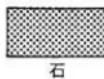
山梨県教育委員会、財団法人山梨文化財研究所

10. 発掘調査参加者

雨宮 小春	雨宮 英郎	荒木 昭彦	飯室 恵子	池谷富士子	岡 悅子
金井いく代	金丸 恵美	北野 礼子	久保田明義	小池 幹子	末木 千並
坂本しのぶ	長谷川規愛	平沢 則子	松野 達夫	望月 宏美	望月貴美子
古屋製婆男	渡辺 茂	渡邊百合子	渡辺 麗子	(敬称略)	

凡 例

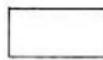
1. 本書中の遺構名・遺物番号は、現場において形状・検出状況に応じて付したものに基づいてそのまま用いている。
2. 調査段階及び調査終了後の検討結果、他の遺構に変更したものもあるため、4・5号溝及び13号土坑については欠番とした。
3. 本書中の方位は、真北を示している。
4. 全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。
5. 掘図中のE・W・S・Nは、東・西・南・北を表す。
6. 遺構図の縮尺及び方位は各図面上に表示している。
7. 遺構断面図・土層図は各図に標高を表示した。
8. 土層説明及び遺物の色調の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1997後期版)を使用した。
9. 本書中の地図は、甲府市発行の甲府都市計画図(1:2,500)及び同図(1:10,000)を使用した。
10. 実測図内のスクリーントーン指示は以下のとおりであるが、部分的に指示を個々の図面上にしたものもある。



石



地 山 層



漆

目 次

序 例 言 凡 例

第 1 章 調査概要

第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 試掘立会調査	1
第 3 節 調査方法	6
第 4 節 調査経過	10
第 5 節 遺跡概要	10
第 6 節 基本土層	11

第 2 章 遺跡環境

第 1 節 遺跡の地理的環境	13
第 2 節 遺跡の歴史的環境	13
第 3 節 甲府城下町遺跡の調査状況	14

第 3 章 A 区の遺構と遺物

第 1 節 上 水	15
第 2 節 上水桶	15
第 3 節 井 戸	17
第 4 節 溝	18
第 5 節 土 坑	19
第 6 節 集 石	21
第 7 節 埋桶・埋箱	25
第 8 節 杭 列	26
第 9 節 建物跡	27
第 10 節 出土遺物	29
第 11 節 古墳時代	32
	35

第 4 章 B 区の遺構と遺物

.....	37
-------	----

第 5 章 まとめ

第 1 節 調査区の変遷	39
第 2 節 遺構の検討	43

付 編 科学分析

第 1 節 放射性炭素年代測定	49
第 2 節 花粉分析	52

挿図目次

【遺構図版】

図1	立会調査確認土層	1
図2	甲府城下町遺跡主要調査地点	2
図3	調査区位置図	3
図4	甲府市街地図(昭和16年)	4
図5	甲府市街地図部分(昭和16年)	5
図6	甲府城下町遺跡(紅梅地区再開発地点)全体図	7
図7	甲府城下町遺跡A区遺構及びグリッド図	8
図8	甲府城下町遺跡B区遺構及びグリッド図	9
図9	基本土附図	12
図10	調査区変遷図	45
図11	調査区近世関係図	46
図12	調査区近代関係図	47
図13	上水1・2号、上水桶1号遺構図	63
図14	上水3・4号遺構図	64
図15	上水5~7号遺構図	65
図16	1号井戸遺構図	66
図17	2号井戸遺構図	67
図18	1~3・14号溝遺構図	68
図19	6・7・9・11・12号溝、杭列2号遺構図	69
図20	8・10号溝遺構図	70
図21	13号溝遺構図	71
図22	1号土坑、上水3・4号遺構図	72
図23	2・3号土坑遺構図	73
図24	14号土坑遺構図	74
図25	4・5号七坑遺構図	75
図26	6~10・12号土坑遺構図	76
図27	11号土坑遺構図	77~78
図28	埋桶1~5号、上水桶2号、埋箱1号遺構図	79
図29	杭列1・3・4号、1号建物跡遺構図	80
図30	2号建物跡配置図	81~82
図31	古墳時代堆積層図	83~84
図32	古墳時代遺物分布図	85~86
図33	B区トレチ1~3遺構図	87

【遺物図版】

図34	上水1・2号出土遺物	88
図35	上水3・5・6号、上水桶1・2号(1)出土遺物	89
図36	上水桶2号(2)、1号井戸(1)出土遺物	90
図37	1号井戸(2)出土遺物	91

図38	1号井戸(3)、2号井戸、1・7・9・10・13号溝出土遺物	92
図39	13・14号溝、1号土坑(1)出土遺物	93
図40	1号土坑(2)、2号土坑(1)出土遺物	94
図41	2号土坑(2)出土遺物	95
図42	2号土坑(3)、3・4号土坑出土遺物	96
図43	5・8・9・11号土坑出土遺物	97
図44	12・13・14号土坑、E-3グリッド出土遺物	98
図45	14号土坑(2)出土遺物	99
図46	集石2号、埋桶1～3号出土遺物	100
図47	埋箱1号、杭列1号、A-1～3・9、B-3～5・7・8グリッド出土遺物	101
図48	B-9・10、A・B-11、C-1・2グリッド出土遺物	102
図49	C-1～6グリッド出土遺物	103
図50	C-6、B-10・11、D-1・2グリッド出土遺物	104
図51	D-1～5、E-1・3・7・9グリッド出土遺物	105
図52	F-2・3、G-9・10、H-1・2、F-3グリッド、A区一括出土遺物	106
図53	A区一括出土遺物	107
図54	古墳時代出土遺物(1)	108
図55	古墳時代出土遺物(2)	109
図56	古墳時代出土遺物(3)	110
図57	古墳時代出土遺物(4)	111
図58	古墳時代出土遺物(5)	112
図59	B区トレンチ1・2出土遺物	113

【表目次】

表1	2号建物跡ピット一覧表	30・31
表2	出土遺物観察表	114～124
表3	出土遺物観察表(瓦)	125

【絵 図】

絵図1	甲府城内絵図(楽只堂年録絵図部分)	3
絵図2	懐宝甲府絵図(部分)	3

【資 料】

資料1	甲府城内絵図(楽只堂年録絵図)	46
資料2	懐宝甲府絵図	46
資料3	甲府城下町絵図(楽只堂年録絵図)	46
資料4	延享の上水図	46
資料5	守貞漫稿(部分)	46
資料6	甲府市街地図(昭和16年)	47
資料7	地籍図(現在)	47

写真図版

写真 1	△区近世・近代遺構全景	126	写真44	2号井戸断面	135
写真 2	A区全景	127	写真45	1号溝	136
写真 3	A区西側古墳時代面	127	写真46	1号溝南壁	136
写真 4	A区北側(△～H-9～12グリッド)	127	写真47	2号溝	136
写真 5	A区西側(A～D 1～8グリッド)完掘	127	写真48	3号溝西側	136
写真 6	△区南東側(E～H-1～4グリッド)	128	写真49	3号溝東壁堆積土	136
写真 7	A区東側(E～H-4～6グリッド)	128	写真50	3号溝東側	136
写真 8	A区東側集石3号	129	写真51	6号溝	137
写真 9	A区東側(E～H-4～8グリッド)	129	写真52	6号溝北壁	137
写真10	A区東側(E～H-4～8グリッド)	129	写真53	7～10号溝	137
写真11	上水1号	130	写真54	7・9号溝	137
写真12	上水1号完掘	130	写真55	9号溝	137
写真13	上水1号検出	130	写真56	7号溝遺物検出	137
写真14	上水1号検出(近景)	130	写真57	8・10号溝	138
写真15	上水1号 1・2区	131	写真58	10号溝(上空より)	138
写真16	上水1号 1区間知石検出	131	写真59	10号溝遺物検出	138
写真17	上水1号 1区胴木検出	131	写真60	11・12号溝	138
写真18	上水1号 2区	131	写真61	11・12号溝(近景)	138
写真19	上水1号 2区胴木検出	131	写真62	14号溝	138
写真20	上水1号 3区	131	写真63	13号溝	139
写真21	上水1号 3区胴木検出	131	写真64	13号溝北側	139
写真22	上水2号、上水桶1号	132	写真65	13号溝北壁	139
写真23	上水2号 竹樋	132	写真66	13号溝南側縦横出	139
写真24	上水桶1号底部	132	写真67	13号溝(全景)	139
写真25	上水3号 木樋検出	132	写真68	13号溝内獸骨	139
写真26	上水3号 光觸	132	写真69	13号溝獸骨(部分)	139
写真27	上水3・4号 上水桶2号周辺	133	写真70	13号溝漆桶出土	139
写真28	上水3号 木樋	133	写真71	△区1・3～10号上坑周辺	140
写真29	上水4号 竹樋	133	写真72	1号土坑周辺	140
写真30	上水桶2号、埋桶4号堆積	133	写真73	1号土坑	140
写真31	上水桶2号及び埋桶4号	133	写真74	1号土坑遺物出土	140
写真32	上水5号及び11・12号溝	134	写真75	2・3・14号土坑周辺	141
写真33	上水5号ジョイント及び竹樋	134	写真76	2号土坑	141
写真34	上水6号	134	写真77	2号土坑遺物出土	141
写真35	上水6号北壁土層	134	写真78	2号土坑及び上水3号竹樋	141
写真36	上水6号木樋	134	写真79	2号土坑遺物出土	141
写真37	上水6号木樋断面	134	写真80	3号土坑	141
写真38	上水7号竹樋	134	写真81	4・5号土坑	142
写真39	1号井戸	135	写真82	5号土坑	142
写真40	1号井戸底部木樋	135	写真83	5号土坑遺物出土	142
写真41	1号井戸断面	135	写真84	6・7号土坑	142
写真42	2号井戸検出	135	写真85	6号土坑	142
写真43	2号井戸上面	135	写真86	8号土坑遺物出土	142
			写真87	9・10号土坑	142

写真88	11・12号土坑	143
写真89	11号土坑	143
写真90	11号土坑西面	143
写真91	11号土坑北側	143
写真92	11号土坑北東側	143
写真93	11号土坑東面	143
写真94	11号土坑南面	143
写真95	12号土坑	144
写真96	12号土坑木片出土	144
写真97	14号土坑	144
写真98	14号上坑かわらけ・骨出上	144
写真99	14号土坑遺物出土	144
写真100	埋桶1号	145
写真101	埋桶1号(上面より)	145
写真102	埋桶2号、1号建物跡	145
写真103	埋桶2号(接写)	145
写真104	埋桶3号検出	145
写真105	埋桶3号	145
写真106	埋桶4・5号周辺	145
写真107	埋桶4号及び上水桶2号	145
写真108	埋桶4号	146
写真109	埋桶4号・上水桶2号元掘	146
写真110	埋桶5号	146
写真111	埋桶5号堆積上	146
写真112	埋桶5号元掘	146
写真113	埋箱1号内遺物出土	146
写真114	埋箱1号検出	146
写真115	埋箱1号完掘	146
写真116	A区西側1・2号建物跡	147
写真117	A区西側2号建物跡(近景)	147
写真118	A区東側2号建物跡	148
写真119	1号井戸東側杭列2号	148
写真120	杭列2号	148
写真121	杭列3号周辺	148
写真122	杭列3号(南側より)	148
写真123	杭列4号周辺	148
写真124	杭列4号(南側より)	148
写真125	A区北側調査区	149
写真126	F～H・8～10グリッド	149
写真127	F・G・8～10グリッド	149
写真128	G・9グリッド集石1号・木材出土	149
写真129	F・9グリッド漆碗出土	149
写真130	11・9グリッド杭検出	149
写真131	A区北東隅掘削状況	149
写真132	古墳層闇査地区	150
写真133	C・D 4・5グリッド古墳層遺物出土	150
写真134	C・D・4・5グリッド古墳層遺物出土(接写)	150
写真135	古墳層Cセクション	150
写真136	古墳層Cセクション内木片	150
写真137	C・D・4・5グリッド古墳時代遺物集中	151
写真138	C・D・7グリッド古墳層Aセクション	152
写真139	C・D・7グリッド古墳時代遺物出土(接写)	152
写真140	古墳層Aセクション(部分)	152
写真141	高坏出土	152
写真142	坏出土	152
写真143	B・10・11グリッド 古墳時代遺物検出面	152
写真144	B区トレンチ1・2	153
写真145	トレンチ1西側	153
写真146	トレンチ1 ピット光掘	153
写真147	トレンチ1北壁	153
写真148	トレンチ2	153
写真149	トレンチ3	153
写真150	トレンチ3石積裏込	153
写真151	A区作業風景	154
写真152	A区表土除去作業	154
写真153	甲府上水木樁検出作業	154
写真154	A区古墳時代遺物検出作業	154
写真155	B区作業風景	154
写真156	整理作業	154
写真157	現場見学会	154
写真158	現場見学会風景	154
写真159	出土遺物(001～025)	155
写真160	出土遺物(026～048-a)	156
写真161	出土遺物(048-b～070)	157
写真162	出土遺物(071～092)	158
写真163	出土遺物(093～117)	159
写真164	出土遺物(118～142)	160
写真165	出土遺物(143～166)	161
写真166	出土遺物(167～191)	162
写真167	出土遺物(192～215-a)	163
写真168	出土遺物(215-b～240)	164
写真169	出土遺物(241～265)	165
写真170	出土遺物(266～286)	166
写真171	出土遺物(287～308)	167
写真172	出土遺物(309～333)	168
写真173	出土遺物(334～357)	169
写真174	出土遺物(358～383)	170
写真175	出土遺物(384～409)	171
写真176	出土遺物(410～434)	172
写真177	出土遺物(435～442)	173

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

甲府市丸の内1丁目344番地外地内は、山梨県庁南東の舞鶴通りから東方へ延びる通りと、この通りの南側を東西に延びる紅梅町通り、さらに南北方向のオリオン通りに囲まれた一帯であり、商店街及び県営駐車場が位置する中心市街地である。今回の調査対象地は江戸時代、甲府城追手門南側の内堀と二の堀に囲繞された武家屋敷が集中する内郭に位置し、追手門から南へ延びる追手小路東側の空閑地と武家屋敷が位置していた。さらに甲府上水が通っていたことが18世紀初頭に描かれた絵図などにより知られており、城下町遺跡が存在することが想定された。

平成18年9月11日付で、事業主体である甲府紅梅地区市街地再開発準備組合より埋蔵文化財発掘の届出が提出され、甲府市教育委員会では同年9月13日から翌日にかけて地盤調査に伴う立会調査を実施した。調査の結果、古墳時代・近世・近代の3時期の遺物包含層が検出され、瓦・煉瓦・染付磁器・土師器など古墳時代・近世・近代の遺物が確認された。さらに近世の絵図等の史料と照合した結果から、遺構が存在する可能性が高いことが確認された。建設予定の建物は高層建築であり、地中かなりの深度まで基礎が及ぶことから、遺跡の保護を図ることは困難であると判断し、本調査を実施することになった。

本調査に際しては、事業主体者である甲府紅梅地区市街地再開発組合と甲府市教育委員会で協議し、平成19年12月25日付で両者の間で発掘調査に関する委託契約を締結した。さらに発掘調査終了後、平成20年5月30日に整理作業に関する委託契約を行い作業に従事した。

第2節 試掘立会調査

試掘立会調査は、平成18年9月13日午後9時より翌朝にかけ夜間実施した。地盤調査に伴い県営駐車場中央部（調査区A区中央部）に、長さ2m、幅1mの掘削穴を設定し、小型重機を使用し堆積層を観察しながら、地表下1.5m地点まで掘削した。上層から近代、近世、古墳時代の3時期の堆積層が確認された。

近代の堆積層は明治期及び明治以降昭和までの2時期が確認され、地表下0.6~0.9m地点から瓦・煉瓦片が出土した。

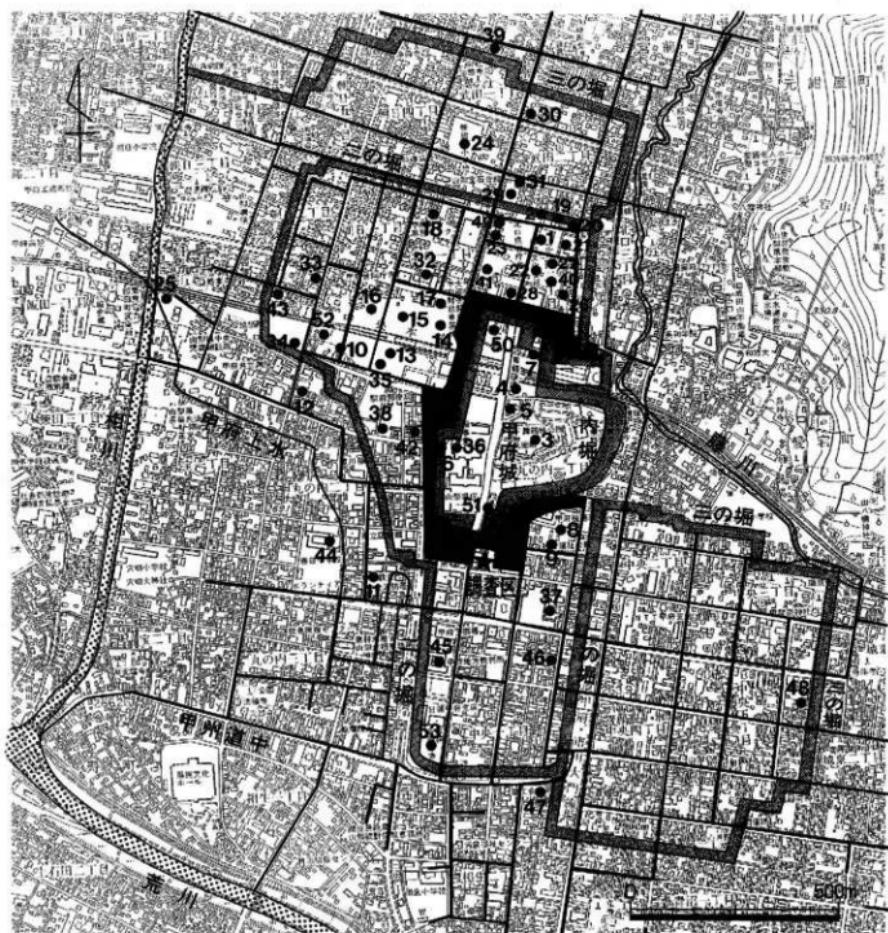
江戸時代は地表下0.9~1m地点に位置する、厚さ約10cmの堆積層である。肥前の染付磁器片が出土した。

古墳時代の堆積層は、地表下1~1.5mに位置する厚さ0.5mの黒褐色粘質土の堆積層である。土師器の小片が数点確認された。

狹隘な範囲の調査のため、遺構の確認は困難であったが、上記3時期の遺物包含層が検出されたことから、当該地区に埋蔵文化財が確実に存在するものと判断した。

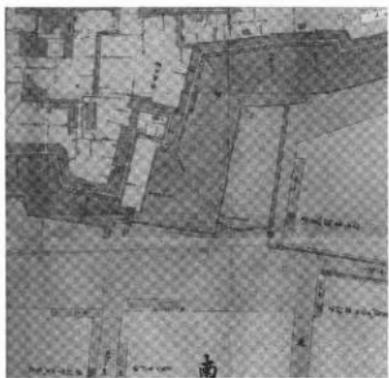


図1 立会調査確認土層

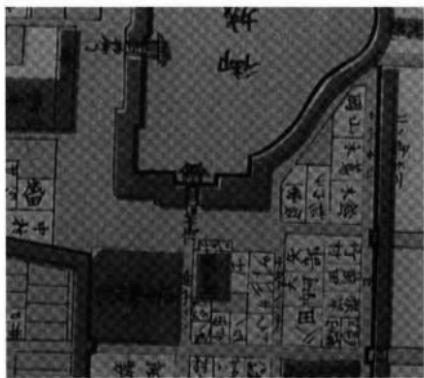


番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	桜シルク第八区 武家屋敷跡	19	甲府城下町遺跡 二の堀跡	37	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡
2	桜シルク第八区 二の堀跡	20	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	38	甲府城下町遺跡 作業小屋跡
3	櫻坂跡 近世初築の近世城郭	21	日向町遺跡第1地点 武家屋敷跡	39	甲府城下町遺跡 三の堀跡
4	圓形石垣(駐車場)	22	日向町遺跡第2地点 武家屋敷跡	40	甲府城下町遺跡 表門牛込跡(近世城郭)
5	圓形石垣(駐車場)	23	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	41	甲府城下町遺跡(近世城郭) 武家屋敷跡
6	馬川筋ローソン	24	新町屋小学校 聖町	42	甲府城下町遺跡(東側イン)
7	甲府城下町遺跡3街区 山手町付土櫓・清水曲輪	25	甲府上水道 萬町	43	甲府城下町遺跡(船戸口) 二の堀跡
8	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	26	甲府城下町遺跡 新庄氏居跡・武家屋敷跡	44	甲府城下町遺跡(萬町付近)
9	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	27	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	45	手ぬぐい屋跡(洋酒店北側) 平安期住居
10	甲府城下町遺跡 裏先手小路	28	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	46	甲府城下町遺跡(二手子通り) 武家屋敷跡
11	百石町 武家屋敷跡	29	甲府城下町遺跡 元達途町	47	甲府城下町遺跡(片羽町) 武家屋敷跡
12	甲府城下町遺跡	30	甲府城下町遺跡 大工町	48	甲府城下町遺跡(魚町) 町人地
13	甲府城下町遺跡化・心街区 柳沢橋・大屋敷跡	31	甲府城下町遺跡 新前屋町	49	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡
14	甲府城下町遺跡A区 櫻坂大屋敷及び出土物発掘	32	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	50	甲府城下町遺跡 平府城乾櫓石垣
15	甲府城下町遺跡B区 武家屋敷及び裏先手小路	33	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	51	甲府城下町遺跡 追手町
16	甲府城下町遺跡C区 武家屋敷跡	34	甲府城下町遺跡 二の堀跡	52	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡
17	甲府城下町遺跡 山手御宿跡	35	甲府城下町遺跡(KJJ地点) 武家屋敷跡	53	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡・二の堀
18	甲府城下町遺跡 武家屋敷跡	36	甲府城下町遺跡 甲府城廻門		

図2 甲府城下町遺跡主要調査地点



絵図1 甲府城内絵図(楽只堂年録絵図)(部分)



絵図2 懐宝甲府絵図(部分)

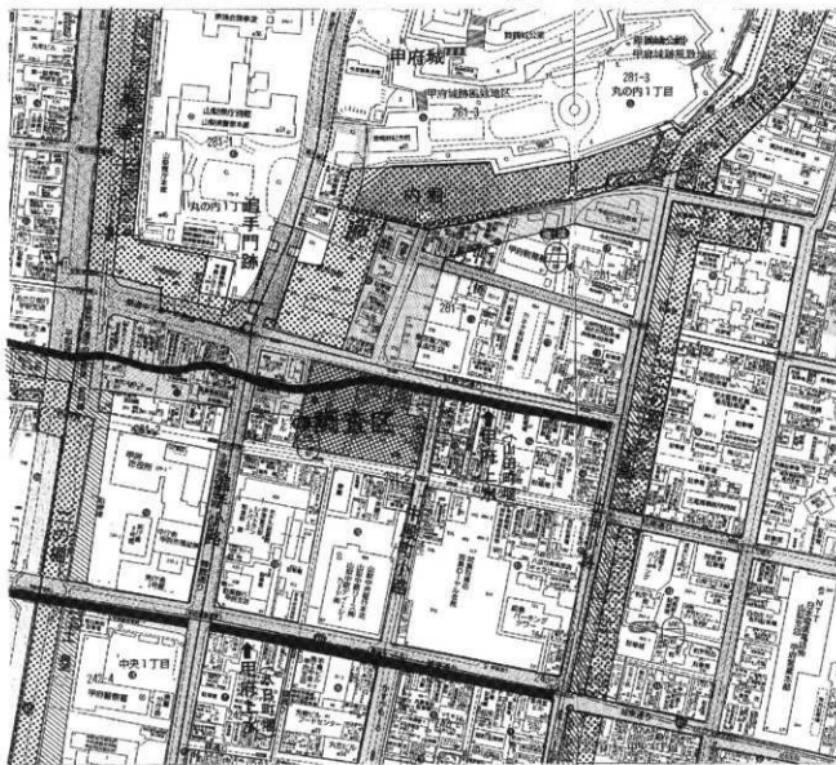
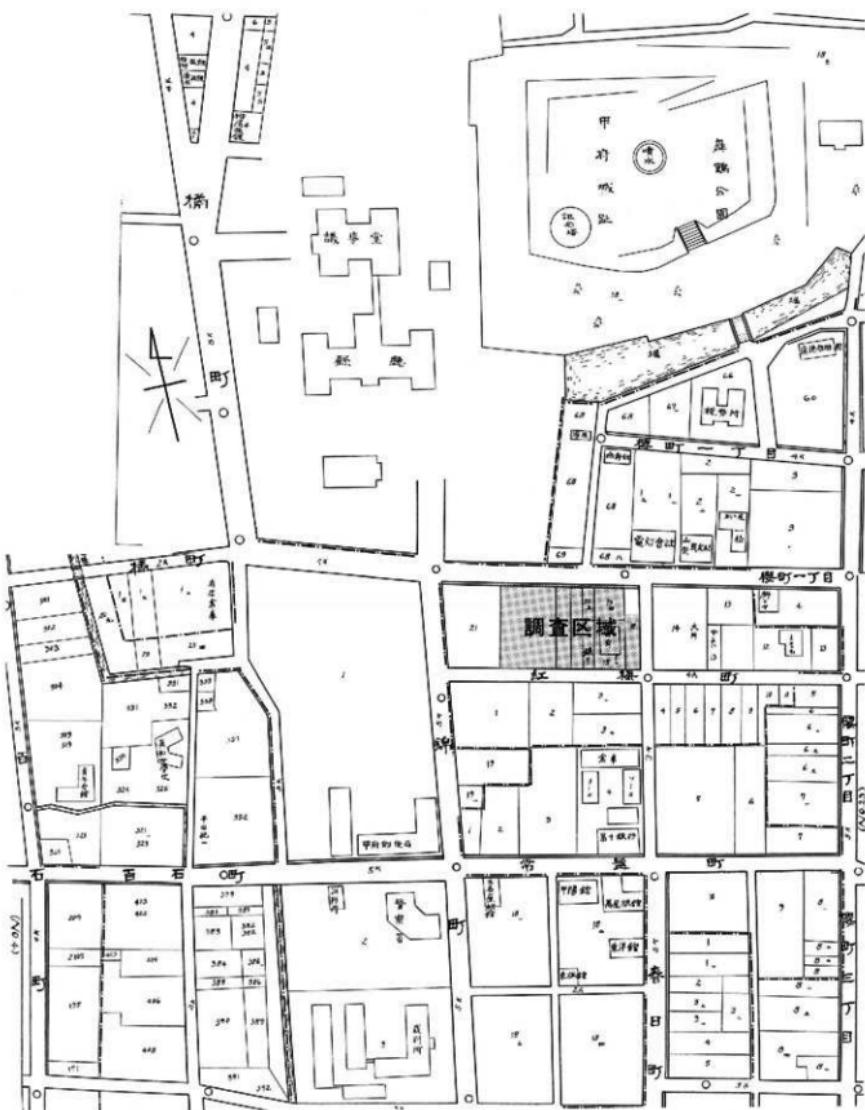


図3 調査区位置図



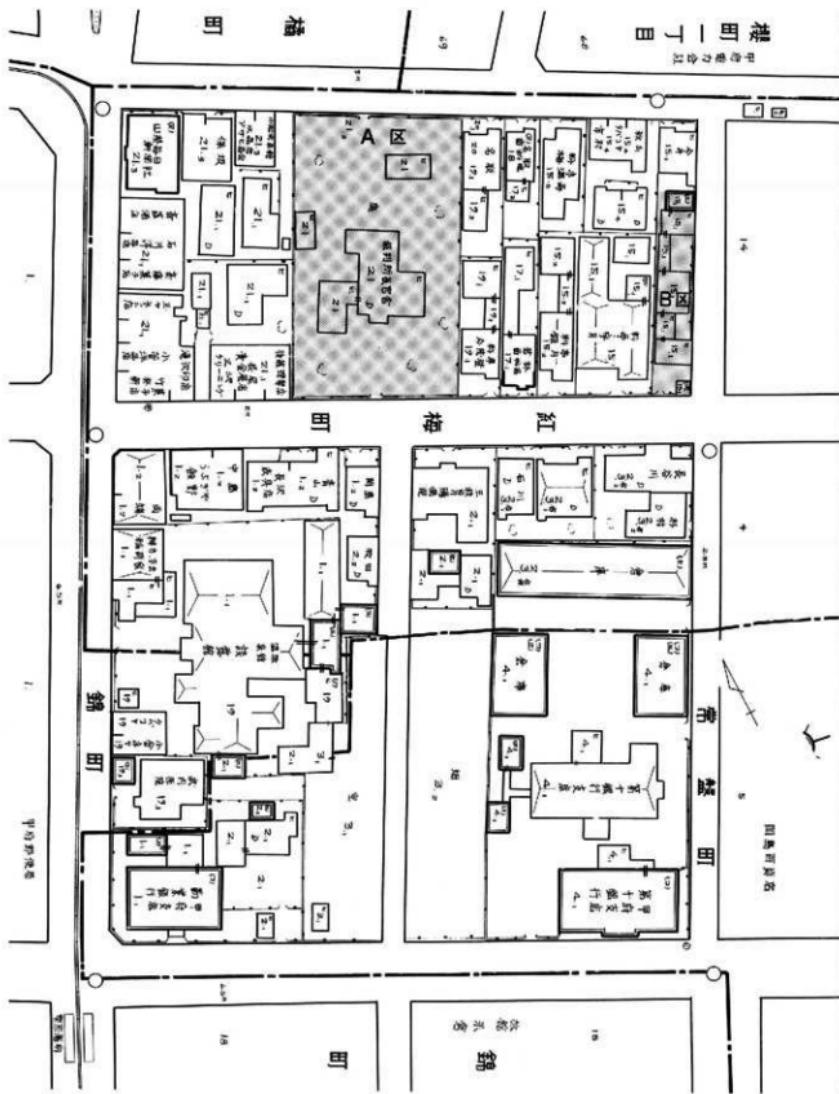


図5 甲府市街地図部分（昭和16年）

第3節 調査方法

調査対象範囲の内で、地中深くまで旧建物の基礎部分が及び遺構が完全に破壊を受けていたり部分を除き調査区とした。調査区は3地点に分かれ、調査区西側をA区、オリオン通り沿いをB区とした。なお、紅梅北通り沿いのC区に関しては、A区北側の調査状況から既存建物により遺構が残存している可能性が低いため調査区から除外した。

A区は主に県営駐車場が位置していた場所であり、地表下1m地点まで幅約1m、高さ約0.7mのコンクリート製の地中梁が、3mないしは5.5~6m間隔で縦横に設置されていたため、大型重機で地中梁を切断・撤去し、その後表土を除去した。しかし、北側の一帯については、地中梁により遺構面が搅乱を受けていること、さらに工事車両の通路確保の必要性から、地中梁を残しその梁内のみを掘削した。またA区は掘削に伴う廃土置き場を確保する必要があったため、調査区の西側(A~Dグリッド)と、東側(E~Hグリッド)の2区に分割して作業を行った。

B区はオリオン通り沿いの店舗が並んでいた地域である。搅乱を受けた部分が多いことと極めて狭隘な敷地であるため、調査範囲は限定された3地点のトレンチにとどまった。小型重機を使用し、調査範囲内において掘削した廃土置き場を確保しながら作業を行った。

A・B区とも重機で表土剥ぎ終了後引き続き人力による遺構確認作業を行った。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次調査を行ったが、一部新旧関係が不明である重複した遺構については、土層観察により新旧関係の決定を行った。

重機による表土剥ぎ終了後、調査区南西隅部を基点として世界測地系第VII系のX=-37432.026、Y=6291.272を基点とし、調査区の区画にあわせて任意に4m間隔のグリッド杭を設定した。グリッド番号は、南から北へ1~13、西から東へA~Vとした。3点のグリッド座標を示しておく。

B-2グリッド X=-37432.026 Y=6291.272

B-11グリッド X=-37396.325 Y=6295.133

T-3グリッド X=-37437.326 Y=6363.187 Z=266.770

グリッド杭設置後、基本的に人力による遺構・遺物の検出を行った。検出された遺構については、規模・形状・堆積状況・遺構の新旧関係を確認するため、半截作業を行い遺構の時期・機能等を確認しながら作業を進めた。出土遺物は、遺構内のものについては原則的には全て、遺構外出上のものについても原位置が明らかな主要遺物については光波測量機器を用いて個別に取り上げを行った。平面図・セクション図の測量作業の中で、遺物微細図はデジタルカメラによる測量を実施し、遺構図及び全体図面の図化は光波測量器とデジタルカメラによる測量を併用した。また、一部のセクション図及びエレベーション図の作成については、補完的に手実測による測量を用いた。記録写真は一眼レフカメラ及びデジタルカメラを併用し、遺構・遺物の検出状況、遺構の堆積層、掘削完了状況を撮影した。また、基本層序A・B地点における土壤と木片については、花粉分析と年代判定の分析を行っている。

本調査終了後、出土遺物の洗浄、注記、接合、実測、トレース作業を行った。一部染付磁器等の遺物の図化作業及び出土木製品・金属製品の保存処理は業者委託とした。遺構図面作成に関しては、光波測量器とデジタルカメラによる測量図面を編集し、一部分の遺構図及びセクション図に関しては手作業による作図及びトレース作業を行った。

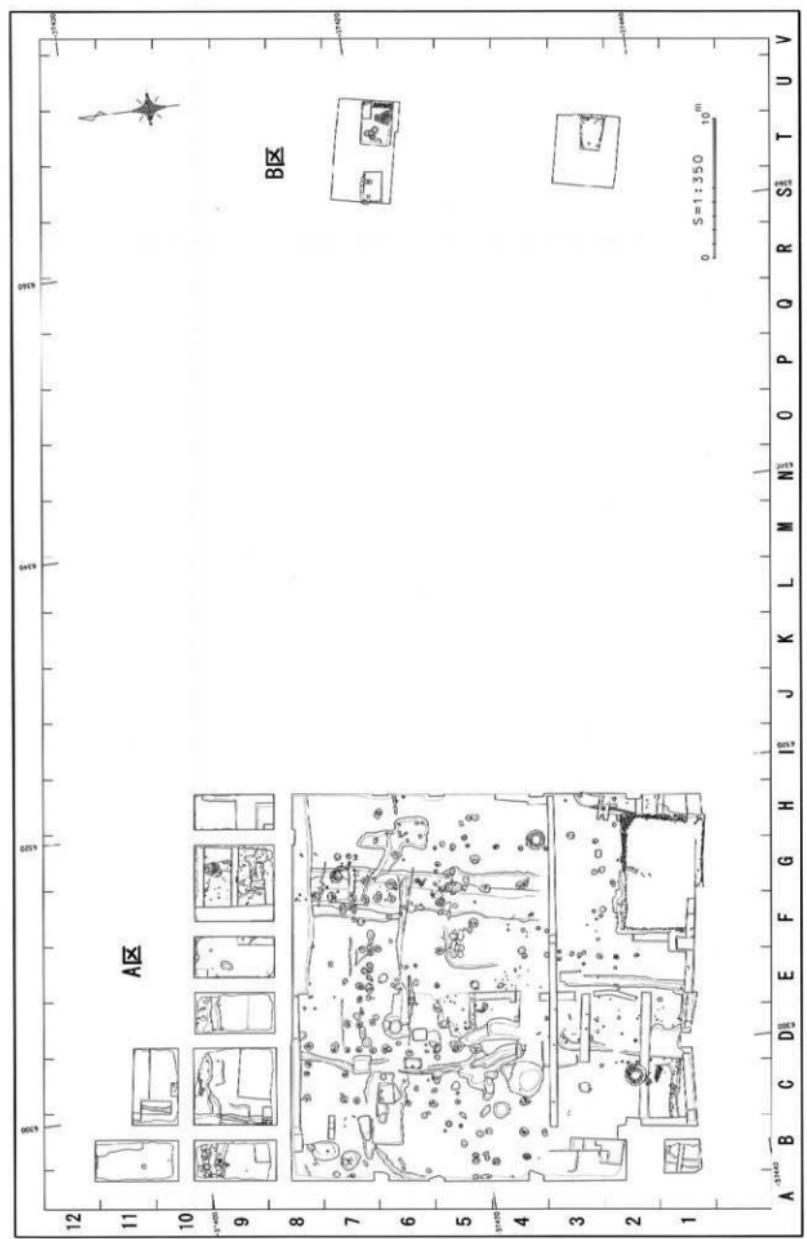
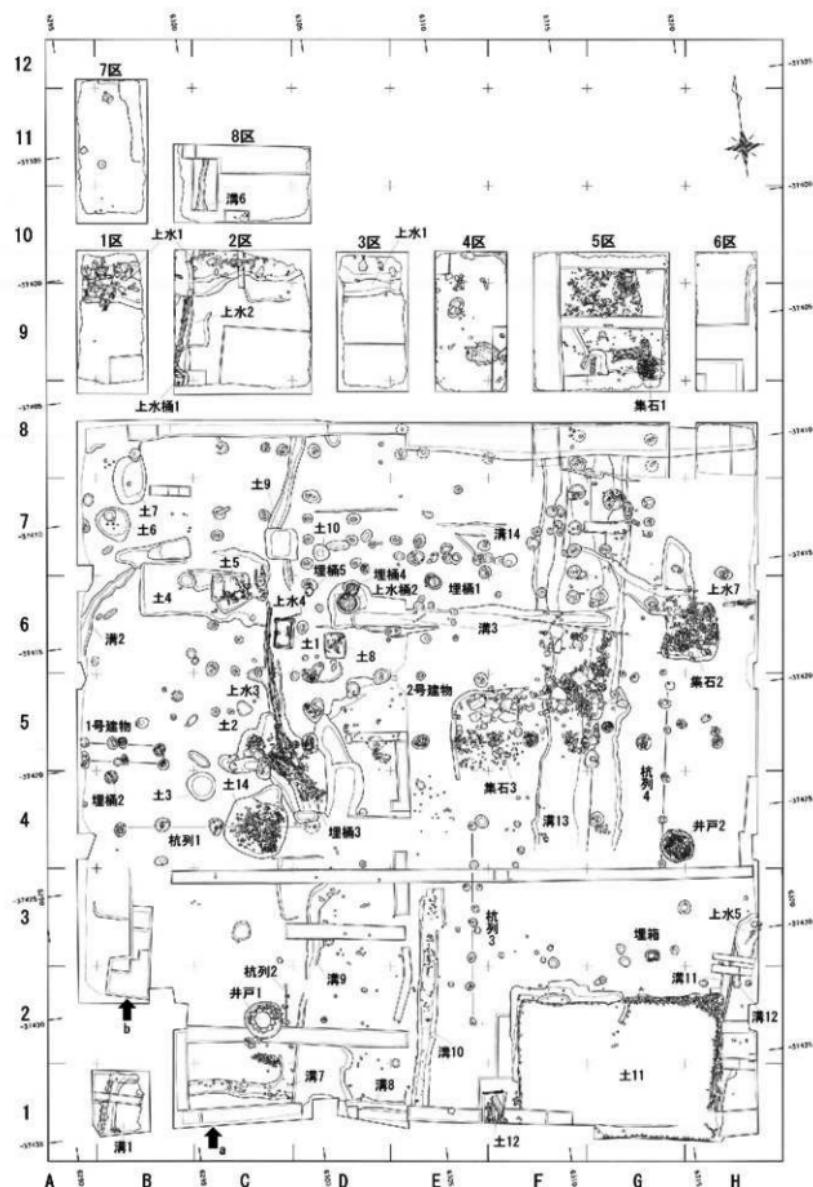


図6 甲府城下町遺跡（紅梅地区再開発地点）全体図



a = 基本土層A地点

b = 基本土層B地点

図7 甲府城下町遺跡(紅梅地区再開発地点) A区遺構及びグリッド図

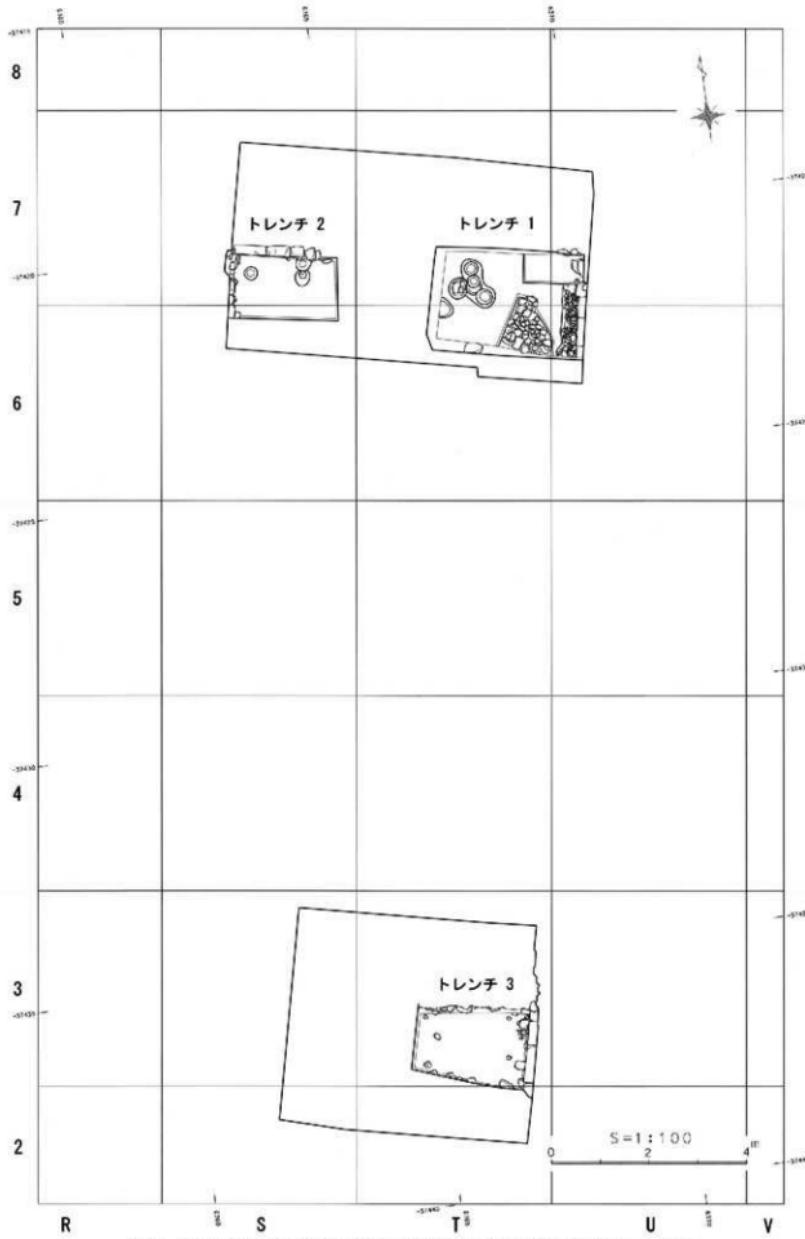


図8 甲府城下町遺跡(紅梅地区再開発地点)B区造構及びグリッド図

第4節 調査経過

(A区)

平成19年

12月27・28日 重機を使用して表土掘削。

平成20年

1月7～10日 重機で調査区南西側表土掘削及び遺構確認作業。

1月15日 現場機材納入。

1月15～16日 駐車場基礎地中梁撤去作業。

1月17～19日 重機で調査区北西側表土掘削及び遺構確認作業。

1月26日 基準杭・グリッド杭設置。

2月1日 調査区北東側表土掘削及び遺構確認作業。

2月5日 土壌サンプル採取作業。

2月6日 甲府上水全景写真撮影。

2月7日 遺構図面委託測量作業開始。

2月9日 遺跡見学会。

2月15日 調査区西側全城委託測量作業。

2月18日 調査区北東側埋戻し作業開始。

2月20～23日 南東側駐車場基礎地中梁撤去及び表土掘削作業。

2月28日 古墳時代遺物包含層掘削作業開始。

2月29日 部分的に委託測量作業。

3月1日 調査区東側基準杭・グリッド杭設置。

3月5日 調査区南側委託測量作業。

3月12日 古墳時代遺物包含層調査終了。

3月19日 13号溝調査終了。

3月21日 現場機材等撤収作業。埋戻し作業完了。

3月23～28日 山土・遺物洗浄作業。

(B区)

2月13日 トレーナー1～3を重機にて掘削及び遺構確認作業。

2月15日 基準杭・グリッド杭設置作業。

2月16～19日 遺構掘削作業。

2月20日 図面作成作業。

第5節 遺跡概要

調査区は二の堀内の郭内に位置し、北西側に甲府城の内堀と追手門に通じる追手小路が近接する土地である。調査区北側は内堀沿いの小路であり、東側は殿中町小路である。調査区南側及び南東側は武家屋敷であり、19世紀に入ると徴典館が位置していた。明治時代には追手小路は錦町通りと名称変更し、調査区南側には紅梅町通りが作られた。錦町通りには、県庁、師範学校など藤村式建築による建物が並ぶ官庁街となる。

調査区のA区は裁判所長官の官舎が置かれ、B区には商家が並んでいたが、昭和20年の甲府空襲で一帯は焼失した。戦後の復興とともにA区部分は県営駐車場となり、B区はオリオン通り沿いの商店街として、甲府の中心市街地となつた。

A区は県営駐車場が位置していたため、地表下約1mまでコンクリート製の中柱が縦横に張られていたため搅乱を受けた部分が広範囲に及んでいた。しかし、南側へ傾斜する扇状地の地形であるため、調査区南側の5~6グリッドラインまでは比較的良好な状況で遺構・遺物が確認された。その北側6~11グリッドの20mほどの区間は地山層付近まで搅乱が及び、検出された遺構は地山層に掘り込まれた部分のみであった。さらに北側部分の遺構に関しては搅乱を受け完全に失われていた。

A区において検出された遺構・遺物の時期は、古墳時代、中世後期から近世初頭、近世後期、近代の4時期である。遺構としては甲府上水関係の溝（石積1条、木樋2条、竹樋4条）と上水桶2基、掘り抜き井戸2基、溝12条、土坑13基、埋桶5基、杭列4条、建物跡2棟が確認された。また明確な遺構ではないが集石部分が3箇所と建物の基礎部分にあたる杭及びピットが92基確認されている。出土遺物は遺物保管箱（縦60cm、横40cm、深さ15cm）に換算して50箱以上の遺物が検出された。種別として大多数は、近世及び近代の陶磁器類と瓦である。他に金属製品、ガラス製品、石製品、木製品、漆器製品、土師器、須恵器、獸骨が確認されている。

B区は狭隘な範囲の調査のため、3箇所のトレンチを設定した。ピット9基と殿中町小路際の石積と石積下層の溝が検出された。出土遺物は遺物保管箱（縦60cm、横40cm、深さ15cm）に換算して3箱の遺物が検出された。種別として大多数は、近代の陶磁器類と瓦であるが、一部近世後期の陶磁器が確認されている。

第6節 基本土層

(A区基本土層)

調査区は標高267.5mのほぼ平坦地である。基本土層はA区では調査区南側のA地点（C-1グリッド）とB地点（B-2グリッド）の2地点における南壁の精査を行い、地表下約3mの標高264.3m地点までの堆積層の観察を行なった。基本土層A地点は標高265.0mから267.3mまでの2.3mの堆積層内において14層に分層される。またB地点は標高264.3mから266.4mの1.9mの堆積層において18層に分層される。A地点の第1層碎石層と2層暗褐色土層は県営駐車場の基礎部分の堆積層である。標高266.6mに位置する3層暗褐色土層は焼土と炭化物を多く含む、昭和20年7月6日から7日にかけての甲府空襲に伴う焼土層である。4から6層の黒褐色土層及び黒褐色粘質土層は近代の遺物包含層である。以上A地点における1層から6層までは近代以降の堆積層である。

近世の遺物包含層は標高266.1mを下限とし厚さ20~30cmの堆積層がみられる。A地点の7・8層、B地点の2・3層のオリーブ色を基調とする粘質土及び砂質土の堆積層が対応する。この層内からは炭化物の混入と瓦・陶磁器などの遺物が検出されている。

近世遺物包含層下のA地点の10層黒褐色粘質土層と対応するB地点の5層灰オリーブ色砂質土層は、部分的に炭化物の混入はみられるが、遺物等は確認されていない。

古墳時代の遺物包含層はA地点では、標高265.5mを下限とする11層の灰色砂層であり、B地点においては6層の黄褐色砂層が確認されている。この両堆積層はやや粒子が粗い砂を基調とするが、部分的に黒色土の混入があり、炭化物と土師器の混入がみられる。遺物はA地点からの出土量が多い傾向にある。またB地点7層灰色粘質土層は炭化物微量、8層オリーブ黑色粘土層からは高坏が出土していることから、同時代の堆積層である。

古墳時代の堆積層下のA地点12層、B地点9・10層の黒色粘土層が対応する。特にB地点の9・10層からは、植物遺体の痕跡が確認されている。この層以下の対応関係にある堆積層はB地点の方が低位置にみられる。A地点13層と対応するB地点11層であり、若

干の相違はあるが灰色粘土を基調とする軟質土の堆積層である。

B地点12層から16層の厚さ50~60cmの堆積層はA地点においては検出されてはいない。このB地点の12層以下は西側へ緩やかに傾斜が見られる。12層オリーブ黒色粘土層は厚さ20cmを測り、微量の白色砂分の混入がみられる。13層白色砂質上層は、黒色土を微量含む。14層暗オリーブ灰色粘質土層は、微量の炭化物の混入がみられる。15層灰色砂礫層は砂礫が多く堆積する。16層黒色粘土層からは植物遺体が確認された。17層は径2~5cmの礫層となる。以上B地点の13層から17層は河川の堆積層と考えられる。地山層はA地点標高265.2m、B地点264.4mから下層に位置する暗緑灰礫質土層であり、両地点の比高差は0.8mあり、古墳時代以前の地形は調査区西側へ傾斜し、河川が形成されていたものと考えられる。

(B区基本土層)

B区の基本土層は、トレント1の北壁を指標とした。地表面は標高267.0mに位置しA区より約0.5m低い。地山層は標高266.5mと表土から約0.5mの堆積層がみられた。堆積層は3層に分層される。1層は昭和20年7月6日から7日にかけての甲府空襲による焼土層である。2層は厚さ15cmの暗褐色粘質土層であり、近代の遺物包含層である。3層は近世の遺物包含層である。黒褐色粘質土を基調とし、炭化物と近世の染付磁器が検出された。4層の地山層は、砂礫分を含む暗黄褐色粘質土層である。

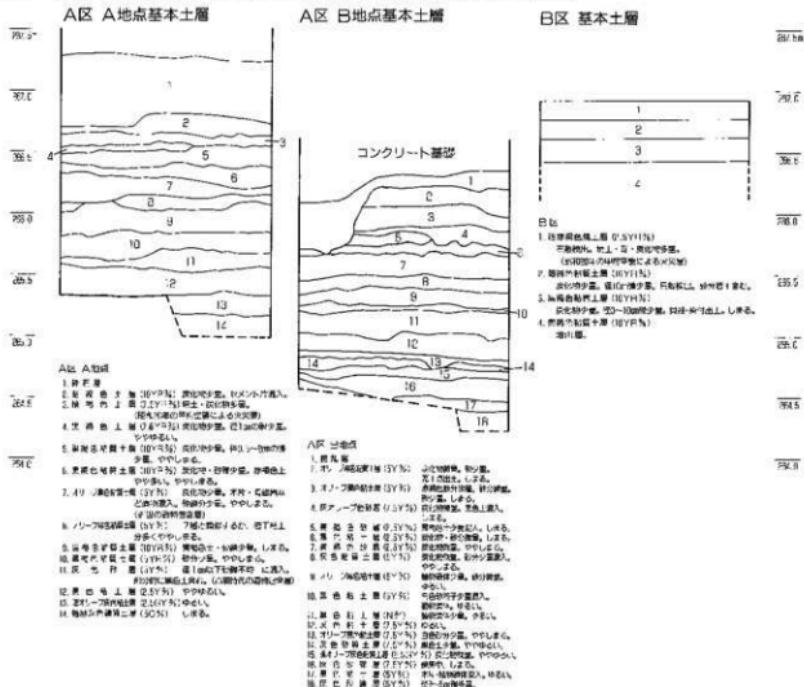


図9 基本土層図

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の地理的環境

甲府城下町遺跡は、甲府盆地北縁部の相川扇状地の扇端部から盆地の沖積低地へ移行する境界部分に、16世紀末から17世紀初頭に造営された都市である。愛宕山から速なる安山岩で形成された一条小山の独立峯標高304.8mに築かれた天守台を中心に、西側は南流する相川、南側は秩父山系の金峯山を源とする荒川が流れ、北東側は愛宕山の縁辺部を東方へ流れる藤川を境とする範囲に、内堀・二の堀・三の堀と、三重の堀に囲繞された東西約1.5km、南北約1.8kmの範囲に広がる。

調査地点は天守台が置かれた一条小山の南側約300m地点に位置する。現状は標高約267.5mの扇状地扇端部であり、南側へ緩やかな傾斜がみられる。今回の調査により、古墳時代はA区南東側には河道、西側には後背湿地の存在が確認され、古墳時代以前においては、調査区東側は落ち込んだ地形であったものと推測される。

第2節 遺跡の歴史的環境

甲府城下町遺跡周辺には、北西方向の塙部遺跡（弥生～平安）、緑が丘一丁目遺跡（古墳）がある。西側には宝町遺跡（縄文・平安）、寿町遺跡（古墳）など、荒川左岸の沖積地の微高地状に分布する。また城下町南方約2km地点には朝氣遺跡（縄文～平安）、青沼遺跡（古墳）など盆地中央部の微高地に大規模な集落が形成されていた。

甲府城下町遺跡内においても、近年の発掘調査等により古墳時代、平安時代の遺構・遺物が確認されている。当調査区周辺において概観すると、調査区南西側約250m地点の甲府地方裁判所地点（図2-45地点）、百石町武家屋敷跡（図2-11地点）、甲府駅東側などから遺構・遺物が確認され、古代の様相が明らかになりつつある。

鎌倉時代は一条小山（甲府城天守台一帯）に一条忠頼が居館を築く。忠頼が源頼朝により謀殺されると、忠頼夫人により居館は尼院となつたとされる。その後この尼院は時宗二世他阿真教に帰依した一条時信により、正和元年（1312）稱久山一蓮寺として開かれた。

16世紀前期の永正16年（1519）武田信虎が甲府駅北方約2.5kmの現在の武田神社の地に居館を構え、甲府駅北口一帯まで中世の城下町が形成される。調査区周辺は大永4年（1524）に中世の城下町の南端である一条小山（甲府城天守台周辺）に砦が築かれ、山上の一蓮寺は山裾に移設され門前町が形成されたものと推定される。この中世段階の寺院については、甲府城の石垣内から石造物などが検出されていることから、一条小山南側に位置していたものと考えられる。

天正10年（1582）滅亡後、織田信長の家臣川尻秀降、徳川家康の家臣平岩親吉が治め、天正18年（1590）以降は豊臣系の大名である羽柴秀勝、加藤光泰、浅野長政、幸長親子が治める。この豊臣系の大名である浅野氏の時代に、東国では数少ない總石垣の近世城郭が整備された。この甲府城下町は、一条小山の地に天守台を築き周辺に内堀、二の堀、三の堀の三重の堀に囲まれた城下町である。城内は追手・柳・山手の3箇所に御門が設置され、石垣が多く用いられた内堀に囲繞されている。二の堀内は郭内として武家屋敷地である。素掘りの堀と土塁に囲繞され、15箇所の見付が置かれていた。二の堀外側には町人地が拡がり、北側に上府中26町、南東側に下府中23町が整備された。また城下町には西方の荒川から引水し相川から取水した、17世紀前期と全国的にも古い甲府上水が設営されていた。

調査区は古絵図などから、甲府城追手門東側の通りと武家屋敷地に相当する。近世初頭の城下町形成期に地割りがなされ、追手門南側の東西の通りには甲府上水が設営されてい

た様子が18世紀前期の絵図に描かれている。また、小路の変化はないが、屋敷の区画割りは絵図などから数時期の変遷がある。

17世紀代の徳川一門及び幕府直轄領の時代については不明であるが、18世紀初頭の宝永元年（1704）、徳川綱吉の側用人である柳沢吉保が武藏国川越から入部すると、甲府城の屋形曲輪・楽屋曲輪の殿舎の建設と石垣の改修など、城下町の再整備が行われた。この時期の絵図等によると調査区は、御城代千石柳沢隼人の記載がある（享保4年（1719）の「松平甲斐守様御家中御役人付」）。

享保9年（1724）、柳沢氏は大和郡山に転封となり、以降幕末まで甲府勤番支配が設置された。享保12年（1727）の大火により、甲府城及び周辺一帯の武家屋敷が焼失した。

18世紀中葉の元文3年（1738）の絵図に調査区東側部分に伊藤の記載がみられる。

19世紀中葉の嘉永2年（1849）の懐宝甲府絵図によると、調査区西側から徳典館、辻、イトウの記載がある。徳典館は寛政8年（1796）頃に勤番十及びその子弟の教育を目的に設置された学問所である。調査区の位置には天保14年（1843）に移転し、明治9年（1876）まで存続した。

明治時代には追手小路は錦町通りと名称変更する。この錦町通りには県庁、会議所、裁判所、師範学校、県病院、勧業製糸所など藤村式建築の建物が並ぶ官庁街となる。明治初年には調査区南側の徳典館と武家屋敷地には東西方向に現在の紅梅町南通りが開削され、山田町まで一直線の通りとなる。また内堀沿いの東西の通りは道幅が縮小され、紅梅町北通りとなる。明治8年（1875）には西は錦町の通り、北と南の紅梅通りに囲まれたこの一帯は、紅梅町と改称する。調査区のA区は裁判所長官の官舎が置かれ、B区には商家が並んでいたが、昭和20年7月6日から7日にかけての甲府空襲により調査区一帯は焼失した。戦後の復興とともにA区部分は県営駐車場となり、B区はオリオン通り沿いの商店街として、甲府中心市街地となり現在に至る。

第3節 甲府城下町遺跡の調査状況（図2）

甲府駅周辺における新都市拠点整備事業に伴い、平成7年以降甲府駅を中心として駅周辺において、試掘・立会調査及び本調査の件数は増加傾向にある。特に駅北口周辺に調査は集中し、二の堀と森下小路周辺の武家屋敷の調査地域一帯（1・2・19・20・21・22・26・27・28・40・41）は、甲府市教育委員会及び山梨県埋蔵文化財センターによる調査により、武家屋敷の区画溝など城下町の地割りが解明されつつある。また駅北側一帯では、主に（1・2・23・30・31・49）などの地点から16世紀代の遺構・遺物が検出され、武田氏の居館を中心とした中世城下町の区域が、極めて広範囲に及んでいたことが確認されている。

駅西側の（14）は18世紀前半には柳沢吉保の家老屋敷、（17）は18世紀中葉以降の幕府領の時代には山手御役宅が置かれていた。この周辺の調査（14～17）では、肥前系磁器などの陶磁器と、柳沢氏の家紋である花菱の瓦など大量の瓦が検出された。また駅西側の大規模調査（13・10・35・52）においても武家屋敷の遺構が検出されている。特に（35）地点は甲府城下町建設に際して移転した長延寺（現在の光澤寺）の旧寺域と推定され、墓石が検出されている。駅周辺では（1・17）地点で中世段階の上墳墓が確認された。

近年は駅南側においても、開発事業などに伴い大規模な調査がみられる。甲府城柳御門西側の（42）地点では、馬場の痕跡と明治期の監獄署の遺構である明治期の甲府上水が確認された。甲府上水に関連する遺構は（25・29・37・42・53）の地点と今回の調査区から、近世から明治期にかけての遺構が確認されている。

甲府城に関しては山梨県埋蔵文化財センターが中心となり甲府城の整備及び付随する調査が進行しつつあるが、屋形曲輪（4・5）、清水曲輪（50）、柳門（36）、山手門（7）などの調査により甲府城の全貌が解明されつつある。

第3章 A区の遺構と遺物

A区において検出された遺構・遺物の時期は、古墳時代、中世16世紀中葉から17世紀初頭、近世後期、近代の上に4時期である。

検出遺構は、甲府上水関係の溝（石積1条、木樋2条、竹樋4条）と上水桶2基。掘り抜き井戸2基、溝12条、土坑13基、埋桶5基、杭列4条、建物跡2棟が確認された。また明確な遺構ではないが集石部分が2箇所と建物の基礎部分にあたる杭及びピットが92基確認されている。また近世・近代の確認面の下層から、古墳時代の南北方向の落ち込む遺物包含層が確認された。なお遺構番号の4・5号溝及び13号土坑については、調査途中及び調査後の検討により他の遺構として認定されたため欠番とした。

出土遺物は、遺物保管箱（縦60cm、横40cm、深さ15cm）に換算して50箱以上の遺物が検出された。種別として大多数は近世及び近代の陶磁器類と瓦である。他に金属製品、ガラス製品、石製品、木製品、漆器製品、土師器、須恵器、獸骨が確認されている。

第1節 上水

甲府上水に関する遺構は、7本の上水部分と汲水施設である2基の上水桶が検出された。上水1号は甲府上水の本管であり、間知石により構築されていた。南北方向の上水3・6号は、木樋の給水管である。他の上水2・4・5・7号の4本は竹樋である。汲水施設としては、上水2号に接続する上水桶1号と上水4号に接続すると考えられる上水桶2号の2基が検出された。

上水1号（遺構図13/遺物図34）

位置 A～E - 9～10グリッド

検出状況 遺構上面は駐車場の基礎により搅乱を受けているため、遺構下部15～20cmの掘り込み部分と胴木と上水の間知石が一部分検出されたのみであり、残存状況は不良であった。駐車場の地中梁の撤去が困難であったため、地中梁を残す状態での調査であり、西側より1区、2区、3区に分割して調査は行なわれた。

上水1号はN-86°-W方向に軸線をとり、長さ13.5m、幅約2m、深さ0.15～0.2mを測り東側へ流下する。西側の1区は搅乱を受けながらも、上水の構成材である間知石と胴木が検出された。間知石の表面は幅約40cm四方、奥行き約35～50cmの安山岩製であり、径約10cmの胴木の上部に1～2段積まれていた。この間知石の水路幅は約0.4m、現状深さは0.5mあった。水路間に砂礫・木材片などが確認された。間知石の裏込め部分は拳大の礫が少量確認されたのみで、黒褐色粘土が多く堆積していた。

2区は、上水2号と分岐する部分であるが、搅乱を受けたため接続部は不明である。また胴木と考えられる径約8cm、長さ0.6mの丸太材が1本と長さ1.2mの丸太材が2本検出されたが、搅乱を受けているため元位置は不明である。

3区は、搅乱が著しいが、間知石が2点と、径8cmの丸太材が2本、杭状に突き刺さった状態で検出された。覆土は1・2区と同じく黒褐色粘土を基調とする。

出土遺物 陶器（1～3）、磁器（4・5）、泥人形（6）、木製模（7）、角釘（8・9）、明治10年代の半錢銅貨（10）など、主に近代の遺物が出土した。

切合関係 上水2号と接続。
時 期 近代

上水 2 号	(遺構図13/遺物図34)
位 置	B・9グリッド
検出状況	N - 16° - E に軸線をとり、掘り方は長さ3.15m、幅0.7m、深さは北側で0.25m、南側0.2mである。中央部には径約8cmの竹樋が確認された。上水1号と上水桶1号を接続する呼樋の役割を果たしていたものと考えられるが、竹樋両端の接続部分が搅乱を受けているため、接続部の構造は未解明である。
出土遺物	陶器(11)は相馬焼である。(12)は砥石である。他に瓦小片が検出された。
切合関係	上水1号と上水桶1号と同時期に存在したものと考えられる。
時 期	近代
上水 3 号	(遺構図14/遺物図34・35)
位 置	C・D - 4 ~ 8グリッド
検出状況	弓なりに湾曲しているがN - 7° - W方向に主軸をとり、全長約15m、幅0.3~0.6mを測る。北側は掘り方の底部が部分的に残存するのみである。南側は丸太を半截した木樋の底部が残存する。木樋は長さ6.5mにわたり検出されたが、腐食が著しいため接続部分及び本数は確認されなかった。木樋は掘り方内の底部中央部に設置され、覆土からは近世から近代の遺物が検出されている。この上水3号北側延長部分及び南側部分は搅乱のため未検出である。
出土遺物	陶器(13~15)は近代の遺物である。磁器(16~19)の内(17~19)は19世紀後半の遺物である。曲げ物底板(20・21)は中央部に径0.2cmの孔がみられる。(22)は軒平瓦である。寛永通寶(23)は四文銭である。木樋(24)は残存長さ42cm、径12cmの丸太材を半截したものに、幅約9cm、深さ約4.5cmの溝が穿かれている。
切合関係	2号土坑を切る。9号土坑と埋桶3号との切合い関係は不明。
時 期	近代
上水 4 号	(遺構図14・22)
位 置	C・D - 6グリッド
検出状況	1号土坑の上面で確認された。両側は搅乱を受けているため部分的ではあるが、N - 83° - E方向に軸線をとり、長さ0.75m、幅約5cmの竹樋の痕跡である。上水4号の西側には上水3号が位置し、上水4号の東側の延長線上に上水桶2号がみられることから、両遺構を結ぶ呼樋の役割を果たしていたものと考えられる。しかし竹樋痕跡の両端は搅乱を受けているため、接続部の構造は未解明である。
出土遺物	なし
切合関係	1号土坑を切る。上水3号と上水桶2号と同時期の遺構と考えられる。
時 期	近代
上水 5 号	(遺構図15/遺物図35)
位 置	H - 2・3グリッド
検出状況	主軸をN - 44° - Eにとり、現状長さ約1mの木製接続部と竹樋が検出された。上水5号の掘り方は幅0.6~1m、深さは0.15~0.3mである。南側へ緩やかに傾斜している。また南側ではN - 16° - E方向の、現状長さ約3.15m、幅0.10m、深さ0.05mの竹樋の痕跡と考えられる細長い溝が確認された。

出土遺物 木製接続部（25）は横幅17.5cm、高さ10.5cm、幅10.5cmの角材に約7cmの孔が穿たれている。竹樋は残存長さ約1m、径7cmである。

切合関係 11・12号溝との切合関係は不明である。

時期 近代

上水6号 (遺構図15/遺物図35)

位置 F・G-7・8グリッド

検出状況 13号溝の上面で検出され、N-12°-Eと13号溝と同一軸線である。木樋は全長6.4m、幅0.33~0.38mである。木樋は腐食が著しく上部は欠損していたが、幅33~38cm、厚さ約3cmの底板の両脇上部に、厚さ4cmの側板を取り付け、木樋の内寸は約25cmである。木樋内の覆土は軟質の灰褐色粘土である。

出土遺物 古銭（26）は北宋銭「熙寧元寶」である。

切合関係 13号溝上部に位置する。

時期 近世か

上水7号 (遺構図15)

位置 H-6グリッド

検出状況 遺構上面は擾乱を受けていたため部分的な検出である。主軸をN-87°-Wにとり、現状掘り方は長さ1.35m、幅約0.2m、深さ0.1~0.15mである。東壁では径5~8cmの竹樋が確認されている。

出土遺物 小片のため未図化ではあるが、掘り方内から瓦が検出された。

切合関係 なし

時期 近代

第2節 上水桶

上水桶1号 (遺構図13/遺物図35)

位置 B-8・9グリッド

検出状況 掘り方は円形プランを呈し推定径約1m、上水2号確認面から深さ1.2mを測る。底部には推定径65cmの籠の痕跡が確認された。さらに籠の下部には長さ67cm、幅8.5cmの角材と板材が設置されていた。桶の側板部分は検出されなかつたが、籠から推定して、径約65cm、長さ1.2m以上の桶が設置されていたものと推測される。

出土遺物 角材（27）には丸釘が打ち込まれていた。図化は行わなかったが覆土内からレンガ及び瓦が出土した。

切合関係 上水2号と接続する。

時期 近代

上水桶2号 (遺構図28/遺物図35・36)

位置 D-6グリッド

検出状況 上水桶2号は、北側に埋桶4号、南側に3号溝が接し、切り合い関係は複雑である。検出面は灰褐色粘土に覆われていた。掘り方は円形を呈し径約0.9m、深さ0.18mであり、隣接する埋桶4号より0.2m低い。桶は内径67cmを測り、南西方向で確認された側板（32）には底部より34cm高位置に径約8cmの竹樋

を接続させた孔がみられた。

- 出土遺物 桶内部は灰褐色粘質土が堆積し、桶内から瓦（28）、鏡（29）など近代の遺物が検出された。また桶の部材として径67cm、厚さ2.2cmの底板（30）、側板（31・32）が検出された。側板（32）は、幅13.3cm、厚さ2.1cm、残存長さ38cmを測るが、上部に推定径約8cmの円形の孔が穿たれている。この部分に4号上水の竹樋が接続していたものと考えられる。
- 切合関係 埋桶4号に切られる。3号溝との関係は不明。
- 時期 近代

第3節 井戸

1号井戸 (造構図16/遺物図36~38)

位置 C-2グリッド

検出状況 挖り方は円形を呈し径約1.5m、深さ約3.8mを測り、石積と桶を併用して構築された井戸である。上部の石積部分の内径は約1m、高さ2.7mである。長さ30~50cmの方形状の安山岩を下部構造の桶の縁にかかるようにして、ほぼ垂直に積み上げている。石積の裏込め部分は握り拳大の礫が少量確認されたが、大部分は褐色系の粘土が充填されていた。下部の桶部分は、径約1.2mの掘り方の中央部に内径約0.9m、長さ1.1mの桶が据えられている。桶は厚さ約3cm、幅7~12cm、長さ1.1mの20枚の桶材により構成されていた。井戸内部は拳大以上の大量の礫と瓦により埋設されていた。下部の桶部分は黒褐色粘土により覆われていた。

出土遺物 井戸内部の石積部分からは本瓦葺の建物で使用された大量の瓦と、肥前系の磁器と木製品が検出された。磁器（38・39）は、18世紀代の肥前系磁器である。染付皿（38）は、復元径約20cmの七寸の皿である。仏教器（39）は白磁である。瓦（40~47）は、いずれも本瓦葺の建物で使用された軒丸瓦（40）、軒丸又は丸瓦（41~43）、平瓦（44~47）である。木製品は2点出土した。折敷（48）は、表裏両面とも黒漆であり、側面は朱漆が施されている。部材（49）は厚さ約1cm、幅7cm、残存長さ40cmを測る。内面下部に窪み状の加工痕が確認されることから、桶の側材と考えられる。

切合関係 井戸東側に杭列2号、南側に遺物集中地点が確認された。

時期 18世紀後半から19世紀前半

2号井戸 (造構図17/遺物図38)

位置 G-H-4グリッド

検出状況 挖り方は円形を呈し径約1.8m、深さ約3.2mを測る石積の井戸である。井戸上面の0.3mは径10~40cmの礫により一面覆われていた。石積部分は、高さ2.9mを測り、上部の内径0.8m、中央部内径約1.1mとフラスコ状の形状を呈する。石積は径20~60cmの自然石により構築され、裏込め部分は握り拳大の礫が検出されたが少なく、大部分は褐色系の粘土が充填されていた。石積部分の内部は、拳大以上の大量の礫と軟質の暗褐色粘土により覆われていた。

出土遺物 井戸内部上面からは陶板（50）が出土したのみである。遺物は極めて少ない。

切合関係 西側に杭列4号が位置する。

時 期 近世

第4節 溝

1号溝 (造構図18/遺物図38)

位 置 A・B - 1グリッド

検出状況 L字状に曲がる素掘りの溝である。南北方向はN - 14° - Eに主軸をとり、長さ2.3m、幅0.45~0.65m、深さ0.25mを測る。東西方向はN - 78° - Wに主軸をとり、長さ1.2m、幅0.25、深さ0.2mを測る。覆土は黒褐色粘質土を基調とする。溝底部に砂粒子の堆積が微量確認された。また溝底絶後に溝西側上面には径30~40cmの自然石が溝と同一軸線で5石並んで確認された。

出土遺物 碗(51)は19世紀の瀬戸産の陶器である。他19世紀代の近世の遺物が検出された。

切合関係 なし

時 期 近世

2号溝 (造構図18)

位 置 A・B - 6グリッド

検出状況 弓なりに湾曲するが、主軸をN - 47° - Eにとり現状長さ約4.3m、幅0.15~0.45m、深さ約0.05mを測る。覆土は黒褐色粘質土を基調とし、溝底部には微量の砂粒子が確認された。

出土遺物 図化されなかったが、上師器小片が出土した。

切合関係 北側は搅乱を受け、西側は調査区外となる。

時 期 古墳時代か

3号溝 (造構図18)

位 置 D ~ G - 6グリッド

検出状況 造構中央部は部分的に搅乱を受けているが、主軸をN - 82° - Wにとり、長さ約12m、幅0.5~0.7m、深さ0.1~0.35mを測り、西側へ緩やかな傾斜が見られる。覆土は黒褐色土を基調とし、溝底部には微量の砂粒子の堆積が確認された。また西側の溝内からは棟瓦片が多く検出された。

出土遺物 図化されなかったが、棟瓦片が出土。

切合関係 13号溝の上面に位置する。上水桶2号との切合関係は不明。

時 期 近代

6号溝 (造構図19)

位 置 C - 10・11グリッド

検出状況 主軸をN - 12° - Eにとり、現状長さ約2.1m、幅0.22~0.45m、深さ0.05~0.08mを測り、南側へ緩やかに傾斜する。覆土は軟質の黒色粘土を基調とする。

出土遺物 なし

切合関係 両側は地中梁により確認不能。

時 期 不明

7号溝 (遺構図19/遺物図38)

位 置 B・C・1グリッド

検出状況 N - 78° - Wに主軸をとり、長さ4.2m、幅0.55~0.7m、深さ0.15~0.2mを測る。覆土は黒褐色土を基調とし、溝底部に砂粒子等の堆積が少量確認された。また径5~30cmの礫と、近世の遺物が出土した。

出土遺物 17世紀から19世紀前半にかけての遺物が検出された。陶器(116)は唐津焼の向付鉢である。磁器(55)は肥前系の染付碗である。銅製品(56)は獅子を模した打ち出し金具である。温石(57)は砂岩製である。

切合関係 7号溝との接続部は未確認ではあるが、9号溝と同時期に存在した。

時 期 近世

8号溝 (遺構図20)

位 置 D・E・1グリッド

検出状況 N - 86° - Wに主軸をとり、長さ2.5m、幅0.4~0.5m、深さ0.15~0.2mを測る。覆土は軟質の黒色粘質土を基調とする。

出土遺物 小片のため図化は行なわなかったが、近世の遺物が検出された。

切合関係 7・10号溝の接続部は搅乱を受けているが、同時期に存在した関連遺構である。

時 期 近世

9号溝 (遺構図19/遺物図38)

位 置 C・D・1~3グリッド

検出状況 N - 14° - Eに主軸をとり、溝北側は東方へ曲がる。不明瞭な部分もみられるが、総延長さ8.8m、幅0.25~0.7m、深さ0.05~0.11mを測る。覆土は黒褐色粘質土を基調とし、溝底部に砂礫等の堆積が確認された。

出土遺物 (52)は熔融である。赤絵磁器蓋(53)は19世紀代の遺物である。

切合関係 7号溝と同時期に存在した。

時 期 近世

10号溝 (遺構図20/遺物図38)

位 置 E - 1~3グリッド

検出状況 N - 10° - Eに主軸をとり、長さ8.8m、幅0.55~1m、深さ約0.1mを測る。覆土は黒色土を基調とし、溝底部に砂礫等の堆積が少量と径約5cmの礫がやや多く検出された。また、近世の遺物が出土している。

出土遺物 陶器(58)は、瀬戸産の徳利片である。肥前系磁器(59)は、18世紀代の遺物である。他小片のため図化は行なわなかったが、瓦小片が検出されている。

切合関係 8号溝と同時期に存在したものと考えられる。

時 期 近世

11号溝 (遺構図19)

位 置 H - 2・3グリッド

検出状況 N - 7° - Eに主軸をとり、長さ0.55m、幅0.25~0.3m、深さ約0.13mを測る。覆土は暗褐色粘質土である。

出土遺物 なし

切合関係 北側の上水5号との切合関係は不明。

時 期 不明

12号溝 (遺構図19)

位 置 H - 2 + 3 グリッド

検出状況 N - 13° - E に主軸をとり、長さ 1m、幅 0.35m、深さ約 0.25m を測る。覆土は黒灰色粘質土を基調とし、溝底部に砂粒子等の堆積が微量確認された。

出土遺物 なし

切合関係 11号土坑との接続関係は不明。北側部分の溝の延長は確認されなかった。

時 期 不明

13号溝 (遺構図21/遺物図38・39)

位 置 F - G - 4 ~ 8 グリッド

検出状況 N - 10° - E に主軸をとり、長さ約 17m、幅 3 ~ 3.3m、深さ 0.5 ~ 0.65m を測り、南側へ流下する溝である。覆土は黒色粘質土を基調とし、溝底部には部分的に 10cm 前後の礫と砂礫の堆積がみられ、かわらけ、陶器、磁器、古錢、瓦、漆椀、下駄などが検出された。また北側では獸骨が確認されている。

出土遺物 溝内には、16世紀中葉から17世紀初頭にかけての遺物がみられ、特に溝底部からは中世段階の遺物が多く出土した。かわらけ (60~64) は、いずれも底部に回転糸切りがみられる。陶器 (65) は瀬戸美濃系の折縁皿である。擂鉢 (66~67) は同じく瀬戸美濃系であり、16世紀中葉の製品である。陶器 (68) は、香炉に使用されたものと考えられる。(70・71) は平瓦。漆椀 (72) は黒漆に朱漆で椀側面 2ヶ所に模様が描かれている。椀 (73) は、高台内に朱漆で線が引かれている。木製品は下駄 (74)、厚さ 0.25cm の薄板 (75) が出土した。

切合関係 3・14号溝に切られる。溝上面に上水 6 号が位置する。

時 期 16世紀中葉から17世紀初頭

14号溝 (遺構図18/遺物図39)

位 置 E - G - 7 グリッド

検出状況 遺構中央部は搅乱を受けているが、主軸を N - 82° - W にとり、東側長さ約 1.8m、幅 0.45 ~ 0.5m、深さ約 0.2m を測る。西側は長さ約 2.2m、幅 0.45 ~ 0.5m、深さ約 0.2m を測る。黒色粘土を基調とし、溝底部の砂粒子の堆積が確認された。

出土遺物 肥前系磁器椀 (76) が 1 点出土したのみである。

切合関係 13号溝の上面に位置する。

時 期 近代か

第 5 節 土坑

1号土坑 (遺構図22/遺物図39・40)

位 置 C - 6 グリッド

検出状況 方形プランを呈し掘り方上面は南北 1.23m、東西 0.8m、底部は南北 1m、東西 0.6m、深さ 0.3m を測る。上坑の四隅には 3 ~ 4 cm 角の杭が打ち込まれ、厚さ約 1cm の板材が四方の壁面を囲っていた。遺構内には黒褐色粘土が堆積し、

近代の遺物と礫が多量に検出された。

出土遺物 出上遺物はいずれも近代のものである。土製品(77・78)は、表面に雲母状のものが塗布されたミニチュア製品である。土製品(79)は七輪の質子である。灯明皿(80・81)、灯明受皿(82~84)、土鍋(85)・鉢(86・87)はいずれも瀬戸産である。青磁鉢(88)、方形小皿(89)、金属製品(90)は用途不明である。瓦(91~94)はいずれも軒桟瓦である。瓦(95)の側面には径0.7cmの丸い刻印がみられる。折(96)は外寸5.8cm四方、高さ4cmあり、底板と組まれた4枚の側板が木釘により取り付けられている。内寸は5.2cm、深さ3cmである。木製品(97)は曲げ物底板、(98・99)は桶の底板である。

切合関係 上水4号が一部上面に位置する。

時期 近代(明治期)

2号土坑 (遺構図23/遺物図40~42)

位置 C・D - 4・5グリッド

検出状況 上面に上水3号が位置し上部遺構による擾乱を受けていたためプランは不明瞭である。現状不整形プランを呈し南北約3m、東西3.5m、深さ0.15~0.3mを測る。遺構内には黒褐色粘土が堆積し、径5~10cmの礫と陶器・瓦等の19世紀から20世紀前半にかけての遺物が多数検出された。

出土遺物 土製品(100~104)の中で、(101)は七輪又は火鉢であり、(103・104)はミニチュア製品である。(105・107)は土瓶である。馬の目皿(106)は19世紀代の瀬戸産である。行平蓋(108)、植木鉢(109)、急須持手(110)、徳利頸部(111)、灯明受皿(112)、土瓶蓋(113・114)、土瓶身(123)、徳利頸部(115)、土鍋(128)である。磁器(116~122・124~127・129~131)は18世紀後半から20世紀前半の遺物である。鉢(125)は明治期のコバルト染付である。石製品(132~134)の内、(132)の表面に「水」の文字が刻まれている。(133)は用途不明である。(134)は硯である。金属製品は、リング状製品(135)と寛永通寶(136)が出土地した。瓦は出土したものの一部(137~141)を掲載した。(137~139)は軒桟瓦である。軒桟瓦(138)と平瓦(141)の側面には刻印がみられる。木製品(142~146)は(142)以外は桶の底板と側板である。(147)は柵であり、遺構覆土中から出土した。

切合関係 上水3号、埋桶3号が上面に位置する。

時期 近代(明治期)

3号土坑 (遺構図23/遺物図42)

位置 B・C - 4グリッド

検出状況 円形プランを呈し径1.15m、深さ0.2mを測る。覆土は粘質の暗褐色土を基調とする。

出土遺物 角材(148)の側面にはホゾ穴がある。小片のため図化は行なわなかったが、瓦の小片が検出された。

切合関係 なし

時期 近世か

4号土坑 (遺構図25/遺物図42)

位 置 B・C-6・7グリッド

検出状況 隅丸方形プランを呈し、南北2m、東西方向に関しては、5号土坑東側まで遺構が拡がっているものと考えると約5.2mを測る。深さは0.1mと浅いが、一部分径0.75m、深さ0.3mの落ち込みがみられる。覆土は軟質の灰色粘質土である。

出土遺物 木製品が多数検出された。(149)は表面に「地内 人■■」、裏面に鳥が焼印されている。桶材(150・152)には同一の囲みに「三」と焼印がみられる。

(151)の桶材には判読不能であるが焼印がみられる。(153)は骨製の歯ブラシである。

切合関係 5号土坑との切合い関係は不明。同一遺構か。

時 期 近代

5号土坑 (遺構図25/遺物図43)

位 置 C-6グリッド

検出状況 隅丸方形プランを呈し、南北1.1m、東西1.5m、深さ0.1mを測る。遺構内部には4号土坑と同質の軟質の粘土が堆積し、木製品が乱雜に多数検出された。遺構の北西隅には梢円形状の東西0.4m、幅0.25m、深さ0.5mピットが検出された。このピット内には腐食した木材が確認されたことから杭の痕跡と考えられる。

出土遺物 染付坏(154)、瀬戸産の鉄釉がかかった灯明皿(155)など近代の遺物が出土した。また桶側板(156)、桶底板(158~159)などの木製品も多数出土した。(160)は刷毛の持ち手と考えられる。

切合関係 4号土坑との切合い関係は不明。同一遺構か。

時 期 近代

6号土坑 (遺構図26)

位 置 B-7グリッド

検出状況 円形プランを呈し径1.3~1.5m、深さ0.2mを測る。遺構底部北側には径0.5m、深さ0.1mの窪みがある。また中央部には径0.05~0.15m、深さ約0.1mのピットが5基みられた。覆土は黒色粘質土を基調とする。

出土遺物 小片のため固化は行なわなかったが、高坏脚部など土師器片が出土した。

切合関係 ピット5基は同一遺構である。

時 期 古墳時代

7号土坑 (遺構図26)

位 置 B-7・8グリッド

検出状況 梢円形プランを呈し長径約2m、短径1.35m、深さ0.1~0.25mを測る。遺構北側には径約0.5m、深さ0.45mのピットが位置する。また中央部には径0.15m、深さ約0.1mのピットが1基検出された。覆土は黒褐色土を基調とする。

出土遺物 なし

切合関係 北側のピットとの切合い関係は不明。中央部のピットは同一遺構である。

時 期 古墳時代か

8号土坑	(遺構図26/遺物図43)
位 置	D - 6 グリッド
検出状況	方形プランを呈し南北約1m、東西0.9m、深さ約0.2mを測る。遺構内の覆土はやや軟質の黒色粘質土を基調とし、近代の遺物が少量検出された。
出土遺物	わずか3点が出土したのみである。(161)は染付の磁器皿である。(162)は丸瓦。(163)は木製の櫛である。
切合関係	なし
時 期	近代
9号土坑	(遺構図26/遺物図43)
位 置	C・D - 7 グリッド
検出状況	方形プランを呈し1.3m四方、深さ約0.15mを測る。遺構内の覆土はやや軟質の暗褐色土であった。
出土遺物	わずか1点が出土したのみである。染付磁器(164)は、19世紀前期から後期の瀬戸・美濃産である。
切合関係	上水3号との切合い関係は不明である。
時 期	近世～近代
10号土坑	(遺構図26)
位 置	D - 7 グリッド
検出状況	円形プランを呈し径0.65～0.7m、深さ0.25mを測る。遺構内の覆土はやや軟質の暗褐色土である。
出土遺物	なし
切合関係	なし
時 期	不明
11号土坑	(遺構図27/遺物図43)
位 置	F～H - 1・2 グリッド
検出状況	遺構南側は一部掘削ができなかったが、方形プランを呈し東西7.6～8.0m、南北5.3～5.5m、深さ0.7～0.9mを測る。各壁面ほぼ垂直であり、厚さ約1cmの側板と、径10cmの杭が約0.3m間隔でほぼ垂直に打ち込まれて並ぶ。北東側は隅切りがなされ、杭の裏側には握り拳大の礫が充填されていた。また遺構中央部では杭10本が遺構内に打ち込まれていた。遺構内の覆土はやや軟質の暗褐色土粘土である。なお南壁西側部分は遺構外のため未確認である。
出土遺物	遺物の出土量は極めて少ない。(165)は大型の甕の口縁部である。磁器製土瓶(165)。ガラス製品は2点(167・168)であり、(168)はニッキ水の瓶である。(169)は棟瓦である。
切合関係	11・12号溝、上水5号との接続関係は不明。
時 期	近代
12号土坑	(遺構図26/遺物図44)
位 置	E・F - 1 グリッド
検出状況	遺構南側は未確認ではあるが、現状方形プランを呈し東西0.9m、南北1.3m、深さ0.35mを測る。各壁面はやや斜めに立ち上がり、北側には厚さ約1cmの

出土遺物	側板が確認された。覆土の灰色粘土層内からは大量の木片が検出された。 (170) は大型の甕の口縁部である。白磁碗 (171)、染付磁器 (172) は近代の遺物である。(173) は軒棧瓦である。また木片が大量に検出されたが、腐食が著しいものが多数であったため、図化は行なわなかった。
切合関係	なし
時 期	近代
14号土坑	(遺構図24/遺物図44)
位 置	C - 4 グリッド
検出状況	円形プランを呈し、直径2.4~2.6m、深さ0.2~0.4mを測る。北東側は一部約0.6m突出する。覆土は炭化物を含む暗褐色粘質土を基調とし、拳大の礫、瓦・陶磁器・金属製品を含む18世紀代の遺物が大量に検出された。
出土遺物	遺物は遺構上面から底部までほぼ遺構全体から検出された。種類としては上器、陶器、古錢、瓦、土製品などであるが、特に瓦の出土量が顕著であるが、いずれも小片である。焰烙 (176)、かわらけ (177・178)、十能 (179) は在地産の製品と考えられる。(180~184) は陶器であり、擂鉢 (183・184) は信楽系の製品である。(185~193) は、18世紀代の肥前系磁器である。古錢 (194~196) は銅製の寛永通寶の一文錢である。(197) は角釘である。瓦は出土したものの一部分 (198~207) を掲載した。いずれも本瓦葺きの瓦である。軒丸瓦 (198~200)、穿孔がある平瓦 (201)、丸瓦 (202~205) は外面にヘラ整形がみられる。平瓦 (206・207) は表面のみヘラ整形がある。(208) は土製人形である。その他遺構底部からが獸骨が2点検出されている。
切合関係	杭列1号ピット3に切られる。
時 期	18世紀後半~19世紀前半

第6節 集石

調査区内3地点において、明確な掘り込み等がなく大小様々な自然石及び割り石が検出された。

集石1号	(遺構図7)
位 置	G - 9 グリッド
検出状況	調査区北側の5メートルに位置し、周辺には拳大の礫が散乱し、南東側において径1.8mほどの範囲に礫の集中が確認された。掘り込み等は明確ではなく、下層は軟質の粘土層となる。
出土遺物	瓦小片が検出された。
切合関係	なし
時 期	近世~近代

集石2号	(遺構図7/遺物図46)
位 置	G・H - 6 グリッド
検出状況	2号建物跡の東側に位置し、東西2メートル、南北約2.5メートルの範囲に広がる。径5~20cmの礫が暗褐色粘質土の上面に雜然と集中する。掘り方の深さは0.3メートルを測る。集石内からは、近世から近代の遺物が検出された。
出土遺物	集石内からはインク瓶(209)と寛永通寶(210・211)2点と瓦片少量が

出土した。

切合関係 なし
時期 近世～近代

集石 3号 (遺構図7)

位 置 E～G・5・6グリッド

検出状況 2号建物跡範囲内に位置し、東西6.5m、南北約5mの範囲に広がる。石は径5～30cmが多数を占めるが、径50～70cmの大型のものも10点以上確認された。大型の石は安山岩であり、加工等の痕跡は確認されてはいない。特にE・F・5グリッド東西約2m、南北約1.5mの範囲に集中するが、庭園等の石組みの痕跡はなく雑然と集中する。さらに東側の地点にも散乱し、13号溝が位置する上層に礫が多くみられる。

出土遺物 集石内からは、瓦片・呉器手碗など近世の遺物と上面からは近代の遺物が検出された。

切合関係 2号建物跡に切られる。

時期 近世～近代か

第7節 埋桶・埋箱

埋桶 1号 (遺構図28/遺物図46)

位 置 E・6グリッド

検出状況 掘り方は円形プラン径0.57m、深さ0.28mを測る。桶は掘り方底部より12cm上がった部分から検出された。桶は円形で径42cm、厚さ2.5cmを測り、5枚に分割される。側板上部は欠損しているが、幅13～14cm、長さ18～25cmの部材が10本確認された。桶内には灰褐色粘質土が堆積し、長径10cmの自然石が1点が出土した。また掘り方の上面部分からは、棧瓦が多数出土した。

出土遺物 桶部材の一部を図化した。(212)は桶底板である。側板(213～215)の内(213)に関しては、底部部分に径3cmの穿孔がみられる。

切合関係 なし

時期 近代

埋桶 2号 (遺構図28/遺物図46)

位 置 B・4グリッド

検出状況 桶底板直上面まで搅乱を受けていたため、掘り方は確認できなかった。桶は円形で径52cm、厚さ2.7cmを測り、3枚の板に分割される。側板の痕跡は確認されてはいない。桶上面の覆土は軟質の灰褐色粘土である。

出土遺物 底板(216)が1点検出されたのみである。

切合関係 なし

時期 近代か

埋桶 3号 (遺構図28/遺物図46)

位 置 D・4グリッド

検出状況 搅乱を受け側板は位置が移動した状態で検出された。掘り方は不明であり桶のみが出土した。桶底板は径32cm、厚さ2cmを測る。側板は幅5～10cm、長

出土遺物	底板 (217)、側板 (218) の側面に焼印がみられる。
切合関係	2号土坑との切合関係は不明である。上水3号の延長線上に位置する。
時 期	近代
埋桶 4号	(遺構図28/遺物図36)
位 置	D-6グリッド
検出状況	上水桶2号に隣接して確認された。掘り方は円形プラン径0.55~0.65m、深さ0.15mを測る。桶は掘り方底部より6cm上がった部分から検出された。桶は円形で径43cm、厚さ3cmを測り、3枚に分割される。側板上部は欠損しているが、幅約10cm、残存長さ約20cmの部材10本が確認された。桶内には灰褐色粘質土が堆積していた。
出土遺物	底板 (33) を図化した。側板に関しては10本検出されたが、腐食が著しいため図化は行なわなかった。
切合関係	上水桶2号と同質の擾土であり、同時期に存在していた可能性が考えられる。
時 期	近代
埋桶 5号	(遺構図28)
位 置	D-6グリッド
検出状況	掘り方は円形プラン径0.32~0.38m、深さ0.05mを測る。桶底板はなく、上部が欠損した幅5~8cm、長さ約10cmの側板が約10本検出された。桶内の擾土はやや硬質の灰色粘土である。
出土遺物	側板が検出されたが腐食が著しいため未図化である。
切合関係	2号建物跡ピット22との切合関係は不明である。
時 期	近代
埋箱 1号	(遺構図28/遺物図47)
位 置	G-3グリッド
検出状況	掘り方は方形プランを呈し、長軸0.55m、短軸径0.45m、深さ0.17mを測る。箱は底板がなく長さ38cm、高さ20.5cm、厚さ1.6cmの側板と、長さ22.5cm、13.5cm、厚さ1.35cmの板が各隅3箇所ずつ角釘により固定されている。箱内の擾土は暗褐色粘質土であり、棟瓦片が多数検出された。
出土遺物	棟瓦片と瀬戸産の磁器碗 (219) が出土した。
切合関係	なし
時 期	近世~近代
第8節 杭列	
杭列 1号	(遺構図29/遺物図47)
位 置	B~D-4グリッド
検出状況	N-83°-W方向に軸線をとり、全長さ7.7mに、約1.8m、2.2m間隔に杭を伴うピットが5基一直線に並ぶ。西側ピット3基(ピット1~3)は、円形至り楕円形を呈し、長軸0.55~0.75m、短軸0.45~0.6m、深さ約0.1mを測る。3基には径8~10cmの丸太材が2~3本打ち込まれ、周辺には拳大の礫

や瓦が充填された状態で検出された。14号土坑上面に位置するピット4の掘り方は不明であるが、径8cm前後の杭が3本確認されている。東端のピット5の掘り方は搅乱により消滅していたが、径5~8cmの丸太が3本打ち込まれている。

出土遺物 杭列の掘り方内からは、肥前系磁器（220~222）と、平瓦（223）が出土した。

切合関係 ピット4は14号土坑の上面に位置する。

時期 近世

杭列2号 (造構図19)

位置 C-4グリッド

検出状況 N-7°-Eに軸線をとり、全長約1.5m、南側より0.6m、0.45m、0.45m間隔に4基のピットが一直線に並ぶ。南側のピット1は、長軸0.32m、短軸0.2mを測り、中央部に径8cmの杭の痕跡である。ピット2は、径0.2mの円形プランのピットに約5cmの杭の痕跡が3本みられる。ピット3は、径0.17m、ピット4は径0.13mを測り、径6cmの杭の痕跡がみられる。

出土遺物 なし

切合関係 1号井戸が隣接する。

時期 近世か

杭列3号 (造構図29)

位置 E-2~4グリッド

検出状況 N-7°-Eに軸線をとり、全長8.1m、南側より1.5m、1.2m、1.5m、0.6m、1.8m、1.7m間隔で7基のピットが一直線に並ぶ。その中でピット1・3・7の3基から角材の杭が検出された。

杭列南側のピット1は、長軸径0.34m、短軸0.23m、深さ0.16mを測る。中央部には径約7cmの杭が伴う。ピット2は、長軸径0.38m、短軸0.33m、深さ約0.16mを測る。中央部には径約7cmの杭が2本と約5cm角の部材が2本伴う。ピット3は、長軸径0.32m、短軸0.25m、深さ約0.1mを測る。中央部には径約8cm、確認長さ25cmの杭が1本と約5cm角の部材が1本伴う。ピット4は、長軸径0.37m、短軸0.32m、深さ約0.12mを測る。中央部には一辺6cmの角材が1本伴う。ピット5は、梢円形プランを呈し長軸0.35m、短軸0.28、深さ約0.05mを測る。一辺4~5cmの角材が2本確認された。ピット6は、円形プランを呈し径0.34m、深さ約0.15mを測る。このピットに関しては、杭は未確認である。ピット7は、長軸径0.36m、短軸0.34m、深さ約0.08mを測る。中央部には一辺5cm、長さ18cmの角材が1本伴う。

またこの杭列周辺には隣接して5基のピットがみられ、その中で3基のピットには径6~8cmの円形の杭がみられる。

出土遺物 なし

切合関係 なし

時期 近世か

杭列4号 (造構図29)

位置 G-3~5グリッド

検出状況 N - 9° - E に軸線をとり、全長7.4mを測り、南側より1.8m、1.8m、1.9m、1.1m、0.8m間隔で6基のビットが一直線に並ぶ。

南側のビット1は、長軸径0.32m、短軸0.3m、深さ0.16mを測る。中央部は径約12cm、確認の長さ20cmの丸太杭が伴う。ビット2は、長軸径0.36m、短軸0.32m、深さ約0.1mを測る。中央部には径約12cm、残存長さ20cmの杭が1本みられる。ビット3は、長軸径0.4m、短軸0.28m、深さ約0.22mを測る。中央部には径約14cm、確認長さ40cmの杭が1本伴う。ビット4は、長軸径0.3m、短軸0.27m、深さ0.14mを測る。中央部に径14cm、確認長さ10cmの丸太材が1本伴う。ビット5は楕円形を呈し、長軸0.5m、短軸0.34m、深さ0.26mを測り、一辺8cm前後の角材が2本打ち込まれている。ビット5は、長軸0.38m、短軸0.3m、深さ0.2mを測る。径8cm、確認長さ24cmの丸太が1本確認された。またビット6の北側には、長軸0.28m、短軸0.2mのビットがあり、一辺6cmの角材が打ち込まれていた。

出土遺物 なし

切合関係 2号井戸が隣接する。

時期 近世か

第9節 建物跡

1号建物跡（遺構図29）

位置 B - 4・5グリッド

検出状況 西側は調査区外であるため遺構は未検出ではあるが、現状N - 83° - W方向に軸線をとり、東西3.2~3.3m、幅0.8~0.9mを測り、8基のビットにより構成された掘立柱建物跡である。北側のビット列は西側から、ビット1は径0.38m、深さ0.25m。ビット2は径0.4~0.5m、深さ0.22m。ビット3は径0.34~0.48m、深さ2.8m。ビット4は径0.5~0.54m、深さ0.25mである。

南側のビット列は西側より、ビット5は径残存0.22~0.75m、深さ0.18m。ビット6は径0.3~0.38m、深さ0.1m。ビット7は径0.28~0.46m、深さ0.12m。ビット8は径0.44m、深さ0.24mである。ビット1・3・4及び5・7・8の間隔は各1.6~1.7mを測り、ビット7以外は深さ0.2m前後である。ビット2・6に関しては、ビット3・7に接している。各ビットの上面は径3~4cm前後の自然石により覆われ、ビット内の覆土は暗褐色粘質土である。

出土遺物 なし

切合関係 埋桶2号が東側0.2m地点に接する。

時期 近世か

2号建物跡（遺構図30）

位置 C~G - 4~8グリッド

検出状況 調査区中央部南北13m、東西17mの範囲内において、搅乱等により部分に欠損がみられるがビット及び杭跡が92基と集中して確認された。各ビットは円形又は楕円形のプランを呈し、径0.3~0.6mのビット内には径8~15cmの杭が1~3本打ち込まれた状態で確認されている。中には角柱のものもみられるが、このビットについては径0.3m前後と小規模である。ビット又は杭により構成された列は、明確なものでは、主軸を南北方向N - 7° - Eにとる4本

2号建物跡 ピット一覧表 (1)

(単位:cm)

ピット番号	位置	平面プラン	長軸	短軸	深さ	杭	杭形状	杭径	備考
1	C-8	円	50	-	-	3	丸太	10~12	
2	C-7	円	50	-	-	1	丸太	14	
3	C-7	横円	50	43	-	2	丸太	12	
4	C-6	横円	40	26	50	1	丸太か	不明	5号土坑との切合い関係は不明
5	C-6	横円	46	40	-	2	丸太	10~14	
6	C-5~6	横円	59	48	-	3	丸太	10	
7	C-5	円	34	-	-	1	丸太	8	
8	C-5	不整	30	20	-	1	丸太	7	
9	C-5~6	横円	43	32	-	1	丸太	12	
10	C-6	円	34	30	-	1	丸太	8	
11	C-5~6	円	40	27	-	1	丸太	4~10	
12	C-6	円	40	-	-	-	-	-	
13	C-7	横円	50	42	-	2	丸太	12	
14	C-8	横円	40	34	-	2	丸太	10~13	
15	C-8	円形	50	-	-	3	丸太	7~8~12	
16	D-8	横円形	60	50	-	3	丸太	11~12	
17	D-7	横円	76	50	20	3	丸太	5~10	
18	D-7	横円	40	34	-	2	角・丸太	4~10	
19	D-7	横円	42	38	-	2	丸太	10~12	
20	D-7	横円	49	45	-	2	丸太	11~13	
21	D-6	横円	65	42	-	1	丸太	13	ピット22を切る。
22	D-6	横円	39	32	20	-	-	-	埋構5号の轟り方。ピット21に切られる。
23	D-6	横円	55	44	-	2	丸太	8~10	
24	D-5~6	不整	92	74	-	4	丸太	8~10~12	
25	D-5	横円	86	62	-	4	丸太	8~10~12	
26	D-5	横円	82	63	-	1	丸太	5	径32cmの轟1点
27	D-5	不整	68	50	23	1	丸太	4	
28	D-7	横円	48	36	-	1	丸太	12	
29	D-7	横円	48	38	-	2	丸太	10	
30	D-7	横円	54	43	-	2	丸太	13	
31	D-7	円	28	-	-	1	角	5	
32	E-8	不明	-	-	-	1	丸太	12	
33	E-8	不明	-	-	-	2	丸太	13~15	
34	E-7	横円	50	34	-	2	丸太	13~15	
35	E-7	横円	44	33	13	-	-	-	
36	D-E-6	横円	67	40	-	2	丸太	13~16	
37	D-5~6	横円	75	58	-	2	丸太	12~15	
38	D-5	不明	-	-	-	1	丸太	16	
39	E-5	横円	70	57	12	1か	丸太痕跡	-	
40	E-5	円	36	-	18	1か	丸太痕跡	-	
41	E-6	円	43	41	27	-	-	-	
42	E-7	横円	72	59	10	1か	丸太痕跡	-	
43	E-7	横円	60	47	49	1	丸太	15	
44	E-8	不明	-	-	-	1	丸太	17	
45	E-7	円	33	-	-	1	角	4	
46	E-7	横円	33	30	10	-	-	-	

2号建物跡 ピット一覧表（2）

47	E-7	不整	52	42	10	-	-	底部に長さ40cmの石1点ピット48との切合は不明
48	E-7	楕円	44	38	50	1か	丸太痕跡	ピット47・49との切合は不明
49	E-7	楕円	46	39	20	-	-	底部に長さ27cmの石1点ピット48との切合は不明。
50	E・F-8	不明	-	-	-	2	丸太	13~14
51	E・F-7	楕円	50	46	-	2	丸太	10・12
52	E-7	不整	43	42	-	-	礫多数	ピット53との切合は不明
53	F-7	円	40	-	10	-	-	ピット52との切合は不明
54	E・F-6・7	円	50	-	-	2	丸太	12・15
55	E-7	楕円	60	52	-	3	丸太	10
56	F-5	円	64	-	-	-	礫多数	-
57	F-5	楕円	38	34	15	-	-	-
58	F-6	円	40	-	-	1	丸太	9
59	F-7	楕円	60	52	13	-	-	-
60	F-7	楕円	55	48	-	2	角・丸太	6・15
61	F-7	円	38	35	-	1	丸太	7
62	F-7	円	26	-	10	-	-	-
63	F-7	楕円	32	27	-	1	丸太	11
64	F-7	円	30	-	15	-	-	-
65	F-7	円	46	-	-	-	礫少量	ピット66を切る。
66	F-7	楕円	48	30	15	-	礫少量	ピット67に切られる。
67	F-8	不明	-	-	-	1	丸太	13
68	F-8	楕円	64	41	-	3	丸太	10・13・14
69	F-7	円	58	-	10	2	丸太	8・12
70	F-7	円	58	-	-	4	角・丸太	3・6・11
71	F-7	楕円	60	48	-	2	丸太	11
72	F-7	楕円	58	53	-	2	丸太	11
73	F-6	円	55	-	-	2	丸太	10・16
74	F-6	楕円	66	54	-	3	丸太	10 礫多数
75	F・G-5	楕円	73	56	30	1	丸太	8
76	F・G-5	不整	124	90	30	2	丸太	10
77	G-6	楕円	28	25	-	1	角	5
78	G-6	楕円	38	32	-	-	-	-
79	G-6	円	70	-	-	-	-	-
80	G-7	楕円	48	38	-	2	丸太	12
81	G-8	不明	-	-	-	1	丸太	12
82	G-8	不明	-	-	-	1	丸太	12
83	G-7	楕円	50	46	6	-	-	-
84	G-7	楕円	40	36	-	1	角	4
85	G-7	円	23	20	-	1	角	3
86	G-7	円	54	-	22	-	-	-
87	G-5	円	65	60	18	-	-	-
88	G-5	楕円	41	31	20	1	角	3
89	G-5・6	円	27	26	-	1	角	6
90	G-5	楕円	36	30	-	1	角	6
91	G-4	円	60	54	-	3	丸太	9~10
92	E-4	楕円	56	46	10	-	-	-

と、東西方向N - 83° - W方向に軸線をとる1本が検出された。

調査区西側からCグリッドラインの杭列は、ピット1～7の南北方向は10.8mを測り、北側より2.6m、0.9m、1.8m、1.8m、1.8m、1.8m間隔でピット及び杭が確認された。

Dグリッドラインの杭列に関しては、ピット16～26まで南北方向約12mを測る。北側のピット16から1.8m、0.9m、0.9m、0.9m、0.9m、1.9m、1.9m、1.4m、1.4m間隔で9基が並ぶ。

Eグリッドライン周辺10mの区間は、南北方向の列はみあたらない。Fグリッドラインでは、ピット67～74まで南北方向約10.5mを測る。北側のピット67から1.4m、1.4m、1.4m、0.9m、0.9m、0.9m間隔を測るが、ピット73と74の区間は3.6mと広い間隔となる。

Gグリッドのラインでは、北側のピット81～87まで南北方向12.5mを測る。北側ピット81より0.9m、1.6m、0.9m、0.3m、2.8m、5.8mの間隔がみられる。

東西方向の杭及びピット列に関しては、明確な列はDからGの3グリッドラインのみである。ピット26～87まで13.4mを測る。西側のピット26から2.8m、1.8m、4.5m、4.5mを測る。

出土遺物 多くのピット内から瓦片が出土した。

切合関係 この範囲内の上水3号、土坑、埋桶等との切合い関係は不明である。

時 期 近代か

第10節 出土遺物

調査区からは、遺物保管箱に換算して50箱ほどの、古墳時代、中世、近世、近代の遺物が出土した。特に近世と近代の遺物が顕著であり、特に6グリッドラインより南側から多く出土した。これは搅乱の影響が少なかったことにもよるものと考えられる。

その中でも、近世の遺物は2号土坑周辺のD・C-4・5グリッドと、1号井戸周辺のB～C-1～3グリッドに集中して出土した。また近代の遺物は9グリッドの上水1号周辺、上坑・上水が集中するC～E-4～6グリッド、11号土坑周辺のF～H-1～3グリッドなど3地点に特に集中して検出された。

A-1グリッド（遺物図47）

調査区南西隅に位置する。遺物は1号溝より上面の東壁のセクション内から検出された。土製火鉢（224）は口縁部にススの付着がみられる。段重蓋（225）、瀬戸産の鉢（226）、段重（227）、染付小皿（228）はいずれも19世紀前半以降の遺物である。透明ガラス瓶（229）は、ワインボトルと考えられる。

A・B-3グリッド（遺物図47）

遺構がほとんどみられなかつた地点である。19世紀の瀬戸・美濃産の灯明皿（230）、側面に印刻がある瓦（231）である。

B-4・5グリッド（遺物図47）

1号建物跡及び埋桶2号周辺である。くらわんか茶碗（232）は、18世紀後半から19世紀前半の肥前系磁器である。（233）は蓋物であり、19世紀代の瀬戸産である。石製品（234）は、表面に「三合」と刻まれている。

B - 7・8グリッド（遺物図47）

4号土坑北側であり、近世・近代の遺構は確認されなかつた地域である。大型土製甌口縁部（235）、おはじき又は基石の代用品（236）の2点を掲載した。いずれも近世から近代にかけての遺物である。

A - 9グリッド（遺物図47）

卜水1号が位置する1区内から出土した。染付磁器碗蓋（237）、土鍋蓋（238）、徳利（239）の3点は19世紀後半の瀬戸産である。

B - 9・10グリッド（遺物図48）

A区の北西側2区からは、ガラス製栓（240）、曲げ物底部（241）が出土した。

A・B - 11グリッド（遺物図48）

△区の北西隅の7区である。段重（242）が1点確認された。

C - 1・2グリッド（遺物図49）

調査区南側7号溝及び1号井戸周辺である。この両遺構周辺から近世の遺物が多数出土した。特に1号井戸南側に集中してみられた。遺物の多くは18世紀後半から19世紀代の近世後半のものであり、行平、端反碗、皿など日用品が多く出土した。

行平（243～246）は土製であり、鉄釉が施されている。徳利（247）。灯明皿（248）・灯明受皿（249・250）・秉燭（251）は瀬戸・美濃産である。碗（252）は全面に貫入がみられる。端反碗（253～266）は、18世紀後半から19世紀にかけての遺物である。肥前系の他瀬戸産の磁器もみられる。鉢（267）は蓮状の口縁である。八角鉢（268）、鉢（269）、大型碗（270）は肥前系磁器である。徳利（271）の外面は瑠璃釉である。蛸唐草皿（272・274）は、18世紀後半から19世紀前半にかけての肥前系磁器である。染付皿（273）は焼継ぎの痕跡がみられる。仏飯器（275）は19世紀代の肥前系磁器である。（276）の瓦は軒桟瓦である。

C - 2・3グリッド（遺物図49）

1号井戸北側であり、井戸南側より遺物の出土量は少ない。灯明受皿（277）は瀬戸・美濃産である。17世紀前半の志野焼き鉢（278）や焼継ぎの痕跡がある青磁器（279）は、嗜好品として使用されたことも考えられる。磁器（280）は18世紀後半のくわわんか碗である。

C - 4・5グリッド（遺物図49）

2号土坑など近世から近代にかけての遺構が多数みられた区域である。出土した遺物の一部分を掲載したが、（281）は19世紀後半の小壺である。（282）は平瓦。（283・284）は軒桟瓦である。

C - 6グリッド（遺物図49・50）

5号土坑など近代の遺構がみられた区域である、4・5号土坑からは多数の近代の木製品が出土した。その他一括遺物としては、近世初頭から近代までの遺物がみられる。焙烙（285）は近世の遺物である。丸皿（286）は16世紀末から17世紀初頭の志野呂焼でである。（287～289）は19世紀代の磁器である。染付小壺（290）は近代の磁器である。

染付皿(291)は、19世紀代のオランダ製品である。

B-10・11グリッド（遺物図50）

上水1号の北側に位置し、6号溝が確認された区域である。瀬戸・美濃産の灯明受皿(292・293)。碗(294・295)及び八角鉢(296)は近世後期の製品である。

D-1・2グリッド（遺物図50・51）

調査区南端の9号及び10号溝の間である。西側の7号溝及び1号井戸周辺と同じく、近世の遺物が多数出土した。焙烙(297)、かわらけ(298・299)は土器製品である。甕(300)は19世紀代の瀬戸産である。(301～303)は碗の蓋であり、(301・303)の2点には焼継ぎの痕跡がある。碗(304)にも焼継ぎがみられ、高台内に焼継ぎの文字がみられる。肥前産の磁器碗(305)は18世紀後半、碗(306)は18世紀後半から19世紀前半の遺物である。蛸唐草皿(307)は、18世紀前半の7寸皿である。小皿(308)は肥前系磁器であり、18世紀後半から19世紀前半の製品である。寛永通寶(309・310)は、銅錢である。平瓦(311・312)の側面には、武田菱の刻印がみられる。

D-3グリッド（遺物図51）

D-2グリッドの北側に続き9号及び10号溝の間である。遺物はD-1・2グリッドと時期的にも変わらず、近世後期の遺物が主体である。磁器製品(313～315)の3点を掲載したが、他にも瓦等の小片が多く出土した。

D-4・5グリッド（遺物図51）

D-3グリッドの北側に位置するが、9・10号溝は確認されではない。北側には2号土坑及び上水3号があり、近代の遺物が多く検出された。染付碗(316)は焼継ぎの痕跡がある。(317)の蓋は赤絵である。碁石(318)は、粘板岩製である。

E-1グリッド（遺物図51）

調査区南端10号溝の東側に位置する。遺物は10号溝の西側と比較し極端に少なくなる。内面蛇の目釉剥ぎの皿(319)は、17世紀後半から18世紀前半の遺物である。

E-3グリッド（遺物図51）

10号溝の北端と杭列3号が位置する。遺物の出土は少ないが、杭列3号の西側から多く出土する傾向にある。焙烙(320・321)の2点は重なって出土した。また少量ではあるが瓦が出土し、軒丸瓦(322)、軒平瓦(323)を掲載した。

E-7グリッド（遺物図51）

遺構は14号溝と杭を伴うピットが検出されたが、遺物は少ない。変形小皿(324)は肥前系磁器であり、18世紀前半の遺物である。

E-9グリッド（遺物図51）

上水1号3区からは、18世紀後半から19世紀後半の遺物が出土したが、特に上水1号周辺から近代の遺物が多く確認された。急須(325)は近代の染付である。碗蓋(326)は19世紀代、仏飯器(327)は18世紀後半の遺物である。鉄製品(328)は用途不明である。

F-2・3グリッド（遺物図52）

杭列3号の東側、11号土坑の北側に位置する。杭列3号西側と比較し、遺物は極端に少ない傾向にある。行平（329）は19世紀代の遺物である。香炉（330）は東西トレンド内から出土した。表面に黒色の付着物があり16世紀代の遺物である。碗（331）は陶器である。

G-9・10グリッド（遺物図52）

調査区北側5区に位置する。駐車場コンクリート基礎に囲まれた範囲である。地表下1mまで搅乱を受けていた。堆積土は軟質の灰褐色粘土質上を基調とし、丸太杭、角材、径5～10cmの礫などが確認されたが、造構として捉えることはできなかった。出土遺物は19世紀代の行平蓋（332）、瀬戸産の陶器（333）、漆椀（334）は、内面が朱で外面が黒漆である。鉄製品（335）は用途不明である。

H-1・2グリッド（遺物図52）

調査区南東隅部であり、11号土坑、11・12号溝が位置する。出土遺物（336～341）である。陶器皿（336）は近代の遺物である。（337）は鉢物の蓋、（338）は碗の蓋である。大皿（339）は19世紀代の肥前系磁器である。球状の木製品（340）は用途不明である。

F-3グリッド（遺物図52）

調査区南東部、11号土坑北側に位置する。遺物の出土量は極めて少なく、19世紀代の碗蓋（342）、近代染付碗蓋（343）など近世後期から近代の遺物が検出された。

A区一括遺物（遺物図52・53）

調査区内廐土及び搅乱層からは、出土地点は特定できないが多数の遺物が検出されている。特に調査区南側の駐車場コンクリート基礎除去時に確認されたものが多い。内耳土器（344）はスヌの痕跡がある。近世の遺物として（344～347・349・350・352～355・357・358・361・363・364・365）である。この中で呉器手鏡（349）、刷毛目茶碗（354）は17世紀末から18世紀前期の遺物である。他は18世紀後半から19世紀にかけての製品である。19世紀後半以降の近代の製品は（351・356・359・360）である。（369）は乳白色のガラス製品である。

第11節 古墳時代

古墳時代の造構・遺物は、A区西側のA～E-1～11グリッドの範囲から確認されている。調査区西側のBグリッドラインでは、近世・近代の確認面と同一の地山層標高266.3～266.4mから、古墳時代の造構と考えられる6・7号土坑、2号溝が確認された。

調査区中央から南側にかけての近世・近代造構面下層約0.5m地点からは、東側へ傾斜する南北方向に延びる古墳時代の遺物包含層の落ち込みが確認された。この落ち込みの堆積層は黒色粘土を基調とし、部分的に砂礫粒子の堆積がみられ、花粉分析の結果などから自然流路に伴う湿地であったものと推定される。堆積層内からは土師器・須恵器などの遺物が確認され、特にC-D-4・5グリッド及びB-C-7グリッド周辺に集中して出土した。

出土遺物は検出地点が明確なものだけでも土師器588点、須恵器50点の合計638点である。その他一括遺物を換算すると合計1000点以上となる。台付甕など古墳前期から古墳後期までの遺物がみられる。特に古墳中期以降の遺物が多い傾向にある。中には赤彩が施

された坏・高坏が検出されている。

(1) 土坑・溝（遺構図18・26）

B-7・8グリッドに位置する6・7号土坑と2号溝がこの時期の遺構である。遺構確認面は、標高266・3mの黄褐色粘質土の地山層に掘り込まれた状態で確認された。覆土は3遺構とも同質の黒褐色粘質土であり、特に6号土坑内から高坏脚部など土師器が検出された。この3遺構の機能等については現段階では不明であるが、西側の調査区外に関連する遺構が存在する可能性が考えられる。

(2) 古墳時代遺物包含層（遺構図31・32／遺物図54～58）

B～D-1-11グリッドの範囲に東側へかけて南北方向に延びる緩やかな落ち込みが確認された。黒褐色粘質土と砂層が交互に堆積する土層内から遺物は多く出土し、特にD-5グリッド、及びD・C-7グリッド周辺に集中がみられる。

調査区南側のC・D-2・3グリッド範囲は、部分的に遺物の集中もみられるが、全体的に土師器が散漫とした状態で検出されている。出土地点が明確なものとして、高坏（386）、壺・甕（407・410）である。高坏（421）には赤彩がみられる。その他グリッド一括遺物として壺・甕（396・397・400・404）など小片が検出された。

C・D-4・5グリッド周辺は、南北4.6m、幅2.4mの範囲に遺物が特に集中して遺物が検出された。標高約265.5mの黒色粘土と砂が交互に堆積する層内か土師器、須恵器が点数に換算して200点以上確認されている。図面に掲載したものとして坏（375・376・378・379・382）、壺・甕（402・403）、甌（416・417・418）、須恵器（422・425・426・427・428・429・430・431）である。いずれも古墳時代中期から後期にかけての遺物である。またグリッド一括遺物として坏（372～374）、長胴壺（395）、壺（412）が出土している。

C・D-7グリッド周辺は、1.2m、0.8mの範囲に遺物が集中した。標高約366.0mの砂層内か土師器が50点以上確認されている。図面に掲載したものとして坏（381）、台付壺脚部（389・390）、甕（392）、丸底鉢（419）、須恵器坏身（424）である。いずれも古墳時代前期から後期と幅広い時期の遺物がみられた。特に丸底鉢（419）の内外面には赤彩の痕跡がみられる。またグリッド一括遺物として甕・壺（393・406）が検出されている。

B・C-7・8グリッド周辺は、標高266.6～266.2mの黒色粘質土層内から検出された。出土地点が明確な遺物として坏（383）、壺・甕（394・408・409）である。また高坏（384）は坏（383）に接して出土した。いずれも古墳時代中期から後期の遺物である。甕（394）の外面には赤色塗彩がみられる。またこの周辺のグリッド一括遺物として坏（377）、甕（393・406・411）が出土した。

北側のB・C-9～11地点においてはまばらに出土したが、B-11グリッド地点からは木片に伴い土師器（414）と須恵器の小片の集中して出土した。出土地点が明確な遺物として坏（370・377）、甕（388）、須恵器坏蓋（423）をあげておく。いずれも古墳時代中期から後期の遺物であり、坏（370）の内外面には赤彩がみられる。またグリッド一括遺物として赤彩が施された坏（371）、甕（405・415）がこの一帯から出土した。

第4章 B区の遺構と遺物

B区の調査は狹隘な範囲の中で行なわれ、3箇所のトレンチを設けて掘削を行なった。各トレンチの表土は標高266.8～267.0mであり、地山層は標高266.0～266.6m地点に位置する。検出された遺構は、敷石状遺構、石積裏込め、溝1条、ピット9基である。石積裏込めは、殿中町小路と屋敷地の地境にあたるが、近代の遺構と考えられる。下層の溝は石積み設置に伴う溝と考えられる。

出土遺物は、遺物保管箱（縦60cm、横40cm、深さ15cm）に換算して3箱分が出た。トレンチ1・2から主に出土したが、近世の遺物は極めて少なく、主に近代の陶磁器類と瓦である。トレンチ3からの遺物は確認されなかった。

トレンチ1（遺構図33/遺物図59）

位 置 T・U-7・8グリッド

検出状況 東西3.1m、南北2.2mのトレンチである。地山層まで掘削が行なわれ、深さは東側で約1m、西側で0.6mである。検出遺構はピットが6基、敷石状遺構、石積裏込め部分である。

石積裏込めは、殿中町小路沿いの境界の石積に伴う遺構である。上面からは長方形の長さ35～60cm、厚さ約15cmの安山岩製の石材が5基確認された。この石敷周辺からは赤褐色の焼土が多く検出された。また覆土内からは径5～20cmの礫が多数確認された。

溝はN-7°-Eに軸線をとり確認長さ2.1m、幅0.35～0.4m、深さ0.2mである。溝内には径4～15cmの礫多数と近世・近代の瓦、陶磁器が出土した。

敷石状遺構は近代の堆積層内から検出され南北1.2m、東西1mの幅で部分的に広がる。石材は径10～25cmの自然石が平坦面を形成している。

ピット6基は地山層に掘り込まれた状態で検出された。西隅のピット1は、径0.4m、深さ0.1mである。ピット2は径0.44m、深さ0.2m、底部には長さ25cmの扁平な自然石が設置されていた。ピット3は径0.26m、深さ0.35m。ピット4は径0.24m、深さ0.36m。ピット5は径0.3m、深さ0.18m、ピット6は径0.34m、深さ0.44mである。ピット2～6の切合関係は不明であるが、この5基の覆土はやや軟質の暗褐色土である。

出土遺物 遺物の出土量は多く、主に近代の遺物である。甕（432）と甕底部（433）は同一個体と考えられる。茶碗（434）、壺（435）、皿（438）は型紙摺りの染付である。染付皿（436）、お神酒徳利（440）、以上5点は19世紀後半から20世紀前半にかけて近代の遺物である。瀬戸製染付け便器（440）は上面の焼土層内より出土した。また石積裏込め部分の最下層の溝から出土した、肥前系の染付小皿（437）、瀬戸製のお神酒徳利（439）の2点は、18世紀後半から19世紀代の遺物である。

切合関係 ピットの切合関係は不明。

時期 石積裏込め部分及び石敷状遺構は近代。溝は近世後期から近代。ピットは時期不明である。

トレンチ2（遺構図33/遺物図59）

位 置 S-7・8グリッド

検出状況	東西2.2m、南北1.3mのトレンチである。深さ0.7mの地山層まで掘削が行なわれ、表土直下から敷石状造構とピットが3基確認された。
	敷石状造構は、表土下0.15mほどと浅く、昭和20年の甲府空襲に伴う焼土層の直下から検出された。石材は安山岩製であり、長さ25cm・48cm・66cm、幅約20cm、厚さ0.15cm前後である。上面は平坦面をもち、石積み裏込め部分である。
	ピット3基は地山層に掘り込まれた状態で検出された。西隅のピット1は径0.26m、深さ0.2mである。ピット2は径0.3m、深さ0.3mである。ピット3は径0.3m、深さ0.26mを測り、覆土は軟質の暗褐色土である。
出土遺物	近代の遺物が多数検出された。土製品(442)は近代の焜炉であり、全面ススの付着がみられる。
切合関係	ピット2・3の切合い関係は不明。
時期	石敷状造構は昭和20年の甲府空襲により廃絶した。ピットに関しては近世まで遡る可能性もある。

トレンチ3 (造構図33)

位置	T-2・3グリッド
検出状況	東西2.4m、南北1.3~1.6mのトレンチである。地山層まで掘削が行なわれ、深さ1.3mを測る。擾乱を受けた部分が多く、トレンチ東側から石敷きと石積み裏込め部分が検出された。
	敷石状造構は、地表下0.2mのセメント基礎下層から確認された。石材は安山岩製であり、長さ75cm・45cm・66cm、厚さ0.15cmを測る。
	石積み裏込め部分は、幅20cm四方、検出部分において奥行き約20cmの四角角錐状の石材が、幅15~20cm間隔で5基確認された。その石材周辺からは径10cm以内の礫が多数確認された。
出土遺物	なし
切合関係	なし
時期	敷石状造構及び石積み裏込めは、近代の造構と考えられる。

第5章 まとめ

今回の甲府城下町遺跡の調査地点では、古墳時代、中世16世紀代、近世18世紀後半から幕末、近代と大別すると4時期の遺構・遺物が確認され、甲府城下町遺跡の古代から現代までの二千年近くの歴史環境の変化と中世末から明治期までの都市甲府の変遷の様子を物語る貴重な発見であった。

A区の遺構としては、水路7条（石積1条、木樋2条、竹樋4条）と汲水施設の上水桶2基の甲府上水関係の遺構、掘り抜き井戸2基、溝12条、土坑13基、埋桶5基、杭列4条、建物跡2棟が確認された。また明確な遺構ではないが集石部分が3箇所、建物の基礎部分にあたる杭及びピットが多数確認されている。さらに近世・近代の遺構面下からは古墳時代の遺物包含層が確認され、古墳時代前期から後期にかけての遺物が検出されているが、特に中期から後期にかけての土師器・須恵器が多数みられる。

B区に関しては、狭隘な範囲であり掘削面積は16m²であったが、調査区東側のオリオン通りと平行する間知石による石積みと、石積み基底部の溝が検出された。この遺構は近世から現代までの通りの境界である。

調査により検出された遺構は近世甲府城下町の都市としての整備の様子が窺える貴重な発見であり、特に数条の溝と杭列は上地の区割りの変遷と土地利用の状況を示す遺構である。また甲府上水の関連遺構は近世から近代までの甲府上水の様子が窺える発見であり、近世城下町遺跡の研究の一助となるものと考えられる。さらに調査区で確認された中世段階の溝は、江戸時代以前の甲府を窺う数少ないデータであり、一条小山に一蓮寺が位置し門前町が形成されていた可能性を示す発見であるとともに、16世紀末の中世から近世城下町への移行の一端が窺える。これらのことと踏まえ古代から現代までの調査区の変遷と、甲府上水他一部の遺構について考察を行う。

第1節 調査区の変遷

（1）古代

古墳時代の遺構は△区西側から検出されている。6・7号土坑、2号溝、さらに南北方向の△区中央部の落ち込みが該当する。土坑及び溝の覆土はほぼ同質の黒褐色粘質土であるが、南北方向の落ち込み部分については黒色粘質土と砂層が交互に堆積した後背湿地などにみられる堆積層である。

遺物は検出地点が明確なものだけでも土師器588点、須恵器50点であり、台付甕など古墳時代前期から後期までの遺物がみられる。特に古墳時代中期から後期の遺物が多い。これらの遺物は南北方向の落ち込みの西側にのみ出土する傾向があり、C・D-4～6グリッド、及びC・D-7グリッド周辺から特に集中して出土した。遺物の中には赤彩の高壊、壊などの遺物もみられる。

調査区周辺では、南西側250m地点（図2-43地点）から古墳時代を中心とする弥生木から平安時代にかけての遺構・遺物が確認され、さらに他数地点からも検出されている。花粉分析の結果などから、調査区西側は丘陵地となり落葉広葉樹が茂り集落が形成されていたものと考えられる。また検出された遺物が集中する落ち込みは、丘陵斜面から河畔の湿地と考えられ、サワグルミ等の湿地林であったものと推察される。出土した遺物は、河川等に破棄された可能性が考えられる。

(2) 平安～鎌倉期

この時期の遺構・遺物は確認されてはいないが、花粉分析の結果から落葉広葉樹の生育地は急激に狭まる一方、常緑広葉樹が分布を広げた。また調査区の河畔林・湿地林が広がりをみせたとされる。

(3) 中世（16世紀中葉から17世紀初頭）

16世紀段階の遺構は、A区東側で検出された13号溝1本のみである。この溝は幅3～3.3m、深さ0.5～0.65mと規模も大きく、現在の区画ラインとほぼ同軸線のN 10°・Eをとる直線の溝である。蛇行等がみられないことから人為的に掘削された可能性があり、溝底部に砂礫等の堆積がみられ、當時水流があったものと推察される。出土遺物から16世紀中葉から17世紀初頭にかけて機能し、生活用品などが出土したことから周囲には町屋等、集落が存在していた可能性を示す。

16世紀段階は一条小山の南側に一蓮寺が位置していたことが指摘されていることから、一蓮寺に関連する門前町を形成する溝の一部とも考えられる。また近世の溝等の遺構とほぼ同一軸線上であり、近世の甲府城下町の町割りは、中世段階の街路の軸線を継承して城下町が形成されたことも推察される。

このような16世紀代の溝が、近世城下町遺跡の中でも（図2-1・2・15・21・42・53）など数地点で確認されている。特に（図2-42地点）の溝は、13号溝と規模が類似し、軸線が現状の地割りとほぼ同一軸線をとるとともに、出土遺物は16世紀後半と類似性がある。また出土遺物の下限が16世紀末から17世紀初頭であることから、近世城下町を整備する段階で中世段階の溝が埋め立てられ、中世段階の軸線を基に新たに近世城下町としての地割がなされた可能性がある。

(4) 近世

甲府城下町の形成は、16世紀末から豊臣系大名である加藤光泰、浅野長政、幸長により、甲府城造営とともにはじまる。慶長五年（1600）関が原合戦後、浅野氏は和歌山へ転封となり、以後17世紀代は徳川義直・忠長・綱重など徳川一門が甲斐を治めることとなる。18世紀前半の宝永元年（1704）～享保9年（1724）は、柳沢氏が武藏国川越より15万石で入国し、吉保・吉里の二代にわたり甲斐国一国を領有した時代である。その後享保9年（1724）に柳沢氏は大和郡山へ転封となり、幕末まで徳川幕府の甲府勤番支配の時代となる。

【17世紀代】

17世紀初期の城下町形成期の繩張りが基本となり、調査区北側は内堀外側の小路、南側は武家屋敷地となる。この両者の境界については、幕末まではほとんど変化はなかったものと推測される。この境界部分については、近世の絵図等と対比させた結果、東西方向の杭列1号が境界の位置に合致する遺構である。調査においてもこの杭列を境として、南側から近世の遺構・遺物が集中して検出されている。調査区内における17世紀代の遺構は未確認であるが、遺物に関しては17世紀前半から後半にかけての陶磁器が少量確認されている。この時期の居住者及び屋敷の区画については記録がほとんどないことから不明であるが、追手門に最も近接する屋敷地であることから一定身分以上の家臣屋敷が位置していた可能性が考えられる。

【18世紀前期】（図10、図11、資料1）

宝永元年（1704）～享保9年（1724）は、柳沢氏吉保・吉重の二代にわたり甲斐国一国を領有した時代である。柳沢家は入国の翌宝永2年（1705）に甲府城の改修についての願いを幕府に提出し、甲府城の石垣等の改修工事や、楽屋曲輪・屋形曲輪の殿舎の建設が行なわれている。武家屋敷の様相については、「裏見寒話」に「甲州の長臣柳沢權太夫・同市正・酒井忠志・川口石見・鈴木上門・松平多治見・柳沢帶刀・同矢柄・平岡政盛等の屋敷善美を尽くせり」と記述されるほど豪華な屋敷であったことが窺える。特に今回の調査区西側の追手小路沿いには、「裏見寒話」に記述がある重臣の屋敷が建ち並んでいた。調査区は1000石の城代である柳沢隼人の屋敷がおかれ、追手小路に面して長屋門が設けられていた。

この柳沢氏が領有していた時期は20年間と短期間ではあったが、絵図等によると3時期の区画割がみられる（図10）。変遷の過程・順序等については、今後の検討が必要ではあるが、（図10-②）は柳沢隼人の記載がある。（図10-③）には酒井・的場、柳沢隼人。

（図10-④）は柳沢隼人、酒井重次郎の記載がみられる。酒井氏については400石取りの酒井外記又は1300石の酒井内膳と考えられる。的場氏は450石取りの的場甚太夫・忠太夫の名前がある。柳沢隼人は1000石取りの城代である。この18世紀前半の遺物は少量確認されてはいるが、遺構に関しては不明である。

【18世紀 享保9年（1724）以降から19世紀後半】

柳沢氏が大和郡山へ転封となり、幕末まで甲府勤番支配の時代となる。柳沢時代に築かれた城内の施設と調査区周辺の武家屋敷は、享保12年（1727）12月の大火により多くは焼失したものと考えられる。調査区における柳沢期の柳沢隼人の屋敷地は分割され、元文3年（1738）の絵図には1名の勤番士の記載がみられるのみである。19世紀に入ると天保14年（1843）、調査区西側に勤番士子弟の教育機関である徳典館が置かれ、他の屋敷地は細分化する。

享保9年から幕末までの遺構として、1・7～10号溝、1号井戸、杭列1号、埋箱1号、1号建物跡などが遺物から窺える。また2号井戸及び杭列2～4号、2号土坑、上水6号に關しても、近世の遺構の可能性が考えられる。いずれの遺構も調査区南側に多くみられ、特に杭列1号を境界として南側に集中する傾向が強い。古絵図と現在の地図を対比検討すると、ほぼ杭列1号付近が屋敷地と追手東側の通りの境界であり、杭列は土塀又は柵列の可能性が考えられる。

① 18世紀 享保9年（1724）以降から19世紀前半（図10-⑤）

柳沢氏が転封後の元文3年（1738）の絵図には、調査区東側B区一帯に伊勢氏の記載があるのみで、他は空地である。この伊勢氏は追手組400石の「伊勢久四郎・主馬助」の名前がある。

享保9年から19世紀前半までの遺構は出土遺物から推察すると、調査区南側の1号井戸、14号土坑が該当する。

② 19世紀前半～天保14年（1843）（図10-⑥）

区画の変遷を見ると、B区地点は東西方向に長い屋敷の区画となり、北東隅に伊藤、南東隅に跡部の名前がある。伊藤氏は勤番土400俵取りの「伊藤新兵衛・長十郎」である。この屋敷地は殿中町小路に面し、屋敷西側の境界は杭列4号ライン付近であることが、絵図の比較検討から推察された。この周辺からは19世紀後半以降の遺物が多く出土する傾

向にある。

③ 天保14年（1843）から幕末（図10、図11－資料2）

天保14年（1843）、調査区西側一帯に甲府勤番士の子弟の学問所である徽典館が設置される。また他の屋敷地は細分化され、19世紀中葉以降の絵図では、2時期の居住者の変遷がみられる。嘉永2年（1847）の懐宝甲府絵図では、調査区西側に徽典館があり、B区の殿中町小路側に位置する伊藤氏の屋敷は縮小し、徽典館と伊藤氏の屋敷の間に「辻」の名前がある。辻氏に関する記録では、勝手小普請500石の「辻富次郎」又は勝手世話・小普請の「辻半五郎」の記録があるが、居住者の特定については検討を要する。

嘉永2年以降の改訂版の懐宝甲府絵図では、辻氏の記載は消え、東側の「イトウ」の記載部分は「松平」となる。また南側の屋敷についても、名前の記載がみられない部分も多い。松平氏については、650石の「松平所在衛門」の名前がある。

19世紀代の造構として、調査区南側の南北方向の1・9・10号溝、東西方向の7・8号溝が窺える。これらの溝は現在の区画の軸線とほぼ平行又は直行し、幅0.6m前後、深さ0.1～0.2mとほぼ同規模であり、出土遺物から19世紀後半まで存続していたことが窺える。この溝の機能については古絵図・地図及び発掘調査事例の詳細な検討が必要となるが、常時流水の痕跡が窺われないこと、街路と平行又は直行することなどから推測して、屋敷境の溝であると考えられる。また10号溝東側の杭列3号については塀又は柵列に関連する造構の可能性を考えられる。

（近代）

明治時代に入ると、追手小路は錦町通りと名称変更する。この錦町通りには県庁、会議所、裁判所、師範学校、県病院、勧業製糸場など擬洋風建築の藤村式建築が並ぶ官庁街となる。明治初年に調査区南側の徽典館と武家屋敷地には東西方向に現在の紅梅町南通りが開削され、山田町まで一直線の通りとなる。また内堀沿いの東西の通りは道幅が縮小され、紅梅町北通りとなる。明治8年（1875）には西は錦町の通り、北と南の紅梅通りに囲まれたこの一帯は、紅梅町と改称する。また調査区A区は戦前まで裁判所長官舎が置かれ、B区は商店街となる。

この明治時代以降の造構としては、甲府上水関連として上水1～5・7号の6条、上水桶1・2号、溝（3・11・12・14号）の4条、土坑（1・2・4・5・8・11・12号）の7基、埋桶5基、2号建物跡である。近世段階の造構は4グリッドラインから南側に集中してみられたが、近代の造構はA区中央部の4グリッドラインより北側に集中して検出された。

（昭和20年以降）

昭和20年7月6日から7日にかけて甲府はB29による空襲に遭い、市街地の約70パーセントが焼失するという被害を受ける。調査区一帯も南側で発生した火災により罹災し、調査区周辺では、鉄筋コンクリートの建物と上蔵等数棟が被害を逃れたが、多くの家屋は焼失した。調査区においてA区の南側標高266.6m地点、B区の各トレンチの標高266.8m地点において確認された厚さ10cm前後の焼土層が、空襲に伴う堆積層である。

戦になるとA区は県営駐車場となり、またB区はオリオン通り沿いの商店街として甲府市中心市街地の商店街として賑わうが、今回の紅梅地区市街地再開発事業に伴い、平成19年には営業を休止し開発が行なわれることとなった。

第2節 遺構について

(1) 1号建物跡

屋敷境と考えられる杭列1号の北側に杭列と平行して検出された、東西3.2m、幅0.9mの8基のピットにより構成された掘立建物跡である。遺構の西側は調査区外であるため未検出ではあるが、18世紀前半の甲府城下町絵図（図11－資料1）に「桁行二十間梁間三間」の記載があり東西36m、幅5.4mの細長い構築物が描かれている。検出された遺構は一部分であり絵図の記載とは隔たりがあるが、絵図と遺構の検出位置を対比させると1号建物跡は絵図に描かれている部分に該当する。

19世紀中葉の懐宝甲府絵図には「コシカケ」と記述がある。この腰掛は武士の従者者が門外で控える場所であり、18世紀前半の甲府城下町絵図には柳御門外側にも同一の構築物が描かれている。上部構造などは不明であるが甲府城下町の一部の絵図には、柳御門の外側に瓦葺きと考えられる細長い建物が描かれているものもある。

(2) 2号建物跡

東西17m、南北13mの範囲に、杭が伴うピットが100基近く確認された。昭和16年の甲府市街地図（図12－資料6）には、△区2号建物跡が検出された部分に裁判所長官舎が描かれている。検出されたピットと必ずしも対応関係が確認されない部分もあり、裁判所長官舎の前段階の建物基礎部分と混在している可能性が推察される。またこの建物範囲には上水3・4号、上水桶2号、土坑（1・4・5・8・9号）、埋桶（1・4・5号）が建物西側に集中していることから、この近辺に台所等の水場の施設があったものと考えられる。但し検出された上水遺構は大正2年の近代上水道が整備される以前の施設であり、2号建物跡に付随する施設かどうかは今後検討が必要である。

(3) 甲府上水遺構

甲府上水は伝承によると、文禄年間（1592～1596）の甲府城下町が造られた時期に浅野氏により整備されたと云われ、全国的にも古い上水道施設である。甲府上水のルートとして相川取入れ口から取水して一部分は百石町を南流し百石町の武家屋敷に給水し、さらに旧青沼町（現在の県立図書館北側）で2筋に分岐する。郭内には箱樋を使用し二の堀を渡り、調査区で確認された山田町堰と南側の現在国道140号線（城東通り）の南辺を通る八日町堰の2筋が武家屋敷に水を供給し、さらに2筋の堰は二の堀を渡り、三の堀内の町人地へ水を供給していた。

調査区には18世紀前半の甲府城下町絵図（図11－資料3）に追手門前を東西方向に通る細い筋が描かれている。また延享4年（1747）の上水図（図11－資料4）では、より具体的に構造・寸法など詳細に描かれている。山田町堰の追手前に關しては「此橋形少小川新左衛門様御屋敷き己■箱樋石蓋」と記載があり、追手前の山田町堰は箱樋であり石蓋が架かる暗渠構造であったことが窺える。一方八日町堰の追手小路の渡る部分は「石はし」、「石垣」と記載があり、八日町堰は開渠であり石垣造りであったことが窺える。また山田町堰の構形については「此橋形三尺四方深サ三尺二寸」と描かれているが、木製か石製かは不明である。

検出遺構について検証すると北側の上水1号は、古絵図に位置が描かれた甲府上水の山田町堰である。現在の地籍図（図12－資料7）にも調査区A区の北側を斜めに横切る赤道があり、近世から大正2年まで流路の位置は変化しなかったものと考えられる。遺構は搅乱が著しく掘り方の底部のみが確認されたが、明治期の山田町堰は間知石により構築さ

れていたことが確認された。

上水2号は、山田町堰である上水1号から分岐し、上水桶1号への呼樋の役割を果した近代の造構であり、江戸期の構造が引き続き使用されていたことがわかる。江戸時代の文献（図11－資料4）にみられるように、山田町堰の分岐部分には枠形が存在したものと考えられるが、今回の調査では確認されてはいない。

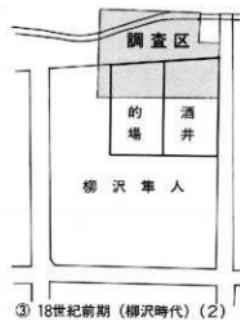
丸太を木樋として使用した上水3号は、北側の山田町堰から分水された木樋であり、上水4号との接続部分は不明であるが、上水4号を呼樋として上水桶2号へ流下したものと考えられる。いずれも近代の造構である。

上水5・7号は調査区外の東側から給水されたものと推測されるが、取水元は山田町堰であったものと推測される。また上水7号は部分的ではあるが、西側の延長線上に3号溝及び上水桶2号が位置することから、この2造構との接続関係が推測される。

上水6号に関しては部分的に木樋が出上したが、山田町堰の上水1号から分水したものと推測され、覆土には近代の遺物の混入が確認されないことから近世段階の木樋の可能性が考えられる。検出地点は追手小路と殿中町小路の中間地点を南北に通ることから、19世紀前半期の武家屋敷区画（図10－⑥）の伊藤、跡部氏の屋敷の西側境界部分に通っていた上水の可能性が考えられる。



② 18世紀前期（柳沢時代）(1)



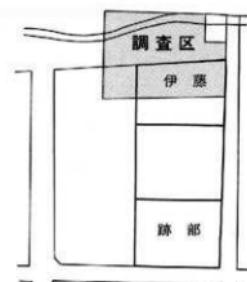
③ 18世紀前期（柳沢時代）(2)



④ 18世紀前期（柳沢時代）(3)



⑤ 18世紀(元文三年(1738)) 絵図



⑥ 19世紀前半一天保14年（1843）



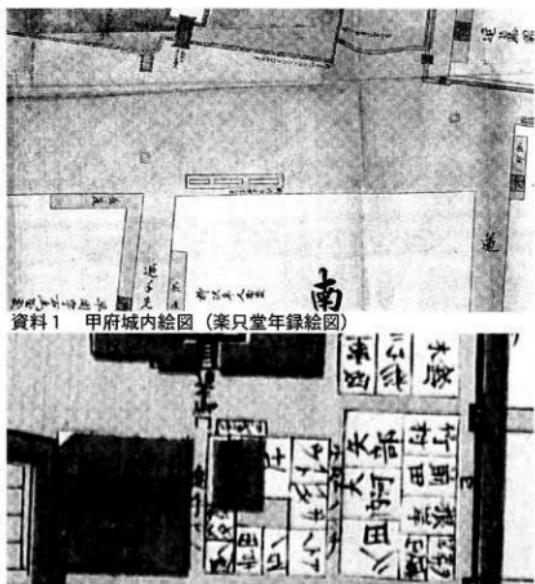
⑦ 19世紀中期（嘉永2年（1847））



⑧ 19世紀〔嘉永2年(1847)以降～幕末〕
図10 調査区変遷図



⑨ 明治 9 年 (1875)



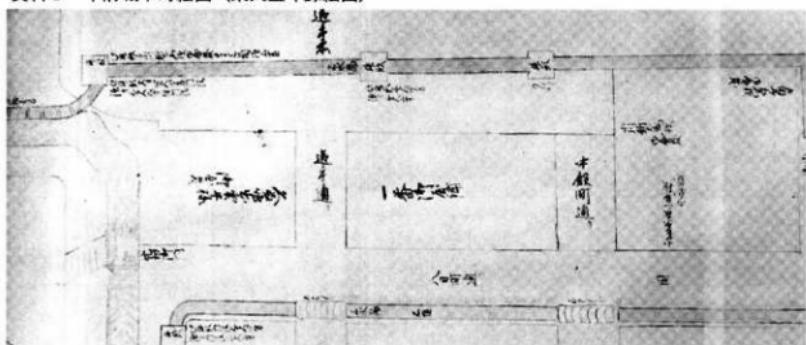
資料1 甲府城内絵図(楽只堂年録絵図)



資料5 守貞謹稿(部分)
(岩波文庫 近世風俗志(一)より転載)



資料3 甲府城下町絵図(楽只堂年録絵図)

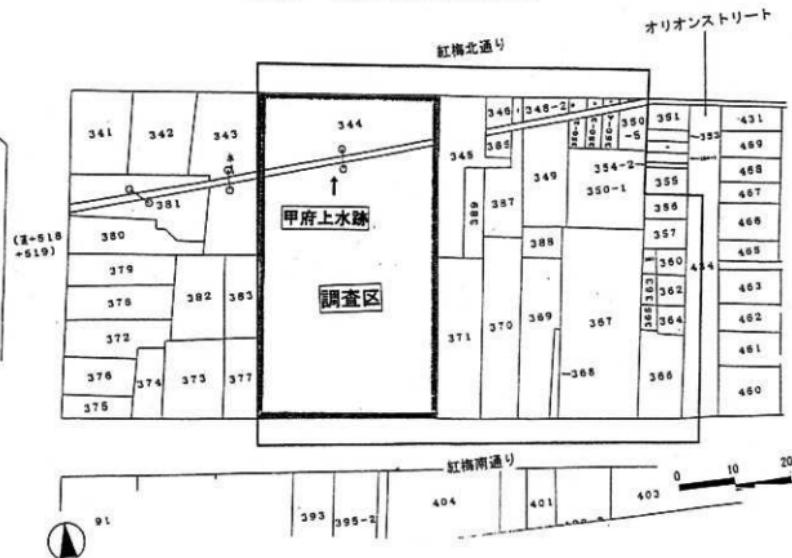


資料4 延享の上水図

図11 調査区近世関係図



資料6 甲府市街地図（昭和16年）



【参考・引用文献】

1. 『甲斐国志』松平定能 1814
2. 『裏見寒話』野川成方 1752
3. 『甲斐遁手振』宮本定正 1850
4. 『江戸時代の甲府上水』露木寛 1966
5. 『甲府略志』甲府市役所 1918
6. 『甲府市水道史』甲府市水道局水道史編纂委員会 1988
7. 『甲府市遺跡地図』甲府市教育委員会 1992
8. 『甲府市史 通史編第二巻 近世』甲府市市史編さん委員会 1992
9. 『甲府市史 通史編第三巻 近代』甲府市市史編さん委員会 1990
10. 『甲府市史 史料編第二巻 近世Ⅰ』甲府市市史編さん委員会 1987
11. 『史跡武田氏館跡Ⅲ』甲府市教育委員会 1998
12. 『史跡武田氏館跡Ⅳ』甲府市教育委員会 1999
13. 『甲府城下町遺跡Ⅰ』甲府市教育委員会他 2001
14. 『甲府城下町遺跡Ⅱ』甲府市教育委員会 2002
15. 『甲府城下町遺跡Ⅲ』甲府市教育委員会 2006
16. 『甲府城下町遺跡Ⅳ』甲府市教育委員会 2007
17. 『甲府市内遺跡Ⅳ』甲府市教育委員会 2007
18. 『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第215集 山梨県2004
19. 『県指定史跡 甲府城跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第222集 山梨県2005
20. 『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第249集 山梨県2007
21. 『甲府城下町遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第258集 山梨県2009
22. 『山梨県史 史料編8 近世Ⅰ』山梨県1998
23. 『山梨県史 資料編2 原始・古代2』山梨県1999
24. 『瀬戸市史 陶磁史篇 四』瀬戸市史編纂委員会 1993
25. 『瀬戸市史 陶磁史篇 六』瀬戸市史編纂委員会 1998
26. 『江戸時代の瀬戸窯』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 2002
27. 『江戸時代の瀬戸・美濃窯』財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2005
28. 『江戸時代のやきもの』財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2006
29. 『定本山梨県の城』郷土出版社 1991
30. 『山梨県の地名 日本歴史地名大系19』平凡社 1995
31. 『近世風俗志(→守貞謹稿)』岩波文庫 1996
32. 『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会 2000
33. 『図説 江戸考古学研究事典』江戸遺跡研究会 2001
34. 『ガラス瓶の考古学』桜井準也 2006

付編 科学分析

第1節 放射性炭素年代測定

バレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤 茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷 紫・小林紘一
Zaur Lomtadidze・Incza Jorjoliani・孔 智賢

1. はじめに

甲府城下町遺跡（紅梅地区再開発地点）より採取された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

試料の調製は廣田、瀬谷、Lomtadidze、Jorjoliani、測定は小林、丹生、伊藤が行い、本文は伊藤、孔が作成した。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。いずれも文化層から出土した生材である。PLD-10471は、樹皮付きの丸木（長さ4.7cm、径2.4cm）で、花粉分析試料18が採取された層から検出された。PLD-10472は、A区中央部の暗灰黒褐色粘土層から検出された丸木（長さ42cm、長径約6cm、短径約4cm）である。旧河川の堆積層と推定されるこの粘土層から、遺物は検出していないが、20cm上層から古墳時代中期以降の土器等が出土された。

試料は調製後、加速器質量分析計（バレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、曆年代を算出した。

表1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-10471	位置：文化層 層位：花粉試料18採取層	試料の種類：生材（約5年輪分、丸木） 試料の性状：最外年輪 状態：wet	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1N、塩酸：1.2N）
PLD-10472	位置：A区中央部の暗灰黒褐色粘土層 その他：標高265m地点	試料の種類：生材（約5年輪分、丸木） 試料の性状：最外以外樹皮に近い部分 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N、水酸化ナトリウム：1N、塩酸：1.2N）

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ¹³C）、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を曆年代に較正した年代範囲を、図1に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、曆年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730±40年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal3.10（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表2 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	¹⁴ C年代 (yrBP±1σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-10471	-27.90±0.14	3119±23	3120±25	<u>1430BC(68.2%)</u> 1380BC	1450BC(81.6%) 1360BC 1350BC(13.8%) 1310BC
PLD-10472	-27.50±0.17	1833±20	1835±20	<u>130AD(68.2%)</u> 215AD	120AD(95.4%) 240AD

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。2σ暦年代範囲（95.4%の確率でこの範囲に暦年代が収まるることを意味する）に着目して測定結果を整理する。

PLD-10471は、1450-1360calBC(81.6%)、1350-1310calBC(13.8%)で、繩文時代後期末～晩期の年代範囲を示した。PLD-10472は、120-240calAD(95.4%)で、弥生時代後期の年代範囲を示した。

木材の¹⁴C年代が示すのは、その部分の年輪が形成された年代である。最外年輪を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代であり、木材が利用された年代に近いと考えができる。一方、最外年輪より内側の部位を試料とした場合、その年代が示すのは枯死あるいは伐採の年代よりも古い年代である。これは古木効果と呼ばれる。

今回の測定試料の中で、PLD-10472の生材は最外年輪が確認されなかったため、古木効果の影響を考慮する必要がある。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代. 3-20.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmelt, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.

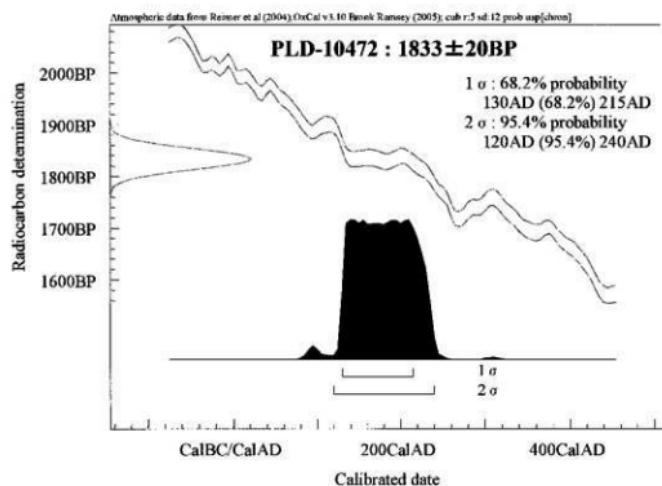
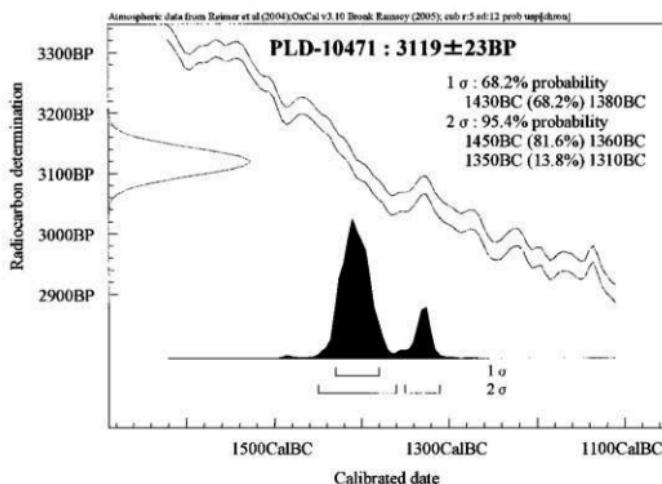


図1 历年較正結果

第2節 甲府城下町遺跡（紅梅地区再開発地点）の花粉化石

鈴木 茂（バレオ・ラボ）

1. はじめに

甲府城下町遺跡（紅梅地区再開発地点）（甲府市丸の内一丁目）において行われた発掘調査で、江戸期や古墳時代の遺構・遺物が出土している。この発掘調査に際して、遺跡周辺の植生変遷を検討する目的で土層断面より土壤試料が採取された。以下にはこの土壤試料について行った花粉分析の結果を示し、縄文時代後期～近世・近代に至る遺跡周辺の植生変遷について検討した。

2. 試料

試料はA区基本上層A地点（8試料）と同B地点（10試料）の2地点より採取された18試料である（図1）。以下に両地点の土層について採取試料を中心に簡単に記す。

A地点（試料番号1～8）：試料1はレキが点在する灰褐色の砂質粘土で、全体に赤褐色の酸化鉄や赤黒色のマンガン小塊の集積が認められる。その上位は昭和20年7月6日の空襲による焼土層、さらに上位に黒灰色砂質粘土が堆積している。試料2も灰褐色の砂質粘土で、全体に赤褐色酸化鉄の集積が認められ、最下部は層状に堆積している。試料3は炭片が点在する黒灰色砂質粘土、試料4は粘性が高い黒灰色砂質粘土で、この試料3、4の2層準から江戸期（19世紀）の遺構・遺物が検出されている。試料5は黒～黒褐色の粘土で、下半部には赤褐色の酸化鉄が強く集積している。試料6は黒色の砂質粘土で、長石や石英を主とした砂が層状に認められる。その下位は黒灰色の砂で、黒褐色の粘土塊が混入しており、全体に赤褐色酸化鉄が集積している。これら試料6や砂の層準より古墳時代の遺物が出土している。その下位の試料7は黒色粘土、試料8は暗灰色の砂質粘土で、最下部は暗灰色の砂レキである。

B地点（試料番号9～18）：最上部試料9は灰褐色の粘土で、赤褐色酸化鉄の集積が認められる。その上位層は灰褐色の砂質粘土、さらに上位はレキが点在～散在する灰褐色の砂質粘土で、最下部に赤褐色酸化鉄の集積が層状に認められる。また試料9の下位は粘性の高い黒褐色の砂質粘土、さらに下位は酸化して赤褐色を呈している粘土混じりの砂である。試料10は黒褐色の砂質粘土で、古墳時代の遺物が出土している。その下位は粘土混じりのオリーブ黄灰色の砂で、一部酸化して赤褐色を呈している。試料11は黒褐色の粘土で、灰褐色の砂がレンズ状に多く認められる。試料12、13も黒褐色粘土で、13には黄灰色砂が多く混入している。試料14は黒～黒褐色の粘土、試料15は黒褐色の粘土である。その下位はやや泥炭質でやわらかい黒褐色粘土である。試料16は黒褐色砂質粘土、試料17はやや砂質の黒褐色粘土、さらに下位はオリーブ灰色の砂レキである。試料18は黒褐色の粘土で、材片が認められ、この材片を用いて放射性炭素年代測定（測定番号：PLD-10471）が行われた。その結果、2σ層年代範囲で3400-3310yBP (81.6%)、3300-3260yBP (13.8%) が得られている。本地点の最下部は灰色の砂である。

3. 分析方法

I:記した18試料について以下の手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重約5～7g）を遠沈管にとり、10%の水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を

除去する。次に46%のフッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリリス処理（無水酢酸9：1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作製して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

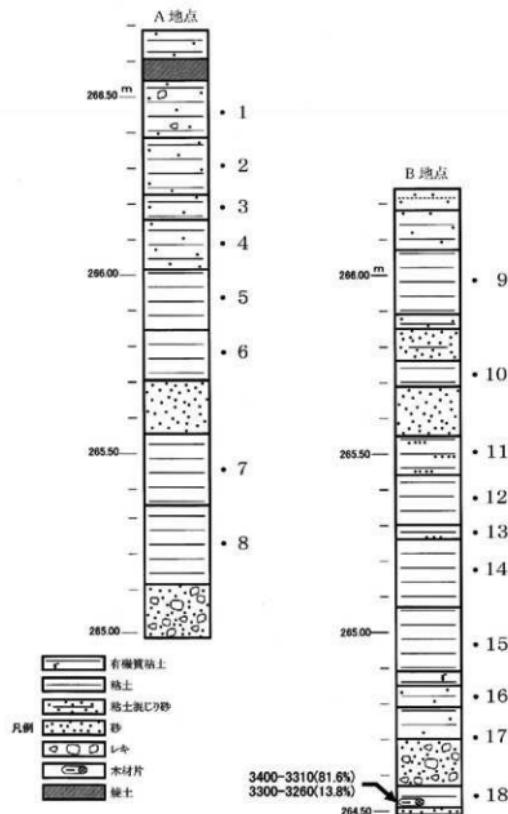


図1 試料採取地点の地質柱状図と試料採取層準 (●)

表1 A地点の産出花粉化石一覧表

和名	学名	1	2	3	4	5	6	7	8
裸木									
マキ属	<i>Podocarpus</i>	-	-	-	-	2	1	-	-
モミ属	<i>Abies</i>	5	2	1	6	4	5	2	2
ツガ属	<i>Tsuga</i>	12	5	8	24	39	21	12	2
トケビ属	<i>Picea</i>	-	1	-	2	2	1	1	-
マツ属单被管束亞属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxyylon</i>	-	-	-	-	1	-	-	-
マツ属双被管束亞属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxyylon</i>	50	88	99	13	6	1	2	2
マツ属(不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	22	40	43	17	8	-	3	-
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	2	2	1	7	6	2	4	-
スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	57	39	30	62	142	62	65	19
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	T. - C.	2	7	6	7	14	23	34	7
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	-	-	1	-	-	-	-
クルミ属	<i>Juglans</i>	1	1	1	2	4	5	1	1
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus</i> - <i>Ostrya</i>	8	4	3	7	8	9	4	1
カバノキ属	<i>Betula</i>	2	-	-	3	6	2	-	-
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	4	1	1	3	1	6	2	1
ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	1	-	-	-	2	3	-	2
コナラ属-コナラ亞属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	26	16	15	51	52	61	50	27
コナラ属アカガシ亞属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	16	1	2	4	13	24	14	4
クリ属	<i>Castanea</i>	2	1	4	-	-	1	1	3
ニシキテマタバシイ属	<i>Casianopis</i> - <i>Pasanisia</i>	3	1	-	-	1	2	3	1
ニレ属-ケヤキ属	<i>Ulmus</i> - <i>Zelkova</i>	1	1	1	2	3	7	1	-
カツラ属	<i>Cercidiphyllum</i>	-	-	-	-	-	1	-	-
サンショウ属	<i>Zanthoxylum</i>	1	-	-	-	-	1	-	-
ウルシ属	<i>Rhus</i>	-	-	-	-	-	-	1	-
カエデ属	<i>Acer</i>	-	-	-	-	-	-	1	-
トナノキ属	<i>Aesculus</i>	-	-	-	-	1	-	2	-
ブドウ属	<i>Vitis</i>	-	-	-	-	-	-	1	-
ツタ属	<i>Parthenocissus</i>	-	-	-	-	-	-	1	-
ウコギ属	<i>Araliaceae</i>	1	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ属	<i>Cornus</i>	-	-	1	-	-	-	-	-
イボタノキ属	<i>Ligustrum</i>	-	-	-	-	-	-	1	-
草本									
ガマ属	<i>Typha</i>	-	6	28	3	2	6	2	5
ヒルムシロ属	<i>Potamogeton</i>	-	-	1	-	-	1	-	-
サジオモガ属	<i>Alliaria</i>	-	-	-	-	-	1	-	-
オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	-	-	-	2	1	-	-	-
イネ科	<i>Gramineae</i>	68	104	44	119	176	96	35	11
カヤリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	22	46	128	50	73	24	67	27
ユクツウ属	<i>Comelinia</i>	-	-	-	-	-	1	-	-
イボクサ属	<i>Anemone</i>	-	-	-	-	-	1	-	-
ミズアオイ属	<i>Monochoria</i>	1	-	-	-	-	1	-	-
クワ科	<i>Moraceae</i>	-	-	-	-	-	2	-	-
ギンジソウ属	<i>Rumex</i>	-	-	-	-	1	1	-	-
サナエリ科-ウナギツカミ節	<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	-	1	-	2	3	2	-	1
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	1	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科-ヒユ科	<i>Chenopodiaceae</i> - <i>Amaranthaceae</i>	8	31	14	9	5	2	3	-
スペリユ属	<i>Portulaca</i>	-	1	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科	<i>Caryophyllaceae</i>	2	1	1	1	2	-	1	-
カラマツソウ属	<i>Thalictrum</i>	-	-	-	-	-	8	2	3
キンポウゲ科	<i>Ranunculaceae</i>	2	-	-	1	3	4	1	1
アブラナ科	<i>Cucurbitaceae</i>	21	14	6	6	3	-	4	1
ユキシタケ科近似種	cf. <i>Saxifragaceae</i>	-	-	-	-	-	-	-	-
他のバラ科	other Rosaceae	1	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	<i>Leguminosae</i>	-	-	-	-	-	3	1	1
キカシグサ属	<i>Rotala</i>	1	-	-	-	-	-	2	-
セリ科	<i>Umbelliferae</i>	1	-	1	-	1	2	1	1
シソ科	<i>Labiatae</i>	-	-	-	-	-	-	1	-
ヨモギ属	<i>Arenaria</i>	4	3	1	11	28	30	27	31
他のキク科類	other Tubuliflorae	-	1	2	4	1	-	4	1
タンボボ科	<i>Liguliflorae</i>	14	25	14	28	16	1	4	-
シダ植物									
ゼンマイ科	<i>Osmundaceae</i>	2	2	-	-	-	1	-	1
サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	-	-	-	-	2	1	-	-
单条型孢子	<i>Monolete</i> spore	22	14	9	9	5	10	47	22
三条型孢子	<i>Trilete</i> spore	7	7	4	7	1	-	-	2
樹木花粉	Arborescent pollen	216	210	215	211	316	239	207	69
草木花粉	Nonarborescent pollen	146	233	242	238	317	199	159	83
シダ植物胞子	Spores	31	23	13	16	9	12	47	25
花粉・孢子總数	Total Pollen & Spores	593	466	471	465	642	450	413	177
不明花粉	Unknown pollen	46	28	27	42	54	27	27	3

T. - C. は Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceaeを示す

樹木花粉

草本花粉・シガ植物子

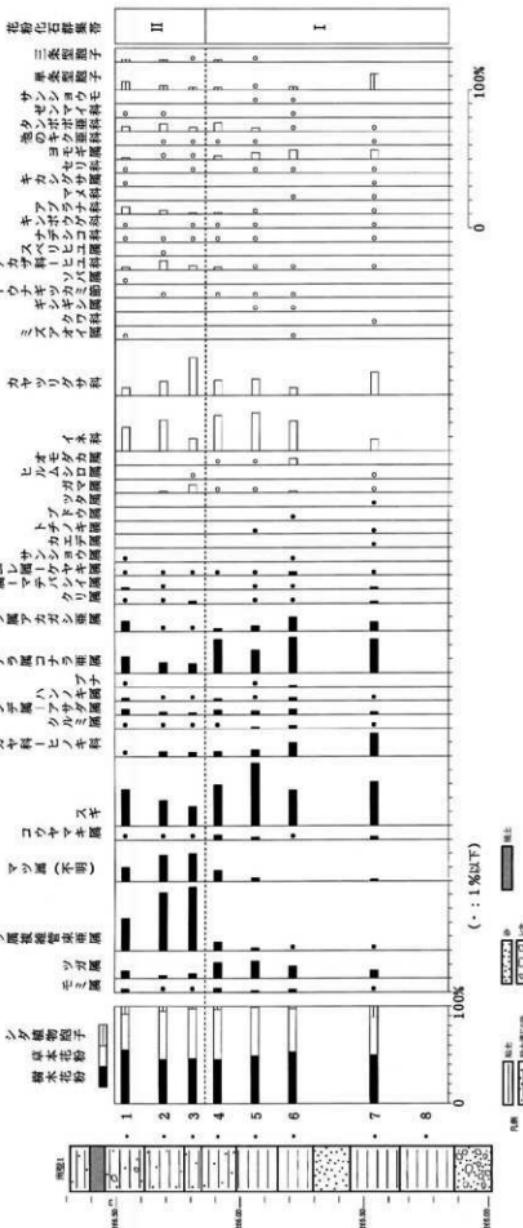


図2 A地点の主要花粉化石分布図
(樹木花粉は樹木花粉数、草本花粉・胞子は花粉・胞子总数を基數として百分率で算出した)

4. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は2地点合わせて、樹木花粉41、草本花粉37、形態分類を含むシダ植物胞子5の総計83である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1（A地点）、表2（B地点）に、それらの分布を図2（A地点）、図3（B地点）に示した。なお分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示しており、クワ科・ユキノシタ科・バラ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものとがあるがそれぞれに分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

1) A 地点（試料1～8）

樹木花粉の産出傾向から下位より花粉化石群集帯I、IIを設定し、その特徴について以下に示す。

花粉帶I（試料4～8）は出現率が30%前後のスギと20%前後のコナラ属コナラ亜属の優占で特徴づけられる。ツガ属は上部に向かい増加しており、試料4、5では10%を越える出現率を示している。またマツ属複管束亞属（アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）も若干はあるが上部に向かい出現率を上げる傾向が認められる。反対にイチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科（以後ヒノキ類と略す）は上部に向かい明らかな減少傾向を示しており、同様の傾向がコナラ属アカガシ亜属にも認められる。草本類ではイネ科が最も多く、上部に向かい出現率を上げる傾向を示している。次いでカヤツリグサ科が多く、出現率は10%前後を示している。ヨモギ属も全試料1%以上を示しているが、上部に向かい減少している。反対にタンボボ亜科は上部試料でやや出現率を上げている。その他では水生植物のオモダカ属（抽水植物）が試料6で約5%を示すなど上部試料で連続して検出されている。同じ抽水植物のガマ属は低率ながら本帶の全試料で観察されており、試料6においてはやはり抽水植物のミズアオイ属や水生シダ植物のサンショウモも得られている。なお、試料8においては観察できた樹木花粉数が少なく分布図としては示すことが出来なかつたが、少ない中、他試料と同様にスギとコナラ亜属が多く観察されたことから花粉帶Iとした。

花粉帶II（試料1～3）はニヨウマツ類の優占で特徴づけられるが、上部に向かい減少する傾向が認められる。花粉帶Iで優占していたスギやコナラ亜属は一時期急減するが、最上部試料では再び出現率を上げている。花粉帶Iの上部で10%を越えていたツガ属は2%前後に出現率を下げており、アカガシ亜属も減少するが、最上部試料1では出現率を上げている。草本類ではやはりイネ科が最も多く検出されているが、花粉帶Iに比べ出現率を下げている。カヤツリグサ科は試料3でやや突出した出現率を示しているが上部に向かい急減している。アブラナ科が上部に向かい増加しており、本帶の全試料で1%以上を示している。またアカザ科-ヒユ科やタンボボ亜科も全試料で1%以上を示している。その他では花粉帶Iの上部試料で連続して検出されていたオモダカ属は観察されなくなったが、ガマ属は試料3において約6%を示し、全試料中最も高い出現率を示している。また試料1よりソバ属が1個体観察されている。

2) B 地点（試料9～18）

樹木花粉の産出傾向から下位より花粉化石群集帯I～IIIを設定し、その特徴について以下に記す。なおA地点の花粉帶I、IIとの対応関係は無い。

花粉帶I（試料17、18）はクマシデ属-アサダ属の優占で特徴づけられるが、試料17

表2 B地点の産出花粉化石一覧表

科名	学名	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
樹木											
マキ属	<i>Podocarpus</i>	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	<i>Abies</i>	8	22	13	38	10	6	15	-	3	2
ツガ属	<i>Tsuga</i>	34	27	17	19	11	4	12	3	5	-
トウカイ属	<i>Picea</i>	3	4	4	7	1	-	3	-	2	-
カラマツ属	<i>Larix</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
マツ属 单被子植物束群	<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>	-	-	-	2	-	-	2	-	-	-
マツ属 裸被子植物束群	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	34	7	2	4	2	-	3	-	1	2
マツ属 (不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	17	2	2	2	2	-	4	2	-	-
スギ属	<i>Sciadopitys</i>	5	2	1	1	-	-	-	-	-	-
イチイ属-イヌヤマ科-ヒノキ科	<i>Cryptomeria japonica</i> D. Don	58	57	65	63	39	18	48	34	19	29
ヤナギ属	T. C.	10	31	29	34	15	6	20	30	18	21
ヤマモチ属	<i>Salix</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サワラ属-クルミ属	<i>Murcia</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマノミ属-アザガヤ属	<i>Pterocarya-Juglans</i>	3	4	2	-	2	1	-	2	-	2
カバヤヒ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	11	4	4	4	9	4	12	5	56	117
ハンノキ属	<i>Betula</i>	7	1	2	-	-	-	5	1	4	1
ハシバミ属	<i>Alnus</i>	7	1	2	-	1	-	5	2	5	4
ブナ	<i>Fagus crenata</i> Blume	2	2	-	1	-	-	2	1	1	1
イヌブナ	<i>Fagus japonica</i> Maxim.	1	2	-	-	1	-	1	1	2	5
コナラ属コナラ源属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	36	42	30	33	44	57	60	34	46	21
コナラ属カガシ源属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	14	12	13	9	10	6	14	3	7	9
クリ属	<i>Castanea</i>	-	1	1	1	1	-	-	3	3	-
シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	7	1	2	2	-	1	3	1	2	-
ニレノキ-ケヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	7	5	2	5	4	5	13	13	45	16
エバネス木-ムクノキ属	<i>Cellis-Aphananthe</i>	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-
エバネス木-ムクノキ属	<i>Cratomerites</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カツラ属	<i>Coriaria</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ウルシ属	<i>Rhus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニシキギ科	<i>Celastraceae</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
カエデ属	<i>Acer</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
ムクシジ属	<i>Sapindus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
ブドウ属	<i>Vitis</i>	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ツタ属	<i>Parthenocissus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
シナノキ属	<i>Tilia</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ウコギ科	<i>Araliaceas</i>	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ属	<i>Cornus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
エゴノキ属	<i>Syrrax</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-
イボタノキ属	<i>Ligustrum</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
トネリノリ属	<i>Fraxinus</i>	-	-	-	-	-	1	-	8	10	-
草本											
ガマ属	<i>Typha</i>	1	5	3	-	1	-	-	-	-	-
サジモモガ科	<i>Alliaria</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-
イネ科	<i>Gramineae</i>	191	136	83	25	28	24	93	32	3	7
カヤソリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	97	24	68	46	42	12	76	28	17	8
クワ科	<i>Moraceae</i>	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-
サナクダ節-ワナギキ属	<i>Polygonum sect. Persicaria-Echinocaulon</i>	1	3	1	1	1	-	1	-	-	-
シバ属	<i>Fagopyrum</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカガ科-ヒユ科	<i>Chenopodiaceo - Amaranthaceae</i>	6	-	8	1	-	-	1	-	-	-
ナゾドリ科	<i>Caryophyllaceae</i>	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-
カラマツソウ属	<i>Thlaspi</i>	-	1	5	3	1	1	1	-	2	-
キンシキウグリ科	<i>Ranunculaceae</i>	1	-	2	1	1	-	1	-	-	-
アブクマ科	<i>Cruciferae</i>	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-
ユキソクタ科-近似種	cf. <i>Saxifragaceae</i>	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1
ワレモコウ属	<i>Sanguisorba</i>	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
他のカキ属	<i>Rother Rosaceae</i>	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-
マメ科	<i>Leguminosae</i>	-	1	1	-	-	-	1	-	1	-
トリカブト科	<i>Papaveraceae</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ属	<i>Gossypium</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キシキモサ属	<i>Rotala</i>	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ミズユキモシタ属	<i>Ludwigia</i>	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	<i>Umbelliferae</i>	-	-	3	3	1	-	-	1	-	1
オナス属	<i>Seisonia</i>	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
オミエヒシ属	<i>Patrinia</i>	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	15	28	26	10	15	39	53	19	7	2
他のカキ属	other <i>Tubuliflorae</i>	2	-	-	2	3	12	3	1	-	-
タンポポ科	<i>Liguliflorae</i>	19	2	3	2	-	-	1	1	-	1
シダ植物											
ヒカゲノカズラ属	<i>Lycopodium</i>	-	-	-	-	-	-	36	-	-	-
ゼンマイ科	<i>Osmundaceae</i>	4	-	2	3	-	1	1	-	-	-
サンショウモ属	<i>Selaginella natans</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
半朱蘚子属	<i>Monilete spore</i>	8	31	23	79	47	46	70	25	2	-
三柔蘚子属	<i>Trilete spore</i>	2	2	2	1	2	7	4	-	2	-
樹木花粉	<i>Arborescent pollen</i>	271	330	211	215	156	108	221	148	259	326
草本花粉	<i>Nonarboreal pollen</i>	339	207	210	94	93	95	235	85	32	22
シダ植物孢子	<i>Sporae</i>	15	40	27	84	49	56	111	26	4	2
花粉・孢子総数	Total Pollen & Spores	625	477	448	393	298	259	567	259	295	350
不規花粉	Unknown pollen	46	22	16	19	16	30	32	25	27	7

T. - C. は Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae を示す

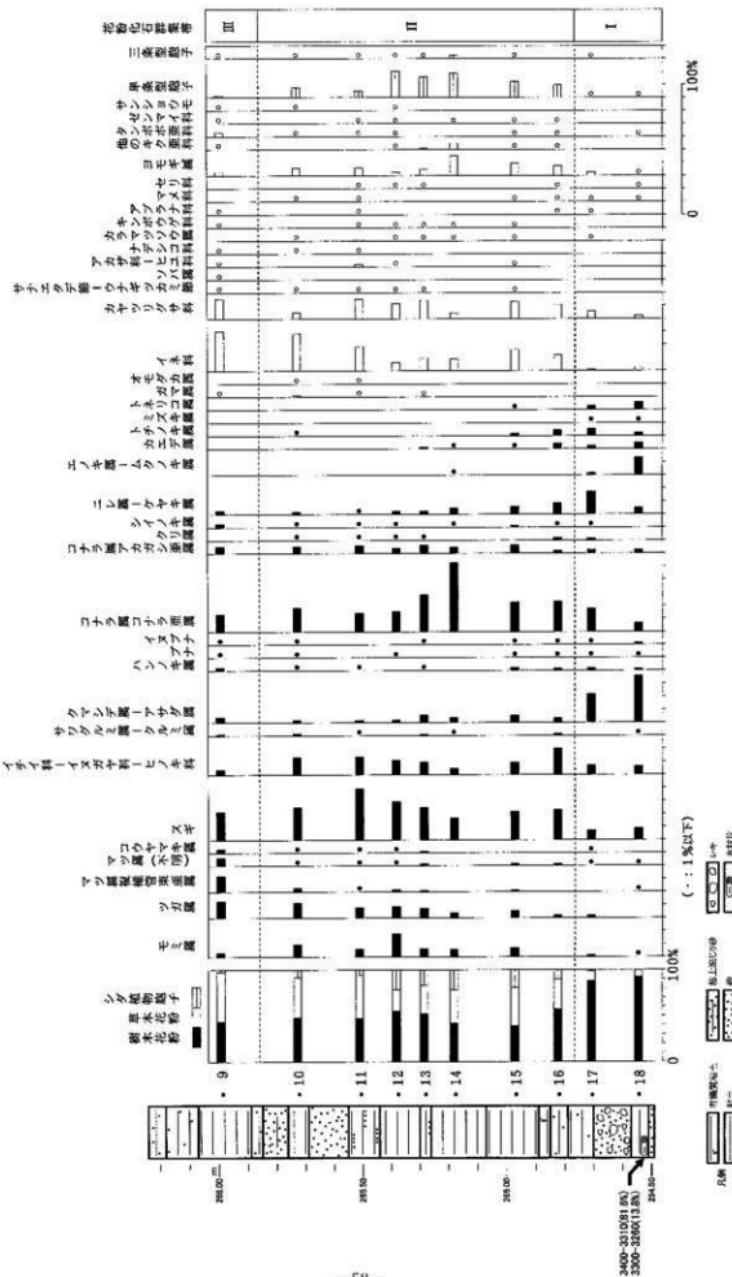


図3 B地点の主要花粉化石分布図
(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・孢子は花粉・孢子总数を基準として百分率で算出した)

では試料18に比べほぼ半減している。エノキ属一ムクノキ属も同様の傾向を示しており、試料18では10%を越えているが、試料17ではやっと1%を越えた程度に減少している。反対にコナラ亜属やニレ属一ケヤキ属は試料17において大幅に出現率を上げている。その他ではスギとヒノキ類が5~10%を示しており、トチノキ属やトネリコ属などが5%前後を示している。草本類の占める割合は非常に低く10%前後である。その中イネ科とカヤツリグサ科が2試料とも1%を越えて得られている。

花粉帶Ⅱ（試料10~16）はスギとコナラ亜属の優占で特徴づけられ、そのうちスギは試料11でピークを作るように増加・減少している。またコナラ亜属は試料14でピークを作っている。ヒノキ類も花粉帶Ⅰに比べ出現率を上げており、産出傾向としては上部に向かい減少・漸増をみせている。同じ針葉樹のモミ属やツガ属も出現率を上げており、モミ属は試料12において10%を越えており、ツガ属は上部に向かい漸増している。一方花粉帶Ⅰで優占していたクマシデ属一アサダ属は1~5%に出現率を下げており、ニレ属一ケヤキ属も上部に向かい漸減している。またエノキ属一ムクノキ属やトネリコ属はほとんど観察されなくなり、トチノキ属も上部試料ではほとんど得られていない。その他、アカガシ亜属が5%前後とほぼ安定して検出されている。草本類ではイネ科が最も多く、中・下部試料では10%前後であるが、上部2試料では増加して30%近くに達している。カヤツリグサ科も増加して10%前後の出現率を示している。ヨモギ属は上部に向かい増加して試料14では10%を越えているが、試料10~13では5%前後に減少している。その他ではオモダカ属が上部2試料でわずかではあるが観察されている。シダ植物胞子の単条型が上部に向かい増加して試料12では20%を越えているが、上部2試料で激減している。

花粉帶Ⅲ（試料9）はニヨウマツ類の増加で特徴づけられる。最も多く得られているのはスギで、出現率は約21%である。次いでコナラ亜属（13%強）が多く、13%弱のツガ属、ニヨウマツ類が続いている。その他ではヒノキ類、クマシデ属一アサダ属、アカガシ亜属、シイノキ属などが5%前後の出現率を示している。草本類ではイネ科が出現率30%を越えて最も多く検出されている。次いでカヤツリグサ科が多く、出現率は約16%を示している。その他はいずれも低率で、1%を越えているのはヨモギ属（約2%）とタンボボ亜科（約3%）のみである。

5. 甲府城下町遺跡周辺の古植生

1) 時期について

出土遺物から試料3、4は近世（19世紀）と考えられており、試料1の直上が昭和20年の空襲による焼土であることから試料1、2は近代～近世と推測される。試料6（A地点）、10（B地点）は出土遺物から古墳時代と考えられている。またB地点の下位層準に認められた木材片について行われた年代測定結果（放射性炭素年代測定の節参照）から、試料18層準は縄文時代後期頃と推測される。こうしたことから分析試料の時期は縄文時代後期～近代・近世頃と考えられる。

2) 甲府城下町遺跡周辺の植生変遷

設定した花粉化石群集帯を基に甲府城下町遺跡周辺の植生変遷について示す。

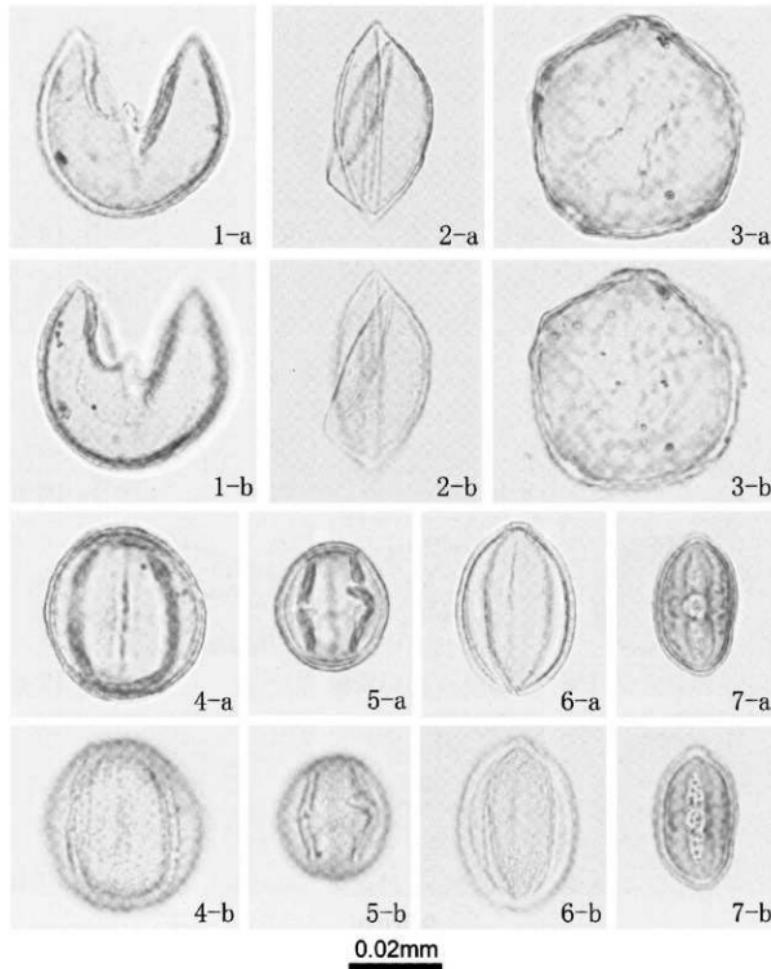
B地点の花粉帶Ⅰ期：時期は年代測定結果から縄文時代後期頃と推測される。この時期の遺跡周辺はクマシデ属一アサダ属を主体にコナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属、カエデ属、トチノキ属などが生育する落葉広葉樹林が広く成立していたとみられる。さらにスギ、ヒノキ類といった温帯性針葉樹類やアカガシ亜属などの常緑広葉樹類も一部に分布していたと推測される。また砂レキの堆積から河川の存在が推測され、その周辺にはハンノキ属や

トネリコ属などの河畔林、湿地林要素の樹木がみられ、肥沃な所にはエノキ属・ムクノキ属が生育していたと推察される。しかしながら砂レキの堆積から推測される河川の影響で少なくとも試料採取地点周辺においてエノキ属・ムクノキ属は少なくなったことが考えられる。

A地点の花粉帯Ⅰ期（最上部を除く）、B地点の花粉帯Ⅱ期：時期については下限が縄文時代後・晚期頃、上限は古墳時代から古代頃と推測される。この頃の遺跡周辺はスギを中心としたツガ属、モミ属、ヒノキ類などが生育する温帶性針葉樹林が成立していたと推測される。またクマシデ属・アサダ属に代わりコナラ亜属を中心とした落葉広葉樹林も広く分布していたとみられ、アカガシ亜属やシイノキ属などの常緑広葉樹も引き続き一部に生育していたことが推測される。一方河川周辺などの低地部にはイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属、シダ類などが生育する雑草群落が成立していたとみられる。しかしながら試料10、11ではイネ科花粉が増加しており、水田雜草を含む分類群であるオモダカ属も連続して観察されている。こうしたことから予察的にプラント・オパール分析を試みた結果、ネザサ節型のササ類（アズマネザサなど）やヨシ属（ヨシなど）、ウシクサ族（スキなど）とともにイネの機動細胞珪酸体もやや多く認められた。よって、甲府城下町遺跡紅梅地区周辺ではこの時期、すなわち古墳時代頃より水田稻作が行われるようになった可能性が推察される。

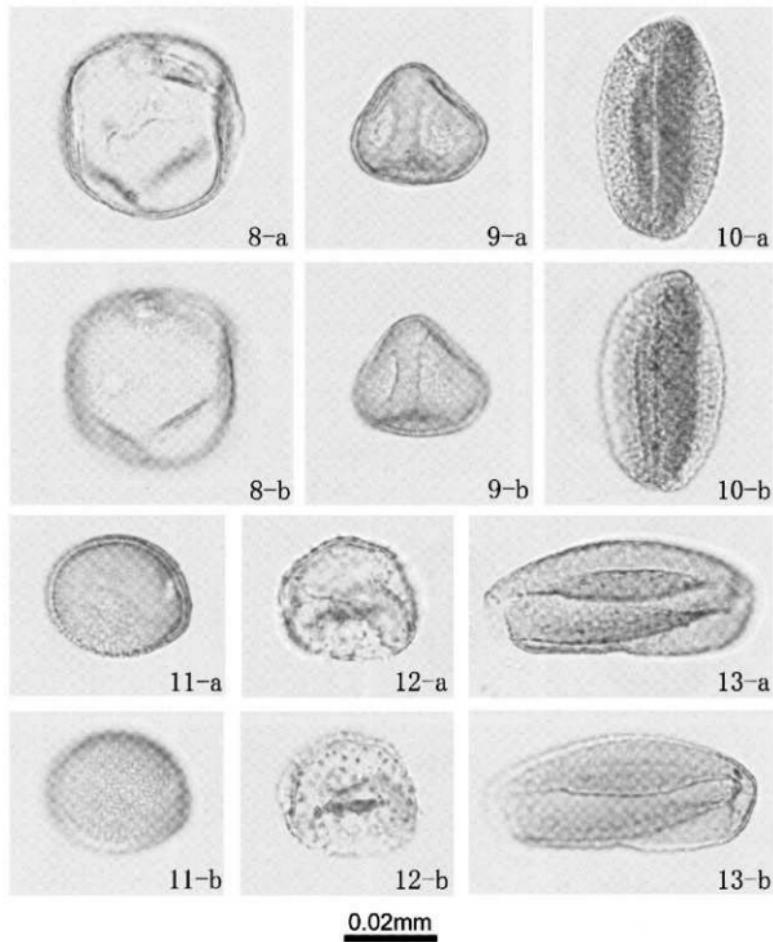
A地点の花粉帯Ⅰ期最上部、B地点の花粉帯Ⅲ期：時期については上層の上下関係より古代から近世頃と推察される。遺跡周辺には依然としてスギを中心とした温帶性針葉樹林やコナラ亜属を主体とした落葉広葉樹林が成立しており、常緑広葉樹類も一部に分布していたとみられる。しかしながらこの時期になるとスギやヒノキ類などの出現率が下がっていることからこれらの森林は縮小傾向にあったことが考えられる。こうした跡地にニヨウマツ類が侵入し生育地を広げたことが推測される。すなわち古代から近世頃になってアカマツと推測されるニヨウマツ類の二次林が成立し、分布域を広げ始めたと推測される。この時期の河川周辺低地部では引き続き水田稻作が営まれていたとみられ、ソバの栽培も一部で行われるようになったと推測される。

A地点の花粉帯Ⅱ期：時期としては下限が19世紀、上限が近代と推測される。遺跡周辺ではそれまで優勢であった温帶性針葉樹林や落葉広葉樹林が縮小し、代わってニヨウマツ類の二次林が広くみられるようになったと推測される。その要因については甲府城の構築やそれに伴う都市整備が大きく影響しているものとみられる。すなわち甲府城等の構築に伴ってそれまでみられた温帶性針葉樹林や落葉広葉樹林は切り払われたことが考えられ、甲府城内や周辺空き地などにニヨウマツ類が侵入・拡大したことが推察される。その後近代に向かってスギ林や落葉広葉樹林、常緑広葉樹類は再び分布域を広げ、ニヨウマツ類の二次林は縮小していったとみられる。この時期の試料採取地点付近の低地部ではイネ科花粉の減少や水田雜草を含む分類群であるオモダカ属も観察されていないなどから水田稻作地も縮小していったと推測される。代わってカヤツリグサ科、アカザ科・ヒユ科、アブラナ科、タンボボ亜科、シダ類などの雑草類が生育地を広げたと推測され、その要因としてはニヨウマツ類の増加と同様に都市化が大きく影響しているものと推察される。



図版1 甲府城下町遺跡(紅梅地区再開発地点)の花粉化石

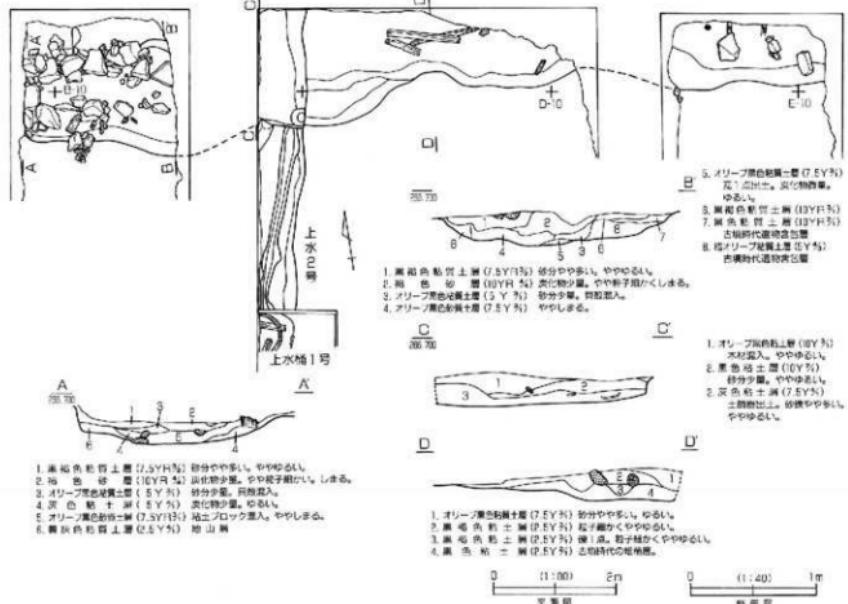
- 1 : スギ PLC.SS 4613 No.17
- 2 : イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科 PLC.SS 4614 No.18
- 3 : ニレ属-ケヤキ属 PLC.SS 4612 No.17
- 4 : コナラ属コナラ亜属 PLC.SS 4610 No.17
- 5 : コナラ属アカガシ亜属 PLC.SS 4611 No.17
- 6 : カエデ属 PLC.SS 4615 No.18
- 7 : トチノキ属 PLC.SS 4616 No.18



図版2 甲府城下町遺跡(紅梅地区再開発地点)の花粉化石

- 8 : イネ科 PLC.SS 4606 No.3
- 9 : カヤツリグサ科 PLC.SS 4605 No.3
- 10 : ソバ属 PLC.SS 4609 No.9
- 11 : ガマ属 PLC.SS 4604 No.3
- 12 : オモダカ属 PLC.SS 4607 No.6
- 13 : ミズアオイ属 PLC.SS 4608 No.6

上水1号



上水2号

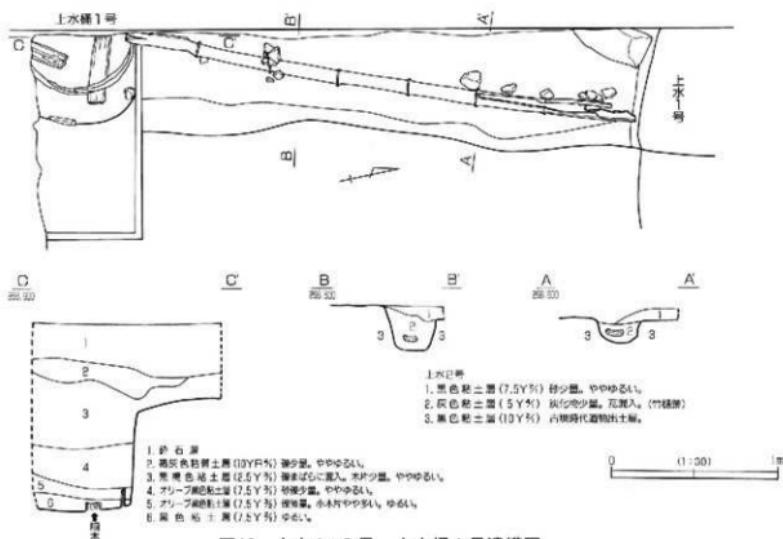


図13 上水1・2号、上水桶1号遺構図

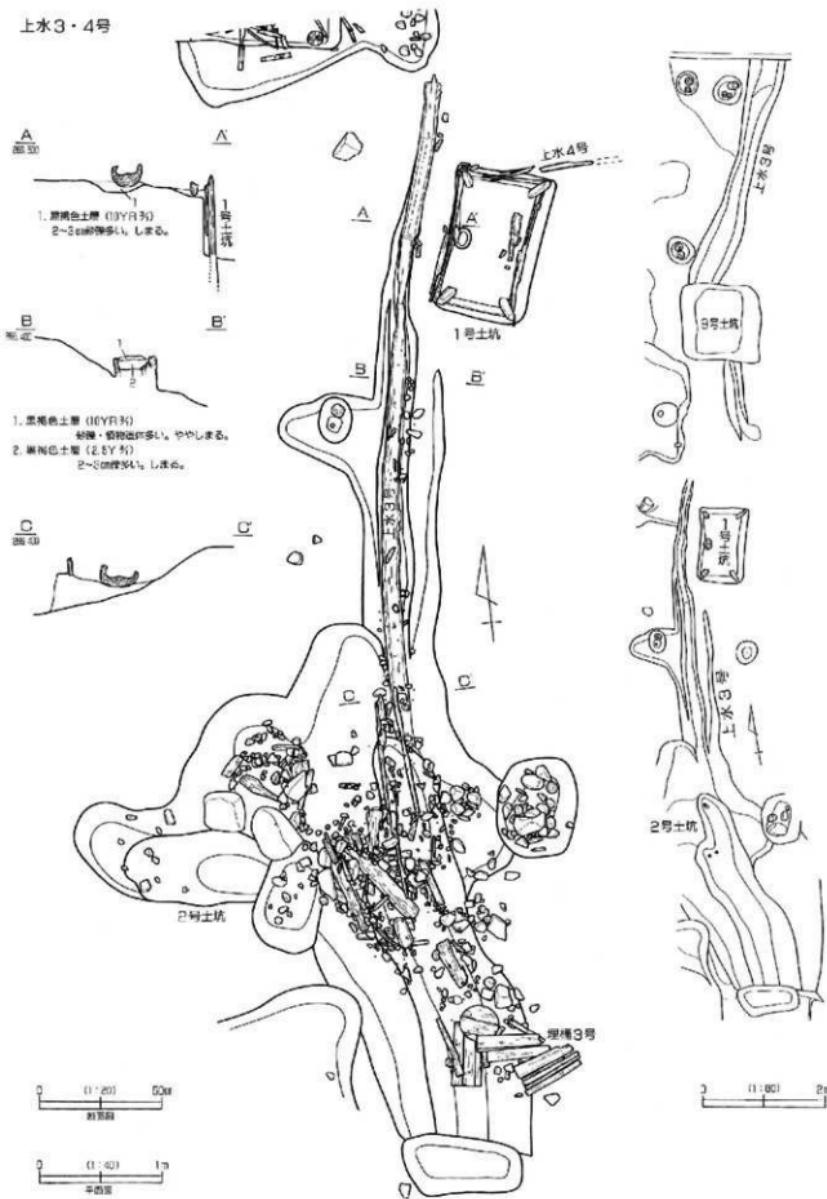
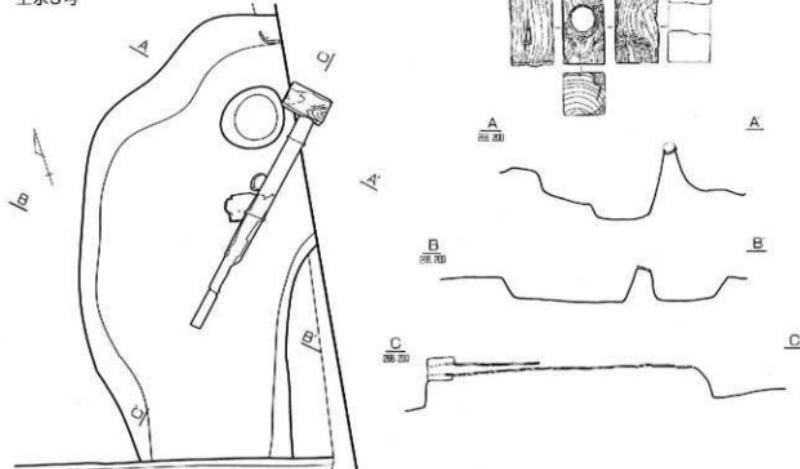
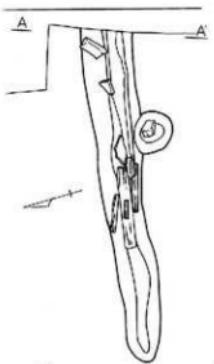


図14 上水3・4号遺構図

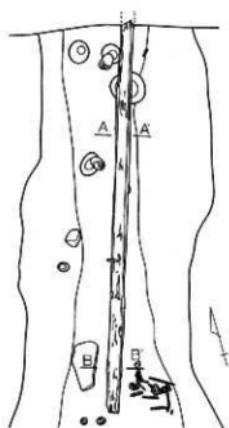
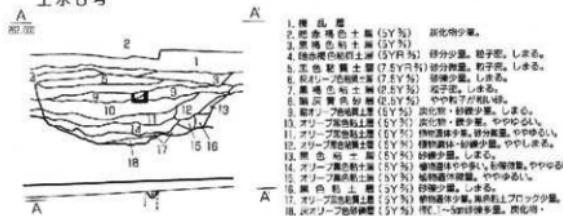
上水5号



上水7号



上水6号



1. オリーブ褐色褐土層 (5Y 5/6) 中心に透水性。

2. オリーブ褐色褐土層 (5Y 5/6) 中心に

B
50m

1. オリーブ褐色褐土層 (5Y 5/6) 中心に

2. オリーブ褐色褐土層 (5Y 5/6) 中心に

1. 双軸褐色粘質土層 (2.5Y 5/6) 砂分少。中心に

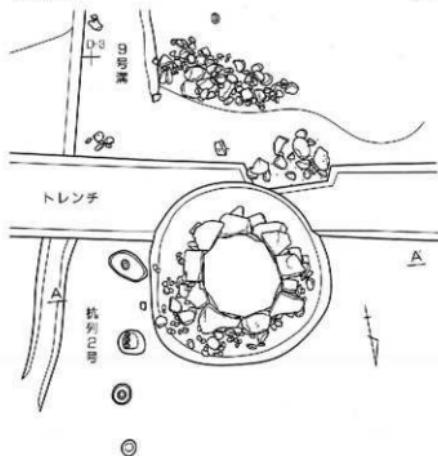
2. オリーブ褐色粘質土層 (5Y 5/6) やや少なし。透水性の竹筋。

3. 黑褐色粘質土層 (5Y 5/6) 砂分多。しまる。

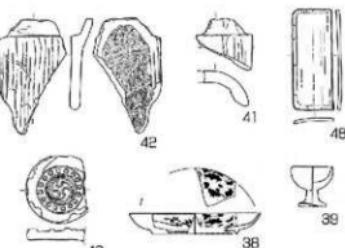
U
11:00
50m
上水5・7号0
11:00
2m
上水6号

図15 上水5～7号遺構図

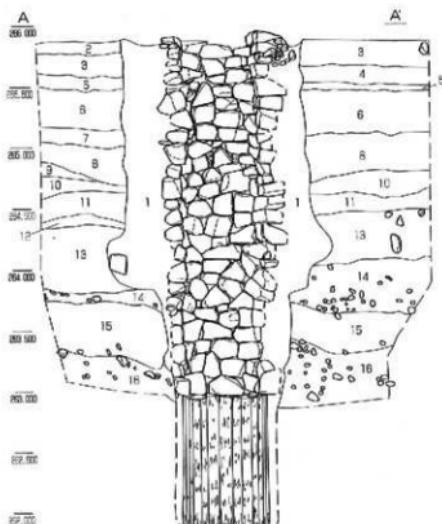
1号井戸



井戸内出土遺物一部



井戸上面



井戸断面



井戸下部構

0 (1:40) 1m

1号井土層説明

1. 青灰褐色粘土層 (N 3) 分割的に赤・青色・暗褐色土混入。しまる。
2. 黄褐色粘土層 (U, SY 5%) 砂礫多く含む。やや堅。
3. ブラック粘土層 (G 5%) 砂礫多く含む。やや堅。
4. 暗褐色粘土層 (D, SY 5%) 砂礫割合的に多く混入。土質堅出。ややゆるい。
5. 黒オーラーブ粘土層 (G 7%) 分少。しまる。
6. 離浜色粘土層 (N 3%) なまら。
7. 固青色粘土層 (N 3%) やや中心硬。
8. 黄褐色粘土層 (N 3%) やや堅子が弱。密。
9. 黄褐色粘土層 (D, SY 5%) 目脚多。しまる。
10. 黑褐色粘土層 (G 5%) しまる。
11. 黄褐色粘土層 (D, SY 5%) なまら。
12. 黄褐色粘土層 (D, SY 5%) 砂礫が分割的に混入。ややゆるい。
13. 黄褐色粘土層 (D, SY 5%) 砂礫や多。しまる。
14. オーラーブ粘土層 (SY 5%) ややゆるい。
15. ブラック粘土層 (SY 3%) ややゆるい。
16. 黑褐色粘土層 (D, SY 5%) ややゆるい。

図16 1号井戸構造図

2号井戸

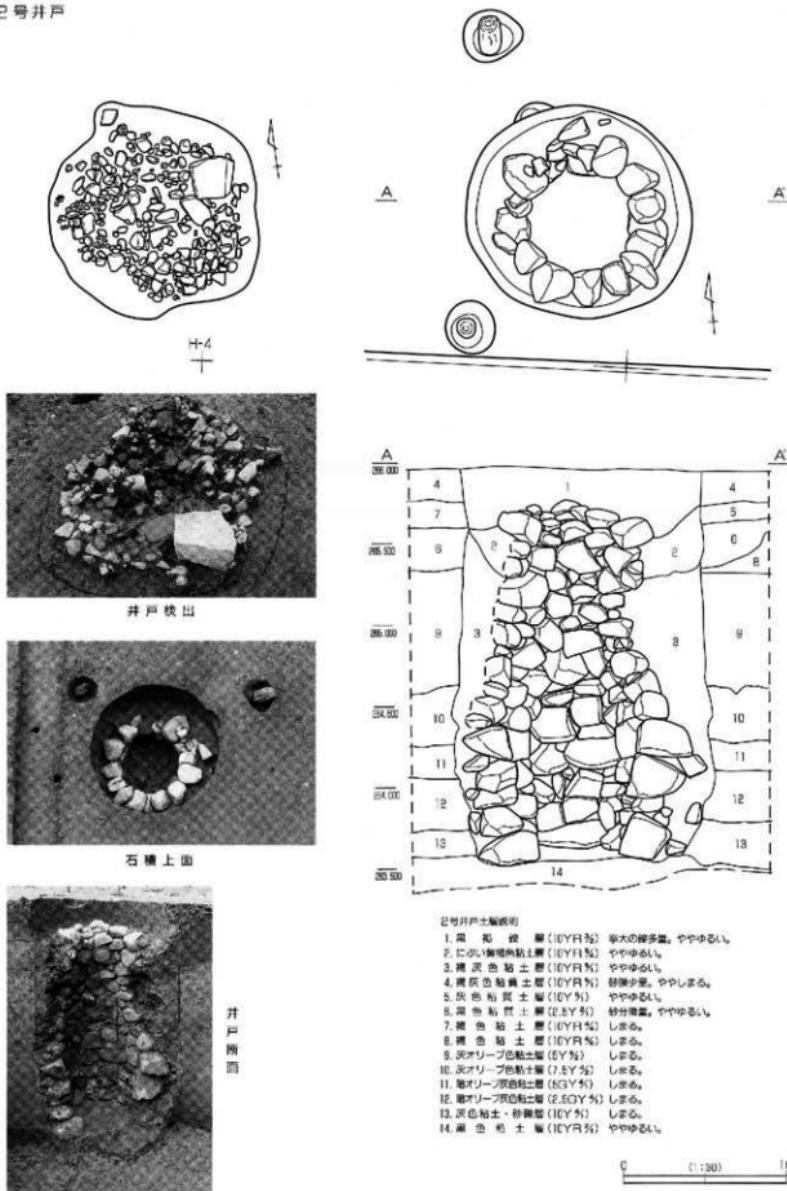


図17 2号井戸構造図

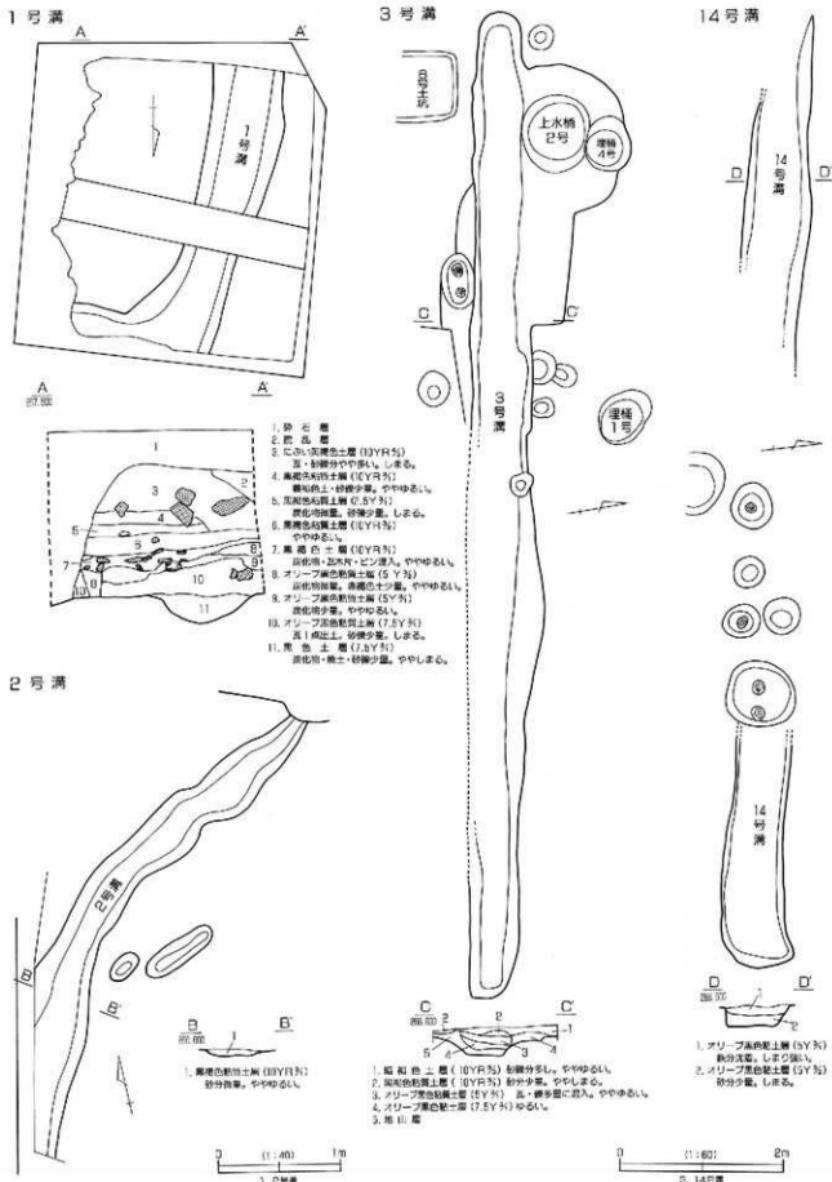
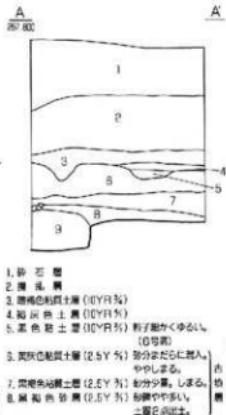
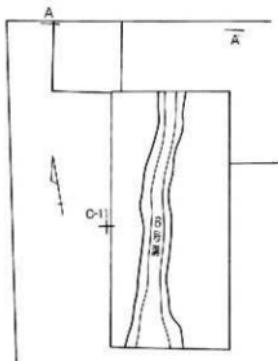
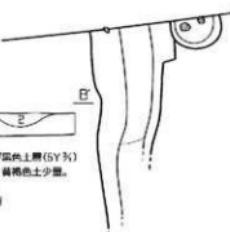


図18 1～3・14号溝遺構図

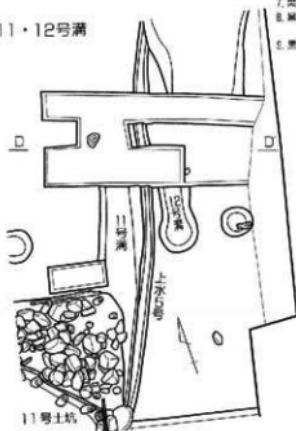
6号溝



9号溝

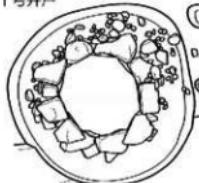


11・12号溝



- オリーブ褐色粘質土層 (5Y 3) 砂分微量。しまる。
- 黒褐色粘質土層 (2.5Y 5) 砂礫細粒分多量。砂分微量。やややわらい。
- 黑 和 色 土 層 (10YR 5) 砂礫分少量。やややわらい。
- 地 山 層

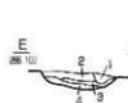
1号井戸



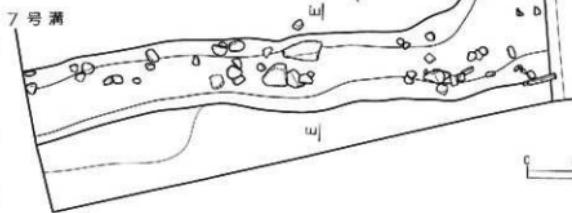
トレーン

C-C'

- 黒褐色粘質土層 (7.5Y)
砂礫分量。
粒子やや粗い。しまる。



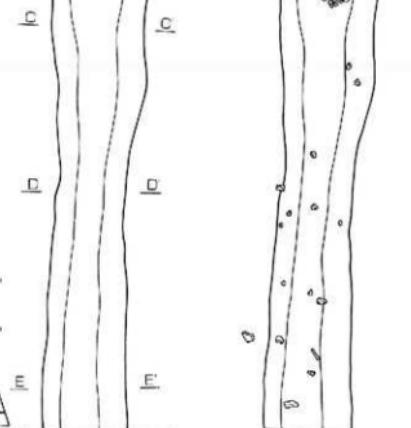
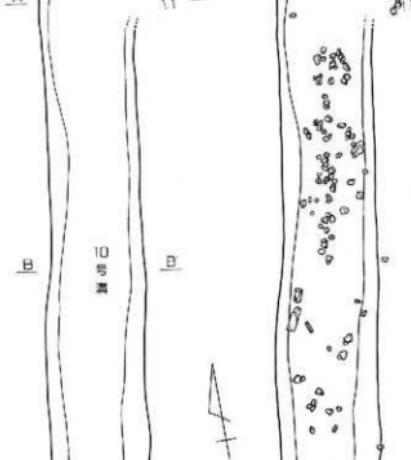
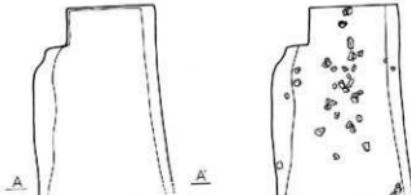
- オリーブ褐色粘質土層 (5Y 3)
砂分やや多い。全体的に粗く。
ゆるい。
- オリーブ褐色粘質土層 (5Y 3)
砂分微量。葉・泥炭土。
やややわらい。
- 黒褐色粘質土層 (2.5Y 5)
砂分多量。しまる。
- オリーブ褐色粘質土層 (5Y 3)
(G面以前の堆積層)



C-C' (1:40) 1m

図19 6・7・9・11・12号溝、杭列2号造構図

10号溝



8号溝

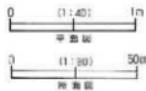
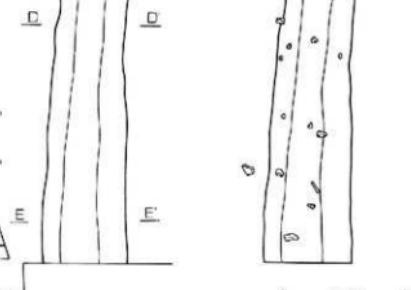
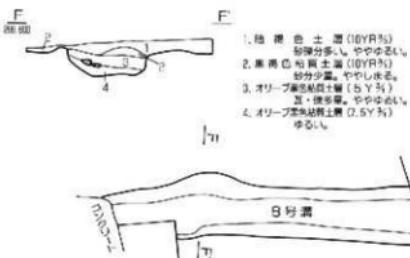


図20 8・10号溝遺構図

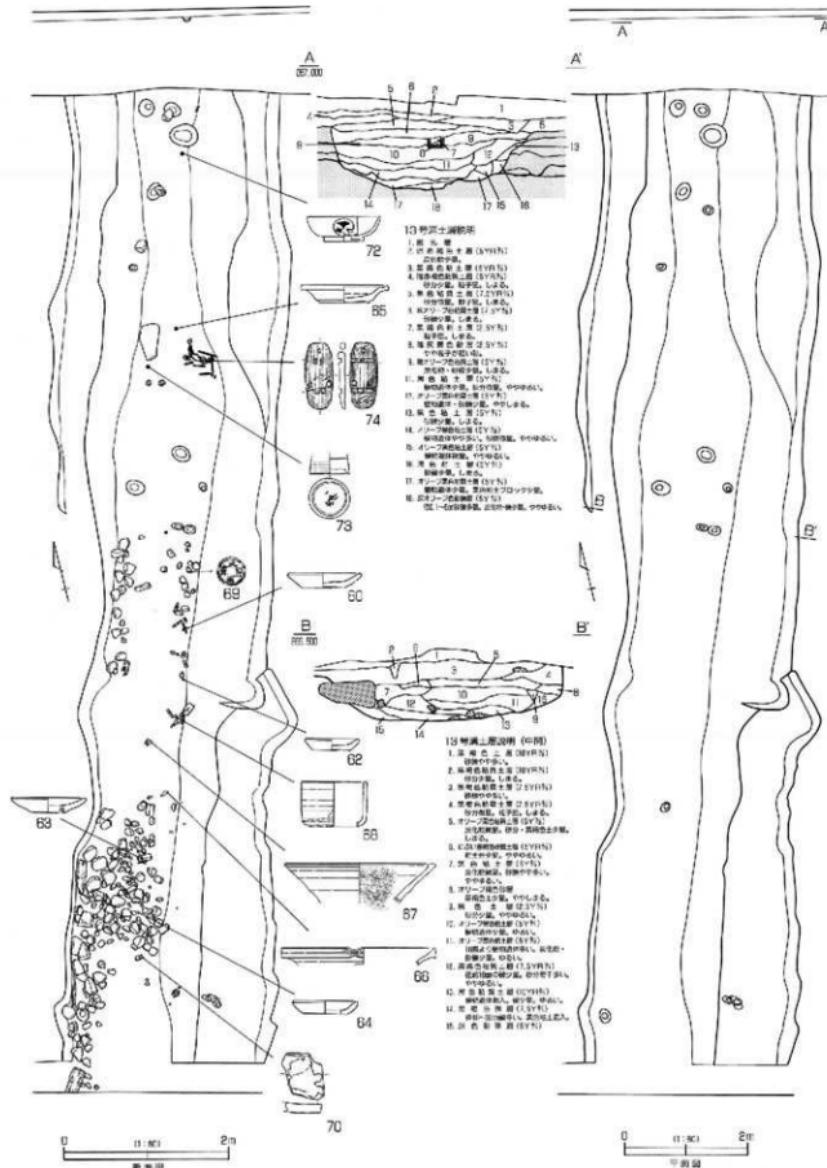
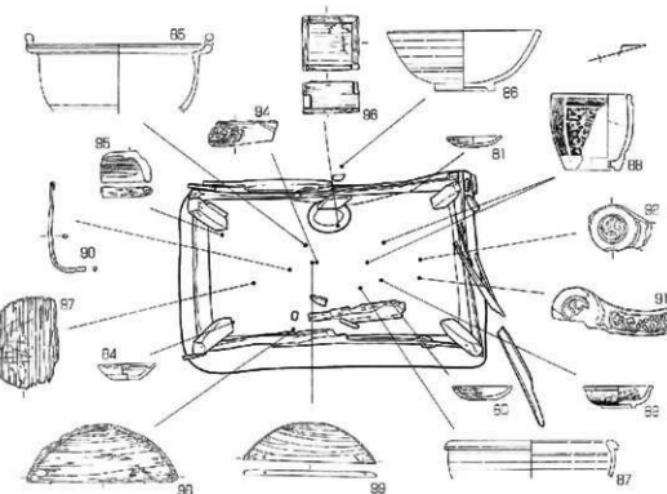
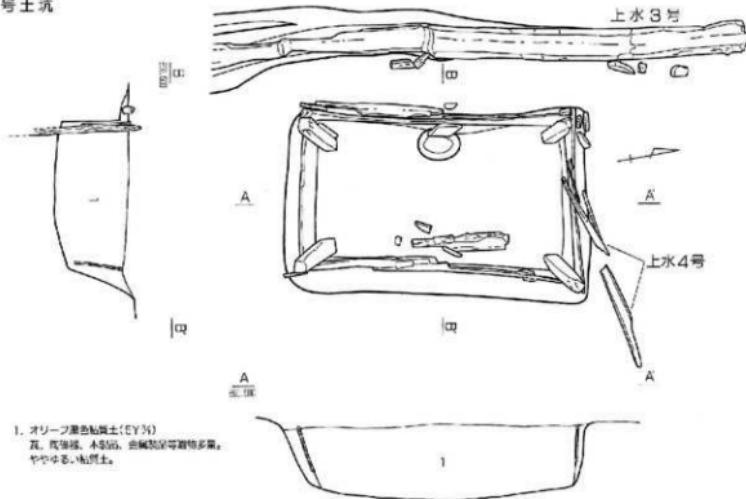


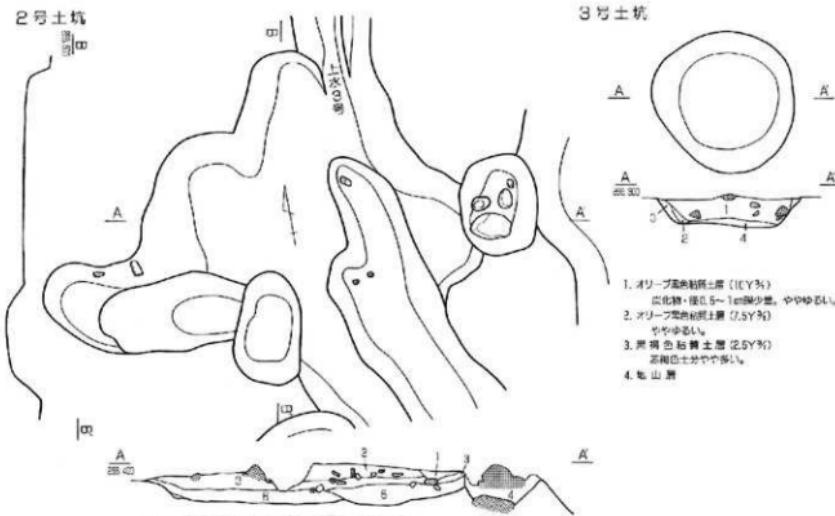
図21 13号溝構造図

1号土坑



0 (1:25)
50cm
(縮尺のみ)

図22 1号土坑、上水3・4号遺構図



- オリーブ色鉢巻土糞（5Y5R）妙分重葉。ややしまる。
 - オリーブ色鉢巻土糞（10Y5R）妙分重葉。ふたず。黒褐色混入しまる。
 - 黒リリーフ鉢巻土糞（7.5Y5R）妙分重葉。やや少しい。
 - オリーブ色鉢巻土糞（7.5Y3R）木片混入。しまる。
 - 黒色鉢巻土糞（10Y4R）妙やうい。
 - にじ色鉢巻土糞（10Y4R）妙やうくしめる。

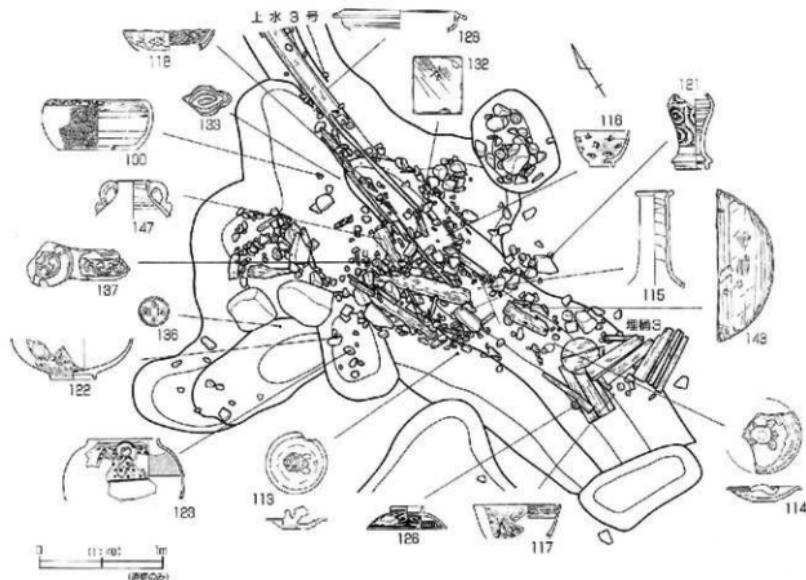


図23 2・3号土坑遺構図

14号土坑

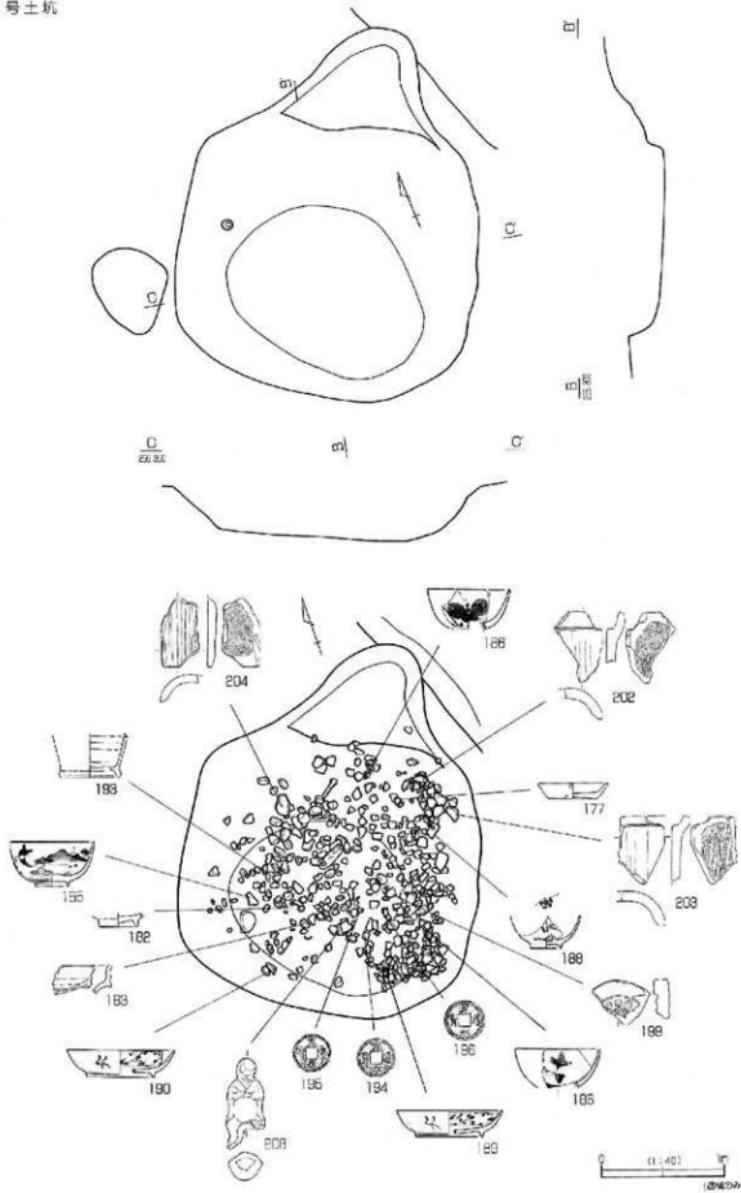
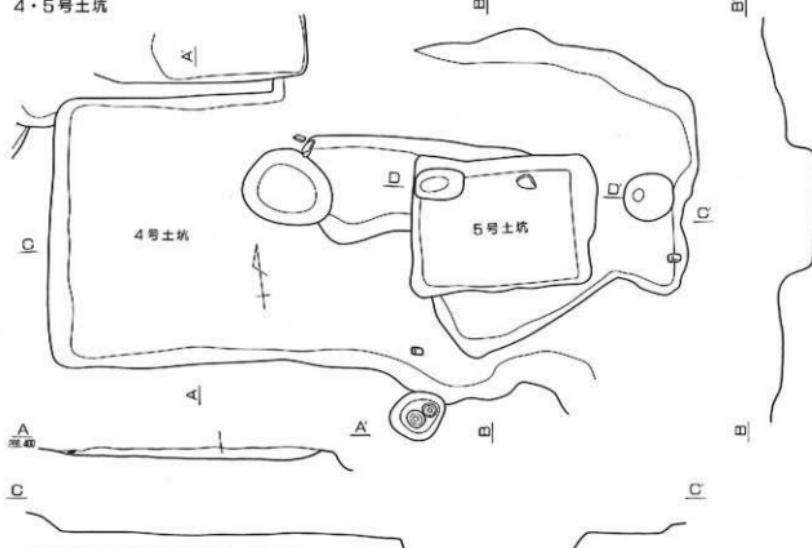


图24 14号土坑遗构图

4・5号土坑



5号土坑

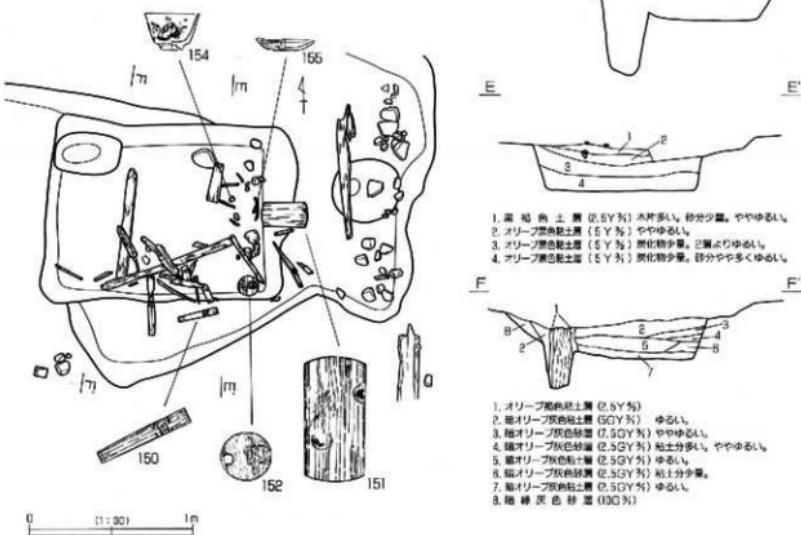
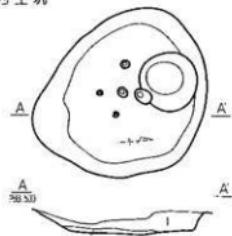


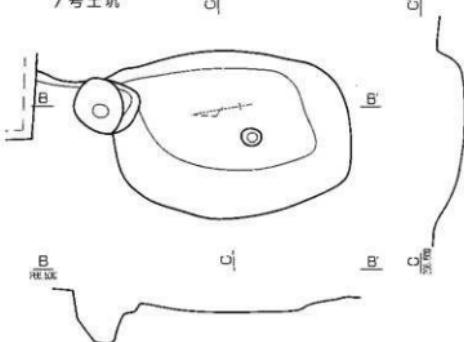
図25 4・5号土坑造構図

6号土坑

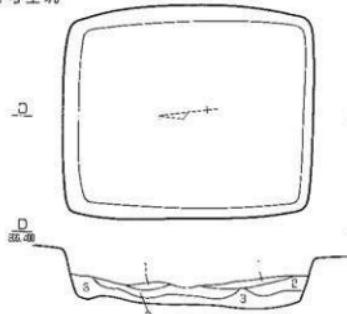


1. 黄色粘質土層 (0.5Y 5/6) 土器の出土。ややゆるい。
2. 黄褐色土層 (2.5Y 5/6) 地面層

7号土坑

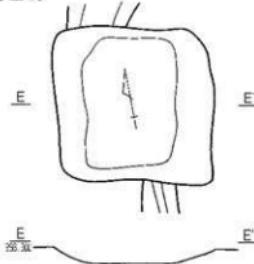


8号土坑

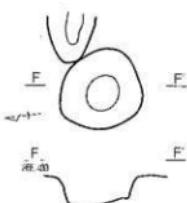


1. オリーブ褐色粘土層 (5Y 5/6) 小木片、骨質。甚少。ややゆるい。
2. ライム英の粘質土層 (1Y 5/6) 1層とほの凹凸があるが土器七物が埋め込まれた。
3. オリーブ褐色粘土層 (7.5Y 5/6) 骨・木片微量。ややゆるい。

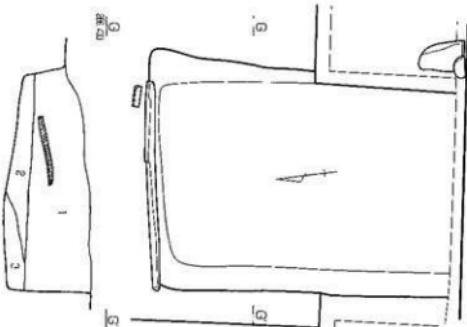
9号土坑



10号土坑



12号土坑



1. 灰色粘土層 (5Y 5/6) 木片多量。甚少。ややゆるい。
2. 灰色粘土層 (7.5Y 5/6) ゆるい粘土。
3. 深灰色土層 (10Y 5/6) 木片微量。ややゆるい。

0 (1:40) 1m
B / 25m

0 (1:20) 50cm
B. C. D. E. F. 土坑

図26 6~10・12号土坑遺構図

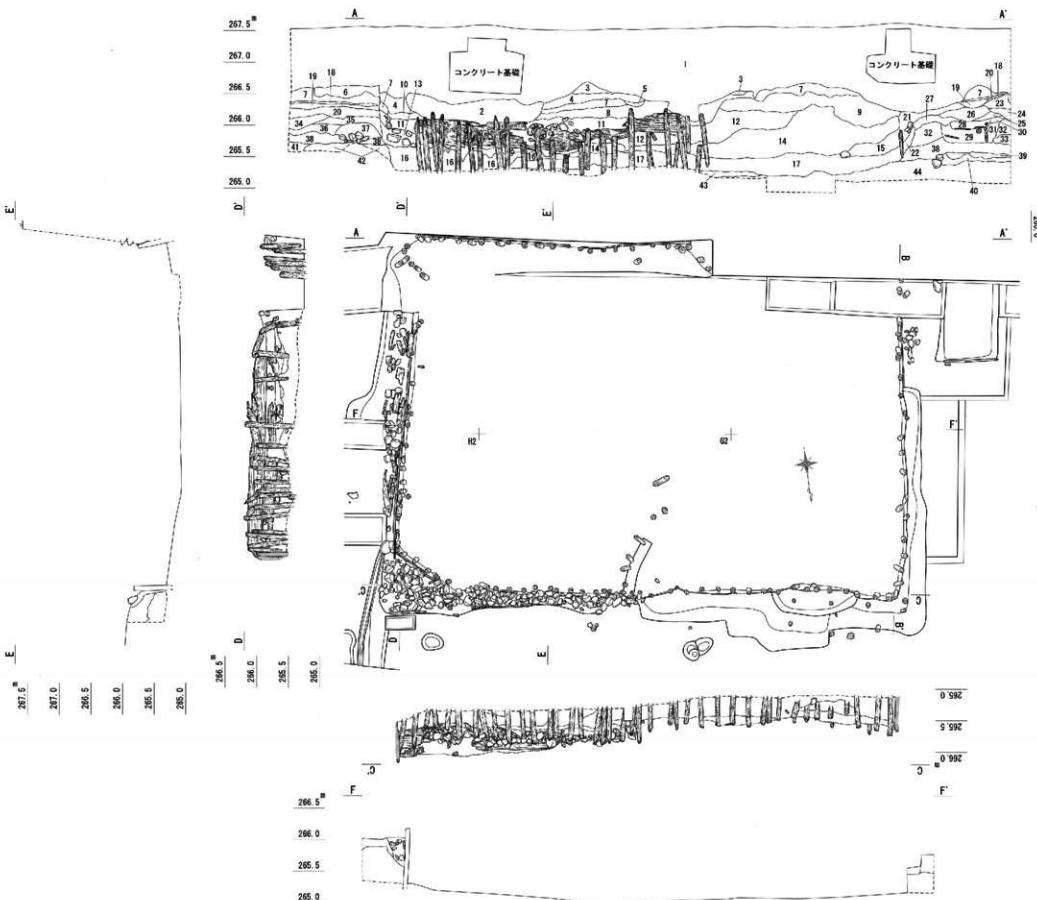
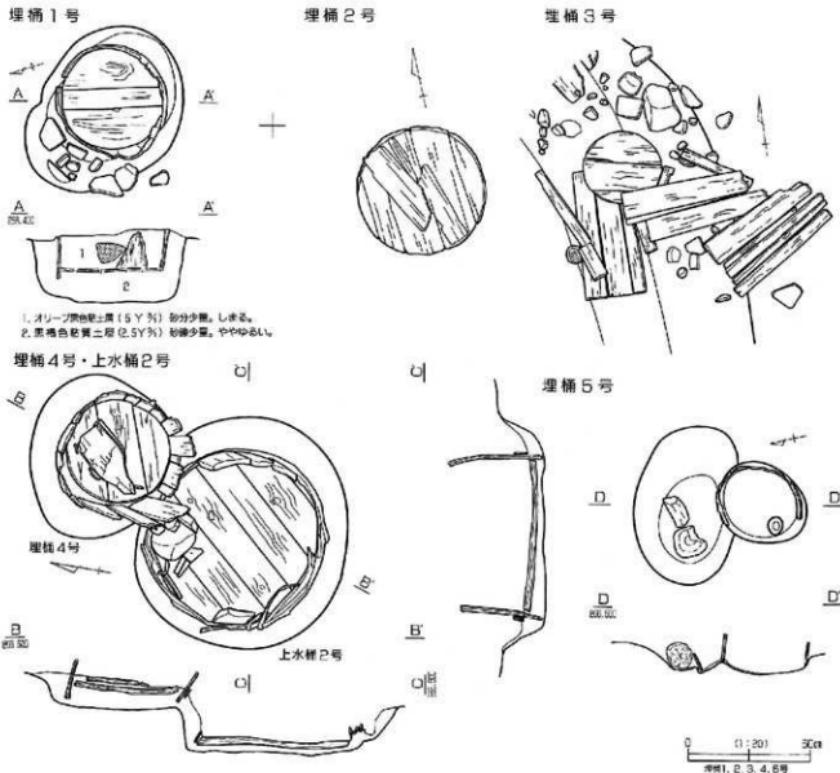


図27 11号土坑造構図

11号土坑造構図

1. 地盤
2. 砂質粘土層 [253/2] やや硬い。
3. 砂質粘土層 [253/2] 色白。含水や少し。しまる。
4. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。成層化。
5. 黄褐色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
6. オリーブ色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。成層化。
7. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
8. オリーブ色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。成層化。
9. オリーブ色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
10. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。成層化。
11. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
12. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。成層化。
13. 黄褐色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。成層化。
14. オリーブ色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
15. 黄褐色粘土層 [253/3] 土色白。含水や少し。成層化。
16. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
17. 黄褐色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
18. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
19. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
20. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
21. 黄褐色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
22. 黄褐色土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
23. 黄褐色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
24. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
25. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
26. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
27. オリーブ色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。成層化。
28. オリーブ色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
29. 成層リーフ粘土層 [253/2] 大火成。含水や少し。
30. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
31. オリーブ色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
32. オリーブ色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
33. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
34. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
35. 黄褐色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
36. オリーブ色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。成層化。
37. 黄褐色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
38. オリーブ色粘土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
39. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
40. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
41. 黄褐色粘土層 [253/2] 土色白。含水や少し。
42. 成層リーフ粘土層 [253/3] 大火成。含水や少し。
43. オリーブ色粘土層 [253/4] 土色白。含水や少し。
44. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。
45. 黄褐色土層 [253/1] 土色白。含水や少し。



埋箱、材 展開図

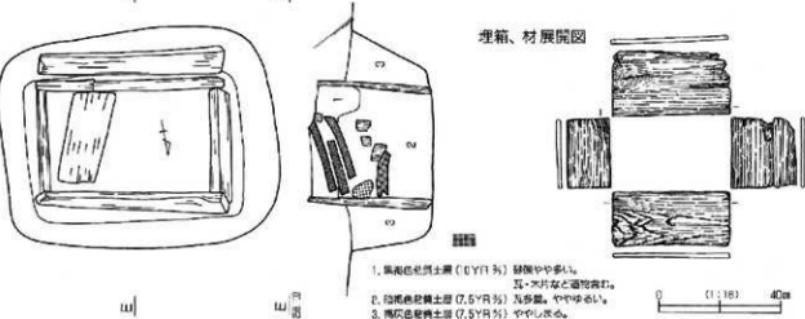


図28 埋桶 1～5号、上水桶 2号、埋箱 1号構造図

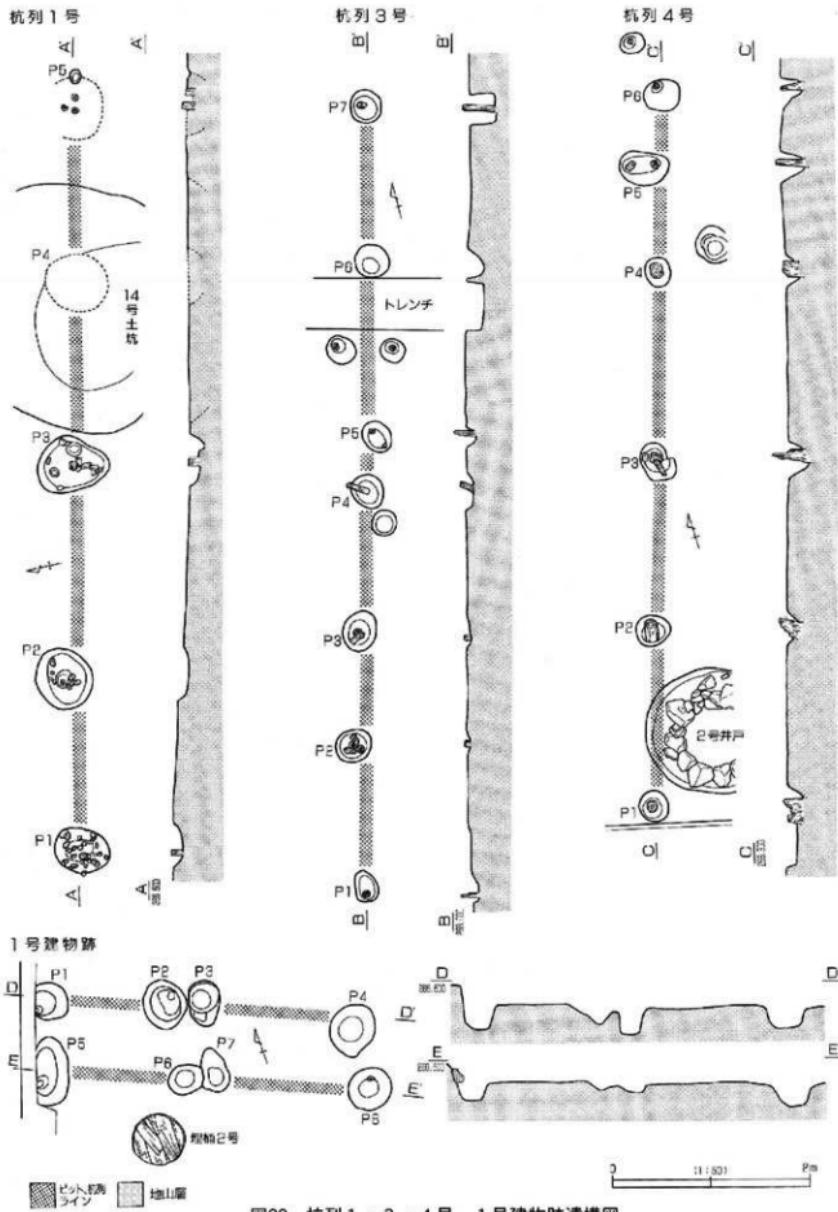


図29 杭列 1・3・4 号、1号建物跡遺構図

8

7

6

5

4

3

2

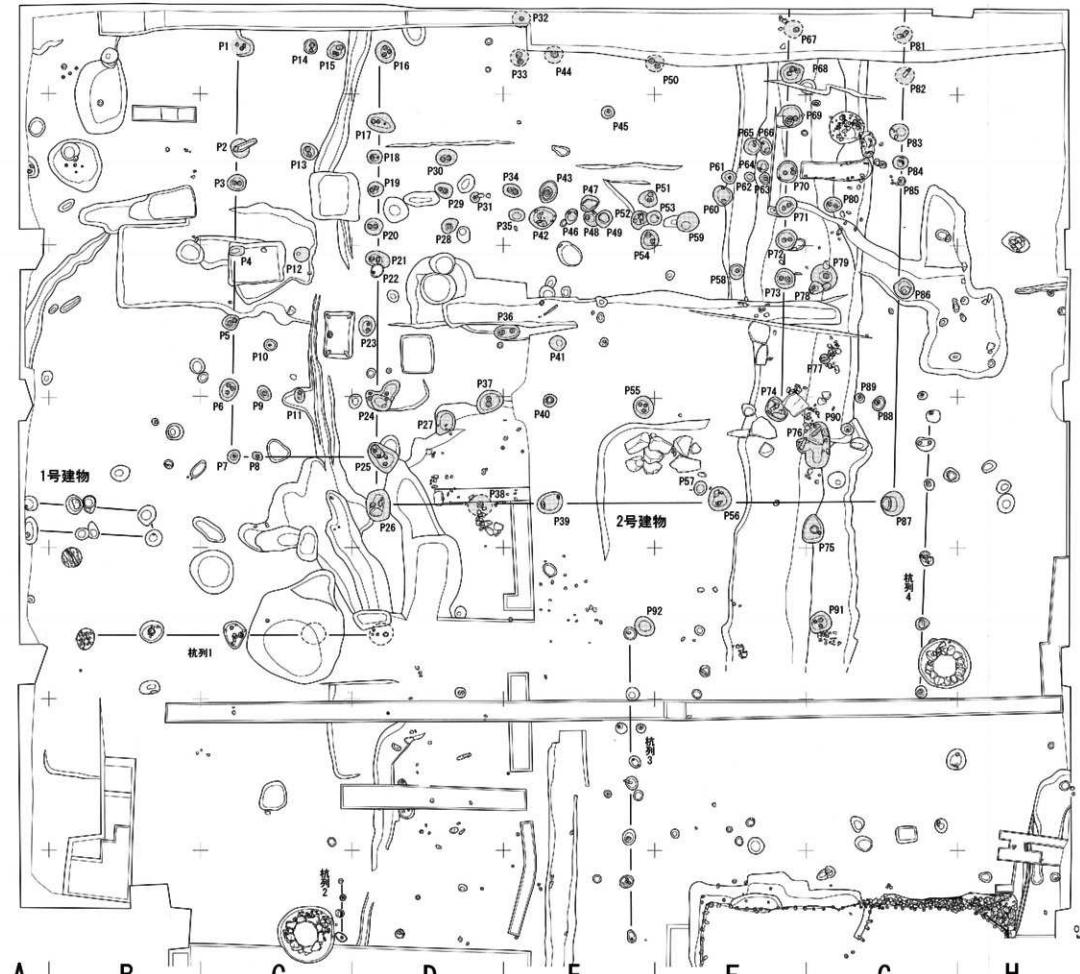


図30 2号建物跡配置図

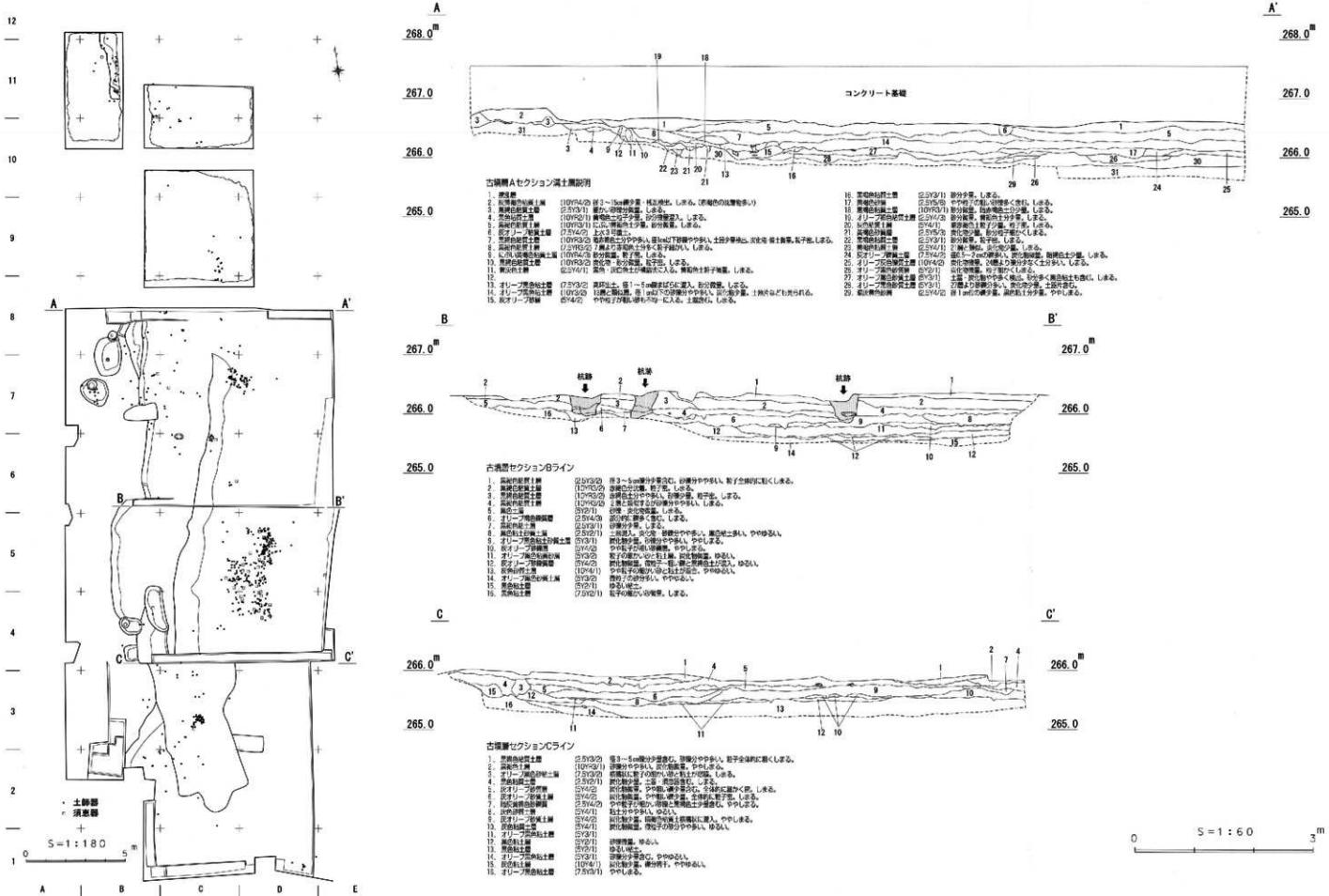


図31 古墳時代堆積層図

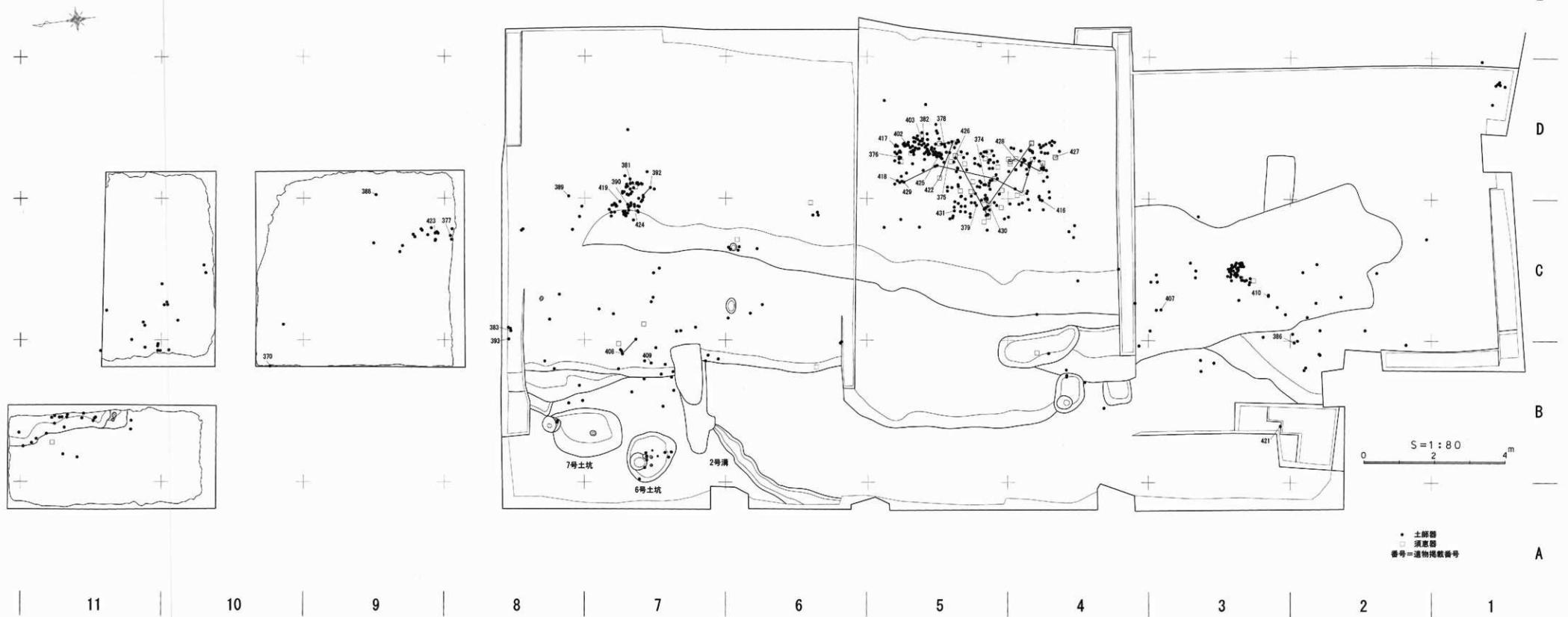
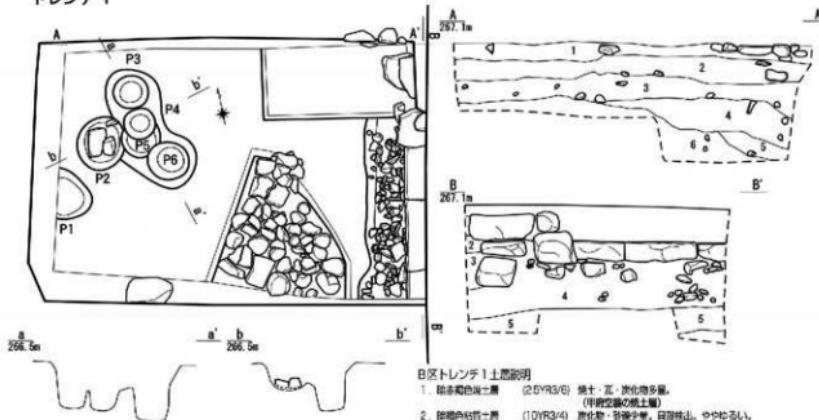
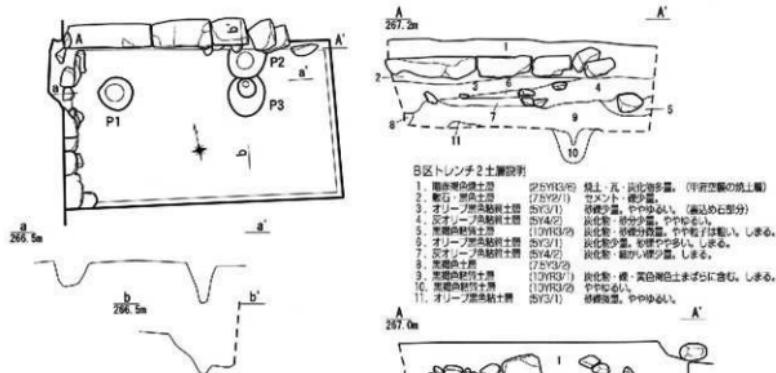


図32 古墳時代遺物分布図

トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3

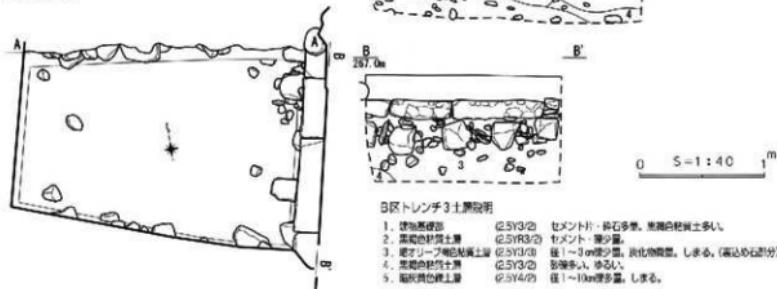
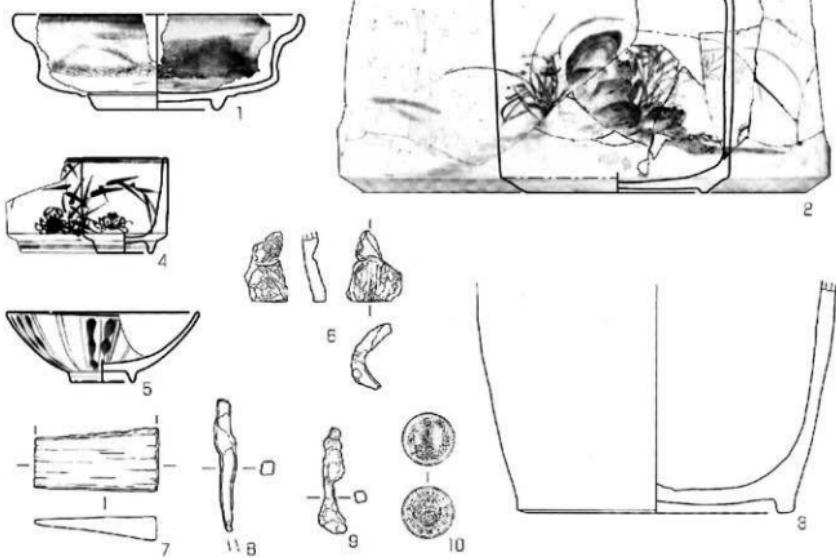


図33 B区トレンチ1～3遺構図

上水 1 号



上水 2 号

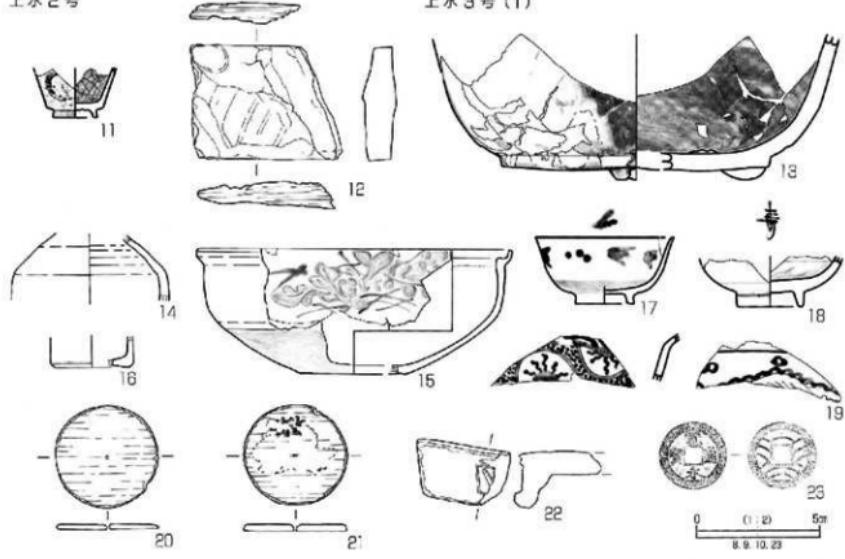


图34 A区 上水1·2号出土遗物

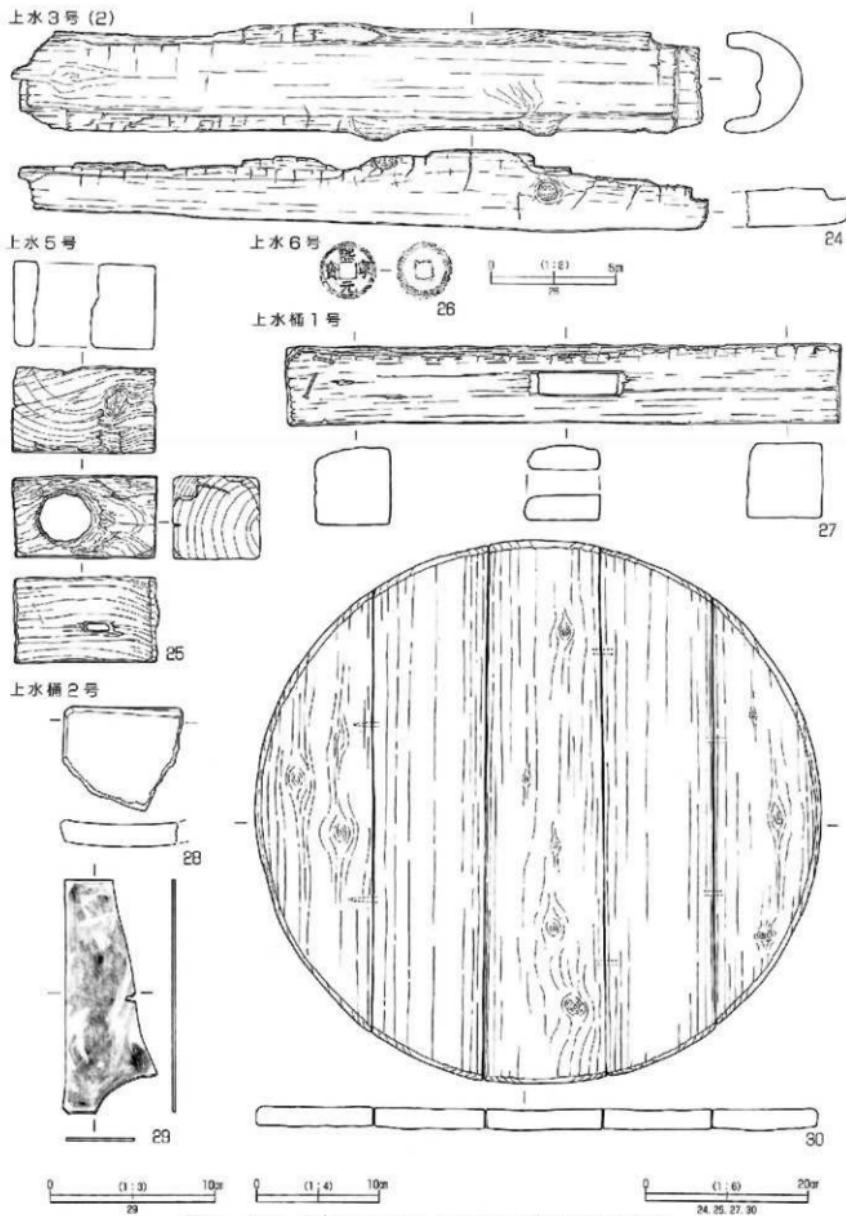


图35 A区 上水3·5·6号、上水桶1·2号(1)出土遗物

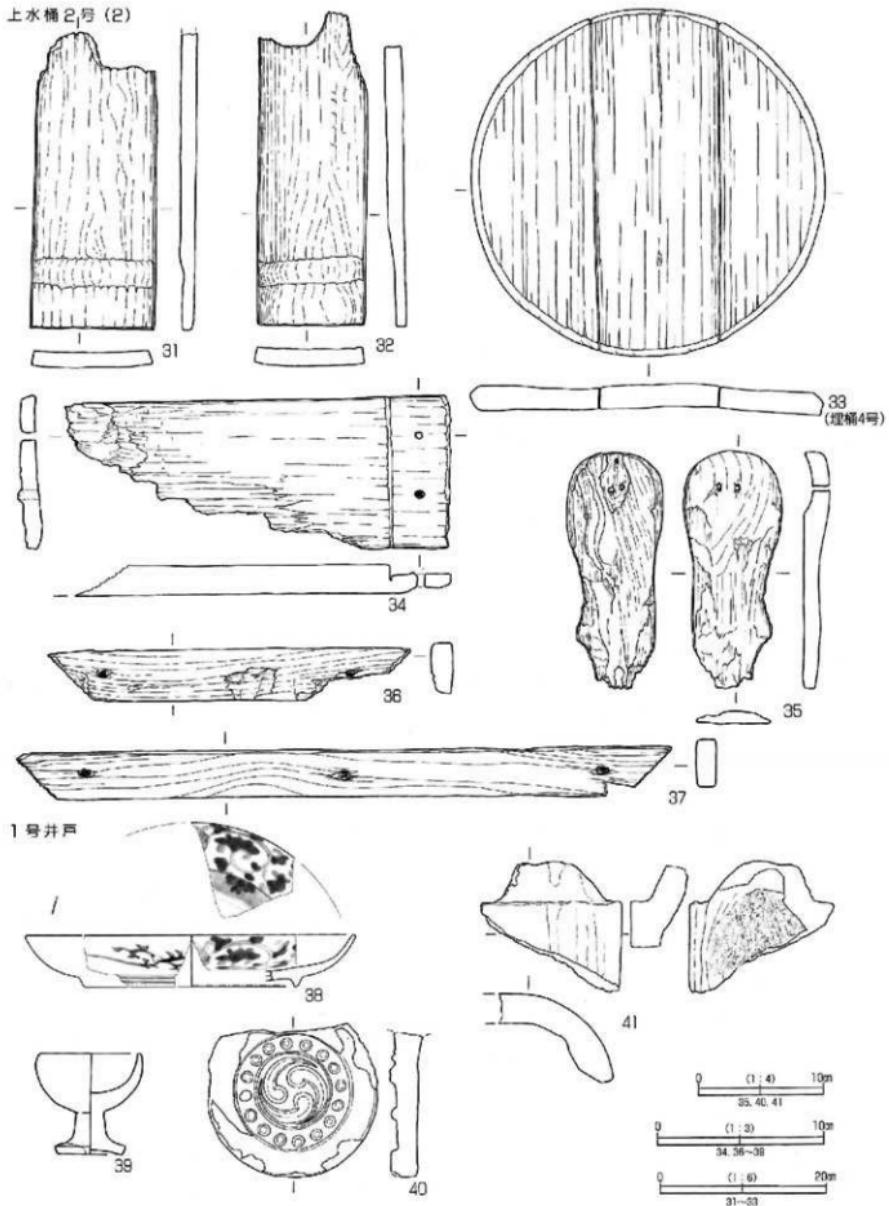


図36 A区 上水桶2号(2)、1号井戸(1)出土遺物

1号井戸(2)

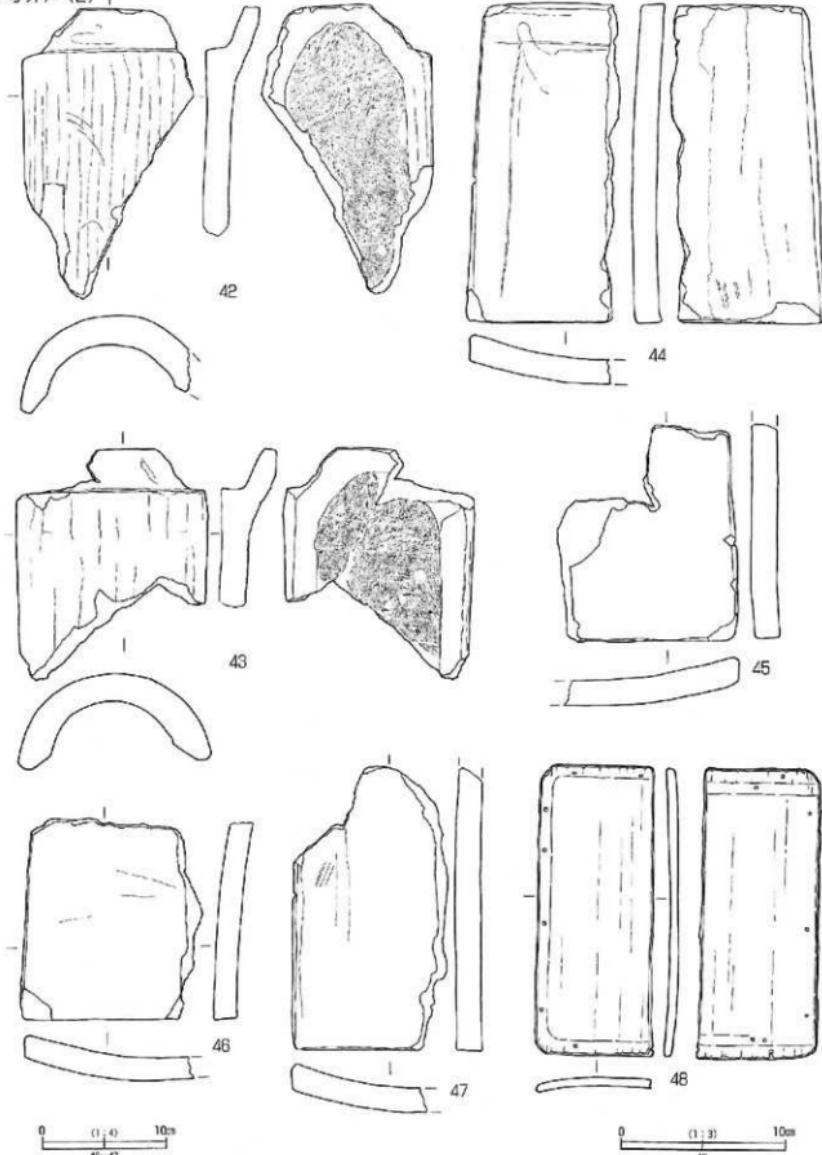


図37 A区 1号井戸(2)出土遺物

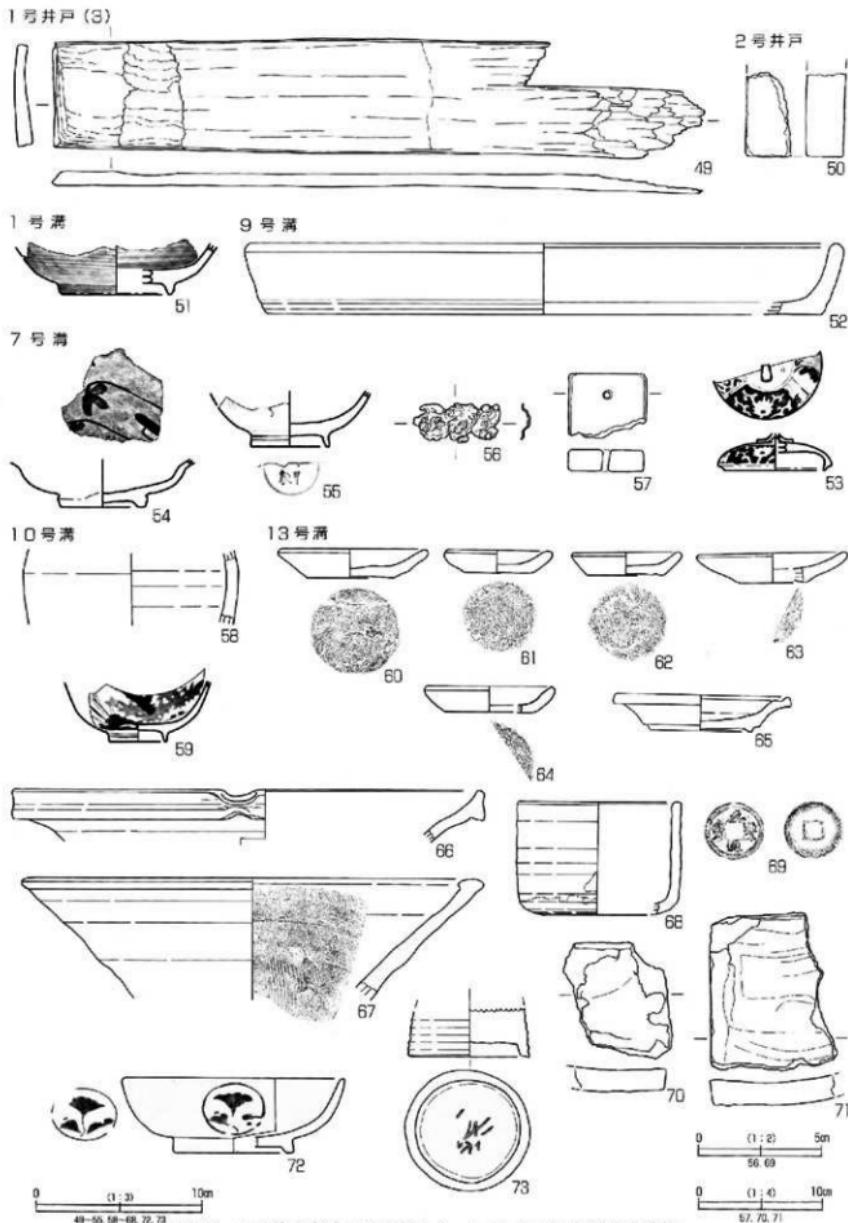


図38 1号井戸(3)、2号井戸、1・7・9・10・13号溝出土遺物

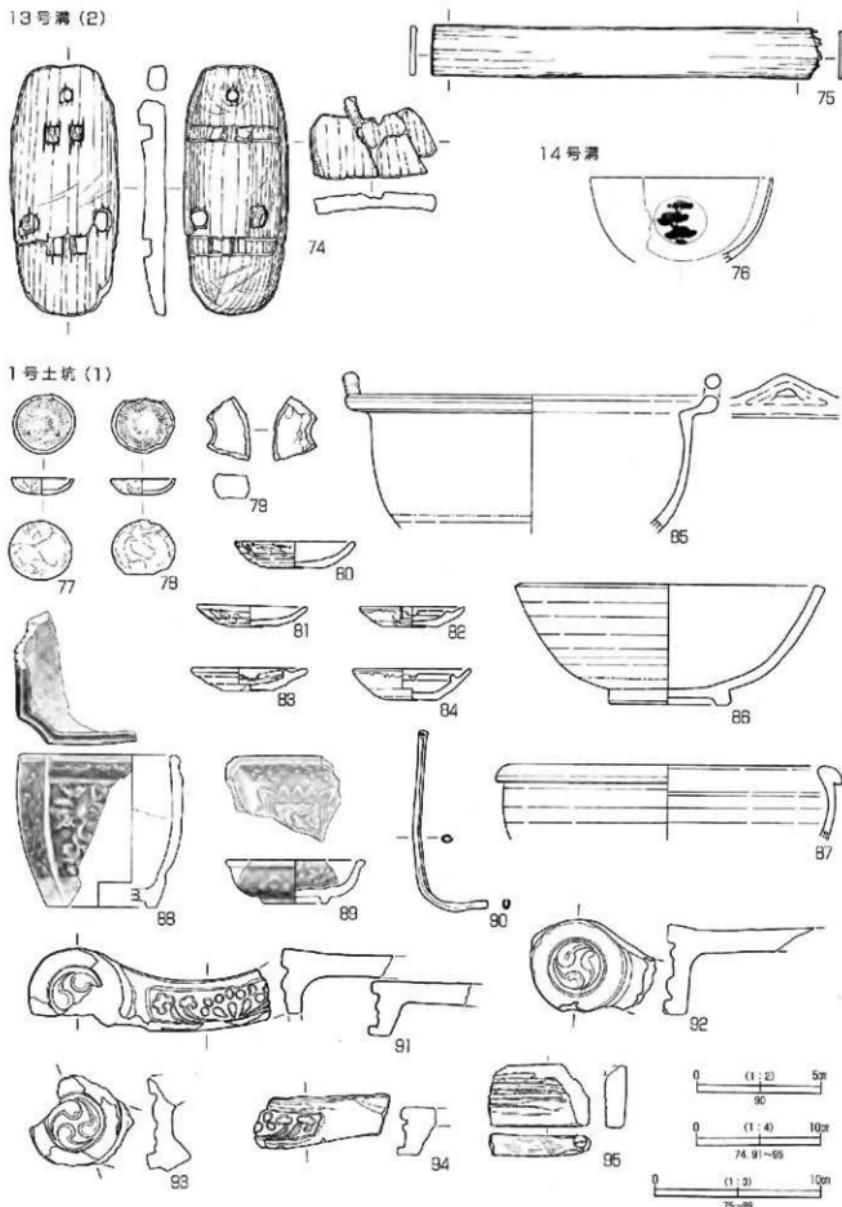


図39 A区 13・14号溝、1号土坑(1)出土遺物

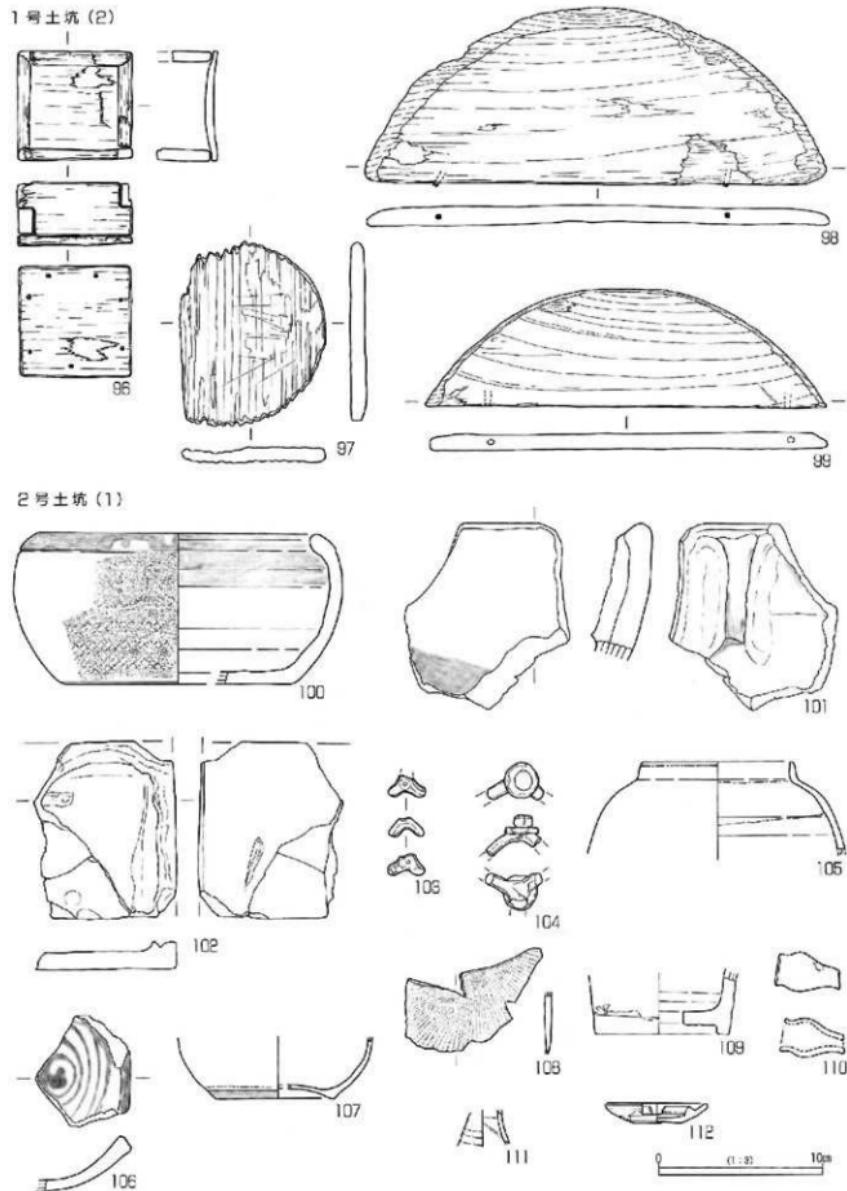


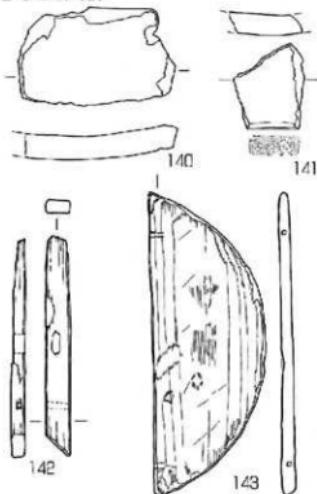
图40 A区 1号土坑(2)、2号土坑(1)出土遗物

2号土坑(2)

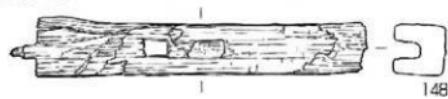


图41 A区 2号土坑(2)出土遗物

2号土坑(3)



3号土坑



4号土坑

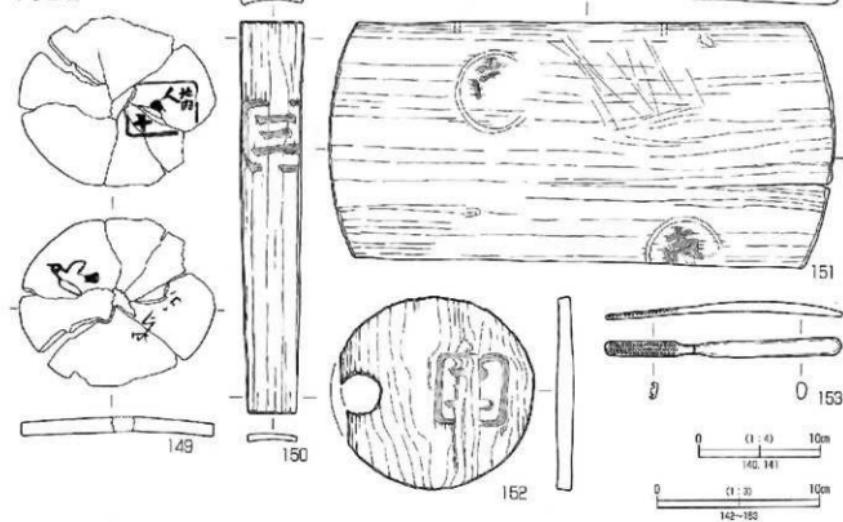
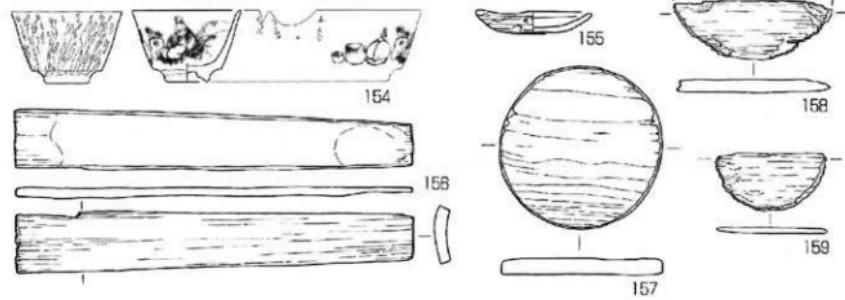
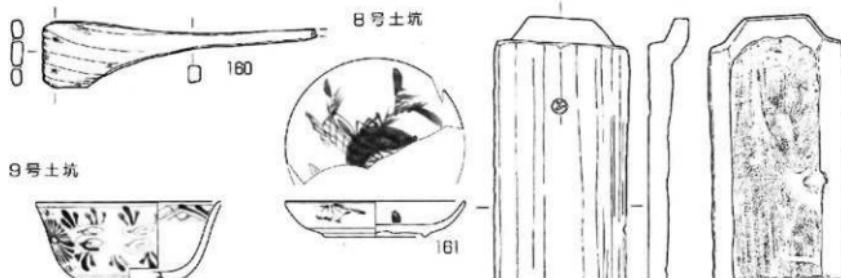


図42 A区 2号土坑(3)、3・4号土坑出土遺物

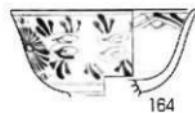
5号土坑



8号土坑



9号土坑



11号土坑

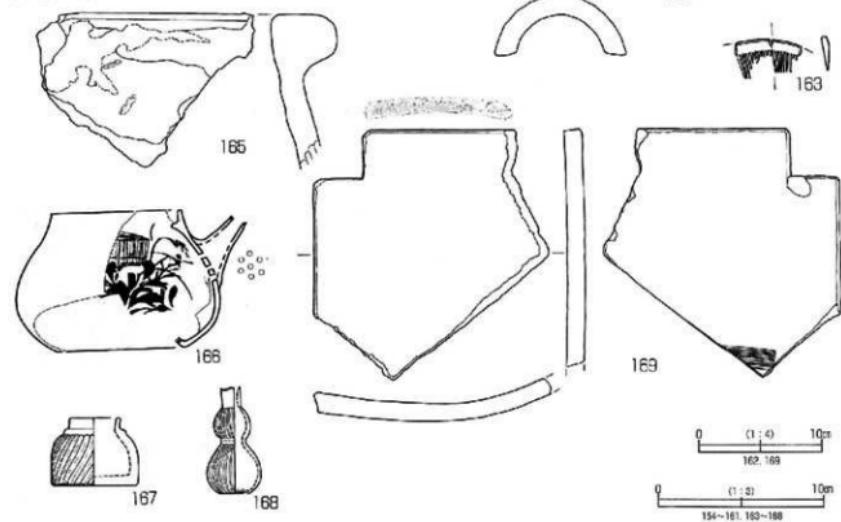
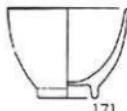
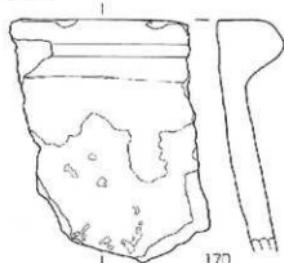


图43 A区 5·8·9·11号土坑出土遗物

12号土坑

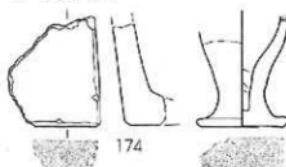


170

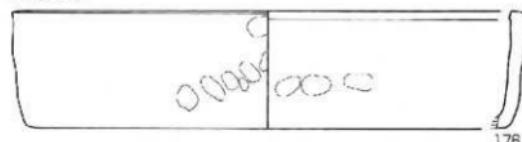
171

172

E-3グリッド



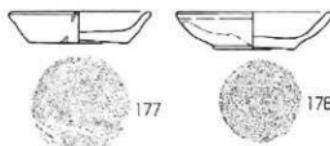
14号土坑



174

175

176



177



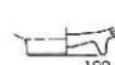
178



180



181



182



183



184



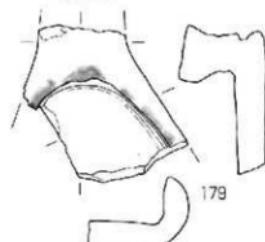
185



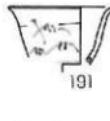
186



187



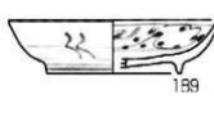
179



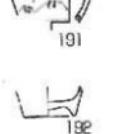
191



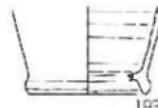
188



189



192

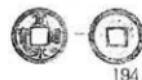


193

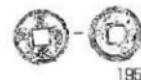
0 (1:2) 5cm
194-195

0 (1:4) 10cm
173

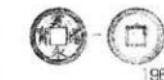
0 (1:3) 10cm
171, 172, 174-189



194



195



196

図44 A区 12・13・14号土坑、E-3グリッド出土遺物

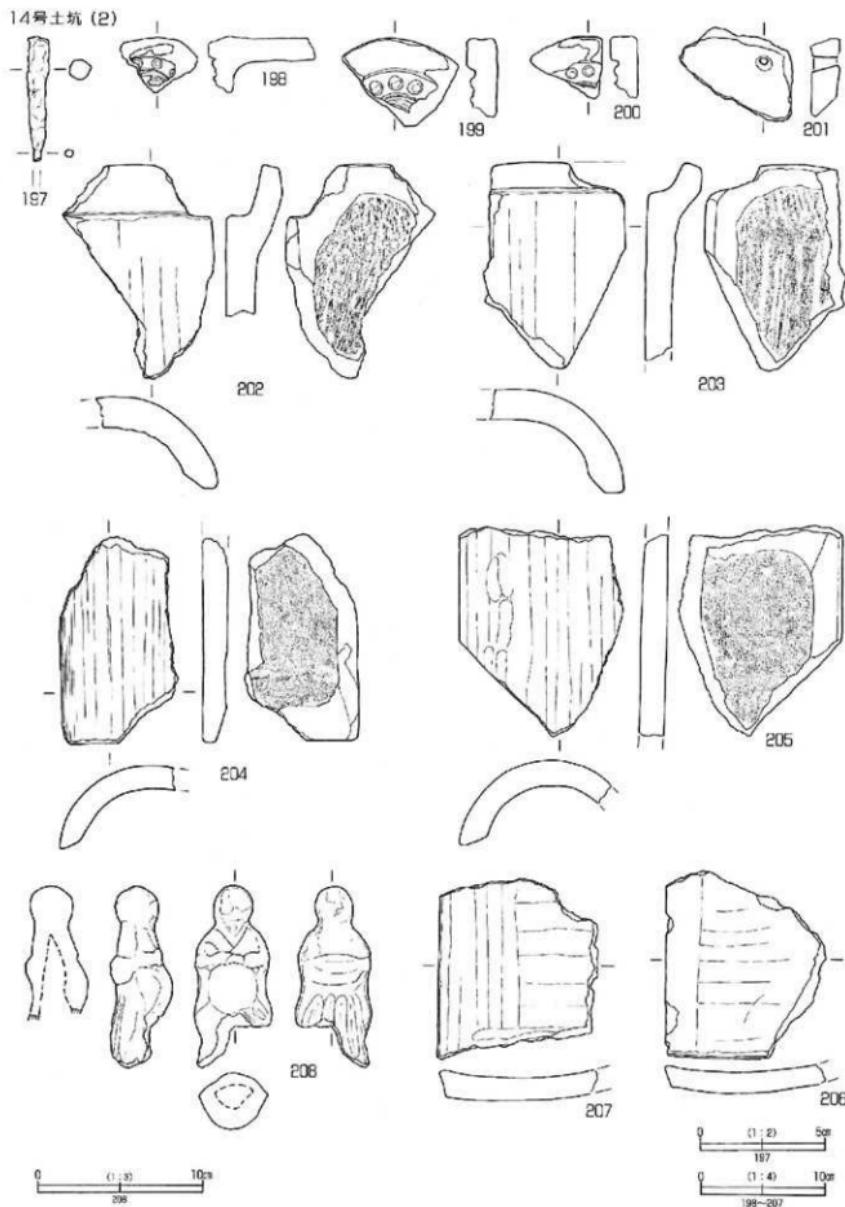
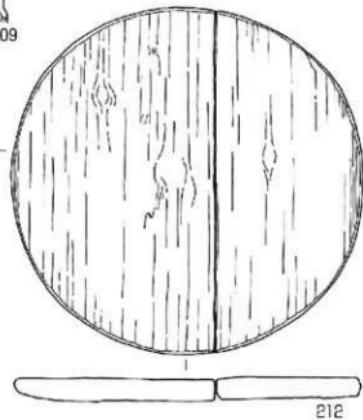


图45 A区 14号土坑(2)出土遗物

集石 2 号



埋桶 1 号



210

211

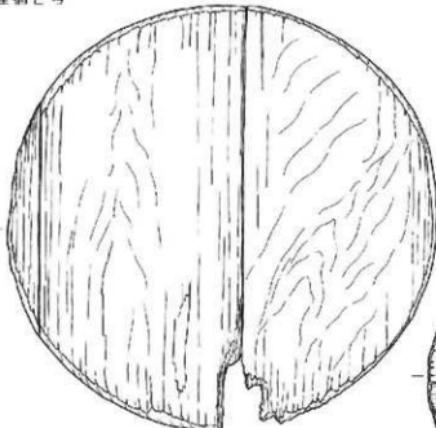
212

213

214

215

埋桶 2 号



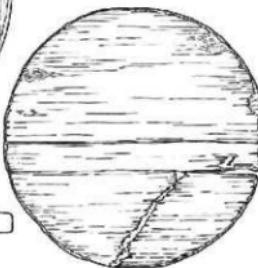
216

0 (1-2) 5cm
210-211

0 (1-3) 10cm
212-213

0 (1-6) 20cm
214-217

埋桶 3 号



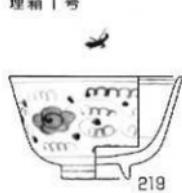
217



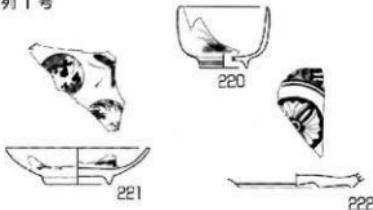
218

図46 A区 集石 2号、埋桶 1~3号出土遺物

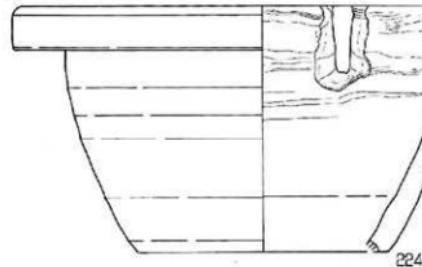
埋箱1号



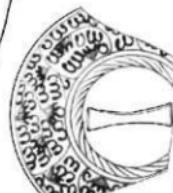
杭列1号



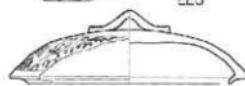
A-1



A-1・2

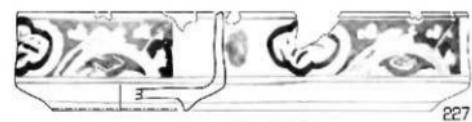
226
227

228



229

230

230
231

232

A-9



B-4・5



234

235

B-7・8



236

237



237

238



238



239

239

239

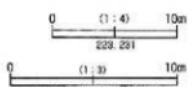


図47 A区 埋箱1号、杭列1号、A-1~3・9、B-3~5・7・8グリッド出土遺物

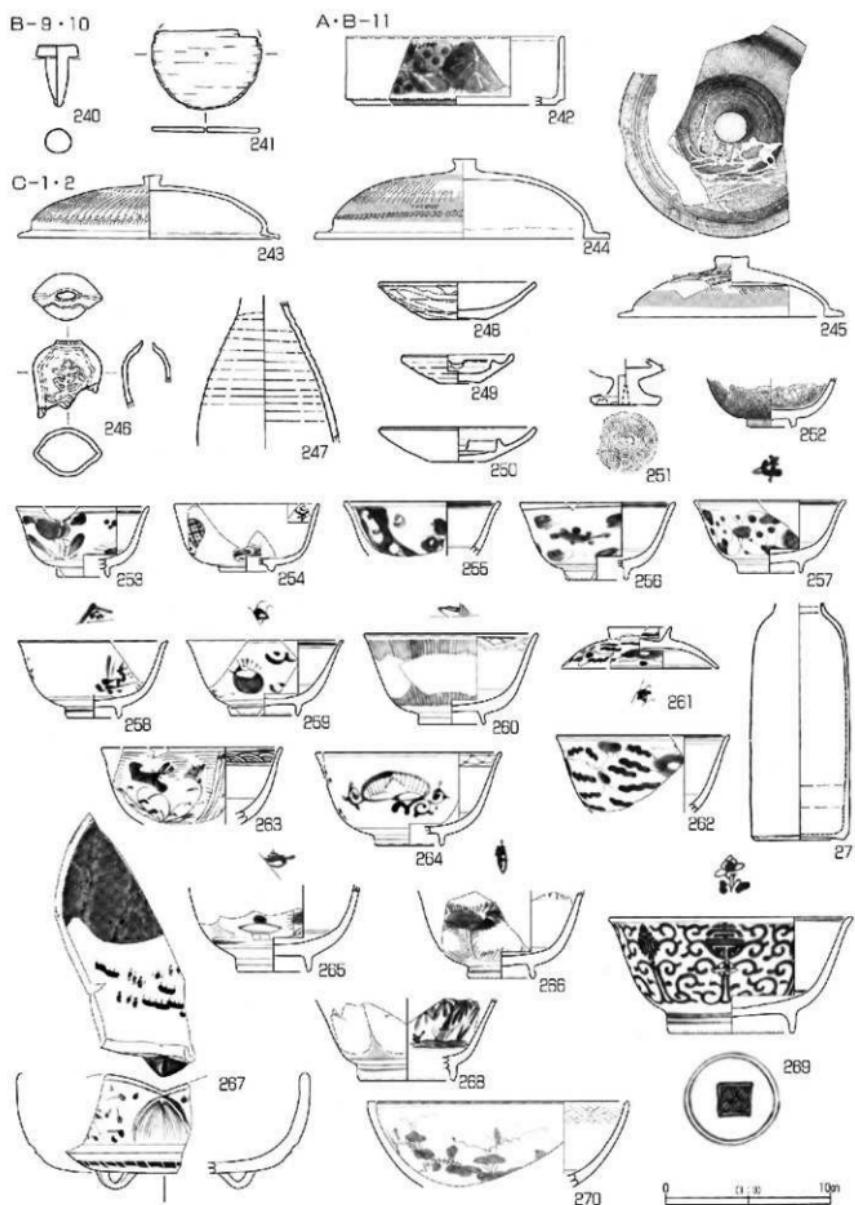
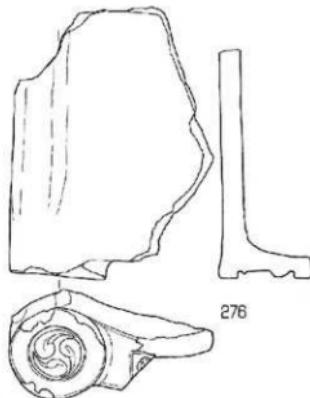
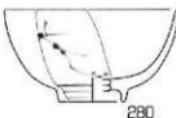
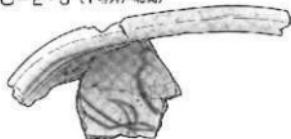


図48 A区 B-9・10,A・B-11,C-1・2グリッド出土遺物

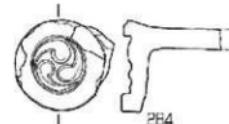
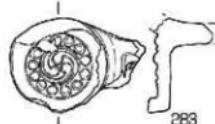
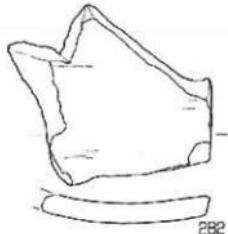
C-1・2



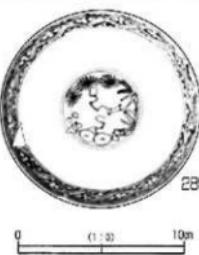
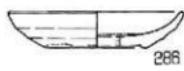
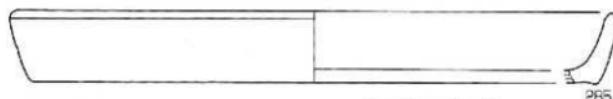
C-2・3 (1号井戸北側)



C-4・5



C-6



0 (1:4) 10cm
276 282~284

0 (1:3) 10cm

図49 A区 C-1~6グリッド出土遺物

C-6



290

B-10-11



292



293



294



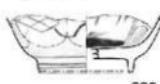
290



294

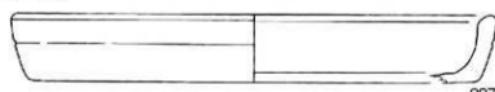


295



296

D-1・2



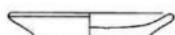
297



291



298



299



300



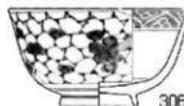
301



302



303



304



304



305



306



307

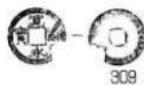
0 (1:3) 10cm

図50 A区 C-6、B-10-11、D-1・2 グリッド出土遺物

D-1・2



308

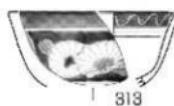


309

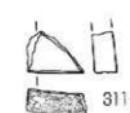
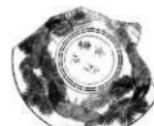


310

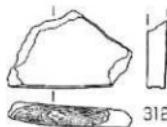
D-3



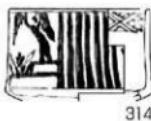
313



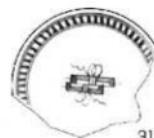
311



312



314



315

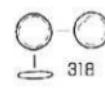
D-4・5



316

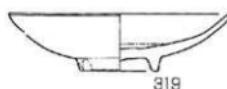


317



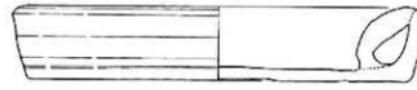
318

E-1



319

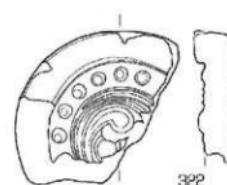
E-3



320



321



322



323

E-7

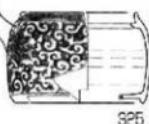


324



324

E-8



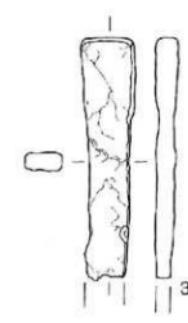
325



327



326



328

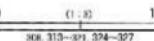
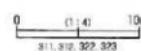
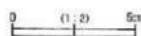
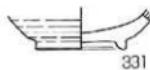
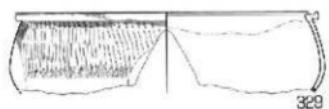
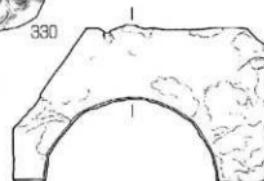
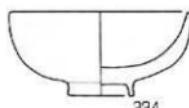
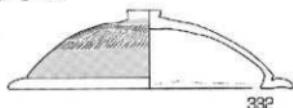


図51 A区 D-1～5、E-1・3・7・9グリッド出土遺物

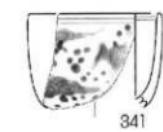
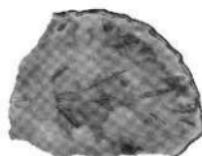
F-2・3



G-9・10



H-1・2



F-3

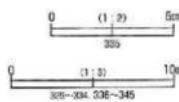
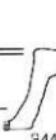
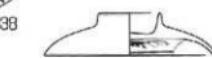


図52 A区 F-2・3, G-9・10, H-1・2, F-3グリッド、A区一括出土遺物

A 区

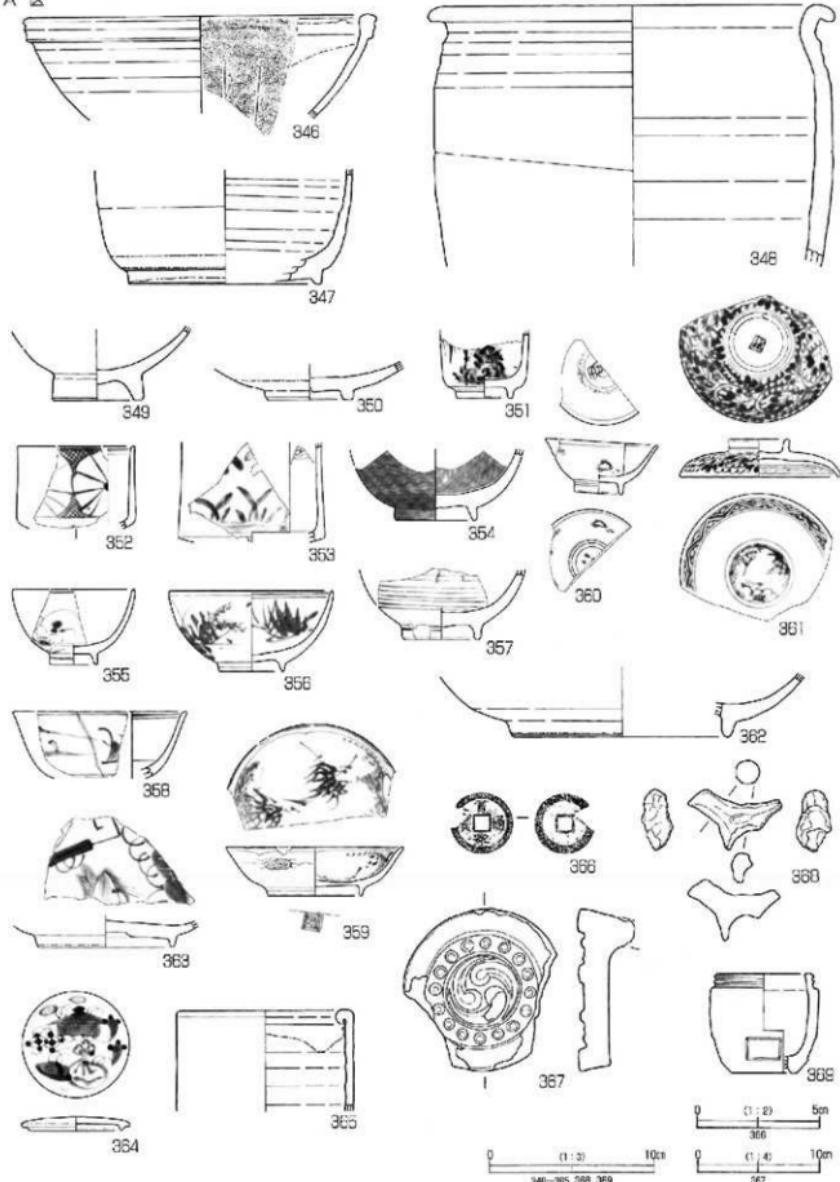
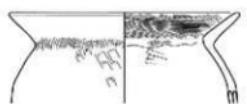
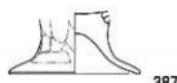
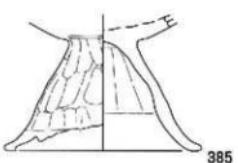
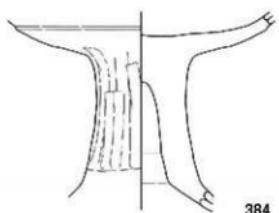
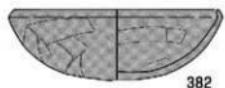
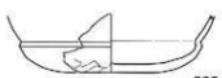
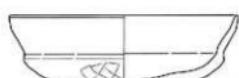
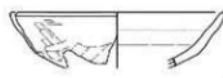
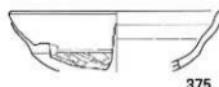
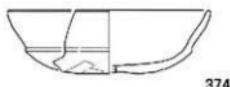
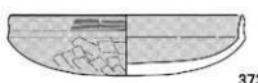
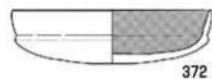
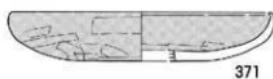
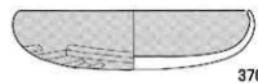
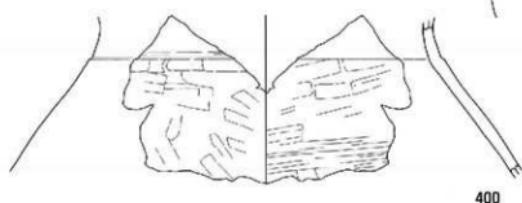
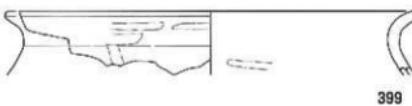
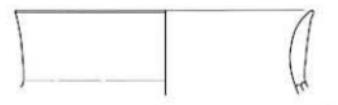
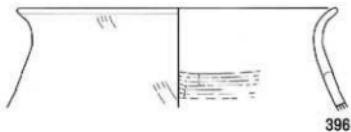
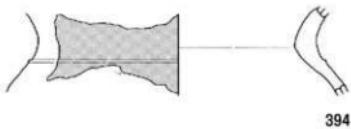
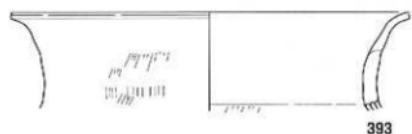
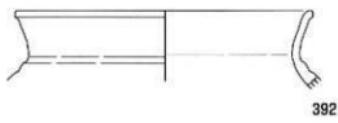
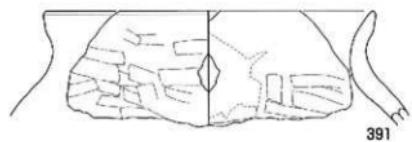


图53 A区一括出土遗物



0m (1:3) 10m

図54 A区古墳時代出土遺物(1)



0m (1:2) 10m

图55 A区古墳時代出土遺物(2)

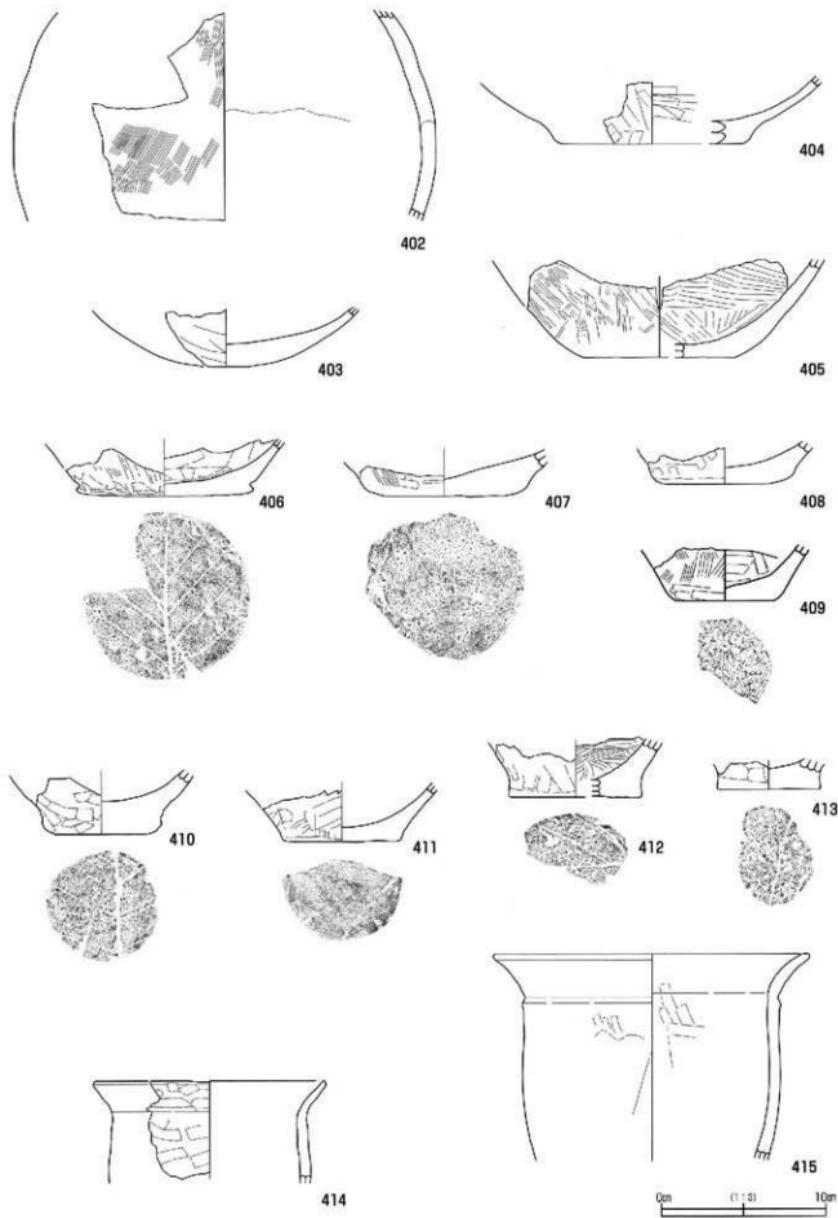


図56 A区古墳時代出土遺物(3)



416



418



417



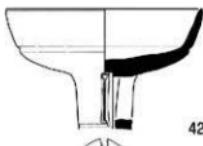
419



420



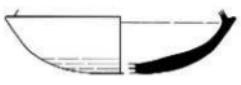
421



422



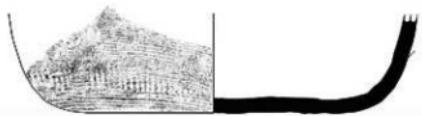
423



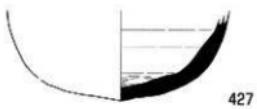
424



425



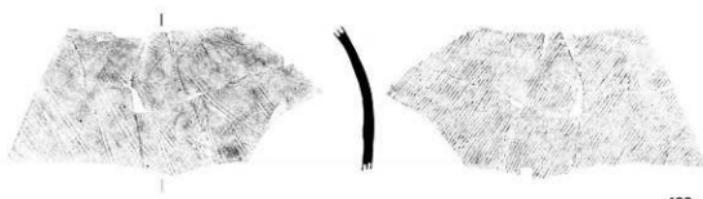
426



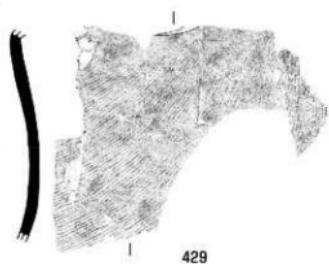
427



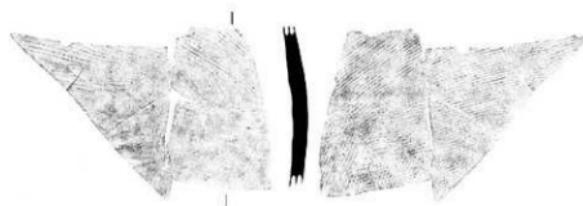
图57 A区古墳時代出土遺物(4)



428



429



430

0m (1:4) 10cm



431

0m (1:2) 10cm

図58 A区古墳時代出土遺物(5)

B区トレント

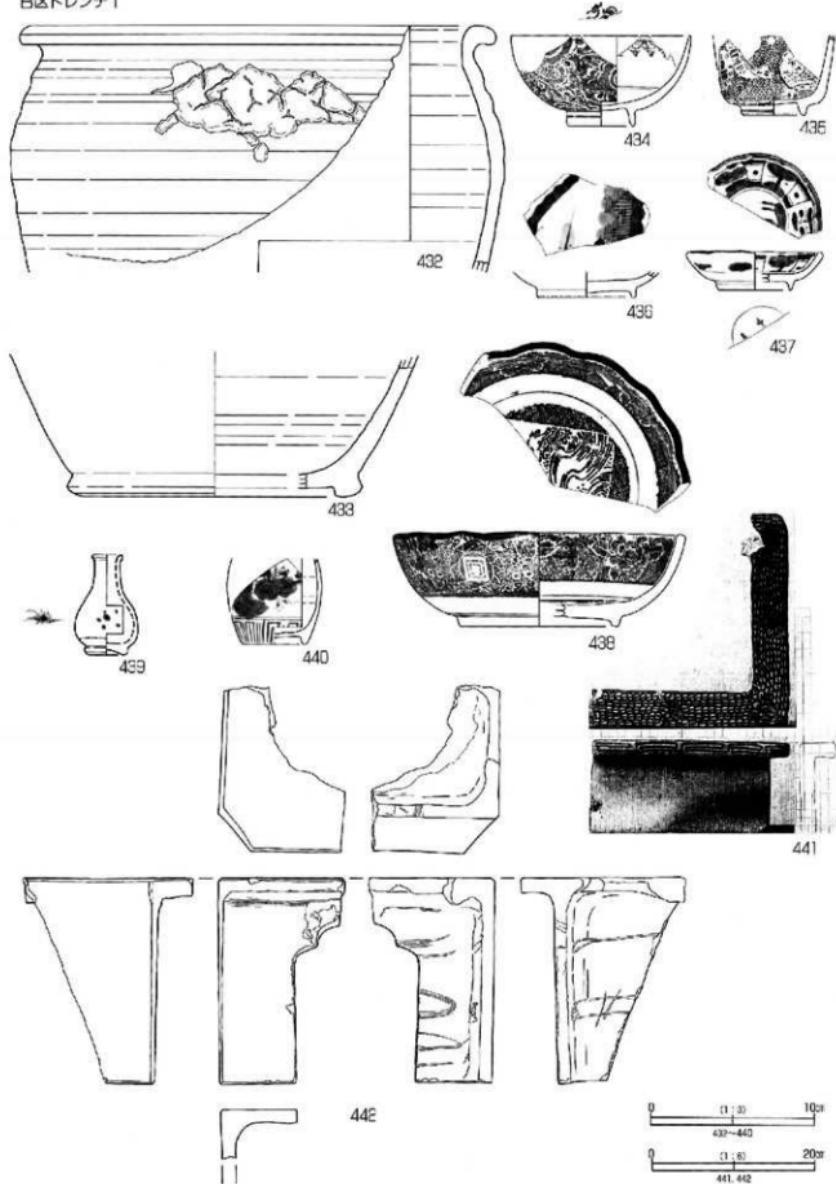


図59 B区 トレンチ1・2出土遺物

番号	遺構名	種別	器形	口径 (cm)	底高 (cm)	通径 (cm)	口径 (cm)	底 高 (cm)	所見(鑿影)	色調	胎土	含物	操作手	時代	備考
1	上水 1号	陶器	鉢	(17.0)	5.5	7.4	□	□	操作手	黒	密	50	瀬戸 19C		
2	上水 2号	陶器	火鉢	(12.7)	12.7	10.8	□	□	操作手	黒	密	80	近代		
3	上水 3号	陶器	鉢	-	-	(18.0)	□	□	操作手	黒	密	40			
4	上水 4号	陶器	小盆	4.6	5.8	3.3	□	□	操作手	黒	密	60	瀬戸 19~20C		
5	上水 5号	磁器	小盆	(11.4)	5.3	3.6	□	□	操作手	黒	密	60	近代		
6	上水 6号	土製品	土入形	-	-	-	□	□	操作手	黒	密	100			
7	上水 7号	土製品	桶	桶	7.5	7.5	厚さ0.5	重量9.2g	操作手	石英、長石	小片	70	近世		
8	上水 8号	金屬製品(鉄)	角引鉗	長さ(6.5)	-	厚さ0.5	重量4.9g	-	-	-	-	-	100	明治10年代	
9	上水 9号	金屬製品(鉄)	角引鉗(古式半脱)	長さ(3)	-	厚さ0.5	重量4.9g	-	-	-	-	-	70	近世	「明治十口年」
10	上水 10号	金屬製品(鉄)	古式半脱	長さ(2.9)	厚さ0.3	重量3.8g	□	□	操作手	黒	密	60	相模 五代	内面に入	
11	上水 11号	金屬製品(鉄)	小盆	-	-	-	□	□	操作手	黒	密	20	相模 五代	側面スリットあり	
12	上水 12号	金屬製品(鉄)	盤石	盤 S.0	幅2.0	厚さ1.5	□	□	操作手	白釉・輪物	密	50	瀬戸 19C		
13	上水 13号	金屬製品(鉄)	鉢	(6.6)	-	-	□	□	操作手	白釉	密	50	瀬戸 19C		
14	上水 14号	金屬製品(鉄)	蓋	-	-	-	□	□	操作手	白釉	密	40	近代	外面 底部スリット有	
15	上水 15号	金屬製品(鉄)	土鍋	(19.0)	7.1	(6.6)	□	□	操作手	白釉	密	50	瀬戸 19C		
16	上水 16号	金屬製品(鉄)	鋤	-	-	(4.4)	□	□	操作手	白釉	密	50	瀬戸 19C		
17	上水 17号	金屬製品(鉄)	鋤	-	-	4.1	□	□	操作手	白釉	密	50	瀬戸 19C		
18	上水 18号	金屬製品(鉄)	鋤	-	-	3.6	□	□	操作手	白釉	密	20	19C前半~後半		
19	上水 19号	金屬製品(鉄)	鋤	-	-	(2.8)	-	-	操作手	白釉	密	100	19C前半~後半		
20	上水 20号	木製品	虫の子竹板	直径8.2	-	厚さ0.4	孔0.1	-	-	-	-	-	100	付着物無	
21	上水 21号	木製品	虫の子竹板	直径8.3	-	厚さ0.5	孔0.1	-	-	-	-	-	100	付着物無	
22	上水 22号	金屬製品(鉄)	古式火鉢(火盆付)	直径16.6	厚さ2.8	重量4.7g	-	-	-	-	-	-	100	四文鏡 背海波紋	
23	上水 23号	木製品	木桶	直径M.0	径12.4	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、加工痕等	
24	上水 24号	木製品	木桶	不規則	直徑17.8	径10.2	高さ10.5	重量2.6g	操作手	黒	密	100	北安 級		
25	上水 25号	木製品	古式火鉢(火盆付)	直径M.0	直徑元14.0	直徑2.0	厚さ0.13	重量2.0g	-	-	-	-	100	側面に丸釘埋留。	
26	上水 26号	木製品	木桶	直徑17.5	径9.5	厚さ0.2	-	-	-	-	-	-	100		
27	上水 27号	木製品	木桶	-	-	-	厚さ0.2	-	-	-	-	-	100		
28	上水 28号	木製品	木桶	直徑6.0	-	厚さ0.15	-	-	-	-	-	-	100		
29	上水 29号	木製品	木桶	直徑30.8	径13.4	厚さ2.0	-	-	-	-	-	-	100	5枚の板で構成	
30	上水 30号	木製品	木桶	直徑36.6	径15.0	厚さ1.9	-	-	-	-	-	-	100	5枚の板で構成	
31	上水 31号	木製品	木桶	直徑42.5	径15.0	厚さ1.9	-	-	-	-	-	-	100	5枚の板で構成	
32	上水 32号	木製品	木桶	直徑23.2	径9.2	厚さ1.6	-	-	-	-	-	-	100	5枚の板で構成	
33	上水 33号	木製品	木桶	直徑19.3	径7.9	厚さ1.9	-	-	-	-	-	-	100	5枚の板で構成	
34	上水 34号	木製品	木桶	直徑22.2	径3.1	厚さ1.3	-	-	-	-	-	-	100	5枚の板で構成	
35	上水 35号	木製品	木桶	直徑40.3	径2.9	厚さ1.2	-	-	-	-	-	-	100	5枚の板で構成	
36	上水 36号	木製品	木桶	(19.8)	(12.8)	3.2	□	□	操作手	白釉	密	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
37	上水 37号	木製品	木桶	直徑39.0	径2.5	厚さ0.8	操作手	白釉	操作手	白釉	密	40	19C前半の木製脚ヶ所		
38	1号井戸	金屬製品	鉢	直徑17.7	径12.0	厚さ0.6	操作手	白釉	操作手	白釉	密	40	近世		
39	1号井戸	金屬製品	鉢	直徑39.0	径7.0	厚さ0.8	操作手	白釉	操作手	白釉	密	40	19C前半の木製脚ヶ所		
40	1号井戸	金屬製品	鉢	直徑15.0	径2.7	厚さ0.4	操作手	白釉	操作手	白釉	密	40	19C前半の木製脚ヶ所		
41	2号井戸	金屬製品	鉢	-	-	(6.4)	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
42	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
43	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
44	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
45	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
46	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
47	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
48	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
49	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
50	2号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
51	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
52	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
53	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
54	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
55	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
56	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
57	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
58	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
59	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
60	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
61	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
62	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
63	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
64	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
65	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
66	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
67	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
68	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
69	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
70	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
71	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
72	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
73	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
74	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
75	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
76	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
77	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
78	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
79	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
80	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
81	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
82	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
83	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
84	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
85	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
86	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
87	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
88	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
89	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
90	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
91	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
92	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
93	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
94	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
95	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
96	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
97	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
98	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
99	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
100	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
101	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
102	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
103	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
104	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
105	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
106	1号井戸	金屬製品	鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	100	漆面に墨ぞ穴、側面未塗		
107	1号井戸														

出土遺物別室穿査

番号	遺物名	種類	形状	法 口 径 高 度 (cm)	法 器 高 度 (cm)	所見(鑑形)	色調	胎土	合有物	保存状	産地・時代	備 考	
52	9号溝 土器	壺	壺	35.5	4.35 (33.5)	クロコナフ	灰質 2.5/7.2	やや厚 石英、金雲母 黒色、褐色粒子	小片	在地小 近世			
53	9号溝 茶器	蓋	蓋	(6.0)	— (2.3)	クロコ	口2.0 底2.0	鐵胎 灰胎	鐵質	50 開削 19C			
54	7号溝 陶器	鉢(両竹)	—	— (5.0)	— (4.6)	クロコ	底2.0	鐵胎 灰胎	鐵質	30 開削 17C前半			
55	7号溝 陶器	深(くらやみ)小鉢	—	— (4.6)	— (3.5)	クロコ	底2.0	鐵胎 灰胎	鐵質	20 開削 19C			
56	7号溝 陶器品(輪)	施引金具	輪	3.5	横1.6 厚さ0.05	製打ち	—	—	鐵質	100 近世			
57	7号溝 陶器品(砂岩)	墨石	穿孔0.6 横6.3	厚さ1.8	— (5.4)	クロコ	灰白 7.5/7.1	—	鐵質	50 近世	一部内面・外面施胎		
58	10号溝 陶器	壺	壺	— (5.4)	— (5.4)	クロコ	底2.0	鐵胎 灰胎	鐵質	小片	海戸 18~19C		
59	10号溝 陶器	碗	碗	8.2	1.8 5.2	クロコナフ	にざい黄緑 10YR7/2	やや厚 石英、金雲母 黒色粒子	小片	肥前 18~19C			
60	13号溝 土器	かわらけ	かわらけ	6.2	1.4 4.1	クロコ	にざい黄緑 10YR6/3	やや厚 石英、金雲母 黒色粒子	100 16C	口端部スス付着			
61	13号溝 土器	かわらけ	かわらけ	6.3	1.4 4.5	クロコ	にざい黄緑 10YR6/3	やや厚 石英、金雲母 黒色粒子	95 16C				
62	13号溝 土器	かわらけ	かわらけ	(8.0)	1.8 (4.1)	クロコ	にざい黄緑 10YR5/3	やや厚 石英、金雲母 黒色粒子	20 16C				
63	13号溝 土器	かわらけ	かわらけ	(7.1)	1.8 (5.5)	クロコ	にざい黄緑 10YR5/2	やや厚 石英、金雲母 黒色粒子	30 16C				
64	13号溝 土器	かわらけ	かわらけ	(10.2)	2.2 (6.1)	クロコ	にざい黄緑 10YR6/4	—	40 海戸・長崎 16C	内・外面施胎(鉄胎)			
65	13号溝 陶器	折沿盤	—	(28.2)	— (28.0)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	5 海戸・長崎 16C中	大窓第3段階			
66	13号溝 陶器	擂钵	擂钵	— (10.0)	— (10.6)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	10 海戸・長崎 16C中	大窓第2段階			
67	13号溝 陶器	擂盤	擂盤	— (10.0)	— (10.6)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	20 海戸・長崎	内・外面施胎 鉄胎			
68	13号溝 陶器	擂盤	擂盤	— (10.0)	— (10.6)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 北宋	22世紀に米源で購入あり 高台内に未発の標識			
69	13号溝 陶器	擂盤	擂盤	13.3	4.6 7.4	クロコ	黒・朱漆	—	50 16C	内・外面施胎(鉄胎)			
70	13号溝 木製品	漆桶	漆桶	7.5	4.00	クロコ	黒・朱漆	—	10 16C				
71	13号溝 木製品	下柱	柱	20.5	横6.6 厚さ1.8	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	80 16C				
72	13号溝 木製品	木片	木片	23.5	横3.1 厚さ0.1	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 16C				
73	13号溝 木製品	漆桶	漆桶	— (10.6)	— (10.6)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	20 海戸 19C				
74	13号溝 木製品	下柱	柱	— (10.6)	— (10.6)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	55 16C				
75	14号溝 陶器	壺	壺	— (10.6)	— (10.6)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	90 近代	小片			
76	14号溝 陶器	壺	壺	— (10.6)	— (10.6)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	98 海戸 19C前半~後半	炭化物付着			
77	1号土坑 木製品	ミニチア	—	— (3.8)	— (1.0)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 海戸 19C前半~後半	炭化物付着			
78	1号土坑 木製品	七格の鏡子	—	— (7.4)	— (3.5)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 海戸 19C前半~後半	炭化物付着			
79	1号土坑 木製品	七格の鏡子	—	— (6.6)	— (2.8)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 海戸 19C前半~後半	炭化物付着			
80	1号土坑 陶器	灯明皿	—	— (6.6)	— (2.8)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 海戸 19C前半~後半	炭化物付着			
81	1号土坑 陶器	灯明皿	—	— (6.2)	— (3.2)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 海戸 19C前半~後半	炭化物付着			
82	1号土坑 陶器	灯明皿	—	— (7.1)	— (3.0)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 海戸 19C前半~後半	炭化物付着			
83	1号土坑 陶器	灯明皿	—	— (7.1)	— (3.1)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	100 海戸 19C前半~後半	炭化物付着			
84	1号土坑 陶器	灯明皿	—	— (7.2)	— (3.1)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	30 海戸 19~20C前半				
85	1号土坑 陶器	土鍋	—	— (7.3)	— (3.1)	クロコ	鉄胎 灰胎	鐵胎 灰胎	40 海戸 19~20C前半				
86	1号土坑 陶器	杯	杯	(19.0)	— (7.1)	クロコ	灰胎	鐵胎 灰胎	小片	海戸 19~20C前半			
87	1号土坑 陶器	壺	壺	— (9.2)	— (6.5)	クロコ	灰胎	鐵胎 灰胎	30 巴前か				
88	1号土坑 陶器	火入れ	壺	— (8.4)	— (3.9)	クロコ	青白	鐵胎 灰胎	30 16C				
89	1号土坑 陶器	壺	壺	— (8.4)	— (3.9)	クロコ	白磁	鐵胎 灰胎	30 16C				

出土遺物概要表

番号	遺物名	種別	縦横	縦横	口径	器高	法 長(cm)	所見(墨跡)	色調	胎土	含物	焼成度	備考			
幅	高	底径	重さ(g)	量(g)	幅	高	底径	重さ(g)	量(g)	胎土	含物	焼成度	幅	高		
90	1号土坑 金屬製品	不明	長さ10.0 幅6.7 高さ7.0	厚さ0.05 重さ2.6g 薄手	-	-	-	-	-	100	不明	内寸5.3×3.0cm 重量84.27g	-	-		
96	1号土坑 木製品	杯	直径11.0 厚さ0.9	-	-	-	-	-	-	90	近代	-	-	-		
97	1号土坑 木製品	漆塗板	直径20.0 厚さ1.2	-	-	-	-	-	-	80	近代	-	-	-		
98	1号土坑 木製品	漆塗板	直径24.0 厚さ1.0	-	-	-	-	-	-	100	近代	木打厙所	木打厙所	-		
99	1号土坑 木製品	灰器	(15.6) 9.2 (14.0)	-	-	厚さ1.2 厚さ3 厚さ1.1	厚さ1.2 厚さ3 厚さ1.1	1.2 4.0 6.4	1.2 4.0 6.4	クロコアテ クロコアテ クロコアテ	にぶい褐色 にぶい黒 にぶい黒	やや密 やや密 やや密	101	近代	外画口線刷ス付着 スカ付着	-
100	2号土坑 土器	土器	火鉢	-	-	厚さ3 厚さ1.3	-	-	-	やや密	石英、長石、赤鐵鉄 やや密	101	10	小片	-	-
101	2号土坑 土器	土器	火鉢	小片	-	-	-	-	-	やや密	石英、赤鐵鉄 やや密	101	10	小片	-	-
103	2号土坑 土器品	不明	(2.3) 2.5×2.5cm (2.5)	-	-	(1.2) (2.5) (2.5)	-	-	-	5mm	5mm	やや密	101	10	部分的に白色彩色を見る	-
104	2号土坑 土器品	土器	つまみ	-	-	-	-	-	-	密	密	101	10	小片	内外面施地、文様・模様	-
105	2号土坑 土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	土器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
108	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
107	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
108	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
109	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
110	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
111	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
112	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
113	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
114	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
115	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
116	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
117	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
118	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
119	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
120	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
121	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
122	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
123	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
124	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
125	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
126	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
127	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
128	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
129	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
130	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
131	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
132	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C
133	2号土坑 陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	陶器	18C	18C	18C	18C	18C	18C	18C

(单位:cm)

番号	遺跡名	種別	鉢形	口径 厚さ 底径			所見(盤形)		色調	紺土	含有物	焼付度	発地・時代	備考	
				高さ	底径	高さ	厚さ	底径							
134 135	2号土坑 2号土坑	瓦製品(陶質瓦製品) 金属性製品(銅)	規 規	6.2 0.25	2.2 0.07	0.0 0.07	0.0 0.07	0.0 0.07	黒	繊密		10 100	19C 近世	繊密	
136	2号土坑	木製品	桶形付丸	13.4	1.5	厚さ 0.8									長方形のボルト穴2ヶ所
142	2号土坑	木製品	桶形板	20.0	0.8										表面に焼印あり
143	2号土坑	木製品	桶底板	10.3	1.2										「口二連」焼印あり
144	2号土坑	木製品	桶側板	10.3	1.2										「丸三連」焼印あり
145	2号土坑	木製品	桶側板	10.3	1.2										「口二連」焼印あり
146	2号土坑	木製品	桶側板	9.0	1.2										「丸三連」焼印あり
147	2号土坑	角器	規	4.0											小片
148	2号土坑	木製品	規	4.1	3.1	厚さ 3.1									一
149	2号土坑	木製品	規	16.0	0.8	厚さ 0.8									小片
150	2号土坑	木製品	規	24.0	3.8	厚さ 0.8									小片
151	2号土坑	木製品	桶蓋一部	35.6	1.0	厚さ 1.1									30
152	2号土坑	木製品	桶蓋	29.0	1.0	厚さ 1.0									60
153	2号土坑	木製品	油杓子	14.4	1.5	厚さ 0.8									90
154	5号土坑	器皿	小平	6.0	4.4	2.5				ロクロ					100
155	5号土坑	陶器	灯明皿	6.6	1.3	2.5				東付					100
156	5号土坑	木製品	桶側板	24.0	3.6	厚さ 0.8				ヘラクル					100
157	5号土坑	木製品	桶底板	11.0	0.8										100
158	5号土坑	木製品	油杓子	11.0	0.8	0.7									40
159	5号土坑	木製品	油杓子	7.0	0.8	0.3									50
160	5号土坑	木製品	油杓子	16.6	4.0	厚さ 0.7									50
161	8号土坑	器皿	規	22	6.0	厚さ 0.~0.1				ロクロ					50
162	8号土坑	木製品	規	23	6.0	厚さ 0.~0.1				東付					100
163	9号土坑	器皿	規	11.0						ロクロ					20
164	9号土坑	土器	規	(42.0)						ロクロナ子					100
165	11号土坑	土器	規	(7.6)						にふい焼	7.5TR/4				近代
166	11号土坑	器皿	規	3.0	4.1	5.1				ロクロ					40
167	11号土坑	器皿	規	1.0	6.5	1.7				透明					100
168	11号土坑	器皿	規	(4.1)						堅型燒成形					近代
169	12号土坑	土器	規	7.2						ロクロナ子					100
170	12号土坑	器皿	規	8.8	6.8	4.0				白磁					100
171	12号土坑	器皿	規							白磁					100
172	12号土坑	器皿	規							白磁					100
173	E-3	陶器	泓皿	(31.0)	7.2	(28.6)				堅型燒成形					50
174	14号土坑	土器	鍋	8.4	2.0	5.9				ロクロナ子					18C 中葉
175	14号土坑	土器	鍋	9.3	2.3	4.9				堅型燒成形					下部既存地
176	14号土坑	土器	鍋							ロクロナ子					外壁入付着
177	14号土坑	土器	鍋							堅型燒成形					内外面入付着
178	14号土坑	土器	鍋							ロクロナ子					

出土物別観察表

番号	遺跡名	種別	器形	口径	高さ	底径	所見(整形)	色調	胎土	含物	焼付	施釉	施薬	施漆	内面施釉	外面施釉	内面施漆	外面施漆	内面施薬	外面施薬	内面施漆	外面施漆	内面施薬	外面施薬					
横幅	縦幅	厚さ	横幅	縦幅	厚さ	横幅	横幅	縦幅	厚さ	横幅	縦幅	厚さ	横幅	縦幅	厚さ	横幅	縦幅	厚さ	横幅	縦幅	厚さ	横幅	縦幅	厚さ	横幅	縦幅	厚さ	横幅	縦幅
178	14号土坑	土製品	十輪か	5.3	—	—	ナテ	灰黒2.57/2 白色N1//	やや密	石英、長石、金雲母	50	在地小 石英、長石、金雲母	10	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
180	14号土坑	陶器	皿	(3.1)	(3.0)	(7.7)	ロクロ	白色	密	—	—	—	小片	美濃 17C後半	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
181	14号土坑	陶器	碗	—	—	(5.6)	ロクロ	白色	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
182	14号土坑	陶器	碗	—	—	4.5	ロクロ	鉢形	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
183	14号土坑	陶器	碗	—	—	—	ロクロナ	淡黄2.56/3	密	石英、長石	90	泥前 18C	10	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
184	14号土坑	陶器	碗	—	—	—	ロクロナ	淡黄2.56/3	密	石英、長石	90	泥前 18C	10	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
185	14号土坑	陶器	碗	10.0	5.5	4.0	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
186	14号土坑	陶器	碗	(9.4)	(9.9)	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
187	14号土坑	陶器	碗	(9.9)	—	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
188	14号土坑	陶器	碗	—	—	(3.6)	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
189	14号土坑	陶器	皿	12.6	(3.2)	8.0	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
190	14号土坑	陶器	皿	(12.8)	3.4	(7.8)	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
191	14号土坑	陶器	小环	6.5	(4.5)	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
192	14号土坑	陶器	小环	—	(1.6)	3.1	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
193	14号土坑	陶器	小环	—	(5.4)	(7.0)	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
194	14号土坑	古墳製品(陶)	古墳製品(陶)	2.05	0.55	0.55	2.30	黒	0.12	重量3.1kg	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
195	14号土坑	古墳製品(陶)	古墳製品(陶)	2.05	0.55	0.55	2.31	黒	0.11	重量1.9kg	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
196	14号土坑	古墳製品(陶)	古墳製品(陶)	2.05	0.55	0.55	2.35	黒	0.10	重量2.5kg	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
197	14号土坑	古墳製品(陶)	古墳製品(陶)	2.05	0.55	0.55	2.35	黒	0.09	重量4.9kg	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
208	14号土坑	土製品	土製品人形	11.1	4.6	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
209	集石2号	土製品	人形	(2.3)	—	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
210	集石2号	土製品	古墳製品(陶)	0.65	0.65	0.65	2.30	黒	0.17	重量2.4kg	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
211	集石2号	金屬製品	古墳製品(陶)	0.65	0.65	0.65	2.30	黒	0.12	重量0.12kg	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
212	埋納1号	木製品	木製板	直径4.5	厚さ2.8	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
213	埋納1号	木製品	木製板	20.7	20.7	14.5	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
214	埋納1号	木製品	木製板	(13.4)	13.0	13.0	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
215	埋納1号	木製品	木製板	22.7	22.7	13.0	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
216	埋納2号	木製品	木製板	直徑5.0	厚さ2.5	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
217	埋納3号	木製品	木製板	直徑3.0	厚さ2.2	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
218	埋納3号	木製品	木製板	(10.2)	6.3	4.0	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
219	埋納3号	木製品	木製板	(5.3)	3.7	(2.8)	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
220	竹制1号	竹器	小皿	—	—	(3.8)	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
221	竹制1号	竹器	小皿	—	—	(6.6)	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
222	竹制1号	竹器	小皿	(26.4)	15.1	(15.1)	ロクロナ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
224	A-1	土器	土器	(12.0)	4.5	—	ロクロナ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
225	A-1+2	伝器	傳器	(12.0)	4.5	—	ロクロナ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
226	A-1+2	傳器	傳器	12.2	6.0	8.0	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
227	A-1+2	伝器	伝器	(9.5)	2.6	(5.9)	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
228	A-1+2	伝器	伝器	—	—	—	ロクロ	塗付	密	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

出土遺物概要	番号	遺物名	種別	器形	法 面 (cm)			所見(特形)	色調	施土	含物	保存状	産地・時代	備考
					口径	器高	底径							
229	A-1+2	研子	ワイン瓶	6.0	-	6.1	-	透明 ロクロ、ヘラ形 輪	透明 黒	密	小片 焼付	100 19C	内・外面施釉(密)	
230	A-3+3	瓶	灯用具	(11.6)	5.7	(5.0)	-	ロクロ	透明 黒	密	20 肥前	16C(或~18C)半 20 肥前	内・外面施釉(密)	
232	B-4+5	器	鏡(くわんか)	(7.8)	-	-	-	ロクロ	黒	密	20 肥前	19C	「三合鑑鏡」	
233	B-4+5	器	鏡	4.2	1.9	厚さ 0.6	-	ロクロナダ	にふい塊 檜 SYR/6	6	100 近世	石英、辰石、金雲母 やや密 密	基石の代用品か	
234	B-4+5	石製品(地蔵像)	不明	(63.6)	-	-	-	手づくり 檜 SYR/6	6	100 近世	石英、辰石、金色鉛子 やや密 密	基石の代用品か		
235	B-7+8	土器	甕	(10.9)	2.5	-	-	ロクロ	淡青 75Y/1	密	50 肥前	19C	金面施釉	
236	B-7+6	土製品	瓶	2.8	-	-	-	ロクロ	淡青 25Y/3、株施	密	50 肥前	19C	金面施釉	
237	A-9	陶器	瓶	(13.6)	外径 16.0	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	100 近代	氣泡あり		
238	A-9	陶器	瓶	上蓋(13.6)	7.5	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	70 近世~近代	中央部に至り1cmの丸		
240	B-9+10	木製品	底座板	直径 6.7	厚さ 0.3	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	10 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
241	B-9+10	木製品	底座板	(12.8)	4.2	(12.0)	-	ロクロ	淡青 透明	密	60 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
242	A-10+11	器具	行平(蓮)	15.6	4.0	-	-	ロクロ、ビニカルナ 株施	淡青 透明	密	70 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
243	C-1+2	土製品	行平(蓮)	(17.8)	4.9	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
244	C-1+2	土製品	行平(蓮)	(13.6)	3.7	-	-	ロクロ、ビニカルナ 株施	淡青 透明	密	30 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
245	C-1+2	陶器	行平(蓮)	(4.6)	厚さ 3.0	-	-	ロクロ	オリーブ 株施	密	30 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
246	C-1+2	陶器	行平(把手)	-	-	-	-	ロクロ	オリーブ 株施	密	30 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
247	C-1+2	陶器	行平(蓮)	(9.4)	2.3	(3.5)	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
248	C-1+2	陶器	灯明(皿)	6.7	1.8	2.5	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
249	C-1+2	陶器	灯明(皿)	(9.4)	2.1	3.3	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
250	C-1+2	陶器	灯明(皿)	-	-	(3.7)	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 小倉焼小	19C	「三合鑑鏡」半~後半	
251	C-1+2	陶器	香爐	-	-	2.6	-	ロクロ	オリーブ 株施	密	50 美濃燒	19C	全西に賣入	
252	C-1+2	陶器	碗	(7.8)	4.3	(3.0)	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 肥前	19C		
253	C-1+2	陶器	碗	(8.6)	4.1	3.2	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 肥前	19C		
254	C-1+2	陶器	碗	(9.2)	3.3	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	20 肥前	19C		
255	C-1+2	陶器	碗	(9.3)	4.8	(3.6)	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 肥前	19C		
256	C-1+2	陶器	碗	(9.2)	4.5	3.8	-	ロクロ	淡青 透明	密	40 肥前	19C		
257	C-1+2	陶器	碗	(8.8)	4.7	(3.0)	-	ロクロ	淡青 透明	密	40 肥前	19C		
258	C-1+2	陶器	碗	(9.3)	4.6	4.0	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 肥前	19C		
259	C-1+2	陶器	碗	(10.2)	5.6	4.0	-	ロクロ	淡青 透明	密	50 肥前	19C		
260	C-1+2	陶器	碗	(9.4)	2.5	(2.8)	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 肥前	19C	263と組み物	
261	C-1+2	陶器	碗	(10.4)	4.7	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	20 肥前	19C	263と組み物	
262	C-1+2	陶器	碗	(10.8)	5.7	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 肥前	19C	263と組み物	
263	C-1+2	陶器	碗	(11.0)	4.0	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 肥前	19C	263と組み物	
264	C-1+2	陶器	碗	-	-	4.2	-	ロクロ	淡青 透明	密	30 肥前	19C	263と組み物	
265	C-1+2	陶器	碗	-	-	3.8	-	ロクロ	淡青 透明	密	50 肥前	19C	263と組み物	
266	C-1+2	陶器	碗	-	-	-	-	ロクロ	淡青 透明	密	-	-		

出土物目録表

番号	遺構名	種別	縦形	横形	口径	底高	法 量(底 径)	所見(臺形)	色調	胎土	含物	特徴	产地・時代	備考
幅	高													
207	C-1・2	柱基	林(八角)	-	(17.0)	(7.0)	-	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
208	C-1・2	柱基	林(八角)	-	-	(5.6)	-	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
209	C-1・2	柱基	林(八角)	-	14.4	7.1	7.4	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
210	C-1・2	柱基	林(八角)	-	(15.6)	-	-	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
211	C-1・2	柱基	急斜	-	-	5.4	-	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
272	C-1・2	柱基	直(輪唐草)	-	-	-	-	□クロ	朱付	胎土	無	10 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
273	C-1・2	柱基	直(輪唐草)	-	(12.2)	2.8	6.8	□クロ	朱付	胎土	無	10 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
214	C-1・2	柱基	直(輪唐草)	-	-	8.0	-	□クロ	朱付	胎土	無	10 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
275	C-1・2	柱基	弘法唐草	-	(5.7)	5.3	4.4	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆前 19C 後半~19C 前半	漆器	
277	C-2・3	脚踏	灯明皿面	-	(8.2)	7.0	(5.0)	□クロ	朱付	胎土	無	10 美濃 16C 末~17C 前半	漆器	
278	C-2・3	脚踏	斜志面	-	-	4.8	-	△ツブム	朱付	胎土	無	10 美濃 16C 末~17C 前半	漆器	
279	C-2・3	脚踏	直	-	-	(6.4)	-	□クロ	朱付	胎土	無	10 美濃 16C 末~17C 前半	漆器	
280	C-2・3	脚踏	綱(カフカカ)	-	(10.5)	5.6	(4.0)	□クロ	朱付	胎土	無	10 美濃 16C 末~17C 前半	漆器	
281	C-4・5	柱基	小坪	-	5.6	2.7	2.6	□クロ	朱付	胎土	無	50 湯戸 19C	在地か 近世	
285	C-6	土器	焰	-	(36.6)	4.4	34.4	□クロ	朱付	胎土	長石、金雲母	20 湯戸鳥 19C 末~17C 前半	在地か 近世	
286	C-6	脚踏	直	-	(10.4)	2.2	(6.0)	□クロ	朱付	胎土	無	20 湯戸鳥 19C 末~17C 前半	在地か 近世	
287	C-6	柱基	小坪	-	(5.7)	3.0	2.6	□クロ	朱付	胎土	無	50 湯戸 近代	在地か 近代	
288	C-6	脚踏	直	-	(7.2)	6.3	3.6	□クロ	朱付	胎土	無	40 湯戸 19C	在地か 近代	
289	C-6	柱基	焰	-	12.2	2.9	4.0	□クロ	朱付	胎土	無	95 漆前 19C	在地か 近代	
290	C-6	柱基	小坪	-	6.0	4.7	2.6	□クロ	朱付	胎土	無	100 19C 後半~20C 前半	在地か 近代	
291	C-6	脚踏	洋風皿	-	(18.0)	2.1	9.7	□クロ	朱付	胎土	50 オランダ製 19C	在地か 近代		
292	B-10・11	脚踏	吹葉輪	-	6.9	1.6	3.2	□クロ	朱付	胎土	無	100 漆戸 19C	在地か 近代	
293	B-10・11	脚踏	灯明皿面	-	9.2	1.7	4.1	□クロ	朱付	胎土	無	100 漆戸 19C	在地か 近代	
294	B-10・11	脚踏	鏡	-	(0.8)	4.5	4.0	□クロ	朱付	胎土	無	50 漆戸 19C	在地か 近代	
295	B-10・11	脚踏	鏡	-	(6.8)	4.2	3.0	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆前 19C 後半~19C 前半	在地か 近代	
296	B-10・11	脚踏	林(六角)	-	-	5.5	-	□クロ	朱付	胎土	無	10 漆前 19C 後半~19C 前半	在地か 近代	
297	D-1・2	土器	焰	-	(28.7)	4.2	(27.4)	□クロ	朱付	胎土	内巻・底巻・口巻入穴付	5.0 在地か 近代	内巻・底巻・口巻入穴付	
298	D-1・2	土器	かわづ	-	10.0	1.8	7.8	□クロ	朱付	胎土	内巻・底巻	5.0 在地か 近代	内巻・底巻	
299	D-1・2	土器	かわづ	-	9.7	1.7	6.5	□クロ	朱付	胎土	内巻・底巻	5.0 在地か 近代	内巻・底巻	
300	D-1・2	脚踏	寒露	-	-	-	-	□クロ	朱付	胎土	無	70 在地か 近代	在地か 近代	
301	D-1・2	脚踏	練	-	(8.6)	2.5	(3.4)	□クロ	朱付	胎土	無	40 漆前 19C 後半~19C 前半	在地か 近代	
302	D-1・2	脚踏	練	-	(9.0)	-	-	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆前 19C 後半~19C 前半	在地か 近代	
303	D-1・2	脚踏	除蟲	-	(9.8)	3.0	-	□クロ	朱付	胎土	無	50 漆前 19C 後半~19C 前半	在地か 近代	
304	D-1・2	脚踏	鏡	-	(9.2)	5.0	(4.0)	□クロ	朱付	胎土	無	30 漆戸 19C	在地か 近代	
305	D-1・2	脚踏	鏡	-	-	4.4	-	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆戸 17A 末~17C	在地か 近代	
307	D-1・2	脚踏	直(輪唐草)	-	(10.8)	6.0	4.5	□クロ	朱付	胎土	無	95 漆戸 19C 後半~19C 前半	在地か 近代	
308	D-1・2	脚踏	小皿	-	-	2.3	-	□クロ	朱付	胎土	無	10 漆戸 18C 前半	在地か 近代	
					10.2	2.45	0.1	□クロ	朱付	胎土	無	20 漆戸 19C 後半~19C 前半	在地か 近代	

番号	通称名	種別	器形	法量(cm)	所見(断形)	色調	胎土	含物	埋存状況	産地・時代	備考	
309	D-1-2	金属製品(鉛)	古鉛(第2次鉛)	外径φ14.0mm直径φ13.0mm厚さ0.10mm重さ2.5g	-	-	-	-	-	90 近世	-	
310	D-1-2	金属製品(鉛)	古鉛(第2次鉛)	外径φ14.0mm直径φ13.0mm厚さ0.10mm重さ2.4g	クロロ	-	-	-	-	100 近世	-	
313	D-3	容器	筒	(10.0)	-	-	朱付	-	-	10 距前 18~19C	-	
314	D-3	容器	筒形	(8.2)	-	-	クロロ	朱付	織密	40 距前 18C 中葉~後半	-	
315	D-3	容器	筒	(9.2)	2.8 (4.2)	-	クロロ	朱付	織密	70 距前 18C 高台内「成化年製」	-	
316	D-4-5	容器	筒	(12.0)	-	-	クロロ	朱付	織密	10 距前 18~19C	燒鮑	
317	D-4-5	容器	筒	2.0	6.1	-	クロロ	朱付	織密	50 距前 19C	-	
318	D-4-5	容器	筒	2.2	厚さ0.4	-	断面成形	-	-	100 近世	-	
319	E-1	容器	筒	(13.2)	3.5	-	クロロ	青磁	織密	20 距生見 18C 中葉~末	内面 爪の目施剥ぎ	
320	E-3	土器	焼壺	(25.2)	4.6 (23.8)	-	クロロナデ	石灰・長石、金雲母	20 距生見 18C 中葉~末	外側スズ付着	-	
321	E-3	土器	焼壺	(24.2)	4.5 (22.2)	-	クロロナデ	石英・長石、金雲母	70 在地か	外側スズ付着	-	
324	E-7	銀器	銀小皿	-	-	-	クロロ	朱付	織密	30 在地か	-	
325	E-9	銀器	魚須	(7.0)	5.5 (7.8)	-	クロロ	朱付	織密	30 距前 18C 後半~19C 前半	-	
326	E-9	銀器	網(魚)	-	-	3.4	クロロ	朱付	織密	50 距前 19C	-	
327	E-9	銀器	仏龕	-	-	(3.6)	白磁	朱付	織密	50 距前 18C 後半~19C 前半	-	
328	E-9	金属製品(鉄)	不明	鏡 9.8	横 2.25 厚さ0.95 重量57.9g	クロロ	トトカラナデ	白	織密	一	口縁部スズ付着	
329	F-2-3	陶器	行平筋	(18.0)	-	-	クロロ	トトカラナデ	白	織密	小片 海戸 18C	
330	F-2-3	土器	碗	-	-	(7.0)	クロロナデ	にぶい黄緑 10 R7/3	やや密	20 16~17C	内・外侧面スズ付着	
331	F-2-3	陶器	碗	-	-	(5.4)	クロロ	白磁	織密	10	-	
332	F-9-9-10	土製品	行平蓋	(17.2)	4.8	-	クロロ	トトカラナデ	やや	長石	50 19C	
333	F-9-9-10	陶器	糞	-	-	(9.8)	クロロ	白	織密	小片 屋呂窯	-	
334	F-9-9-10	木製品	桿	11.0	5.1	4.0	クロロ	内面・系縄、外面・黒漆	60	近世	漆塗	
335	F-9-9-10	金属製品(鉄)	不明	鏡 10.4	横 6.4 厚さ0.15 重量41.3g	クロロ	青灰色施	織密	100 近代か	-		
336	H-1-2	銀器	リーフ皿	-	4.2	7.4	クロロ	朱付	織密	60	近代か	-
337	H-1-2	大皿	大皿	-	-	(6.6)	クロロ	朱付	織密	40 距前 18C 後半~19C	-	
338	H-1-2	皿	碗(漬)	(8.9)	2.5	(3.4)	クロロ	朱付	織密	10 距前 18C 後半~19C	-	
339	H-1-2	皿	大皿	-	-	(12.0)	クロロ	朱付	織密	10 距前 18C 後半~19C	-	
340	H-1-2	木製品	不明	直径 4.9	穴径 1.3	奥行 4.1	クロロ	朱付	織密	10 距前 18C 後半~19C	-	
341	H-1-2	銀器	筒	(7.8)	-	-	クロロ	朱付	織密	30 距前 18C 後半~19C	-	
342	F-3	銀器	筒	(8.8)	2.6	(3.6)	クロロ	外蓋背面 内裏付	織密	60 近代	-	
343	F-3	銀器	筒	10.4	2.6	3.6	クロロ	内裏付	織密	60 在地か 逸世	内・外侧面スズ付着	
344	A区-1桔	土器	土鍋	(36.0)	4.9	(30.0)	クロロナデ	にぶい黄 5 R6/4	白	小片 海戸 18C	金体施錆跡	
345	A区-1桔	陶器	大盆	(36.0)	-	-	クロロ	白	織密	小片 海戸 18C	金体施錆跡	
346	A区-1桔	陶器	湯舟	(20.7)	-	-	クロロナデ	オリブ墨 7.5T3/1	白	20 海戸 18C 後半~19C	-	
347	A区-1桔	陶器	盆	(23.0)	-	(11.5)	クロロナデ	白	織密	10 海戸 18C	-	
348	A区-1桔	陶器	湯舟	-	-	5.4	クロロ	白	織密	30 海戸 18C 後半~19C	-	
349	A区-1桔	陶器	盆	-	-	5.1	クロロナデ	白	織密	20 海戸 18C 後半~19C	-	
350	A区-1桔	陶器	輪型鏡	-	-	3.3	クロロ	朱付	織密	20 海戸 18C 後半~19C	-	
351	A区-1桔	容器	筒	-	-	-	-	-	-	50 近代	-	

(单位:cm)

出土物別段表										(単位:cm)				
遺物番号	遺物名	種別	器形	法 口 径 (mm)	法 高 (mm)	底 高 (mm)	法 量 (cm ³)	所見(整形)	色 調	土 質	含有物	測定 値	产地・時代	備考
352 A区一活	罐	瓶型罐	瓶	(7.0)	-	-	-	□クロ	朱付	新密	10 肥前 1780~1810			
353 A区一活	罐	盒状器	盒	新高(3.9)	-	-	-	□クロ	朱付	新密	20 肥前 1705年~後半			
354 A区一活	罐	刷毛目本陶	瓶	-	(4.8)	-	-	□クロ	朱付	新密	20 肥前 19C前半~後半			
355 A区一活	罐	罐	瓶	(7.4)	4.6	2.8	-	□クロ	朱付	新密	50 近代			
356 A区一活	罐	罐	瓶	9.8	4.9	3.8	-	□クロ	朱付	新密	30 肥前 18C後半~19C前半			
357 A区一活	罐	刷毛目(らうむかわ)	瓶	-	-	4.3	-	□クロ	朱付	新密	20 肥前 19C前半~後半			
358 A区一活	罐	端反腹	瓶	(10.4)	-	-	-	□クロ	朱付	新密	50 肥前 19C前半~後半		口部膨脹物	
359 A区一活	罐	罐	瓶	(10.8)	3.0	(5.6)	-	□クロ	朱付	新密	40 濱戸 近代			
360 A区一活	罐	小环	瓶	(6.7)	3.2	(2.8)	-	□クロ	朱付	新密	50 濱戸 19C後半~後半			
361 A区一活	罐	被(蓋)	瓶	(9.4)	2.3	(3.2)	-	□クロ	朱付	新密	50 濱戸 19C後半~後半			
362 A区一活	罐	罐	瓶	(13.0)	-	-	-	□クロ	青磁	新密	小片		内・外面部有特徴 個人物	
363 A区一活	罐	四	瓶	-	-	(8.0)	-	□クロ	朱付	新密	100 肥前 19C		内・外面部有特徴 個人物	
364 A区一活	罐	灭惑盡	瓶	6.5	0.9	5.4	-	□クロ	朱付	新密	100 肥前 19C			
365 A区一活	罐	善平等	瓶	(10.0)	-	-	-	□クロ	青磁	新密	20 肥前 18~20C			
366 A区一活	盒	高蓋鉢形品(刷毛)	古鉢(深火通窓)	丸唇	直徑 2.37 厚さ 1.01	重量 2.4g	-	未	5YR6/6	万葉、弘石、金雲母 赤系、黒色斑子	70 近世			
368 A区一活	土製品	人形	土偶	-	3.9	-	-	未	5YR6/6	やや暗 万葉、弘石、金雲母 赤系、黒色斑子	30 近世	大か		
369 A区一活	土	化粧匣	土漆器	(10.7)	9.1	(4.0)	-	未	5YR7/4	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	30 近代			
370 日-古漆器	漆器	杯	漆器	14.2	3.7	4.0	指頭底	未	5YR7/4	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	95 古墳	内・外面部有特徴		
371 C-D-5 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(16.0)	(3.8)	-	-	未	5YR7/3	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	50 古墳	内・外面部有特徴		
372 C-D-5 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(12.0)	3.3	-	-	未	5YR7/3	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	60 古墳			
373 D-4-5 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(14.5)	(3.7)	-	-	未	5YR7/3	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	40 古墳	内・外面部有特徴		
374 D-5 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(12.2)	3.8	-	-	未	5YR7/4	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	20 古墳			
375 D-5 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(13.7)	-	(3.8)	-	未	5YR7/4	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	10 古墳			
376 D-5 古漆器	漆器	土漆器	漆器	-	(3.4)	-	-	未	5YR7/1	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	20 古墳			
377 C-8 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(14.5)	(4.5)	-	-	未	5YR7/3	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	50 古墳			
378 D-5 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(14.0)	4.3	-	-	未	5YR7/3	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	20 古墳			
379 C-D-7 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(12.5)	(5.2)	-	-	未	5YR7/1	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	20 古墳			
380 C-D-7 古漆器	漆器	土漆器	漆器	(12.8)	(3.7)	-	-	未	5YR7/4	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	20 古墳			
381 D-7 古漆器	漆器	土漆器	漆器	14.9	4.4	4.4	-	未	5YR7/6	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	70 古墳			
382 D-5 古漆器	漆器	土漆器	漆器	12.4	4.5	-	-	未	5YR7/3	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	100 古墳			
383 C-8 古漆器	漆器	土漆器	漆器	-	(3.3)	-	-	未	5YR7/4	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	10 古墳			
384 C-8 古漆器	漆器	高杯	漆器	-	(12.2)	-	-	未	5YR6/6	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	40 古墳			
385 C-D-7 古漆器	漆器	高杯	漆器	-	-	-	-	未	5YR6/2	白色不透明 ヘラナフ、ナラ 内・外面部有特徴	40 古墳			

番号	遺物名	種別	器形	口径	縦	横	深	厚	径	高	底	長	所見(形態)		色調	施上	食器	保存率	产地・時代	備考		
													(cm)	(cm)								
386	B-2 古墳層	土師器	高杯	-	-	-	-	-	(3.8)	-	-	-	にぶい質感	10YR5/3	やや密	赤色粒子	小片	古墳				
387	古墳層 一活	土師器	高杯	-	-	-	-	-	(6.6)	-	-	-	ヘラナデ	10YR5/2	やや密	赤色粒子	小片	古墳				
388	D-9 古墳層	土師器	要	-	(14.0)	-	-	-	-	-	-	-	ハナデ	5YR6/3	やや密	赤色粒子	小片	古墳				
389	D-8 古墳層	土師器	台付壺	-	(5.8)	7.0	-	-	外面ハナデ 内面ハナデ	7.5YR7/4	やや密	赤色粒子	小片	古墳								
390	C-7 古墳層	土師器	台付壺	-	(6.4)	9.5	-	-	外面ハナデ 内面ハナデ	7.5YR7/3	やや密	赤色粒子	小片	古墳								
391	C-6 古墳層	土師器	壺	-	(7.0)	-	-	-	にぶい質感	10YR7/2	やや密	赤色粒子	小片	古墳								
392	D-7 古墳層	土師器	要	(4.3)	-	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	7.5YR7/8	やや密	赤色粒子	小片	古墳							
393	B-8 古墳層	土師器	要	(24.0)	(5.7)	-	-	-	ハナデ	ナデ	5YR6/6	やや密	赤色粒子	小片	古墳							
394	B-D-7古墳層	土師器	壺	-	(5.0)	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	7.5YR6/6	やや密	赤色粒子	小片	古墳							
395	D-4-5 古墳層	土師器	長脚要	(20.0)	-	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	5YR6/3	やや密	赤色粒子	小片	古墳							
396	D-1 古墳層	土師器	要	(19.5)	(6.0)	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	7.5YR6/6	やや密	白色粒子	小片	古墳							
397	B-2-3 古墳層	土師器	長脚要	(20.3)	(5.3)	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	5YR6/6	やや密	白色粒子	小片	古墳							
398	古墳層 一活	土師器	要	-	(5.2)	-	-	-	にぶい質感	10YR4/4	やや密	白色粒子	小片	古墳								
399	古墳層 一活	土師器	要	-	-	-	-	-	にぶい質感	10YR5/3	やや密	白色粒子	小片	古墳								
400	B-C-2-3 古墳層	土師器	要	-	-	-	-	-	にぶい質感	10YR7/2	やや密	白色粒子	小片	古墳								
401	B-C-1-11古墳層	土師器	要	-	(7.1)	-	-	-	にぶい質感	10YR5/3	やや密	白色粒子	小片	古墳								
402	D-5 古墳層	土師器	要	-	(12.6)	-	-	-	にぶい質感	10YR6/3	やや密	白色粒子	小片	古墳								
403	D-5 古墳層	土師器	壺	-	(3.5)	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	5YR5/2	やや密	白色粒子	小片	古墳							
404	D-1 古墳層	土師器	壺	-	(3.5)	(5.5)	-	-	ヘラナデ	ナデ	5YR6/6	やや密	白色粒子	小片	古墳							
405	D-9 古墳層	土師器	要	-	(8.0)	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	5YR6/6	やや密	白色粒子	小片	古墳							
406	C-7-8 古墳層	土師器	要	-	(3.5)	(10.6)	-	-	にぶい質感	10YR7/4	やや密	白色粒子	小片	古墳								
407	C-3 古墳層	土師器	壺	-	(2.90)	9.4	-	-	にぶい質感	10YR6/3	?	石英、墨石、赤色粒子	小片	古墳								
408	C-8 古墳層	土師器	壺	-	(2.1)	8.5	-	-	にぶい質感	10YR7/4	やや密	白色粒子	小片	古墳								
409	B-7 古墳層	土師器	要	-	(3.1)	-	-	-	にぶい質感	10YR5/3	やや密	白色粒子	小片	古墳								
410	C-3 古墳層	土師器	要	-	(3.9)	6.6	-	-	ヘラナデ	ナデ	5YR6/6	やや密	白色粒子	小片	古墳							
411	B-7-8 古墳層	土師器	要	-	(3.6)	-	-	-	泥無木質感	10YR6/1	やや密	白色粒子	小片	古墳								
412	D-5 古墳層	土師器	要	-	(3.5)	-	-	-	泥無木質感	10YR4/1	やや密	白色粒子	小片	古墳								
413	B-4-5 古墳層	土師器	要	-	(1.90)	6.1	-	-	泥無木質感	10YR4/0	やや密	白色粒子	小片	古墳								
414	B-C-10-11古墳層	土師器	要	-	(6.0)	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	5YR4/6	やや密	白色粒子	小片	古墳							
415	C-9 古墳層	土師器	長脚要	(19.2)	(12.7)	-	-	-	にぶい質感	10YR7/2	やや密	赤色粒子	小片	古墳								
416	C-4 古墳層	土師器	瓶	-	(5.1)	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	5YR6/6	やや密	白色粒子	小片	古墳							
417	D-5 古墳層	土師器	瓶	-	(7.0)	-	-	-	ヘラナデ	ナデ	7.5YR7/3	やや密	白色粒子	小片	古墳							
418	D-5 古墳層	土師器	瓶	10.3	2.5	(4.4)	-	-	ヘラナデ	ナデ	7.5YR7/3	やや密	白色粒子	小片	古墳							

番号	遺物名	種別	器形	口径	縦	横	高さ	直径	法 量(cm)	所見(盤形)	色調	埴土	含有机物	焼付度	産地・時代	備考
419	C-7 古墳層	土器	丸底盆	7.6	5.2	-				ヘナード・ナデ [に]シヤウ	7.5/R/4	密	赤色粒子	95	古墳	内外面手彫
420	古墳層一活	土器	小形手握土器	-	(2.6)	-				ヘンダ	[に]シヤウ	7.5/R/3	赤色粒子	90	古墳	
421	B区 古墳層	土器	高杯	-	(7.3)	-				ハゲ、ナデ [に]シヤウ	7.5/R/2	密	石英、黑色粒子	90	古墳	
422	D-5 古墳層	土器	網目器	11.6	(7.3)	-				ロクロ、ヘニョリ	反N7/	密		80	古墳	
423	C-9 古墳層	土器	2升(盃)	-	(4.0)	-				ロクロ、ヘニョリ	反N8/	密		20	古墳	
424	C-7 古墳層	須恵器	網目器	-	(3.9)	-				ロクロ、ヘニョリ	反N8/	密		小片	古墳	
425	D-5 古墳層	須恵器	不明	-	(4.0)	-				ロクロ、ヘニョリ	反NS/	密		小片	古墳	
426	D-5 古墳層	須恵器	壺	-	(6.1)	-				ロクロ、ヘニョリ	反NS/	密		小片	古墳	
427	D-4 古墳層	須恵器	短縦柄か	-	(4.6)	-				ロクロ、ヘニョリ	反NS/	密		20	古墳	
428	D-4 古墳層	須恵器	壺	厚さ 0.7						ロクロ、ヘニョリ	反1.5/V/1	密		小片	古墳	
429	D-5 古墳層	須恵器	壺	厚さ 0.8						ロクロ、ヘニョリ	反1.5/V/1	密		小片	古墳	
430	C-D-4-5古墳層	須恵器	壺	厚さ 1.1						ロクロ、ヘニョリ	反NS/	密		小片	古墳	
431	C-5 古墳層	石器(海贝等)の組合	貝	径 (4.0)	高さ (1.4)	弧状 (7.5)				反白 S8/1		やや密	石英、黒色粒子	50	古墳	
432	B区 トランチ1	土器	壺	-	-					ロクロ		密		10	瀬戸内	19C後半~
433	B区 トランチ1	土器	壺	-	-	(16.0)				ロクロ		密		10	瀬戸内	19C後半~
434	B区 トランチ1	土器	壺	(10.8)	5.55	(4.0)				ロクロ		密		30	瀬戸内	19C後半~
435	B区 トランチ1	土器	壺	-	-	(3.8)				ロクロ		密		30	瀬戸内	19C前半~20C前半
436	B区 トランチ1	土器	壺	-	-	(5.8)				ロクロ		密		10	瀬戸内	19C前半~
437	B区 トランチ1	土器	壺	(7.8)	2.3	(4.4)				ロクロ		密		50	瀬戸内	19C前半~後半
438	B区 トランチ1	土器	壺	(16.8)	5.6	(9.6)				ロクロ		密		30	瀬戸内	19C後半~20C前半
439	B区 トランチ1	土器	持物酒匙	1.6	6.1	2.2				ロクロ		密		90	瀬戸内	19C後半~
440	B区 トランチ1	土器	持物酒匙	-	-	3.6				ロクロ		密		30	瀬戸内	19C後半~20C前半
441	B区 トランチ1	土器	壺	一	横 26.5	高さ 11.5	厚さ 1.8	板作り		余付		やや密		30	瀬戸内	19C後半~20C前半
442	B区 トランチ2	土製品	環狀	-	26.6	-				板作り		やや密		40		
										開口反S8/1						

番号	遺物名	種類	幅(深幅)	長さ(横長)	深さ	裏さ(裏厚)	径	文様区段	文様区面形状	文様区面深幅	高さ	板厚	備考				
													(1.5)	1.8	五線長	連珠	三巴
22	上水槽2号	斜平瓦	(7.6)	6.6	2.0												
				(9.8)	(8.5)	1.7											
40	1号井戸	斜丸瓦		(11.5)	(10.8)	2.4											側面に○の刺印
41	2号井戸	丸瓦		(13.8)	(24.0)	2.4											側面に△の刺印
42	1号井戸	丸瓦	15.6	(19.0)	2.3												側面に△の刺印、内面布目
43	1号井戸	丸瓦	(12.4)	(2.0)	2.0												側面に△の刺印、内面布目
44	1号井戸	平瓦	(14.8)	(17.8)	1.9	2.0											側面に△の刺印、内面布目
45	1号井戸	平瓦	(14.8)	(16.6)	1.8	2.0											側面に△の刺印、内面布目
46	1号井戸	平瓦	(11.8)	(23.3)	2.0	2.0											側面に△の刺印、内面布目
47	1号井戸	平瓦	(8.9)	(9.6)	1.6												側面に△の刺印、内面布目
70	13号窓	平瓦	(10.3)	(15.8)	1.8												側面に△の刺印、内面布目
91	4号土坑	斜捲瓦	(19.3)	(9.0)	1.7	(5.3)											側面に△の刺印、内面布目
92	1号土坑	斜捲瓦	(11.7)			(1.0)											側面に△の刺印、内面布目
93	1号土坑	斜捲瓦				(1.2)											側面に△の刺印、内面布目
94	1号土坑	斜捲瓦	(10.8)	(2.8)	1.3												側面に△の刺印、内面布目
95	1号土坑	斜捲瓦	(5.2)	(8.3)	1.6												側面に△の刺印、内面布目
137	2号土坑	斜捲瓦	(16.5)	(8.2)	(2.1)	(7.3)											側面に△の刺印、内面布目
138	2号土坑	斜捲瓦	(9.1)	(4.8)	(1.7)												側面に△の刺印、内面布目
139	2号土坑	斜捲瓦	(12.8)	8.0	2.0												側面に△の刺印、内面布目
140	2号土坑	平瓦	(5.7)	(7.1)	1.4												側面に△の刺印、内面布目
141	2号土坑	平瓦	(11.0)	23.5	1.6												側面に△の刺印、内面布目
169	11号土坑	斜平瓦	(19.2)	(20.5)	(1.6)	1.4											側面に△の刺印、内面布目
173	12号土坑	斜平瓦	(15.8)	(7.3)	(1.7)												側面に△の刺印、内面布目
174	3号土坑	斜平瓦	(7.3)	(9.0)	(5.2)												側面に△の刺印、内面布目
198	14号土坑	斜丸瓦				(1.9)											側面に△の刺印、内面布目
199	14号土坑	斜丸瓦				(6.5)											側面に△の刺印、内面布目
200	14号土坑	丸瓦				(5.0)											側面に△の刺印、内面布目
201	14号土坑	平瓦	(9.3)			(2.1)											側面に△の刺印、内面布目
203	14号土坑	丸瓦	(8.2)	(6.8)	2.1												側面に△の刺印、内面布目
204	14号土坑	丸瓦	(11.5)	(16.9)	1.9	1.9											側面に△の刺印、内面布目
205	14号土坑	丸瓦	(9.6)	(16.9)	1.8												側面に△の刺印、内面布目
206	14号土坑	平瓦	(13.3)	(17.3)	2.1												側面に△の刺印、内面布目
207	14号土坑	平瓦	(12.9)	(15.3)	0.6	1.6											側面に△の刺印、内面布目
223	机列1号	平瓦	(12.8)	(14.7)	0.7	1.8											側面に△の刺印、内面布目
231	A-B-3	平瓦	(15.8)	(10.7)	1.8												側面に△の刺印、内面布目
			(19.1)	(8.8)	1.8												側面に△の刺印、内面布目
276	C-1-2	斜捲瓦	(16.5)	(22.5)	1.8												側面に△の刺印、内面布目
282	C-4-5	平瓦	(16.8)	(15.0)	0.7	1.6											側面に△の刺印、内面布目
283	C-4-5	斜捲瓦	(10.9)	(5.4)													側面に△の刺印、内面布目
284	C-4-5	斜捲瓦	(8.2)	(8.1)	1.6												側面に△の刺印、内面布目
311	D-1-2	平瓦	(4.6)	(3.4)	1.8												側面に△の刺印、内面布目
312	D-1-2	平瓦	(10.1)	(6.4)	1.6												側面に△の刺印、内面布目
322	E-3	斜丸瓦	(7.7)	(4.3)													側面に△の刺印、内面布目
323	E-3	斜平瓦	(7.7)														側面に△の刺印、内面布目
367	-括	斜丸瓦	(2.3)														側面に△の刺印、内面布目

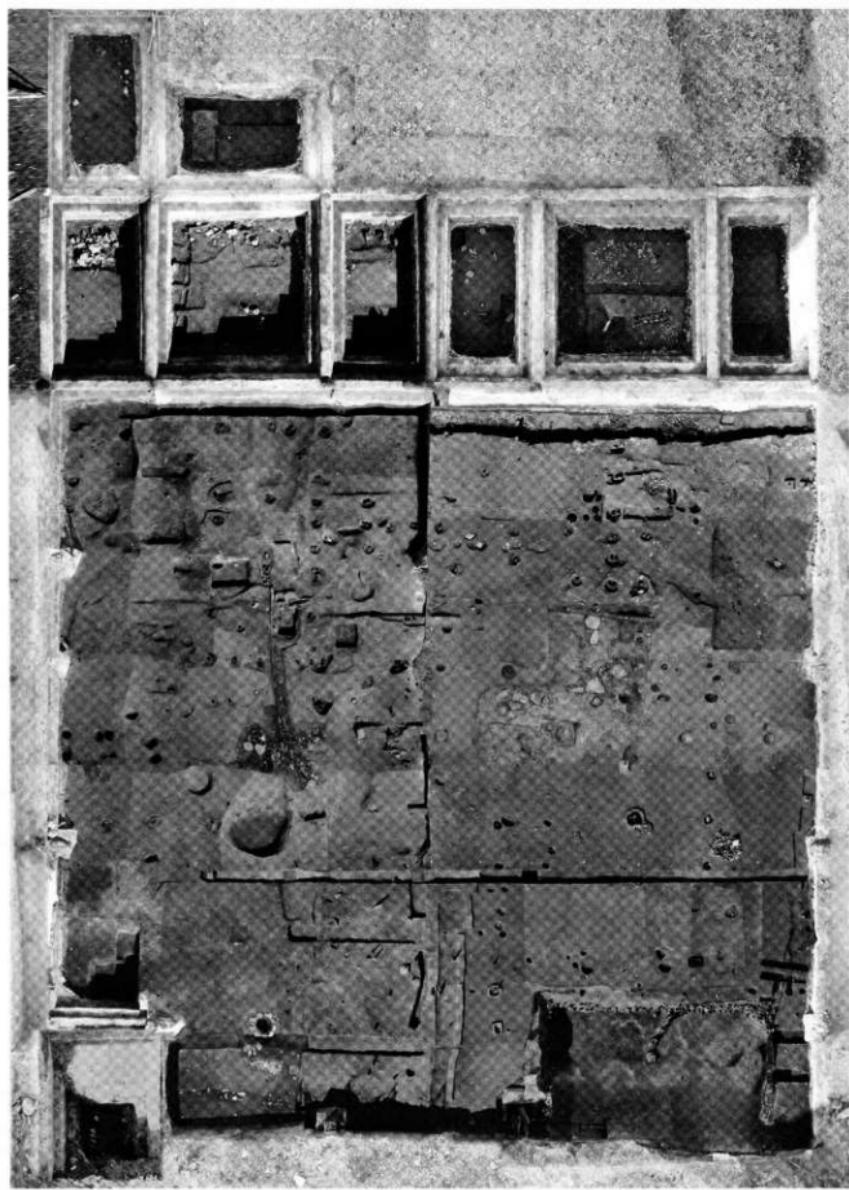


写真1 A区近世・近代遺構全景



写真2 A区全景



写真3 A区西侧古墳時代面



写真4 A区北側 (A～H-9～12グリッド)

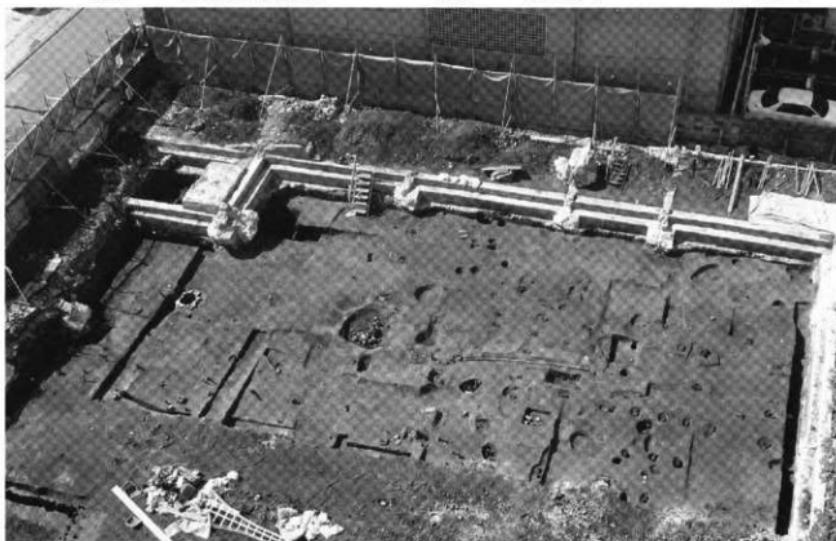


写真5 A区西侧 (A～D-1～8グリッド) 完掘

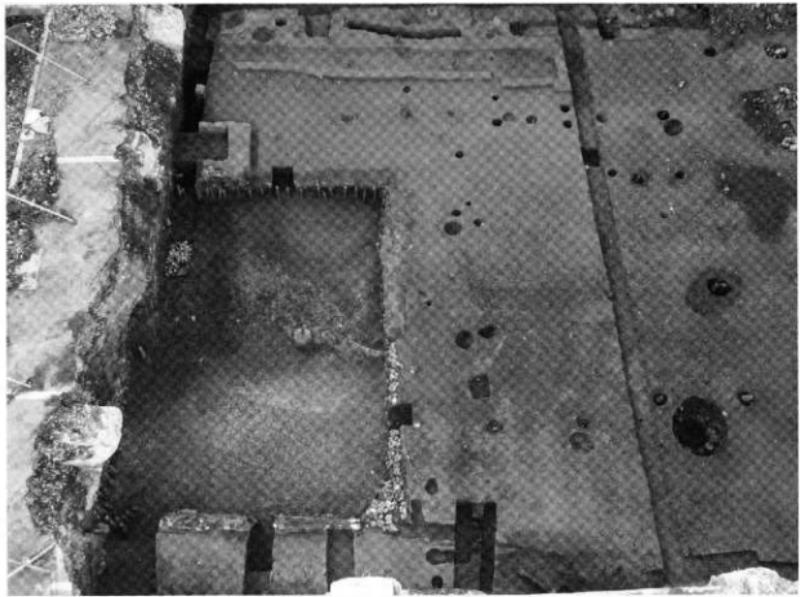


写真6 A区南東側 (E～H-1～4グリッド)



写真7 A区東側 (E～H-4～6グリッド)



写真8 A区東側 集石3号



写真9 A区東側 (E~H-4~8グリッド)



写真10 A区東側 (E~H-4~8グリッド)



写真11 上水1号



写真12 上水1号完掘



写真13 上水1号検出



写真14 上水1号検出（近景）



写真15 上水1号 1・2区



写真16 上水1号 1区間石検出

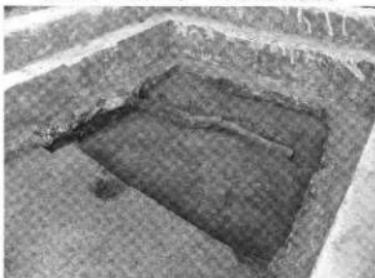


写真17 上水1号 1区胸木検出



写真18 上水1号 2区



写真19 上水1号 2区胸木検出



写真20 上水1号 3区



写真21 上水1号 3区胸木検出

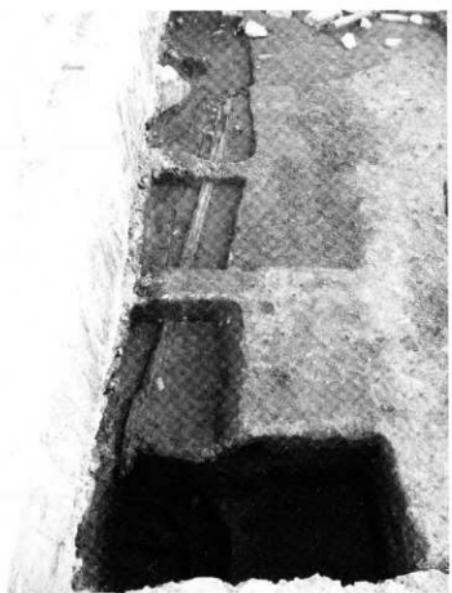


写真22 上水2号、上水桶1号



写真23 上水2号 竹桶



写真24 上水桶1号底部



写真25 上水3号 木桶検出



写真26 上水3号 完掘



写真27 上水3・4号、上水桶2号周辺



写真28 上水3号 木桶



写真29 上水4号 竹桶



写真30 上水桶2号、埋桶4号堆積

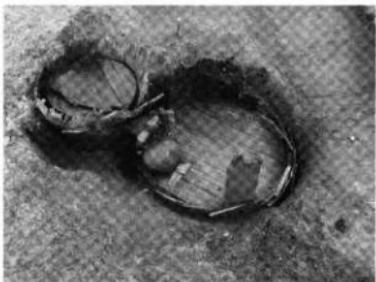


写真31 上水桶2号及び埋桶4号



写真32 上水5号及び11・12号溝

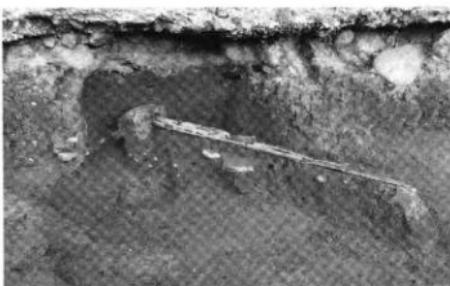


写真33 上水5号ジョイント及び竹桶



写真34 上水6号



写真36 上水6号木桶

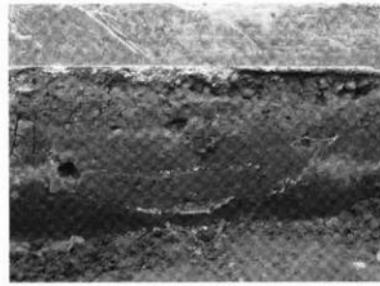


写真35 上水6号北壁土層

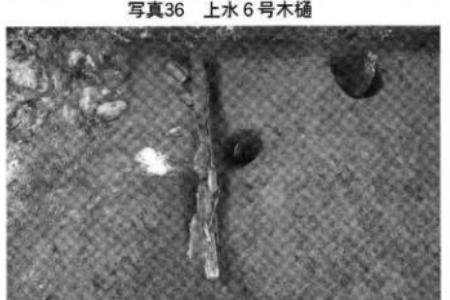


写真37 上水6号木桶断面

写真38 上水7号竹桶



写真39 1号井戸

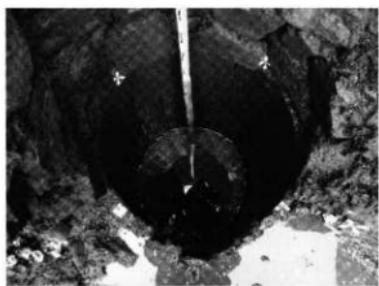


写真40 1号井戸底部木桶

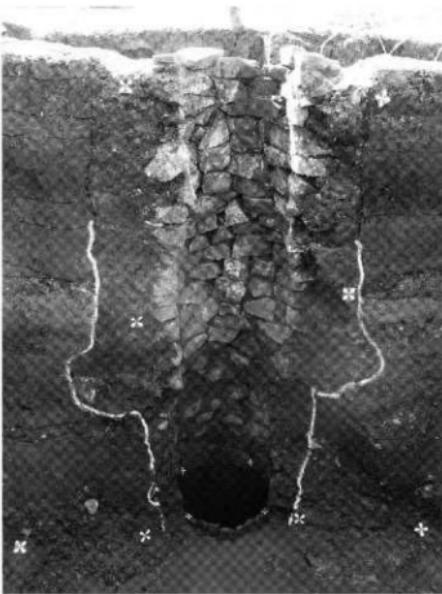


写真41 1号井戸断面



写真42 2号井戸検出

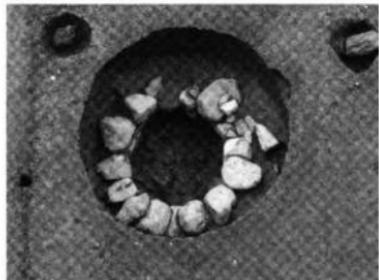


写真43 2号井戸上面

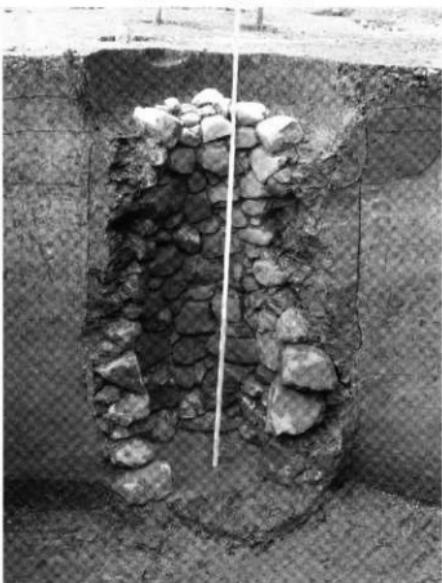


写真44 2号井戸断面



写真45 1号溝

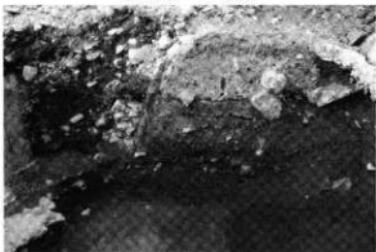


写真46 1号溝南壁

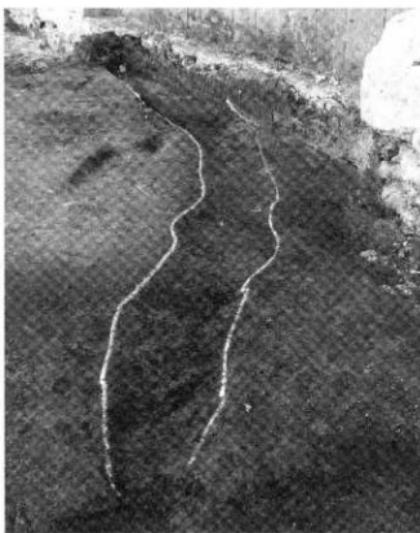


写真47 2号溝



写真48 3号溝西侧

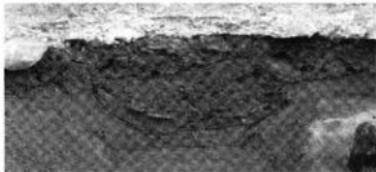


写真49 3号溝東壁堆積土



写真50 3号溝東側

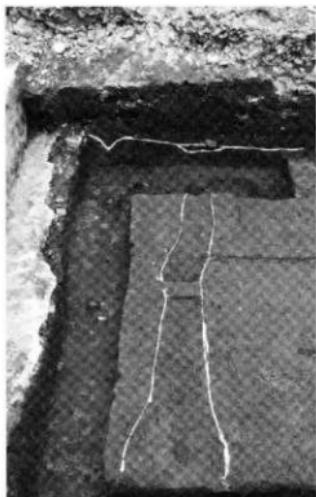


写真51 6号溝



写真53 7~10号溝

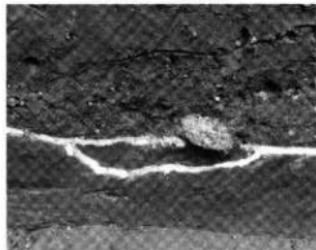


写真52 6号溝北壁

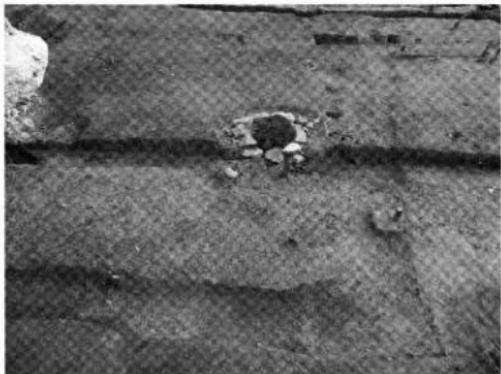


写真54 7・9号溝



写真55 9号溝



写真56 7号溝遺物検出



写真57 8・10号溝

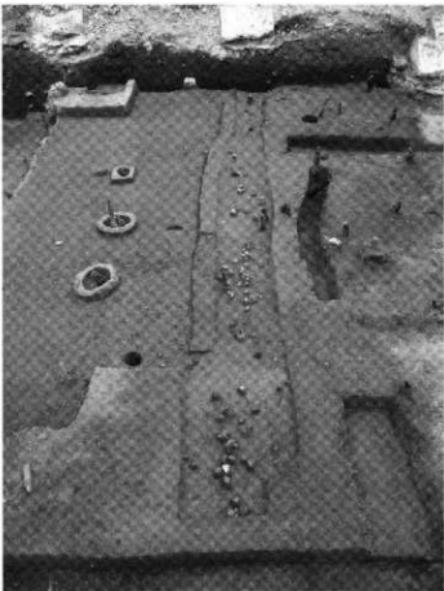


写真59 10号溝遺物検出

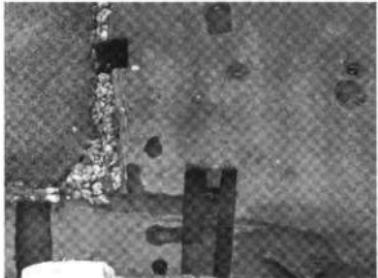


写真60 11・12号溝



写真62 14号溝



写真61 11・12号溝(近景)



写真63 13号溝

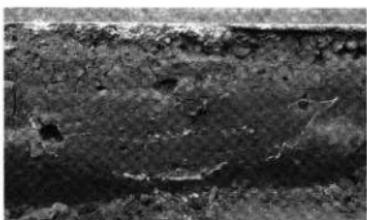


写真65 13号溝北壁



写真64 13号溝北側

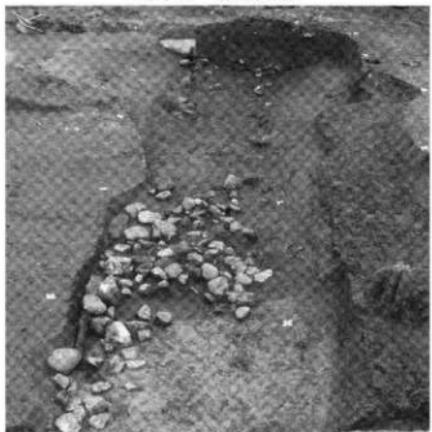


写真66 13号溝南側躰検出



写真67 13号溝（全景）



写真68 13号溝内獸骨



写真69 13号溝獸骨(部分)



写真70 13号溝漆椀出土



写真71 A区1・3～10号土坑周辺

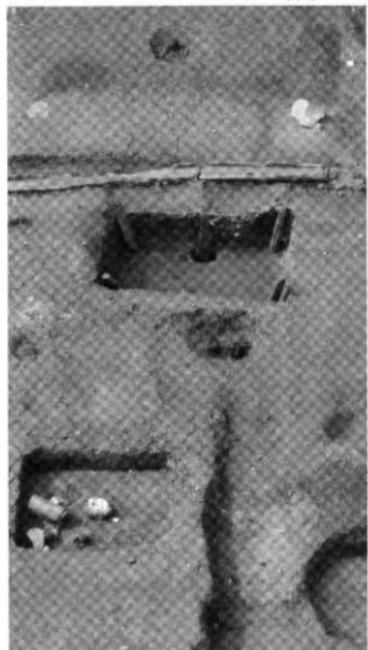


写真72 1号土坑周辺

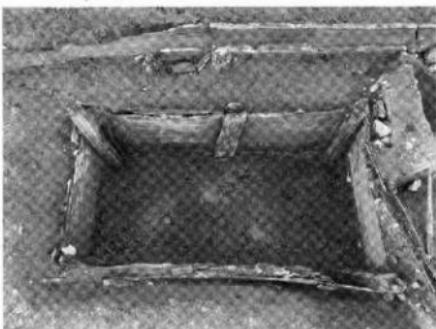


写真73 1号土坑



写真74 1号土坑遺物出土



写真75 2・3・14号土坑周辺

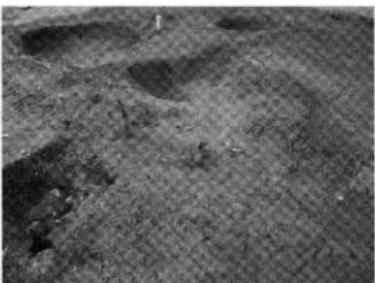


写真76 2号土坑



写真77 2号土坑遺物出土



写真78 2号土坑及び上水3号竹桶



写真79 2号土坑遺物出土

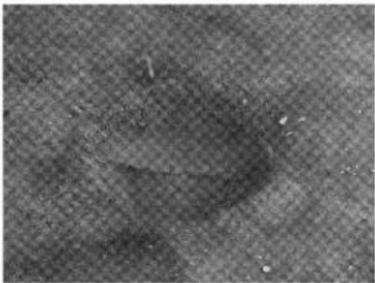


写真80 3号土坑

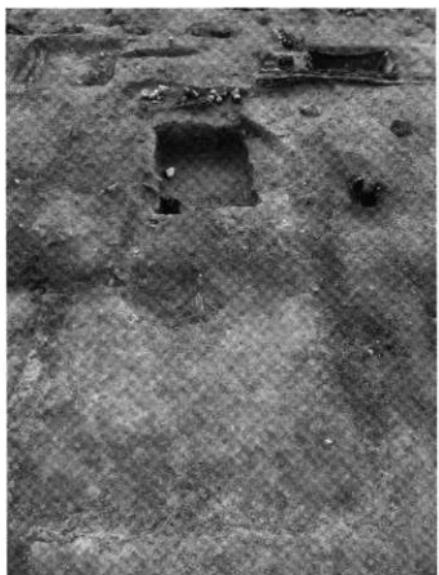


写真81 4・5号土坑

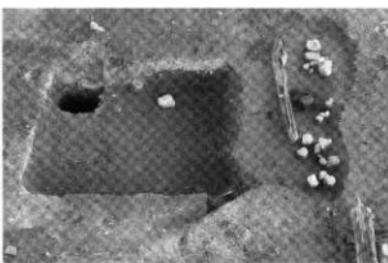


写真82 5号土坑

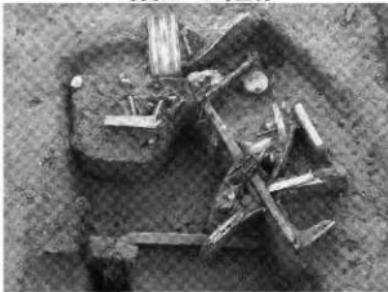


写真83 5号土坑遺物出土



写真84 6・7号土坑



写真85 6号土坑



写真86 8号土坑遺物出土

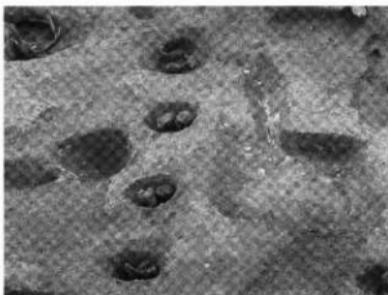


写真87 9・10号土坑

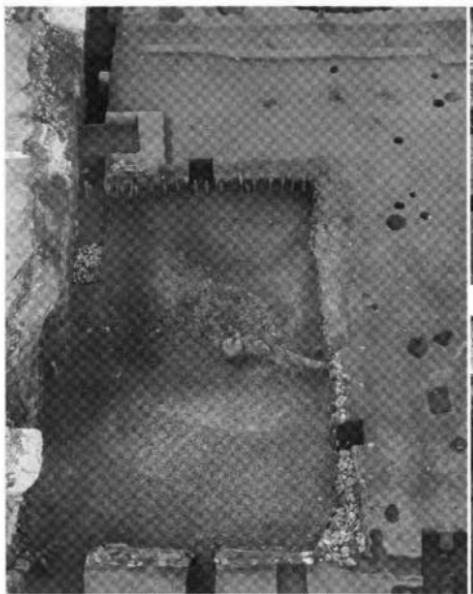


写真88 11・12号土坑



写真89 11号土坑



写真90 11号土坑西面



写真91 11号土坑北側

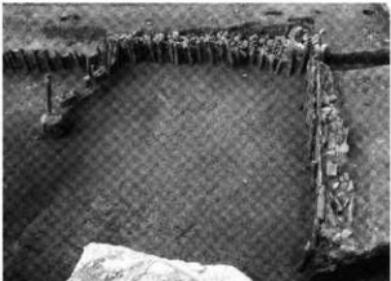


写真92 11号土坑東側

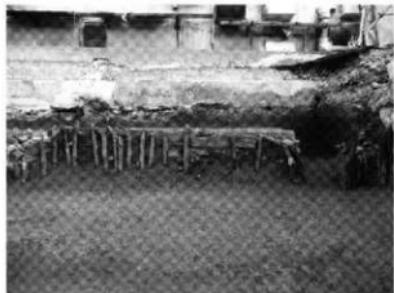


写真93 11号土坑南面



写真94 11号土坑南面



写真95 12号土坑



写真96 12号土坑木片出土

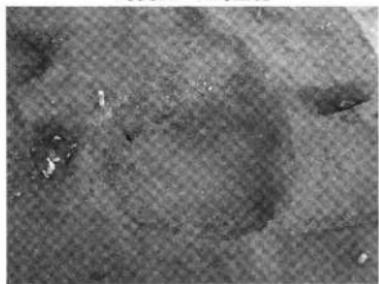


写真97 14号土坑

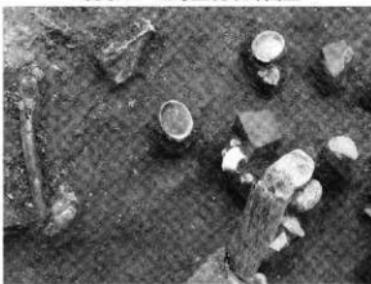


写真98 14号土坑かわらけ・骨出土



写真99 14号土坑遺物出土



写真100 埋桶 1号

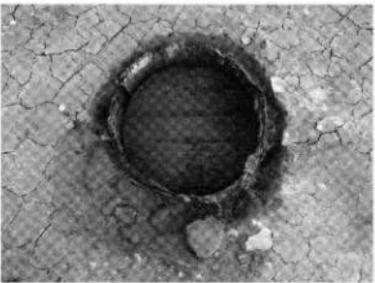


写真101 埋桶 1号（上面より）

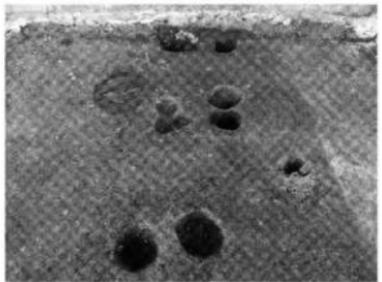


写真102 埋桶 2号、1号建物跡

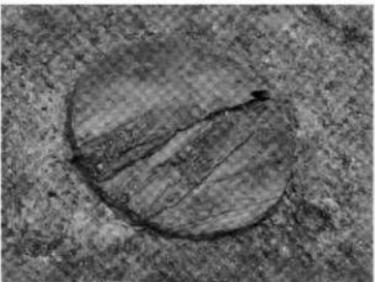


写真103 埋桶 2号（接写）



写真104 埋桶 3号検出



写真105 埋桶 3号

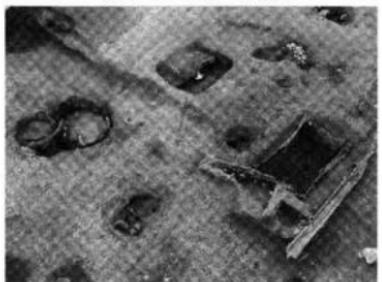


写真106 埋桶 4・5号周辺

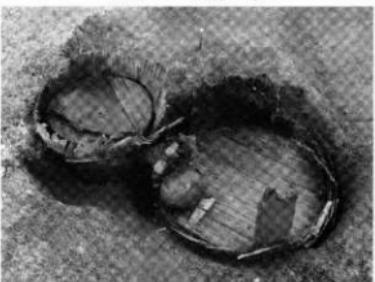


写真107 埋桶 4号及び上水桶 2号

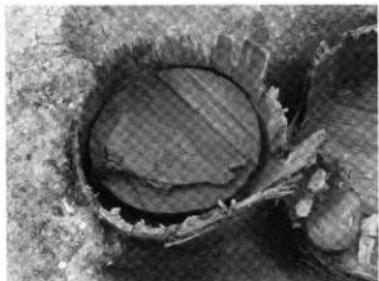


写真108 埋桶4号



写真109 埋桶4号、上水桶2号完掘

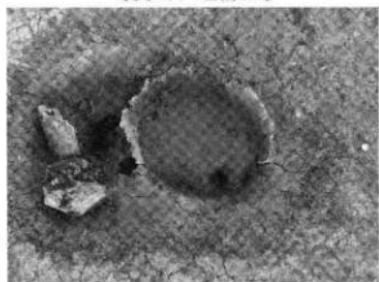


写真110 埋桶5号



写真111 埋桶5号堆積土

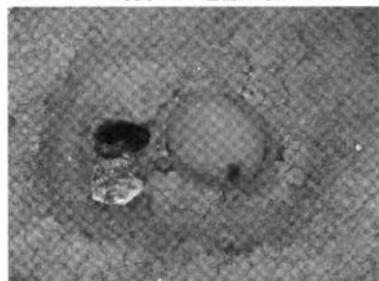


写真112 埋桶5号完掘

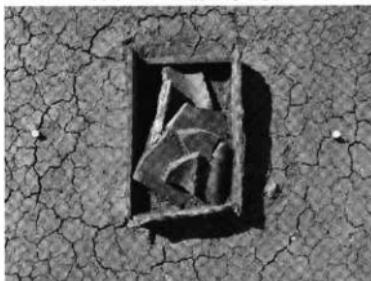


写真113 埋箱1号内遺物出土



写真114 埋箱1号検出

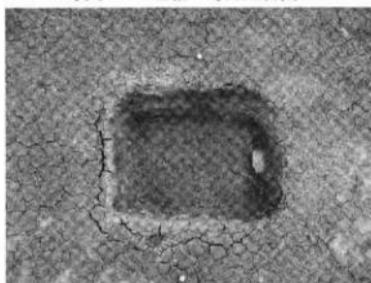


写真115 埋箱1号完掘



写真116 A区西侧1・2号建物跡



写真117 A区西侧2号建物跡（近景）



写真118 A区東側 2号建物跡

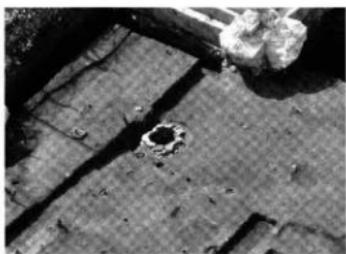


写真119 2号井戸東側杭列 2号



写真120 杭列 2号



写真121 杭列 3号周辺

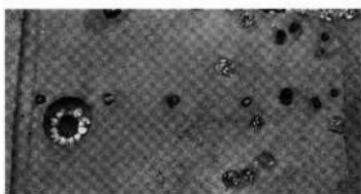


写真123 杭列 4号周辺



写真122 杭列 3号（南側より）



写真124 杭列 4号（南側より）

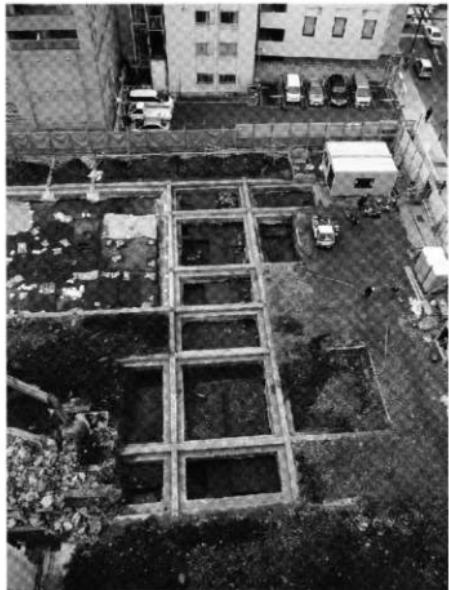


写真125 A区北側調査区



写真126 F～H - 8～10グリッド



写真127 F・G - 8～10グリッド



写真128 G-9グリッド集石 1号・木材出土

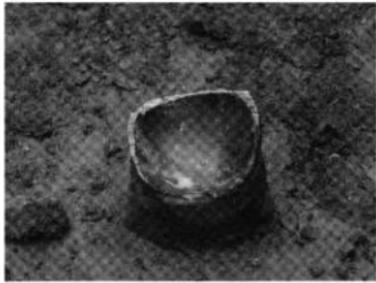


写真129 F-9グリッド漆椀出土



写真130 H-9グリッド杭検出



写真131 A区北東隅掘削状況



写真132 古墳層調査地区



写真133 C・D-4・5グリッド古墳層遺物出土



写真134 C・D-4・5グリッド古墳層遺物出土（接写）



写真135 古墳層Cセクション

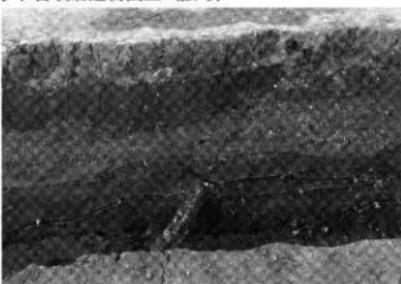


写真136 古墳層Cセクション内木片



写真137 C・D-4・5グリッド古墳時代遺物集中

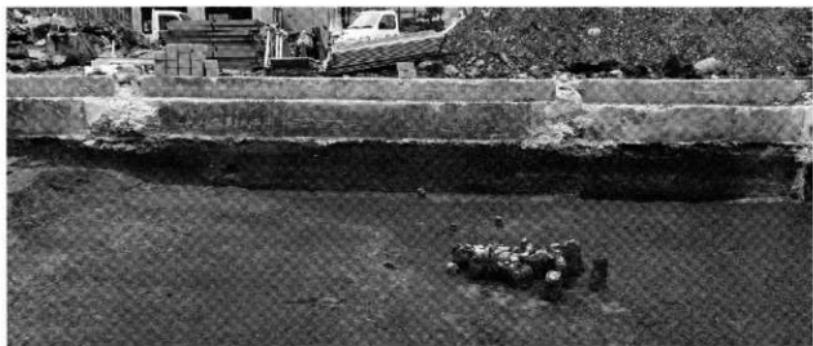


写真138 C・D-7グリッド古墳層Aセクション



写真139 C・D-7グリッド古墳時代遺物出土（接写）

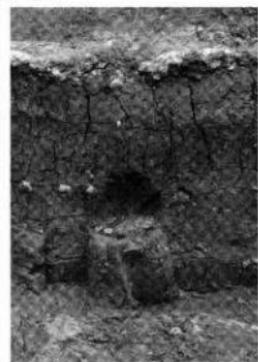


写真140 古墳層Aセクション（部分）



写真141 高坏出土

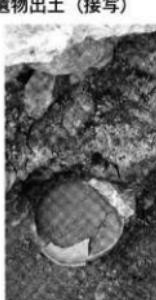


写真142 坏出土



写真143 B-10・11グリッド古墳時代遺物検出面

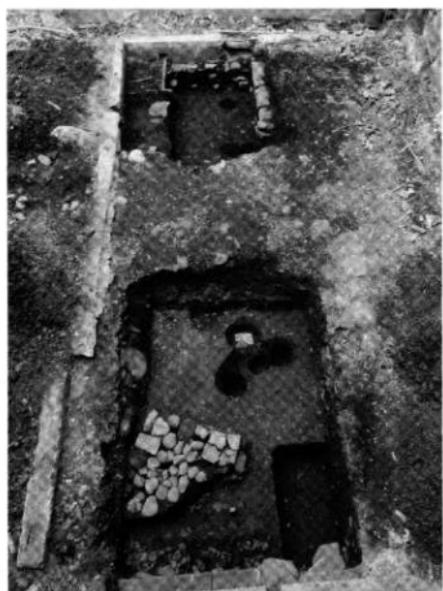


写真144 B区トレンチ1・2



写真145 トレンチ1 西側



写真146 トレンチ1 ピット完掘



写真147 トレンチ1 北壁



写真148 トレンチ2



写真149 トレンチ3



写真150 トレンチ3 石積裏込



写真151 A区作業風景



写真152 A区表土除去作業



写真153 甲府上水木柵検出作業



写真154 A区古墳時代遺物検出作業



写真155 B区作業風景



写真156 整理作業



写真157 現場見学会



写真158 現場見学会風景

写真159

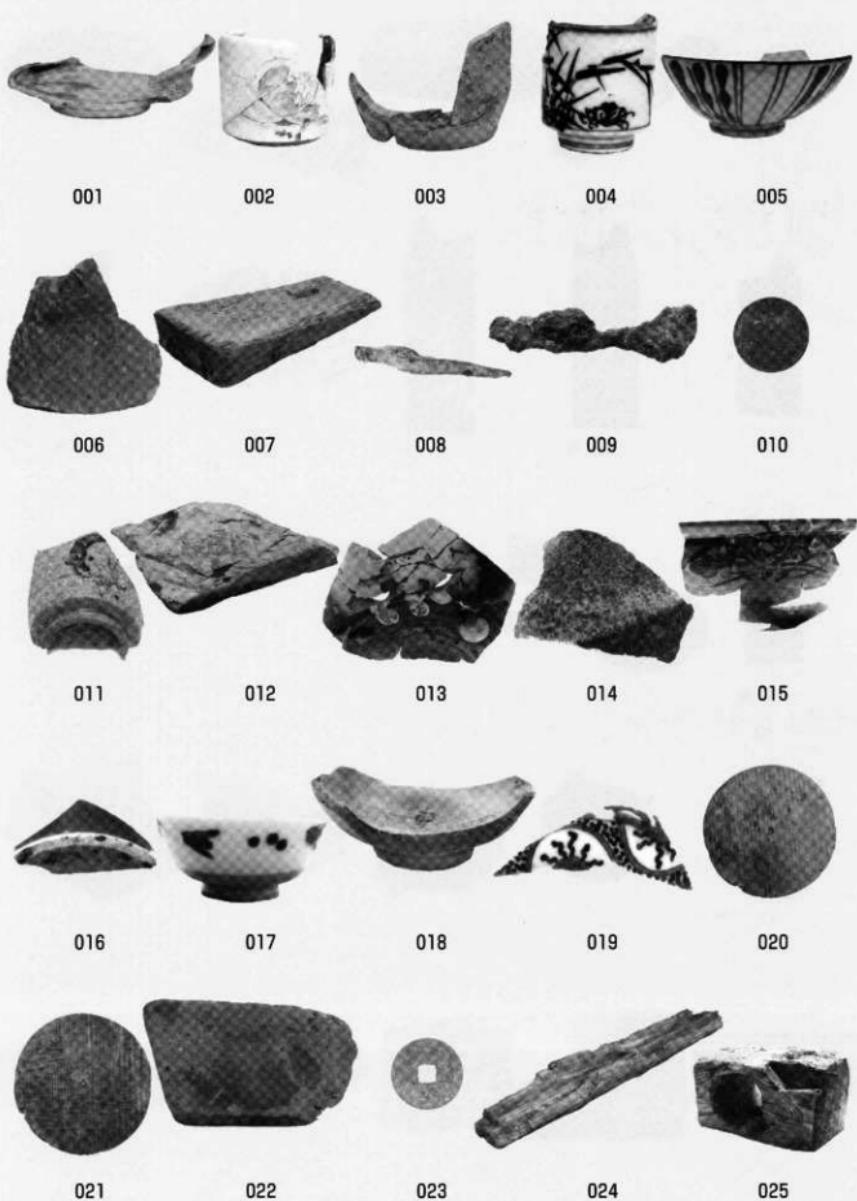


写真160



026



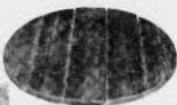
027



028



029



030



031



032-a



032-b



033



034-a



034-b



035



036



038



039



040



041



042



043



044



045



046



047



048-a

写真161



写真162



071



072-a



072-b



073-a



073-b



074-a



074-b



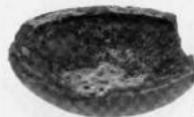
075



076



077



078



079



080



081



082



083



084



085



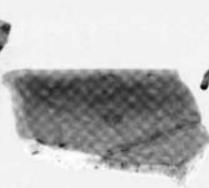
086



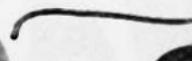
087



088



089



090



091



092

写真163

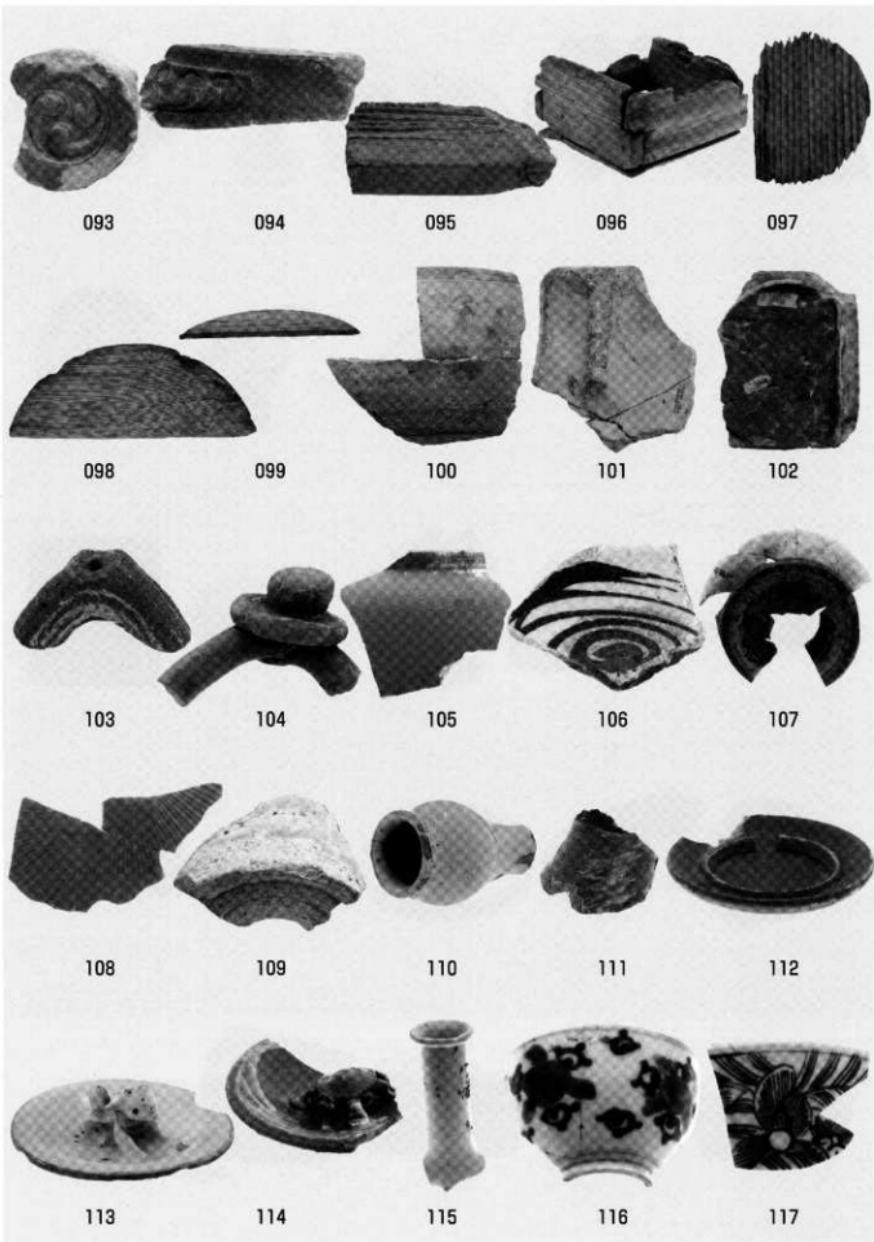


写真164



写真165

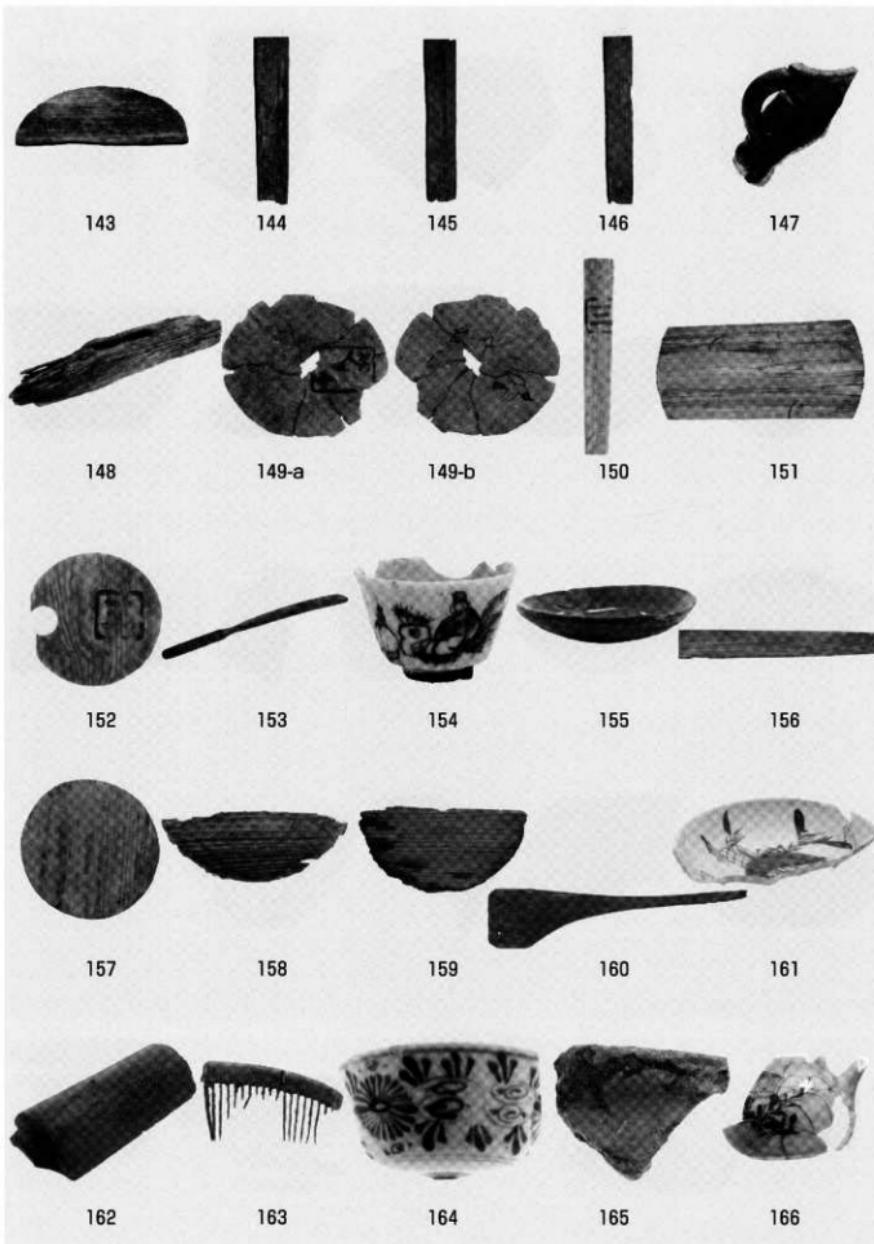


写真166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179



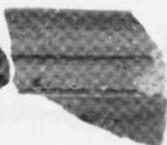
180



181



182



183



184



185



186



187



188



189



190



191

写真167

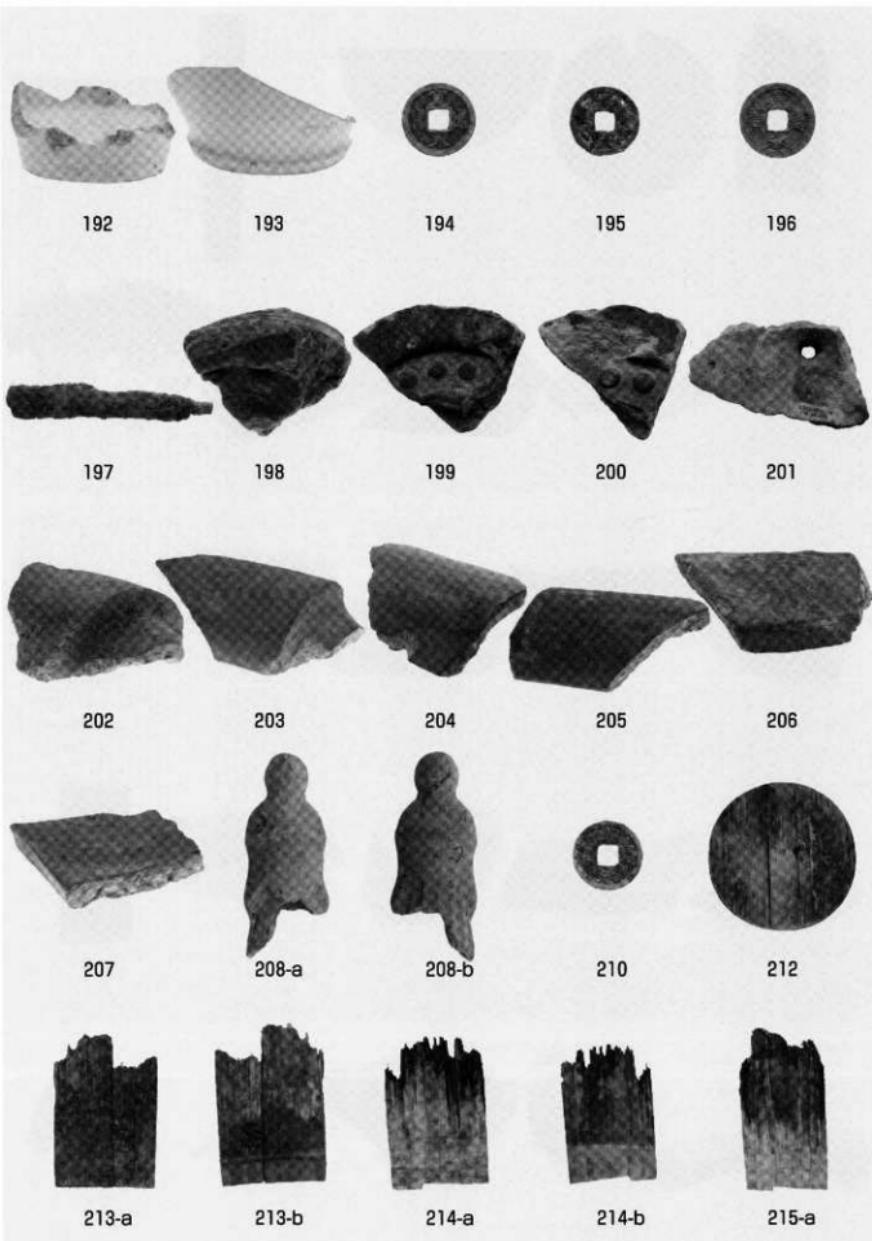


写真168



215-b



216



217



218



219



220



221



222



223



224



225



226



227



228



229



230



231



232



233



234



235



237



238



239



240

写真169

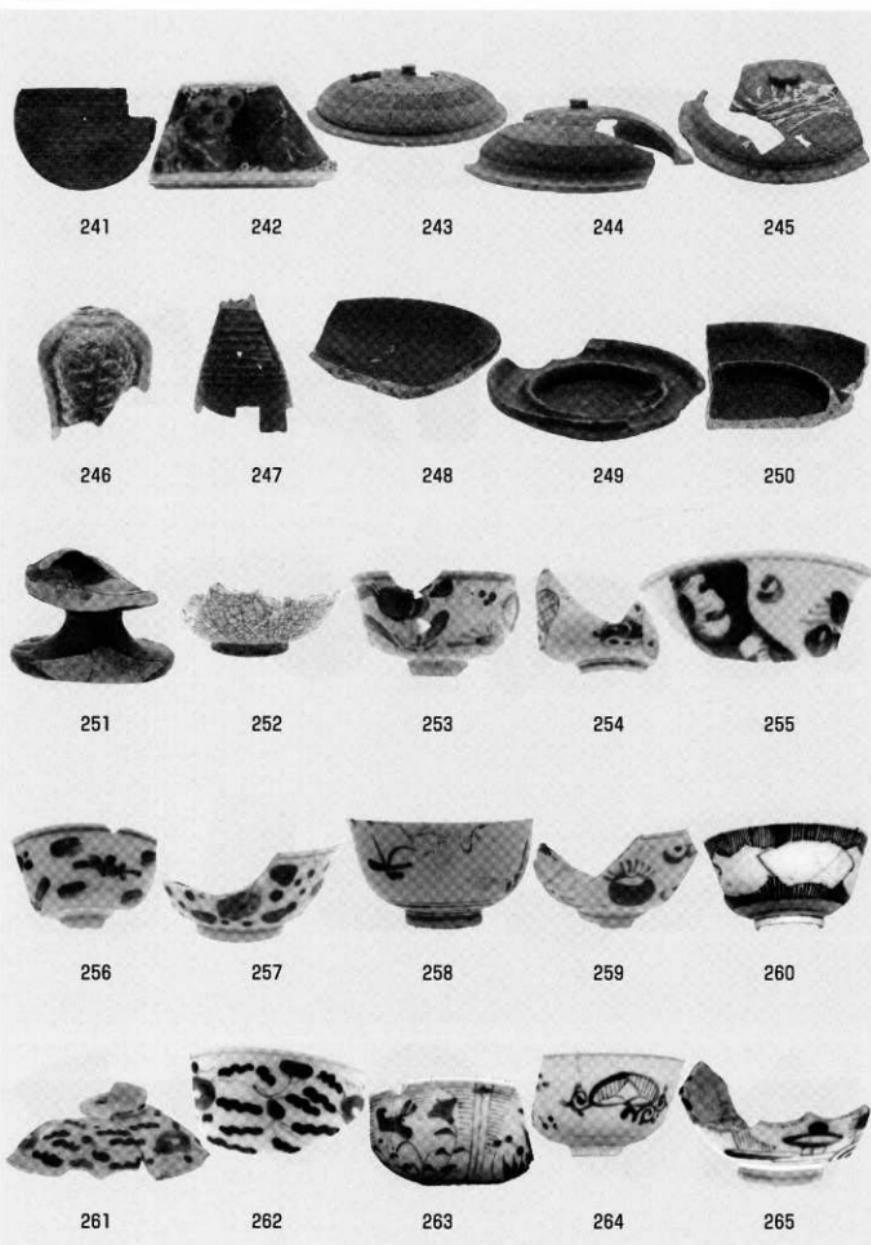


写真170



266



267-a



267-b



268



269-a



269-b



270



271



272



273-a



273-b



274



275



276



277



278-a



278-b



279



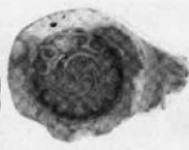
280



281



282



283



284



285



286

写真171



写真172



309



310



311



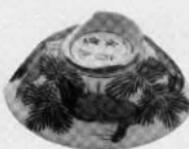
312



313



314



315



316



317



318



319



320



321



322



323



324-a



324-b



326



327



328



329



330



331



332



333

写真173

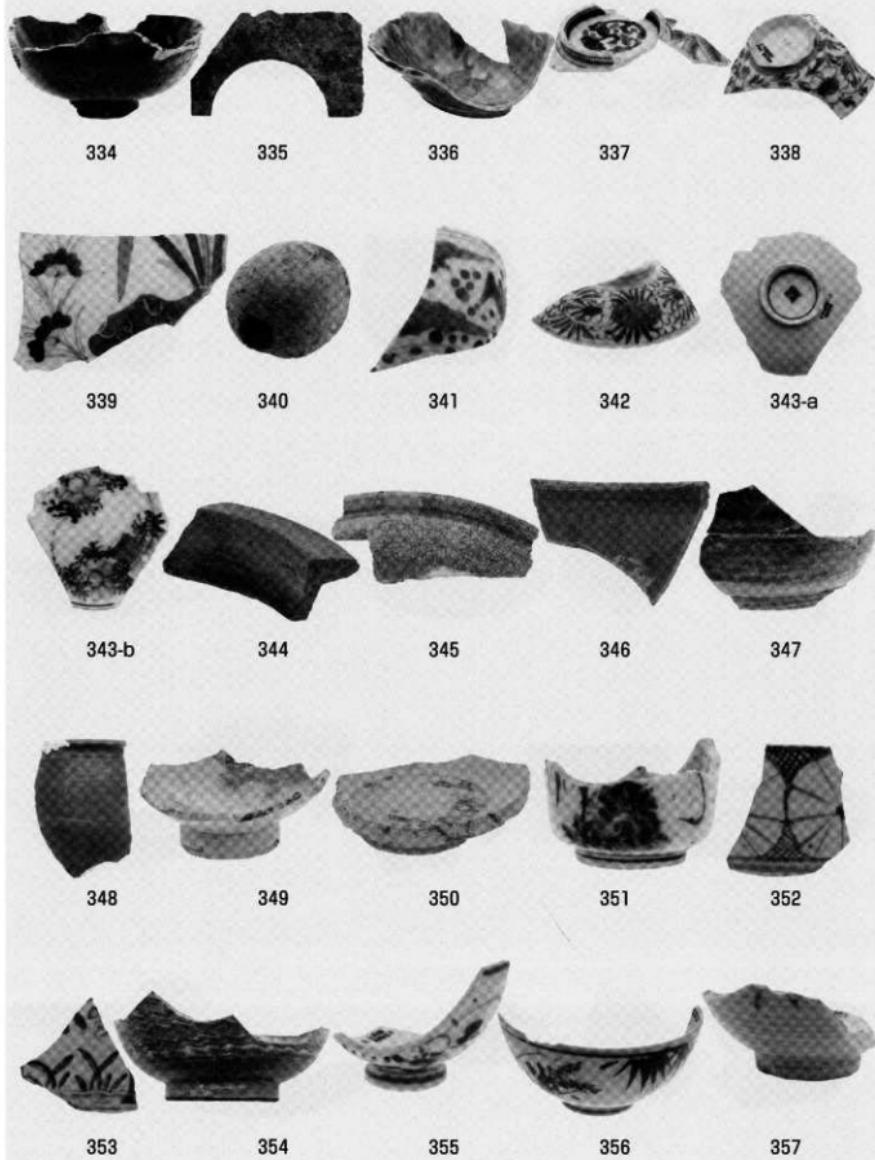


写真174



358



359



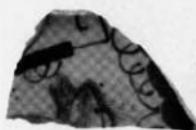
360



361



362



363



364



365



366



367



368



369



370



371



372



373



374



375



376



377



378



379



380



381



382

写真175



384



385



386



387



388



389



390



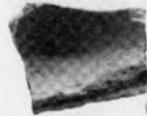
391



392



393



394



395



396



397



398



399



400



401



402



403



404



405



406



407



409

写真176



410



411



412



413



414



415



416



417



418



419



420



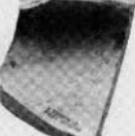
421



422



423



424



425



426



427



428



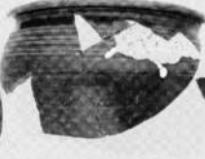
429



430



431



432



433



434

写真177



435



436



437



438-a



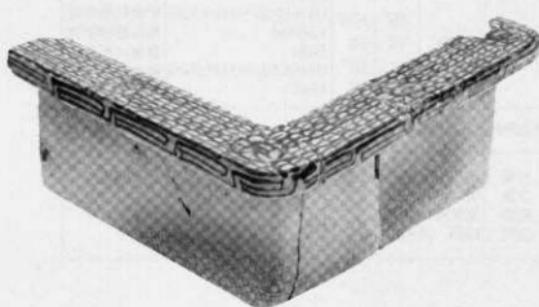
438-b



439



440



441



442

報告書抄録

ふりがな	こうふじょうかまちいせき						
書名	甲府城下町遺跡V						
副書名	甲府紅梅地区市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告						
シリーズ番号	52						
編集機関	甲府市教育委員会						
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話055(223)7324						
発行年月日	平成22年3月31日						
所収遺跡名	所在地	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号			調査面積	
こうふじょうかまち 甲府城下町 いせき 遺跡	やまなしけんこうふし 山梨県甲府市 丸の内一丁目 344番地外	19201	273	35° 39' 45"	138° 34' 10"	A区 H19.12.27～H20.3.28 1,566m ² B区 H20.2.13～H20.2.20 16m ²	甲府紅梅地区 市街地再開発 事業に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
甲府城下町 遺跡	城下町	古墳 中世 近世 近代	甲府上水跡、 溝、井戸、土坑、 建物跡、柱穴、 杭列、埋桶	土師器、須恵器、筋鉢車、かわ らけ、瀬戸美濃系播鉢、肥前 系磁器、瀬戸系陶器・磁器、 瓦、角釘、古錢、漆器椀、 木製品、ガラス製品			

甲府市文化財調査報告52

甲府城下町遺跡V

—甲府紅梅地区市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書—

平成22年3月31日

発行 甲府市
甲府市教育委員会

印刷 駒内出印刷所
〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10-18

